

# 徳島の剣道

## 特集

1. 新八段二人誕生
2. 全国都道府県女子剣道優勝大会  
第三位

第30号



# 徳島県剣道連盟



これまでの『徳島の剣道』

## 巻頭言

# 『徳島の剣道』第三十号の発刊を祝して

徳島県剣道連盟 会長 坂下彦之



昭和六十年三月に徳島県剣道連盟の機関誌である『徳島の剣道』創刊号が発刊され、今年で第三十号の発刊となります。これまでの編集・発刊に携わられた先生方のご労苦に深甚なる敬意と感謝を申し上げます。その年における連盟の歩みと執筆者各自の剣道に取り組む姿勢が集録されています。過去を偲び、また省み、将来に向けてのよい資料となるものと思います。

さて、本号の特集にもありますように、平成二十五年度の剣道八段審査において、本県より西谷肇一先生と吉田茂生先生の二名の剣道八段が誕生しました。徳島県剣道連盟として、この九年間に六名の八段誕生となり、割合的には一年半に一名の八段が本連盟より誕生していることとなります。この快挙を私の恩師でもある故・堀江幸夫先生（元名誉会長）も大いに喜んでいらっしゃる故・堀江幸夫先生（元名誉会長）も大いに喜んでいらっしゃるに違いないと思います。先に『徳島の剣道』創刊号のことに触れましたが、その創刊号に、当時六十四歳の連盟理事長としての堀

江先生が「剣道の進む道」（本号に再掲載）と題した文章を寄稿されています。その中で、剣の心、剣道修行のあり方を熱く指導されています。今一度、精読していただきたいと思えます。

最後に、会員皆様のご健康とご精武を心から祈念申し上げます。巻頭の辞とします。

合掌

# 『徳島の剣道 第三十号』 目次

巻頭言……………坂下 彦之 1

剣道の進む道……………堀江 幸夫 4

## 《特集Ⅰ 新八段誕生》

剣道八段審査に合格して……………西谷 肇一 6

西谷肇一先生の八段昇段を祝って……………吉田 租 9

祝 剣道八段位 ご昇段……………上里 昌輝 11

力必達一待ちに待った八段位合格……………氏家 道男 13

剣道八段審査に合格して……………吉田 茂生 15

おめでとう八段合格……………近藤 巨 19

祝・剣道八段合格……………岡田 豊 20

吉田先輩八段昇段おめでとうございます……………中尾 幸雄 22

## 《特集Ⅱ 全国都道府県女子剣道大会第三位》

全日本都道府県女子剣道大会に参加して……………竹内佳代子 24

女子躍進 全日本都道府県三位……………平野 誠司 27

## 顕彰一覽

剣道有功賞……………坂本 憲一 31

少年剣道教育奨励賞……………丸岡 偉人 33

少年剣道教育奨励賞を受賞して……………増田 和広 34

生涯スポーツ賞……………遠藤 一美 35

平成二十五年徳島県中学校剣道優秀選手……………遠藤 一美 36

平成二十五年徳島県高等学校剣道優秀選手……………遠藤 一美 37

## 先生を偲ぶ

文武両道の達人勝沼信彦先輩を悼む……………木本 三夫 38

勝沼信彦先生を偲ぶ……………木戸 博 40

勝沼信彦先生を偲んで……………久保 宜明 42

勝沼先生を偲んで……………木原 資裕 45

在りし日の弟を偲んで……………出葉 成一 48

芝原功一先生を偲ぶ……………森 眞一 51

芝原功一先生を偲んで……………藤本 辰夫 53

芝原功一先生を偲ぶ……………白木 崇 55

## 全国講習会報告

第十二回剣道講師要員(指導法)研修会に参加して……………米倉 滋 56

第四十八回剣道中央講習会(西日本)報告書……………西谷 肇一 58

第四十回居合道中央講習会に参加して……………生田 浩章 58

第五十一回剣道中堅剣士講習会から学んだこと……………岸田 光博 62

平成二十五年全県連後援剣道秋期講習会報告……………山室 雅幹 64

第十八回女子剣道審判講習会……………近藤 巨 67

日本剣道形講習会報告……………金野 裕美 69

第三十七回全国高等学校・中学校……………中尾 正輝 71

剣道(部活動)指導者講習会……………長池 千景 72

全県連社会体育指導員養成講習会(初級)に参加して……………上田 宏司 74

徳島の剣道史……………坂本 憲一 76

鴻山の穴戸神社再考……………坂本 憲一 76

大会・行事所感……………坂本 憲一 76

磯部旗争奪那賀川剣道大会休止にあたり……………二反田和則 87

各種大会に参加して……………二反田和則 87

第三十五回全国スポーツ少年団……………二反田和則 87

剣道交流大会報告……………武蔵 純郎 88

全国矯正職員大会施設対抗試合に出場して……………前田 秀一 91

全国高等学校剣道選抜大会に参加して……………小川虎太郎 92

第二十二回全国高等学校剣道選抜大会に出場して……………川原 眞実 93

インターハイに出場して……………岩原 将平 94

平成二十五年全国高校総体に出場して……………玉田理沙子 98

第四十三回全国中学校剣道大会に出場して……………美馬 州一 99

全国中学校剣道大会に参加して……………長谷川瑞実 100

第五十四回全国教職員剣道大会に参加して……………林 義真 101

第八回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に出場して……………	檜田 胡桃	102
都道府県対抗少年剣道優勝大会……………	飯田 翔太	103
第八回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会……………	豊田 佳男	104
第五十二回全日本女子剣道選手権大会に参加して……………	山本 千尋	106
第五十九回全日本東西対抗剣道大会に出場して……………	吉田 茂生	107
国民体育大会成年男子……………	西谷 肇一	110
女子躍進、国体五位入賞……………	平野 誠司	112
第六十八回国民体育大会に出場して……………	玉田理沙子	114
第四十八回全日本居合道大会を振り返って……………	岸田 光博	115
第六十一回全日本剣道選手権大会に出場して……………	仁科 文宏	118
第五十六回全日本実業団剣道大会に参加して……………	櫻井 一志	120
第六十五回（平成二十五年年度） 四国四県剣道大会報告……………	藤川 和秋	122
無心の一振り〜全国警察剣道大会三位入賞……………	平野 誠司	125
第十五回中四学連剣友剣道大会優勝……………	藤本 辰夫	127
平成二十五年年度徳島県高年齢剣友会活動状況……………	笠井 勝	128
徳島愛媛香川高知四県親善試合に参加して……………	寒川 博文	132
ねりんピックよさこい高知二〇一三に参加して……………	福井 軍二	133
全国高齢者武道大会に参加して……………	藤本 辰夫	137
<b>随 想</b>		
私の剣道修行……………	大澤 孝彰	139
私の剣道人生……………	川田 武志	141
宮城県で「交剣知愛」……………	石村 行範	148
年を経て……………	笠井 選	150
旧武道館での朝稽古……………	西山 伸二	151
剣道が続けられる幸せを感じて……………	紅露喜代美	153
剣道との出会い……………	ラートマン・マーティン	154
<b>称号・段位合格者</b>		
生涯剣道を目指して……………	久次米繁興	156
剣道七段に合格して……………	前田 秀一	157

七段に合格して……………	岩原 靖人	158
七段に昇段して……………	山名 信行	159
剣道七段に合格して……………	園田 慎吾	160
七段昇段所感……………	林 洋行	161
七段に合格して……………	大石 雅生	162
七段に昇段して……………	原 多三夫	164
剣道七段に合格して……………	大野 祐吉	165
剣道六段審査に合格して……………	栗野 佳明	167
六段に合格して……………	佐藤 浩	169
剣道六段に昇段して……………	切中 克樹	170
剣道六段に合格して……………	船城 明	171
先生方に感謝して……………	山崎 直光	173
剣道六段に合格して……………	勝野 晴孝	174
六段審査を振り返る……………	隅田 憲男	176
剣道六段審査に合格して……………	六條 洋二	178
剣道六段に合格して……………	中西 実	179
剣道称号「教士」の重み……………	原田 進	181
称号・段位合格者一覧……………		183
平成二十五年年度 大会記録……………		187
徳島新聞に見る戦いの跡……………		213
平成二十六年年度 昇段審査学科試験問題・解答例……………		243
平成二十六年年度 徳島県剣道連盟行事予定表……………		251
平成二十六年年度 審査実施計画表……………		253
徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……………		254
居合道 道場案内……………		255
徳島県剣道稽古場所一覧……………		256
<b>編集後記</b>		

## 剣道の進む道

徳島県剣道連盟理事長 堀 江 幸 夫

最近全日本剣道連盟が発表した有段者数は八十万。では本県は、登録者数八千人に及ぶ。幼少年剣士を加えると大変な数にのぼる盛況ぶりである。盛んなことは結構なことで、まことにご同慶のいたりである。

しかし、この盛況を裏返してみると、手放してよろこんでばかりおれない歪<sup>ひずみ</sup>も、表面化してきていることも否めない事実である。今は、教育の本質がどうあれ、良い点をとればよい、剣道の本質がどうあれ、試合に勝ちさえすればよいの風潮が蔓延しつつあり、剣道の前途に翳<sup>かげ</sup>りをさえ感じさせる昨今である。

試合は、剣道修練の手段である筈なのに、試合のための修練となっている。全国は勿論<sup>もちろん</sup>、県内の行事予定表を見ても、大会がぎっしりと詰まっっていて、剣道界あげて試合志向型となり、いきおい勝つことに狂奔している姿が、この辺の事情を物語っている。

少年剣道大会一つを例にとっても、指導者も保護者も、勝った負けたに一喜一憂、徒らに勝敗に夢中で、剣道修練の最も大切な課題である、躰<sup>たう</sup>や、礼儀、人間形成の目標は等閑<sup>とうかん</sup>にされたままである。

又一方では、修練を外に、ただ高い段位をのぞみ右往左往している姿だ。試合も段位も、剣道修練の手段である。少しでも高い段位をのぞむのは、心情的に理解できる。しかし段位は、あくまでその人の修練の尺度であって決して剣道の凡<sup>すべ</sup>てではない。黙々と地道に、苦しい稽古に打ち込んで、気がついたら何段に達していた。社長になるために仕事をしたではなく、一生懸命仕事に打ち込んで、気がついたら社長になっていたの心がけが大切なのではないだろうか。こうした姿勢こそ剣道を学ぶ者の本当の姿であり、そこに自ら剣道が広がり深まり、自らの目も開いて自己の思想ともなるのである。

こうした、諸々の事情の中で、遅蒔きながら剣道の本質に還<sup>かえ</sup>れの声がようやく出はじめた。特に全剣連が、昭和五十八年度日本選手権の選手の資格を六段以上にしたのも、こうした声の下での苦肉の策なのである。勝敗にこだわる余り、格調の高さ、理念にかなった試合がのぞめなくなったからである。この六段以上にしたことも、種々意見も批判もある。こんな小手先の策を弄しても、剣道を本道に引き戻すことも、本質に還れるものではない。剣道人の凡<sup>た</sup>てが、剣道の本質に目覚めなければ建ち直りはない。

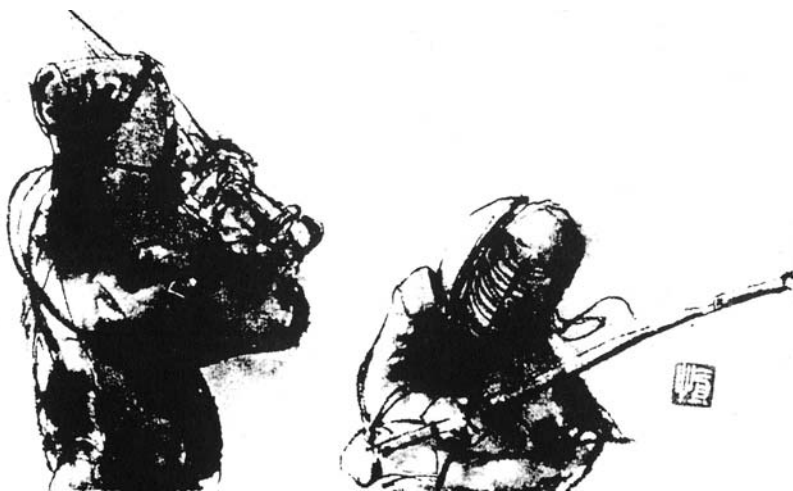
剣道は、打ち突きという頗<sup>かたよ</sup>る単純単調な動作の連続で、一見竹刀の叩<sup>たた</sup>きあい、打ち合いが剣道の凡<sup>た</sup>てなのであるか、とふと疑問が。だが、五十年六十年と続けている人など、別して珍しくないのでこの道。若さ、スピード、力、技と、体力が凡<sup>た</sup>てであれば、七十歳八十歳の高齢ともなれば、到底ついていけない筈の剣道が、

現実では強さ、格調の高さに微塵の衰えも見つけられず、むしろ年齢と共に技に枯淡の味、静謐な強さと冴えが益々加わってくる。これは剣道のみがもつ他に求められない特質である。体力技から脱して、心の技が自在に働きを發揮するからであろう。

幕末の剣士島田虎之助の「剣はよく人を打つに非ずして心よく人を打つなり。われよく人を打つに非ずして彼自ら打たるるなり」の無心の境地こそ技の極地である。この心の技は、長い年月厳しい稽古の中で蓄えられた力が体内で熟成昇華して剣の心となるのである。厳しい修練を避けて通っては、絶対に得ることのできない剣の心である。

吾々は、剣道何百年の歴史を知り、先師先輩の遺産を正しく受け継ぎ、次代に手渡す努力をし、五十年百年後の剣道に思いをいたさなければならない。勿論、こんなことを抜きにしても、強くなることも試合に勝つこともできるだろう。だが剣の心はつかめない。剣の心を知ろうと願うならば、広く謙虚に学んで剣道に教えてもらうしかない。

吾々が剣道を通して求めているのは、剣の理法の修練によって、自己を自覚することであり、自己の完成であり、人間の原点に還ることである。剣の心とは、人間の原点である。このことに思いをいたし、長短は問わず日々の生活の中で心身に付着した諸々の穢れを、剣の修業によって奇麗に拭いさり、純粹無雜の生れながらの心への回帰に努めなければならない。剣道の進む道は、いや私たちの進む道は、この道に外ならない。



# 特集Ⅰ 新八段誕生

## 剣道八段審査に合格して

西谷肇一



昭和二十六年十一月八日、那賀郡鷺敷町（現那賀町）で生まれ、小学校五年生時に父親に連れられ山家雪蔵館長の振武館道場入門して剣道を始めた。中学校に進学しても剣道部に入部、そこで初めて昇段審査を体験する。一年生で初段、二年生で二段と昇段、その時は無我夢中で仕掛け技で相手に打ち勝つことだけを考えて向ったように記憶している。

高校生になって試合の経験も多くなり、打突の機会が少しずつ観えるようになって、仕掛け技による攻防だけでなく先の掛かった応じ技もできるようになった。高校二年生時に三段を受験合格する。その後大学に進学して基礎体力を高めるとともに、打突の強さ正確さ速さ特に足腰のバランスを高めて行き、二年生時に四段を受験（東京都）で合格する。

大学卒業後、徳島県の教職に着き、二年後に五段を受験して合

格（二十三歳）した。その後、二十八歳で六段受験（京都府）するも打突の強さと正確さに欠けて一回目は不合格、二回目（東京都）で合格する。五年後、七段受験の資格ができて京都で受験するが集中力に欠けて不合格、二回目東京の審査に於いても準備運動が不十分で心に迷いが出て打突に冴えがなく不合格、三回目（二十四歳）京都で職務の忙しい中での受験となったが、逆に迷いがなく対戦相手に集中でき自分本来の剣道ができて合格した。その後、八段の受験資格の制約として四十六歳以上と七段受領後十年以上を経ることがあった。

平成二十五年五月一日、京都での剣道八段審査（京都市立体育館）（六十一歳）で合格。八段の受験をはじめて十五年目であった。この間五回程二次審査に進んだが、あと少し足りず不合格という苦い経験をした。特に退職前に京都（五月）東京（十一月）と続けて二次審査に進み合格に近づいたが、決定的なものがなく涙を呑んだ。しかし、その反面何が欠けているのかが少し判った。退職後は時間に余裕もできて、健康面も考えながら無理なく練習に集中できた。自分の思う通り健康の維持と基礎体力を高めること、打突の強さ、正確さなど基礎力を高めることを目標に、一年間週三〜四回の警察学校での朝稽古と剣道連盟の稽古会に参加し続けた。その甲斐あって身体の動きがスムーズになるとともに打突の勢いが出てきた。また、普段の稽古でも先の掛かった稽古ができるようになり、求めている剣道に少し近づき気力の充実した稽古ができた。受験当日も以前より体調に不安もなく、気力が湧





くと共に一次・二次審査とも自然体で雑念もなく相手に集中ができました。

今回の昇段の礎となったのは、徳島県の高등학교の教職員として三十六年間勤めて、剣道を求めてきたすべての生徒に教えられたことを自らが実践することであった。今後もこれに止まらず生涯剣道と無理なく求めて行きたい。



# 西谷 肇一 先生の略歴

## 剣 歴

- 昭和26年11月 8 日 徳島県那賀郡鷺敷町阿井（現那賀町）にて出生
- 昭和36年 振武館道場に入門、館長 故 山家雪蔵先生に師事
- 昭和38年 4 月 那賀郡鷺敷中学校に入学、教諭 吉岡健吉先生、蛭子神社  
宮司の教士 吉田租先生に指導を仰ぎ、3年生の時に県大  
会、四国大会で優勝
- 昭和42年 4 月 徳島県立富岡西高等学校に進学、京都武道専門学校出  
身の 故 教士 松本一城先生に師事、県大会・四国大会  
に出場し活躍
- 昭和45年 4 月 国士舘大學に入学、故 範士 大野操一郎先生、故 範士  
阿部三郎先生、故 範士 伊保清次先生、現役であられる  
範士 矢野博志先生に指導を仰ぎ、選手・主務として活躍
- 昭和49年 4 月 徳島県立高等学校体育科教員として奉職、その間、富岡  
西・新野・那賀・城ノ内・徳島北・城北高等学校の剣道  
部顧問として努め、数多くの剣士を育て輩出
- 昭和61年 5 月 8 日 剣道七段に合格
- 昭和63年 5 月 8 日 剣道教士の称号を受領
- 平成20年 5 月 3 日 全国高体連剣道専門部副部長に就任
- 平成24年 3 月31日 徳島県立城北高等学校を定年退職
- 平成25年 5 月 1 日 剣道八段に合格

## 戦 歴

- 全日本剣道選手権大会出場 1 回 (昭和61年)
- 国民体育大会出場 10 回 (昭和54年 総合 3 位)
- 全日本都道府県対抗剣道優勝大会出場 5 回
- 全国教職員剣道大会出場 5 回
- 西日本勤労者剣道大会出場 5 回 (昭和58年 優勝)  
(昭和59年 8 位)

## 西谷肇一先生の八段昇段を祝って

二代目振武館 館長 吉 田 租



昭和三十七年のある日、小学五年生の西谷肇一少年は父に連れられて振武館道場（旧鷲敷町百合）を訪れた。館長の山家雪藏先生はお喜びになり、快く入門を許された。父の西谷十三男氏は、持参した赤飯を差し出して我が子の今後を託したのだった。この日が剣道八段に通ずる一本道を踏み出す第一歩の日となった。

当時、振武館道場の少年組には、小学四年生で入門した嶋田一君など十数人がいた。仲良く礼法や竹刀の持ち方から面打ち・小手打ちなどを習い、やがて防具を着けての稽古をするようになっていった。道場の外から我が子の稽古ぶりを立ち見していた父「十三男」氏の姿が、今も私の目に焼き付いている。

昭和三十九年四月、西谷少年は鷲敷中学校に入学した。館長の山家先生は、入学祝いとして一本の竹刀を贈った。重い竹刀であったが、山家先生からいただいた竹刀だと愛用し、腕力が大いに鍛えられた。

中学校での部活はためらうことなく剣道部に入学した。楠本隆生・岩川正毅・三好康幸君など八名の一年生を加え、二十数名の部員を指導したのは数学教師の吉岡健吉三段（当時）であった。

私も学校外から稽古に参加していた。西谷少年は、天賦の才能に加えて、毎日二時間あまりの猛稽古によってめきめき上達し、三年生になると県中学校総体で優勝、続いて四国中学校総体でも優勝し、一躍、鷲敷中学校の名を高めた。これにより、昭和四十一年十一月三日、県教育委員会から表彰を受けた。

充実した中学三年間を終え、昭和四十二年、富岡西校等学校に進んだ。富岡西高等学校には、名剣士「松本一城」先生が待っておられた。松本先生は武道専門学校を出られ、天覧試合で指定選手として出場されたり、軍隊時代（近衛師団）には師団優勝を成し遂げた猛者である。同級生の住友利広・閑崎城司君らを加えた部員二十数名と共に、松本先生の教えを受けたのである。それが、各剣道大会での優勝や数多くの受賞となって結実し、「富西」の一時代を築いたといつて過言ではない。

青春華やかな高校生活を終え、昭和四十四年四月、武名とどろく国士館大学に入学した。それをこの上なく喜んでくれた父「十三男」氏は、残念なことに入学直前の四月六日、帰らぬ人となってしまった。その悲しみを胸に抱きつつ上京した。

時は流れー。那賀高等学校教員の頃の一時期、「夕稽古」と名付けた毎夜の稽古に励んだことがあった。私もそれに加えていただいた折、西谷先生の剣先の鋭さと技の多彩さに舌を巻いた。そして、あのとき見せた「小手打ち」は、まさに松本一城先生直伝の技であり、あたかも松本先生と竹刀を合わせているかのような錯覚を抱いたことも思い出す。

西谷先生は勤務の都合上、徳島に居を構えておられるが、五十有余年にわたり振武館道場の一員として、また丹生谷支部の一員としての立場を持ち続けてくださっている。忙しい教員の仕事と共に、高体連のさまざまな役員として、また剣道連盟の審議員としての重責を果たされつつ、徳島県剣道のために渾身の力を発揮し続けておられる。平成二十五年五月二日、実技合格率わずか〇・九パーセントという難関を突破し、見事「八段」となられた。西谷肇一先生のみならず私からも、この喜びを真っ先に父「十三男」さん、山家雪蔵先生、そして松本一城先生にご報告したい。

この一筋の道を手をつないで歩む剣友と共に、心からお慶び申し上げます。



## 祝 剣道八段位 ご昇段

初芝橋本中学校高等学校校長 上 里 昌 輝



西谷先生剣道八段位ご昇段、誠におめでとうございます。

平成二十五年五月一日～二日、京都市立体育館において行われました、受験者数一七二九名・合格者一八名・合格率〇・

九二パーセントと超難関の審査を西谷先生は見事合格されました。私はその審査会場において、西谷先生の立合や審査に臨むまでの立ち居振る舞いをつぶさに拝見しました。

二次審査において、立合の内容等においては、充実した氣勢で攻め、攻防の理合、打突の機会のとらえ方、打突前の動作、技の決まる過程（プロセス）を一連の動作として技のまとまりが体現でき見事であり、結果発表を待つことなく合格と確信できた内容でありました。

西谷先生は、昭和四十五年四月、青雲の志を抱き、剣道具を肩に国士館の門を叩きました。当時の剣道部は大学剣道界屈指の名門かつ強豪大学であり第十五期生として、大野操一郎先生が剣道部長・小野十生先生・阿部三郎先生・伊保清次先生・矢野博志先生が監督・太田昌孝先生など蒼々たる先生のもとで四年間指導を受け猛稽古を乗り切り、無心に打ち込むことの重要さを身を持つ

て学び励んできました。

大学卒業後は、郷里徳島県の教員として生徒の剣道指導また自らの剣道修行にと打ち込み、何事においても真摯に向き合いその成果を出しました。

徳島県高体連剣道専門委員長として競技力の向上、専門部の組織力を高め、教員の指導はもとより剣道の修練において常にリーダーシップを発揮しています。また、全国高体連剣道専門部副部長として力量を発揮しました。

このようなことから、私は西谷先生のことを表現してみました。「一道を貫く 継続は力なり」をモットーとして剣道に関わってきた先生。

卓越した指導力と剣道に対する並々ならぬ情熱を持って指導、育成し、輝かしい実績と数多くの教え子を育て上げました。探求心が旺盛で、剣道を通して何を学ぶか、どう学ぶか、最終的には一人の社会人・日本人として責任ある言動のとれる人間をどう作り育てるかを常に試行錯誤して完成を目指している先生。人との出会いを大切「淑として凜」・・・花には水、人には愛、剣には心を・・・まさしく西谷先生が剣道と出会い、多くの剣友との出会いの中で培った宝物ではないかと思っています。

好きなもの同士が集まって剣を手にし、志を高く持って「真摯」な気持ちで精進を重ねていく、持続・継続を貫いています。

私は、大学の後輩である西谷先生と長いお付き合いの中で「露堂々」（ろどうどう）―ありのままの自分、そのままの自己を表

すーそのとおりの生き方をしているといっても過言ではないと思っ  
ています。

今後は、ますますご精武されまして徳島県剣道連盟はもとより  
剣道界発展のためご尽力されることを大いに期待しお祝いの言葉  
といたします。



## 力必達

(つとむればかならずたつす)

― 待ちに待った八段位合格 ―

国士舘大学教授 剣道部長 氏 家 道 男



平成二十五年五月、京都での八段審査会において、西谷肇一君が見事合格された報を受け、自分のことのように手放しで喜びました。聞き及ぶところ一％に満たない合格率だったことと、加えて合格

者十六名中五人が国士舘大学の同窓生だったことに我ながら驚嘆した次第です。ちなみに本学剣道部の卒業生としては七十人目の快挙であり、同期生としては五人目の八段位となりました。

西谷君との出逢いは十八歳の時で、場所は国士舘大学入学当初の「松陰寮」でした。新入部員が、優に一〇〇名を超す同学年中、同部屋になったこと自体、深い因縁があったように振り返っております。上級生を前に自己紹介した際の物怖じしない落ち着いた態度には、特に感心したことを記憶しております。以後、二人は学生生活で最も辛く苦しい一年間を互いに共有することになりました。一年時の寮生活は、緊張の連続で十分に睡眠がとれないまま、朝五時には起床し点呼を取り、一目散に剣道場へ我先に駆け出し急いだものですが、西谷君には先を越され後一步及びませんでした。

当時の指導者は、初代部長の大野操一郎先生をはじめ、師範の小野十生、阿部三郎、伊保清次の各諸先生方、そして監督には矢野博志先生といった斯界一流の指導陣が揃っており、その顔ぶれは圧巻でした。

そういう恵まれた環境の中、西谷君は「水を得た魚」のように生き生きと率先して先生方に稽古をお願いしていました。「朝鍛夕錬」の日々と創意工夫を怠らず、進級することにメキメキ腕前を上げてゆき、校内試合においては取り零しが無くなり、まわりから一目置かれるようになりました。

ところが、三年生後半に剣道部全体の要であり、世話役でもある「主務（マネージャー）」に指名されました。西谷君は、剣道もさることながら実直な人柄と人に流されない信念を持ち、周りからの人望も厚く至極当然の抜擢だったと思っております。ある先人が「大事を成すのは、その人の能力ではなく性格である」と言ったように「気配り、目配り、心配り」の出来る好人物は、西谷肇一君以外に適任者はいなかったように思います。しかしその反面、これまでの歴代マネージャーが選手に起用された前例は一度もありませんでした。それを知ってか知らずか、いとも簡単に承諾したのは、西谷君の「豪放磊落」と「無頓着」さを同時に見た思いでした。

本人は、私やまわりの心配はよそにマネージャーという職務を全うしつつ、稽古においても一心不乱に努力精進を重ね、気がつけば難なくこれまでのジンスクスを打ち破り、選手の座をつかみ取っ

ておりました。

全日本の団体戦におきましては、チームとして最も信頼度と安定感の高いポジション「中堅」を任せられ、我々に士気を鼓舞し覇気を与えてくれる存在が西谷君でした。

その後も、「心技」に益々磨きがかかるとともに自信をさらに深め、四年生として全ての大会を終えた頃には、その実力たるもの、部内随一だったように記憶しております。卒業間際まで、我々同級生の「師範代」的存在となり、何度となく稽古をつけていただいた事を懐かしく思い出します。

私は大学生生活四年間で、西谷肇一君の後ろ姿から「力必達（つとむればかならずたつす）」ということを学び、卒業し四十年経った今も心に刻みつけております。

今後も益々ご健勝で「日本の伝統文化としての剣道」の普及と発展、並びに徳島県剣道連盟のご隆盛のため、ご尽力されますよう心より祈念申し上げます、ご昇段のお祝いとさせていただきます。





## 剣道八段審査に合格して

警察支部 吉 田 茂 生



平成二十五年十一月二十八日、東京武道館で行われました剣道八段審査を受審し、合格させていただきました。八段をいただいた今、その重みを感じつつ、新たなスタートとして日々の精進を誓っているところでもあります。

那賀町（旧木頭村）で生まれ育ち、兄の後を追って木頭小学校一年生で木頭錬心館に入門し、私の剣道人生が始まりました。先輩方の汗が染みついた面布団の前半分が茶色の面、黄土色の竹胴が私のトレードマークでした。森田健作の「俺は男だ」というテレビ番組をご存じの方は想像ができると思いますが……。範士である原田勝先生、岡田豊先生、当時木頭小学校に赴任されていた（故）芝原功一先生から剣道の基本を身体に叩き込んでいただいたことで各種大会では良い成績を残すことができ、また、当時の先輩方にも可愛がっていただき、同級生や後輩にも恵まれて、厳しい中にも温かみがある道場に毎日通うのが楽しくて仕方がなく、いつの間にか剣道の虜になっていました。今の私があるのは剣道のおかげであり、木頭が私の原点と言っても過言ではありません。このようなことから、剣道中心の生活を送っていた私が目指し

た職業は、剣道を生かせる警察官でした。就職も兄を追ってのことであり、道を築いてくれた兄にも感謝しています。

昭和六十一年四月、徳島県警に奉職し、昭和六十三年から平成十四年三月まで特別訓練生として日々稽古に励んでおりました。特練では、勝つことが使命であると思い、勝負にこだわり、県警察のため、自分のために稽古に打ち込みました。ある程度の実績も残すことができたうえ、四段、五段への昇段審査もクリアでき、その時の自分の剣道に満足していました。ところが、このことが足止めとなり、六段審査時に苦労することとなりました。勝負剣道では到底合格するものではありませんでした。

ちょうどその頃、我が子達が町道場で剣道を習い始め、私も少年剣道指導に携わるようになりました。そのことが自分の剣道を見直す良いきっかけとなりました。子供達の手本となるためには、自分の稽古で模範を示さなければと思ったのです。それからは、しっかりと構え、攻め、打突の機会を意識して稽古をしました。結局三度目の審査で六段合格を戴きました。

選手時代は、勤務時間内に稽古ができるという恵まれた環境にあり、稽古ができるのが当たり前になって、その有り難みを実感できていませんでした。

特練を卒業してからは時間を見つけて道場に足を運びました。仕事を終えてからの稽古はきつく、今日は休もうかと思う日もありませんでしたが、「この日を逃すといっ稽古できるかわからない。」と気合いを入れ直して剣道具を担いで行きました。この時初めて一

般の方々の苦勞がわかりました。このような経験をしたことで自ら求めて稽古場所に行くようになり、一回の稽古を大事にするようになりました。

八段を意識しはじめたのは二年くらい前だと思います。特別訓練を卒業してからの十二年間、公式試合出場もなく、先生に掛かる稽古を中心に十一月の八段審査だけを目標に稽古に取り組んでいました。そんな中、七月末、剣道連盟から「全日本東西対抗大会出場通知をいただき、九月の本大会では、北海道の栄花直輝選手と対戦し、破れはしたものの、先の目標としていた八段審査に繋がる試合ができたと思います。

審査を前にした本大会出場は大変意義のあるものでした。自信を付けさせてくれましたし、審査に向けて気持ちを持續することができました。

審査に向けた稽古で心がけたポイントは、まず「構えと姿勢」です。構えを意識して稽古をしていると気持ちが入ってきませんので、自然としっかりとした構えができるように稽古前には姿見を見て体に染みつけました。稽古では、掛かる稽古をするために八段の先生方に稽古をお願いし、中途半端な打突とならないよう打ち切ることを意識していました。その都度ご指導をいただき、「氣」をいただいています。稽古をするときは自分の攻めが通じるかどうかを試し、「攻めと打突の一体」を心がけていました。

また、審査数日前から、同じ目標を持つT先生と立合稽古をしたことは集中力を高め、また自分の立合をシミュレーションでき

る有意義なものでした。

審査日が近づくにつれ、「これまで剣道を少しずつでも継続でき、厳しい環境で稽古をしてきたこと」、「仕事の関係から次回受験できる保証がないこと」、「受験のために休暇を頂いていたこと」から難関であることは十分承知していましたが、できれば今回の審査で合格したいという気持ちが強くなりました。

審査では、「試合に臨む気持ちで機会を見て打つこと」、「打ち切ること」、「下がらないこと」を意識して臨みました。一次審査、二次審査ともに一組目でありましたが、落ち着いて集中することができました。立合内容はよく覚えていませんが、無心で気迫を前面に出せたと思います。

審査を終えた今、大切なことは、目標設定、合格したいという強い気持ちと継続した稽古、人の意見を聞く耳、そして必死さであると思いました。

この度、合格させていただきましたがまだまだ未熟であります。これから更に稽古を積み心技体を充実させるとともに、自分が持っているものを若い人たちに還元していきたいと思っています。そして、いつか「真の八段」となれるよう自然体を維持しつつ精進してまいります。

## 吉田茂生先生の経歴

### 1 剣歴

昭和42年 5月30日 徳島県那賀郡木頭村（現・那賀町）で出生  
昭和49年 4月1日 木頭村木頭小学校入学（木頭錬心館に入門）  
原田勝範土、（故）芝原功一先生、岡田豊先生に師事  
昭和55年 4月1日 木頭村木頭中学校入学（剣道部入部）  
檜本英夫先生、（故）岡内和生先生に師事  
昭和57年 1月 徳島市立徳島中学校へ転校（剣道部入部）  
昭和58年 4月1日 徳島市立高等学校入学（剣道部入部）  
大澤孝彰範土に師事  
昭和61年 4月1日 徳島県警察巡查拝命（徳島県警察学校入校）  
（故）堀江幸夫範土に師事  
昭和62年 4月1日 徳島西警察署勤務  
昭和63年 4月1日 同右（剣道特別訓練員に指定）  
平成 3年 2月15日 警察本部機動隊勤務  
平成 9年 8月30日 剣道六段合格  
平成10年 5月 8日 錬士号受領  
平成14年 3月31日 剣道特別訓練員指定解除  
平成14年 4月 1日 徳島東警察署勤務  
平成15年 4月 1日 警察本部警備課勤務  
平成15年11月26日 剣道七段合格  
平成18年 4月 1日 牟岐警察署勤務（警部昇任）  
平成18年11月30日 教士号受領  
平成20年 4月 1日 警察本部機動隊兼警察本部地域課勤務  
平成21年 4月 1日 三好警察署勤務  
平成23年 4月 1日 板野警察署勤務  
平成25年 4月 1日 警察本部通信指令課勤務  
平成25年11月28日 剣道八段合格

※剣道特別訓練時代の師範 坂下彦之先生、松村克隆先生、中尾正輝先生

### 2 戦歴

#### ○学生時代

全国中学校剣道大会 1回  
全国高等学校剣道選手権大会（高校総体） 1回  
国民体育大会剣道競技 1回

#### ○徳島県警拝命後

全日本剣道選手権大会 4回  
全国警察剣道選手権大会（個人） 2回  
全国警察剣道大会（団体） 11回 平成3年 第3位  
平成13年 3部優勝  
全日本東西対抗剣道大会 2回 （優秀試合賞1回）  
国民体育大会剣道競技 3回  
都道府県対抗剣道優勝大会 回数不明  
中倉旗争奪剣道選手権大会 2回  
四国管区内警察剣道大会 11回 平成3年 優勝  
平成13年 優勝

徳島県警通信指令課の吉田茂生警部(46)＝徳島市名東町2＝が、剣道で最高段位の8段を取得した。県内8人目の快挙で、初挑戦で合格したのは吉田

さんだけ。「支えてくれた全ての人に感謝の気持ちでいっぱい。人格を磨き、8段としての風格を身に付けた」と喜びをかみしめている。

# 剣道最高位

## 8段 初挑戦で合格

県警・吉田警部



剣道最高段位の8段に合格した吉田さん  
＝徳島市論田町の県警察学校

### 「風格身に付けたい」

8段の審査は全日本剣道連盟が年2回行い、実技と形で審査する。7段取得から10年以上を経た46歳以上の人に受験資格がある。吉田さんは11月に東京であった審査に挑戦。1993年、初めて出場した大会で優勝。中学高校時代も全徳大会で活躍するなど好成績を残した。1996年に県警に入る

8段の審査は全日本剣道連盟が年2回行い、実技と形で審査する。7段取得から10年以上を経た46歳以上の人に受験資格がある。吉田さんは11月に東京であった審査に挑戦。1993年、初めて出場した大会で優勝。中学高校時代も全徳大会で活躍するなど好成績を残した。1996年に県警に入る

徳島新聞(夕刊)より



## おめでとう八段合格

近藤 亘

吉田先生、剣道八段合格誠におめでとうございます。十一月二十八日、東京武道館において行われた剣道八段審査において最年少且つ初挑戦で難関を突破し見事合格されました。

吉田先生は、昭和六十一年、徳島県警察官を拝命し、徳島西警察署、機動隊において剣道特別訓練員（選手）として活躍した後、十年あまり警察本部および一線署で勤務しておりました。

その間に警部に昇任し、八段挑戦時は、通信指令課において通信司令官という要職にあり、決して剣道に集中できる状況ではなく、八段審査も上司等の理解がなければ受験することさえ難しかったと思います。

今回を逃せばまたいつ受験できるかわからない。数少ないチャンスではなかったでしょうか。

私は失礼とは思いますが、今回の審査で合格するとは夢にも思っていないかったので、合格の知らせを受けた時は本当にびっくりして、「交通事故に気をつけて帰ってこいよ。」と思わず言っていました。

かつて吉田先生の剣道特別訓練員時代、同じように集中力を発揮した試合がありました。

平成三年、四国管区内警察剣道大会に初陣しかも先鋒で出場し、

全勝賞を獲得し徳島県警の初優勝に貢献しました。

また、その年に行われた全国警察剣道大会でも先鋒で出場活躍し、第二部において三位入賞を果たすことができました。

そして平成十三年、吉田先生が剣道特別訓練員として最後の年に四国管区内警察剣道大会に大将で出場し、優勝を果たすと共にその年の全国警察剣道大会も大将で出場し、四勝一分けの負けなしで第三部優勝の立役者となり有終の美を飾りました。

このようにここ一番の集中力は並外れたものを持っていました。また、全日本東西対抗剣道大会にも二度出場し、二度とも北海道の栄花直輝七段と対戦しています。先日の大会では、優秀試合賞を受賞し、二ヶ月後の八段審査の二次審査で三度対戦するという強運も持ち合わせていました。

しかし、これも継続した地道な努力で実力を蓄えておればこそチャンスをものにできたものと思います。

ともあれ、この度の八段合格は、ご本人ご家族はもとより徳島県剣道連盟にとりましても大きな喜びであります。また、勤務の傍ら八段審査を目指している方にとりましては、大いに励みになるものと思います。

吉田先生の今後のご活躍と八段位としてのご精進をご期待して結びとさせていただきます。

## 祝・剣道八段合格

木頭錬心館 岡 田 豊



平成二十五年十一月二十七日東京で剣道八段審査会が行なわれ、吉田茂生君が合格率10%・8%とも言われる超難関の剣道八段に合格されました。小川大造君からの連絡によりその日に分かりました。大変すばらしいの一言に尽きます。誠におめでとございます。本人の長年のご努力に対しまして心より敬意を表する所でございます。又、奥様の紀子さん、ご両親にもおめでとを言いたいです。錬心館を代表しまして心より賛辞を送りたいと存じます。

剣道に携わる者として試験に望む姿勢が大変充実していて、自分がやるべき事を適宜心に生じさせながら、しかもその動きには、一切心を止めず、偏らず、目の前の相手と合気となり、後先の何もなくただ心気力一致した真の勝負をやり切った結果だと思えます。自分も剣の道を志す者として、少しでも近づけるよう心あらたに頑張っ行ってこうと思っております。

昔を思い出しますと、昭和四十九年頃より当時原田勝先生が少年剣道を指導されていましたので、一緒に練習させてもらいました。その後原田先生より任せられて、少年担当指導者となりました。

した。(その当時、茂生君は保育園年長組だったかな?) 兄の博文君につれられ道場に通っていたと思います。茂生君の同級生には、松葉緒勝君、山下伸也君、後藤郁夫君がいて、共にライバルとなり汗を流していました。茂生君は小学校低学年の頃には個人戦で各種大会で連続して優勝していました。負けた事を知らないぐらいでした。高学年になると団体戦大将として活躍していました。一番印象に残っていることは、水戸東武館主催の全国大会ですばらしい活躍で敢闘賞を頂いた事です。

私も当時将来有望な子供達を任される事到大変責任を感じましたので、ただ無我夢中、若さにまかせて、小中時代に教わった練習方法で指導にあたりました。道場の出入りにはクツをそろえ、礼のしかた、あいさつ等の基本を中心に、掛かり稽古を、土・日もない毎日毎日日課の如く続けました。

私は剣道は面を被ってなんぼの世界だと思っておりますので、厳しい稽古にも関わらず、子供達は本当に道場に足を運んでくれます。これもひとえに深い理解ある保護者に感謝あるのみです。

最近は全国的かも知れませんが、剣道人口が減少しています。木頭錬心館も現在北川と合わせて十三名です。その内六年生が七名です。いよいよ寂しくなっています。しかし、この伝統ある木頭錬心館の灯火を絶やす事なく引き継いで行きたいと思いが、これだけは……。

毎年恒例行事となっております初稽古は、元旦八時三十分から行なっています。木頭出身の先生方、福井軍二先生を筆頭に、各

方面で活躍されている諸先生方、小中高大学生と多くの剣士が一堂に会します。この時はやはり何時も広々と使っている道場も所狭しと充実した年の始めとなっております。

子供達は減少しても、初稽古、阿士少年剣道大会は続けて参りたいと考えております。

茂生君はこれから益々多忙な日々が続くと思いますが、木頭のこの二つの行事には時間の都合をつけて頂き、ご参加下さいますようよろしくお願い致します。

剣道八段、日本の最高段位です。本人のこれからの精進はもちろんですが、徳島県剣道連盟、同じ道を志す者達への、ご指導よろしくお願い申し上げます。誠に言葉とさせていただきます。誠にありがとうございました。



## 吉田先輩 八段昇段おめでとうございます

徳島支部 中尾 幸雄



吉田先輩、剣道八段ご昇段本当におめでとうございます。心からお喜び申し上げます。

私と吉田先輩の出会い、昭和六十一年四月の春で徳島市立高校に入学して間も

ない頃でした。中学三年生の時に、旧徳島県立武道館二階観覧席で県下高校剣道大会を見学しておりました。決勝団体で徳島市立高校が優勝しましたが、その中でも大将（吉田先輩）の動きに、「凄い強い方だな。こんな方が市高にいるなんて……」と思っていました。市高はこの夏県総体で初優勝を成し遂げ、インターハイ出場を決めました。翌日の新聞にも大きく掲載されたのを見たと同時に、市高には、あの大澤孝彰先生も講師として赴任されている事を知っていた私は迷わず、進路選択を市高と決めました。

吉田先輩は市高を卒業されてからは、徳島県警に配属され、初任科時代は休日の度に、市高剣道部の稽古会によく来て御指導していただきました。当時、私が一年生の総体が終わると、二年生の先輩方が進学のため（男子のみ）全員引退してしまつたため、私が一年生からこの伝統ある市高剣道部のキャプテンとなりました。

た。監督不在の中、なかなか部員をまとめれずに悩んでいる時などは、そつと私を支えてくれたのが吉田先輩でした。あれから二十五年以上の月日が経過しましたが、今でもあの時の事が昨日の事のように想い出されます。このように私が入学した頃から現在まで、いつも私の手本であり憧れの先輩です。

警察特錬員生に配属されてからは、その優れた才能をさらに極められ全日本選手権大会四度出場（うち県下三連覇）全国警察選手権、国体、東西対抗、都道府県大会などに何度も徳島の顔として出場されました。昨年、山梨県で開催された全日本東西対抗は、あの世界の栄花選手と見ごたえある素晴らしい試合をして、見事優秀試合賞に輝いたのは記憶に新しいところです。

平成二十五年十一月の東京審査において、四十六歳という若さで合格率一%の難関を見事突破され、快拳を成し遂げられました。インターネットで合格者一覧に先輩の名前を確認した時、まるで自分のことのように誇らしげに全国の剣友に電話しました。その晩、先輩から直接お電話いただき本当に祝福の気持ちで一杯となりました。いつまでも剣道人憧れの存在であってほしいと思います。

平成二十六年二月、徳島市立高校剣道場で【八段昇段祝賀稽古会】、その夜には徳島市内で徳島市立高校剣道部OB・OG関連で【剣道八段昇段祝賀会】を盛大に開催しました。最後は校歌を円陣になって参加者皆様に歌い、市高初の快拳を全員で祝福する事が出来ました。吉田先輩はもちろん、市高剣道部OB・OG関係者皆様の喜びはひとしおであったと思います。





今後、本県剣道界発展のため更なるご尽力をお願いするとともに、吉田先輩の益々のご発展とご活躍をご祈念申し上げる次第であります。

## 特集Ⅱ 全国都道府県女子 剣道大会 第三位

### 全日本都道府県女子剣道大会に参加して

竹 内 佳代子

平成二十五年七月十五日、東京・日本武道館で開催された本大会において、徳島県チームは準決勝、埼玉県に二―〇で敗れたもの、初の三位入賞ができました。監督を中心にチームが一丸となって戦った成果だと思います。応援してくださった方々に心から感謝しています。ありがとうございます。

以下、各選手それぞれの感想です。

#### 先鋒 玉田理沙子選手（徳島文理高校）

私は先鋒で出場させてもらうことができ、後ろには素晴らしい先輩方がいる心強い環境の中で試合をすることができ、とても嬉しかったです。試合では、各都道府県のチャンピオンのレベルの高い相手ばかりでしたが、「私が負けるとチームも負ける！」という強い気持ちで臨みました。準決勝では、個人的にとっても悔しい負け方をしてしまいました。気がつけば三位でした。そして、落ち着いて楽しく、気持ちよく試合をすることができました。そのような環境を与えて下さった平野先生、先輩方、本当にありが

とうございました。また、優秀選手にも選んでいただくことができました。自分が選ばれてよいのかと信じられませんでした。いろいろな人から、「おめでとう！」と声をかけていただき、実感を得ることができ、本当に嬉しく思いました。

春から大学生になりますが、今度は大学生として都道府県大会に出場し、徳島県チームの上位入賞に貢献できる剣士になりたいです。

#### 次鋒 西 袖衣選手（明治大学）

日本武道館という剣道界の聖地で、初の三位入賞することができました。個人的な勝率は良いとはいえませんが、準決勝以外は五分間で良い流れのまま繋げられたと思います。

対戦相手が強豪チームの有名選手ばかりでしたが、大変不安でしたが、先鋒の気迫あふれる試合に勇気づけられると同時に、後ろ三人の先輩方に大きな信頼感を置くことができ、安心して戦うことができました。徳島県の気迫は、応援して下さる方だけでなく、他の観客、審判にも伝わったと思います。また、私にとって今回の大会は、徳島県として出場する四年ぶりの大会でした。お世話になった徳島県で、再び県代表として日本一を目指して戦えたことは、三位入賞したこと以上に嬉しかったです。

これからも、徳島県に貢献できるよう一層、日々の稽古に精進していく所存です。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願ひします。

#### 中堅 平野千尋選手（警察支部）

私はこの度、全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会に三回目の出場をさせて頂きました。三十五歳未満の中堅ということで、団体戦の試合では、どうしても流れのポイントとなります。出場選手を見て、各県の代表となる人ばかりで、自然と気合いが入りました。

組み合わせは、特に強豪県が集まっているグループであったので、とにかく初戦から厳しい戦いになると考えていました。

試合が始まると、予想通りの接戦で初戦の福岡から代表戦となりましたが、厳しい勝負に競い勝つと、次は大阪、次は熊本と、必死で目の前の相手と戦い抜いた結果、気がつけば準決勝まで上がっていた、そんな感じでした。最後は準決勝で埼玉県に敗れましたが、三位入賞という過去最高の結果を頂くことができました。

しかし、自身の試合はまだ満足はいく内容ではなく、一本に対する執着心をもっともっと高めて、確実に有効打突を奪える心技体をめざし、修煉していきたいと思っています。

#### 副将 北村 環選手（阿波支部）

本大会、二年ぶりの出場である。

福岡戦。森選手との対戦は、剣歴をみてもすごい選手であり、悪くても引き分けなければならぬ状況で、非常に緊張して臨んだ。どうにか引き分けて大将につながる事ができた。

三回戦、大阪戦の阿部選手とは練習試合で対戦したこともあり、相手のことがわかっていて分、少しは気が楽であったが、動きの

速い選手で小手をとられ、一本負けで大将にまわってしまった。そのことにより、竹内先生が石田選手と引き分けて徳島の勝ちという状況であったが、さすが大将。一本も打たせず見事引き分けで勝利。さすがである。

四回戦、熊本の梅津選手とは、一本とらなければならぬ状況であり、焦って小手に出してしまったところ、面に応じられ、一本負け。ここでも大将は代表戦に持ち込み、見事一本を取り、ついに準決勝。

埼玉、市村選手は中心が強い選手で、なかなか間合いに入らせず、引き分け。

準決勝まで先鋒から中堅の若い選手が活躍し、有利な状況で副将戦につなげてくれたことと、大将竹内先生が粘る、一本を取るという、安定した勝負強さで勝ち上がることができた。本当に、チームのみなさんのお陰であると、感謝の気持ちでいっぱいである。団体戦のおもしろさを久しぶりに感じた大会であった。

#### 大将 竹内佳代子選手（鳴門支部）

都道府県大会という大きな大会で、三位入賞できたこと、本当にうれしく思います。監督をはじめ、チームの皆さん、支えて下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

東京へ出発する前日が県中学総体でした。優勝を目標に頑張ってきたけれども、思い叶わず鳴門一中は決勝で敗れてしまいました。監督としての責任を感じ、かなり気持ちが落ち込んだ状態で大会に臨むことになりました。でも、こんな状況の中、結果を残

すことができたのは、監督をはじめチームの皆さんの温かい雰囲気のおかげだと思っています。

初戦の相手は、入賞常連の岡山県に勝った福岡県。強豪相手に先鋒から副将まで善戦し、引き分けのまま大将戦となりました。正直試合直前手が震えていました。こんなことは初めてです。なかなか気持ちをまとめることができませんでした。そこで、とりあえずここは引き分けに粘り、再度、代表決定で気持ちを仕切り直そうと考えました。(代表決定は大将と決まっています)攻められたら、手元が上がるという自分の欠点を、相手選手が狙っているのが見えたので、そこを警戒することだけを思い、代表戦に臨みました。決まった技は、相手が左胴を打ってきたところをさばいた後の引き面でした。次の相手はまたまた強豪大阪。しかも、私が引き分けたら勝ちという責任重大の状況。しかも、相手は石田真理子選手。頑張ってこままでつないでくれたチームの思いをうけて、必死に粘ることができ本当によかったです。準々決勝は熊本県。またまた代表戦。「私の一本で三位に入賞できる。このチャンスを絶対に逃したくない。」面が決まったときは、本当にうれしかったです。

過去二年間、私が一本をとれなかったため、ベスト十六で敗退していただけに、やっとチームの力になってよかったです。監督、選手、応援の方々と最高のメンバーと一緒に大会に参加でき、結果を残せたことは貴重な思い出になりました。このことに感謝すると共に、今後自分が徳島県女子部のために何ができるかを考

え、少しでも貢献できたらと思っています。



## 女子躍進 全日本都道府県三位

監督 平野 誠 司

平成二十五年七月十五日、日本武道館において『第五回全日本女子都道府県対抗剣道優勝大会』が開催されました。

この大会は、高校生、大学生、成年年齢別の代表、計五名で編成される各県女子の総力戦といわれる大会です。各県ともトップクラスの選手が多く出場し、優勝に向けて鎧を削るこの大会で、今年のチームがどれだけ戦えるかとても楽しみな大会でありました。

私はここ数年、女子の強化に携わってきましたが、これまでの女子の強化は、限られた人数で単に調子を上げるための、いや上げでもらうための稽古が見受けられていました。

しかし、最近になって選手達はようやく自分の課題と向き合い、稽古に対する考え方も少しずつ変わってきたように感じています。稽古で何をクリアしようとしているのか、何を積み上げていくのか、やっとなんか意識が働き出したのでしょうか。

「自分の感覚を開発していかなければ、本番で技は出ないよ。」ということはどう受け止め、どれだけ大事にしているかで、自分の技を体得（スキルアップ）できるかどうかが決まってきます。

剣道は間と間合いの攻防ですが、いざ本番、必死の攻防の中で固くならないこと。間合いを読んで思い切った自分の技を出すこ

と。技を仕掛ける間（タイミング）を逃さないこと。こういったことは、頭で考えているだけでは到底できません。全て自らが自分の体に、その感覚に染み込ませていかなければならないことです。ここが稽古の大事であって、他者から教えてもらうことは実際には困難です。

常に「間」と「間合い」の調和が抜け落ちないように稽古を継続してきたことを本番では五人の選手が遺憾なく発揮して、緊張感のある素晴らしい四試合をやりきってくれました。

各試合の詳細は語りませんが、先鋒・玉田選手は高校生らしく、また上段の構えを十分に活かし、足を使った好試合を展開。特に三回戦の大阪戦において、見事な二本勝ちで流れを一気に引き寄せ勝利に貢献しました。選考委員の評価も受けて、見事優秀選手に選出されました。

次鋒・西選手は、前日の全日本学生選手権大会三位に輝き、多少の疲労もありましたが、ライバルとの対戦に再度勝負心に火を付け、果敢に勝負を挑みました。その姿は更に後3選手に勇気を与え続けました。

中堅・平野選手は、警察官となって初めての大きな大会。稽古不足はありましたが、そこは気力と集中力でカバーし、各県の中心選手と互角に渡り合い、ポイントを与えませんでした。

副将・北村選手は、ポイントは奪えなかったものの、冷静沈着な試合運びで流れを読み、絶対的な大将に繋ぐ大事な役割を最後まで持続させてくれました。

大将・竹内選手は、初戦の福岡との代表戦、大阪との大将戦、熊本との代表戦と緊迫する三試合の勝敗を決しました。まさに勝負師の一言。自分の持ち味を充分に表現し、徳島県を三位に導きました。

今大会のベスト4は、埼玉、神奈川、栃木、そして徳島。この構図を見て、「やればなんとかなる」という夢と自信を持って取り組んでいけることが何よりありがたいことです。

来年も一人一人日々の生活は大変ですが、目標を持って生活ができること、また緊張と充実を頂きながら打ち込むことができるこの剣道に改めて感謝しなければならぬと思います。

最後に、連盟諸先生方のご支援には心から感謝致しております。ありがとうございました。

合掌

## 《試合結果》

### 準々決勝

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表
徳島県	玉田	西	平野	北村	竹内	竹内
		メ				メ
熊本県				メ		
	福川	渡邊	木原	梅津	古館	古館

### 2回戦

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表
徳島県	玉田	西	平野	北村	竹内	竹内
						メ
福岡県						
	大西	松本	島添	森	大西	大西

### 準決勝

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表
徳島県	玉田	西	平野	北村	竹内	
						0 (0)
埼玉県	メド	メメ				2 (4)
	岡崎	田中	新井	市村	栗田	

### 3回戦

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表
徳島県	玉田	西	平野	北村	竹内	
	メコ		メ			1 (3)
大阪府						
	北井	辻田	田山	河部	石田	1 (2)

優勝  
準優勝  
三位

埼玉県  
神奈川県  
徳島県  
栃木県

## 平成二十五年 顕彰一覽

### 剣道八段 (全日本剣道連盟)

○西谷 肇 一 (昭和二十六年十一月生れ)

平成二十五年五月、京都市体育館における昇段審査会において難関の剣道八段に合格する。受信者は一七二九名、合格者十六名、合格率〇・九%であった。

○吉田 茂 生 (昭和四十二年五月生れ)

平成二十五年十一月、東京武道館における昇段審査会において難関の剣道八段に合格する。受信者は一九三〇名、合格者十七名、合格率〇・九%であった。

### 剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

○坂本 裕 二 (大正八年四月生れ)

昭和三十二年より地元の中学・高校の剣道指導に四十年間携わっている。その間、徳島県剣道連盟阿波支部長として二十年間、活躍した。また、剣道史担当理事として貴重な歴史的資料を「徳島の剣道」に発表しており、剣道発展に多大なる貢献をなしている。

### 少年剣道教育奨励賞 (全日本剣道連盟)

○海部川少年剣道教室

昭和五十一年に設立され、現在まで三十三年間にわたって、活動を継続してきている。時代とともに県南地域の過疎化と少子化の進む中で、地道な活動で県南地域の少年剣道の育成に精力的に取り組んでいる。

○淳志館

昭和五十八年に設立され、現在まで三十年間にわたり、少年剣道育成の活動に尽力している。県西部に位置し、過疎化が著しく、少年剣道教室の休部・廃部が相次ぐ中、指導者の努力により、活発な活動が行われている。

### 体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○松村 和 宏 (昭和二十八年二月生れ)

少年剣道教室「入田錬成会」を結成し、二十年間その指導にあっている。徳島県剣道連盟においても常任理事・理事として青少年育成に努力し、現在も少年部長として剣道発展のため、尽力している。

## スポーツ指導者表彰（徳島県体育協会）

○平野 誠 司（昭和三十八年七月生れ）

国体成年女子の監督として、四国ブロック予選を一位で突破し、国体本大会においても五位入賞に導いた。また、第五回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会で本県女子チームを第三位に躍進させた。本県剣道連盟の強化委員長として小・中・高校生の競技力向上に多大なる貢献をなしている。

## スポーツ優秀者表彰（徳島県体育協会）

平成二十五年七月十五日に日本武道館で開催された第五回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会で以下のメンバーで第三位入賞を果たす。

- 竹内 佳代子（鳴門第一中学校教諭）
- 北村 環（阿波西高等学校教諭）
- 平野 千尋（徳島県警察官）
- 西 柚衣（明治大学・学生）
- 玉田 理沙子（徳島文理高等学校・高校生）

## 生涯スポーツ賞表彰（徳島県体育協会）

○遠藤 一 美（大正十四年五月生れ）

永年にわたり、本県剣道連盟の会長ならびに名誉会長として、剣道の普及発展に尽力する傍ら、八十八歳の現在も稽古を続け、後輩の指導にあたり、率先垂範生涯剣道の模範となっている。その間、全日本高齢者武道（剣道）大会で四回の優勝を果たしている。





## 剣道有功賞

### 剣道有功賞受賞・父の名代として

長男 坂本 憲一

八月半ば、徳島県剣道連盟の事務局から、全日本剣道連盟の剣道有功賞の候補者として父坂本裕二を推薦したので履歴書を提出してほしい旨の連絡を受けた。父は意識はしっかりしているものの三日眠っては半日目が覚める状態が続いている中、推薦の連絡は後回しにして、まず履歴をまとめることにした。ところが、いざ紐解くと成ると私は父の剣歴などはきちんと聞いておらず、不明点だらけなのである。書斎から出てくるのは長年『徳島の剣道史』の執筆に取り組んでいただけに、他人の剣歴資料ばかりで、自分の剣歴に関するものはなにも見つからない。まさに灯台もと暗しであった。

資料集めに数日間を要し、断片的資料を繋ぎ併せ、空白部分は神社庁に提出していた自らが手がけた履歴の写しを氏神の宮司から渡されどうにかまとめることができた。

父は、大正八年、山川町に生まれ、阿波市市場町八幡に来て、私の父となった。父の剣歴は旧制中学・大学・軍隊と長く、その剣道歴を生かし、戦後直ぐ「八幡神社剣道同志会」の結成に参画

し、隣接する八幡神社の拝殿で、当局からの警告を受けながら、家業の傍ら剣道にいそしんだ。

私も幼少の頃、父が境内で剣道をする姿をよく見た記憶がある。神社での稽古は荒稽古で、勢い余って拝殿から石段に突き落とし、そのまま境内に飛び出し組み討ちをする程の稽古振りだった。長刀や銃剣と立合っていたのも記憶にある。以後この八幡道場は十数年にわたり北方における剣道復興の拠点になったと聞いている。

父は、二代目剣道同志会会長を務めた後、昭和五十一年から平成八年まで二十年間に渡り、阿波支部長を務めた。又、同五十一年から市場剣道教室の室長、その後は、母校になる川島高校剣道部の早朝稽古の指導と剣連の『徳島の剣道史』の原稿執筆、地元郷土史の研究を日課としていた。

このように高齢にも関わらず至って元気な父だったが平成二十年二月、九十才の時、川高での早朝稽古中脳梗塞に倒れた。詳しくは延髄梗塞で嚔下障害が後遺症となって現れた。それでも闘病生活は主治医が舌を巻くほど回復への意欲を見せた。「あなたの父さんほどリハビリに取り組んでくれれば、入院患者の半分が歩行可能になるだろうに」とまで言わしめたほどで、二年後、執筆半ばの武道史を病床で手がけるまでに回復を見せた。その原稿は『徳島の剣道』（第二九号）に「鴻山の穴戸神社」として寄稿した。それから三年、寄る年波は止めがたく、最近ではそうした意欲も失せてきている。寝たきりとなり、ほとんどしゃべらなくなつた。

どうにか履歴を作成したのに続き、再び困難に出くわした。表彰の内示を父に伝えたところ、「不自由な体で何の貢献も出来ないから有功賞は辞退する」と持ち前の頑固さでもって、受賞辞退を譲らない。やっとのことで承諾させたのだ。その反面、内心は嬉しかったのだろう。私が病室を抜けたあと、涙を浮かべて受賞することの喜びを看護師に語ったそうである。子供には見せない頑固親父の一面である。

父は当年とって九十六才になる。ただたどしいながらも、「まだ死ねない。百まで生きて剣道と徳島の武道史の執筆を続けたい」ともいつている。そして、受賞式の宵、病室を訪れた時、いつもと違うひとときわ大きな声で「くれぐれも皆様にお礼を述べてほしい」と心境を私に伝えた。

末筆ながら、このように再び父に生きる力を与えていただいた今回の受賞、その労を執っていただいた関係者の皆様方に、私より改めてお礼を申しあげ結びと致します。

坂本裕二先生は、平成二十六年七月三十日に  
ご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りします。



# 少年剣道教育奨励賞

## 少年剣道教育奨励賞を受賞して

海部川剣道教室 丸岡 偉人



この度、海部川剣道教室が全日本剣道連盟より少年剣道教育奨励賞をいただくことになりました。私達指導者をはじめ部員一同、保護者共々、名誉ある賞をいただいた事に大変深く感謝しております。

海部川剣道教室は昭和五十三年、故西山勝喜先生が海部の地に剣道を広めようと、有志を募って由海南中学校体育館を練習場として始められました。間もなく剣道に興味を持った子供達が集まり、現在の教室の礎ができました。昭和五十五年には県スポーツ少年団に加入して同時に保護者会も生まれ、現在に至っております。剣道だけでなく、新年の稽古始め会、春の卒業生を送る会、夏のバーベキュー大会など、子供達にとって楽しい行事は、保護者の皆様の労力によるものです。

現在は、教室の発足当時から西山先生と一緒に指導に当たっていた山崎直光先生と佐藤和久先生と私の三人が中心となり、北川成仁・西沢知世・鳥澤武志・佐藤美幸の各先生、七人で学年毎に

分担して指導に当たっています。今は二十人にまで増えた部員ですが、一時は三人だけとなり教室の存続の危機に見舞われた時もありました。剣道のすばらしさを書いた部員募集のポスターをつくり、商店に貼らせてもらったりもしました。

「挨拶をします・勉強をします・剣道をします」を基本理念に月曜日と木曜日の週二回、町内の体育館で練習に励んでいます。

大きな声で挨拶をして、礼に始まり礼に終わる、相手を尊重するという剣道の魅力を子供達に教え、一人でも多くの少年剣士を育てて徳島県剣道連盟の発展に微力ながら貢献できること、今回の受賞の恩返しになると思っております。

終わりに、今回、海部川剣道教室を推薦していただいた徳島県剣道連盟坂下彦之会長様はじめ、関係の諸先生方に厚くお礼を申し上げ、海部川剣道教室に今後とも変わらぬご指導をいただきますようお願いして、簡単ですが受賞のお礼といたします。



## 少年剣道教育奨励賞を受賞して

東みよし淳志館 増田和広

この度、東みよし淳志館が「少年剣道教育奨励賞」をいただき指導者、部員一同心よりお礼申し上げます。

今日まで私達の道場が三十猶予年余り継続してこられたのも徳島県剣道連盟の諸先生方ならびに三好支部の先生方のお力添えがあればこそ感謝申し上げます。

私達の淳志館は三好町柔剣道場が昭和五十二年、郵政補助により建設され開館となり、当初は『三好町剣道クラブ』と発足致しました。そして平成十二年、部員数の増加に伴い、稽古の場所を三好中学校体育館に移し、道場名を『淳志館』と改め、現在に至っております。

しかしながら、三好中学校体育館も老朽化のため、この度、建て替えとなり、平成二十六年一月より隣接の三好アリーナに稽古場を移動いたしました。より広い場所になりましたので、元気な剣士達が増えてほしいと願っております。

淳志館では指導者七名、部員二十名で週二回月・水曜日の午後七時から午後九時まで稽古をしています。指導方針としては、子供たちに剣道を通して心身の健全な育成と礼儀正しく仲間の大切さや人を思いやる心を培ってほしいと念願しております。剣道の稽古では年齢・体力・技量に適した指導に心掛け、あまり勝負に

こだわらず、基本を中心に各自の長所を伸ばし自主性を尊重しています。私達指導者はこの淳志館卒業生が剣道を生涯の杖として継続し、指導者として後の時代の子供たちに継承してもらおうことを最終目標としています。

今後も県剣道連盟と三好支部の発展のために微力ではありますが、頑張っていきたいと思っております。

最後にこの度の受賞に当たり、ご推薦いただいた徳島県剣道連盟会長ならび諸先生方には心より厚くお礼申し上げますと共に今後とも変わらぬご指導ご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。ありがとうございました。



# 生涯スポーツ賞

## 生涯スポーツ表彰を拝受して

徳島県剣道連盟 名誉会長 遠藤 一美



この度、徳島県体育協会より、生涯スポーツ表彰をいただき、大変ありがたく存じます。これも、八十八歳の今日に至るまで、剣道稽古が続けられるようご指導いただき、稽古相手となっていた

いた先生・先輩・同僚・後輩諸氏のお陰であります。心より感謝します。

思えば、太平洋戦争後、三年五ヶ月のシベリア抑留を終え、日本へ帰ってくる事ができ、戦後の混乱期を懸命に生きてきました。その中で二十八歳の時に剣道を習い始めました。剣道を通して、様々な人と出会い、すばらしい体験をさせていただきました。現在も、徳島県剣道連盟名誉会長・徳島県高齢剣友会会長として、多くの方々と稽古ができる喜びを感じております。季節とともに、一日一日を大事に生きてゆきたいと思えます。

末筆ながら、徳島県剣道連盟の皆様のご健康とご発展を心よりお祈りします。

### 徳島県体育協会表彰規定（抜粋）

（生涯スポーツ表彰）

第十条 生涯スポーツ表彰は、シニア世代となってもスポーツを実践する者で、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(一) シニア世代を対象とする本会広報・検証委員会が認めた全国大会において優勝した者

(二) 永年にわたりスポーツを実践し、現在も活動を継続している満八十歳以上の者で、生涯スポーツのあるべき姿として他の模範となる者。ただし、過去にこの表彰を受けた者は除く。

## 平成25年度 徳島県中学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	美 馬 州 一	徳 島
2	塚 田 圭 吾	徳 島
3	高 瀬 陽 平	徳 島
4	秋 田 修 平	徳 島
5	鳴 川 了 介	徳 島
6	村 本 恵 太	石 井
7	大 西 賀 樹	石 井
8	島 口 開	石 井
9	木 内 拓 実	石 井
10	松 山 和 樹	徳島文理
11	川 田 将 也	徳島文理
12	谷 本 真 宏	徳島文理
13	平 井 稜 一	北 島
14	宮 川 弘 大	北 島
15	湯 浅 晃 平	那 賀 川
16	川 田 航 大	那 賀 川
17	富 田 涼 太	北 井 上
18	大 戸 璃 久	牟 岐
19	福 田 大 貴	阿 南 一
20	松 本 和 暉	木 頭

No.	女 子	学 校 名
1	長谷川 瑞 実	那 賀 川
2	高 野 加 奈 子	那 賀 川
3	田 渕 南 帆	鳴 門 一
4	太 田 あ かり	鳴 門 一
5	堤 綾 乃	鳴 門 一
6	東 條 愛 果	鳴 門 一
7	川真田 莉 子	石 井
8	丸 山 純 弥	石 井
9	高 司 彩 美	石 井
10	佐 野 茜	石 井
11	佐 藤 美 杜	阿 南 一
12	石 田 貴 夕	阿 南 一
13	中 西 夏 香	阿 南 一
14	丸 岡 由 理 奈	富 岡 東
15	猪 野 明 日 香	市 立 川 島
16	湯 浅 麻 菜 美	相 生
17	行 譜 巴 望	北 井 上
18	福 崎 ひ かり	坂 野
19	岩 崎 華 織	県 立 川 島

## 平成25年度 徳島県高等学校剣道優秀選手

No.	男 子	学 校 名
1	岩 原 将 平	阿 南 工
2	田 村 隆 晟	阿 南 工
3	飯 田 時 生	阿 南 工
4	西 田 和 弘	阿 南 工
5	小 川 虎 太 郎	阿 南 工
6	福 田 篤 己	阿 南 工
7	志 賀 龍 一	阿 南 工
8	田 村 幸 太	阿 南 工
9	西 田 凌 介	城 北
10	佐 賀 誠 典	城 北
11	山 田 溪 太	城 北
12	杉 本 純	城 北
13	上 田 雅 大	富 岡 西
14	米 川 雄 貴	富 岡 西
15	近 藤 恭 平	富 岡 西
16	金 川 京 平	徳 島 文 理
17	阿 部 正 典	徳 島 文 理
18	高 野 俊 一 郎	徳 島 文 理
19	猪 野 翔 太	川 島
20	上 田 慎	川 島
21	竹 内 優 介	徳 島 北
22	大 西 修 平	脇 町

No.	女 子	学 校 名
1	玉 田 理 沙 子	徳 島 文 理
2	栗 野 安 香 音	徳 島 文 理
3	岡 本 佳 恋	徳 島 文 理
4	藤 本 結 衣	富 東
5	松 本 美 紗 樹	富 東
6	甘 利 あ か ね	富 東
7	山 本 響	富 東
8	吉 田 歩 生	富 東
9	阿 部 美 月	鳴 門
10	山 内 悠	鳴 門
11	松 浦 園	城 北
12	三 島 花 織	城 北
13	美 馬 汐 里	城 北
14	山 口 潮 音	川 島
15	橋 本 千 里	川 島
16	河 野 優 季	川 島
17	福 田 茜	城 ノ 内
18	岸 本 弥 里	城 ノ 内

# 先生を偲ぶ

## 文武両道の達人

### 勝沼信彦先輩を悼む

全日本学生剣道連盟副会長  
全日本学連剣友会(OB会)会長

木本三夫



あった。

この十一月十日の朝、勝沼先輩の文武両道を学ばんと師事していた孫からの電話によって先輩の訃報が伝えられた。先輩とは剣道が禁止されていた大戦後の八高時代一学生剣道の再興を目指していた頃から現在に至る迄、半世紀を越える長きに渡って交友関係があった。

勝沼先輩の文武両道の「文」について紹介してみたい。先輩は長崎県出身、一九二六年に生をうけ、明倫中学、八高、名大医学部と秀才の道を歩き、伯父の勝沼精蔵(元名古屋大学総長、医師)と父勝沼六郎(元大府療養所長、医師)両氏の薫陶を受けて、基

最近「文武両道」という言葉がよく使われるが、運動選手が有名大学を卒業しているというだけで使われていることが多い。しかし勝沼先輩こそは、九十年程の一生を文武両道の実現に努めた達人で

礎医学に一生をかけることを決意した。その為に名大理学部平田義正先生の門を叩いて天然物化学を学び、大戦後直ぐの時代に独りでスウェーデンに留学、生化学の分野に入った。数年後に帰国し、大阪大学蛋白研究所に助教授として迎えられ、生化学の蛋白分解酵素の研究に努めた。一九六一年には徳島大学医学部教授に招聘され、その後医学部長となって徳島大学酵素科学研究センターを立ち上げ、そのセンター長に就任した。徳島大学を定年で退いた後、徳島文理大学教授となり、二〇〇〇年には徳島文理大学学長に就いて教育・研究に携わった。この間、一九九〇年に紫綬褒章を、一九九七年には勲二等瑞宝章を受章した。また日本生化学会名誉会員、米国癌学会名誉会員、スペイン国立細胞学研究所名誉所員、その他多くの世界の学会において名誉会員であり、ノーベル賞の生化学賞も期待されていた。

ところで私との繋りは「武」の方である。先輩は剣道教士七段であり、徳島県剣道連盟副会長等を歴任し、徳島大学医歯薬系剣道部名誉師範であった。剣風は真っ向から斬ってくる豪快な刀さばき、野武士の風格である。数年前、大阪で全日本学生剣道連盟剣友会の大会が開催された時、名古屋大学チームとして、大将・勝沼信彦、中堅・木本三夫(当大会会長)、先鋒・清水哲雄(元滋賀大学経済学部長)の三人で出場した。三人の平均年齢は他チームより十歳程年上で断トツの高齢、八十歳を超えていた。これが共に参戦した最後の大会で、今では懐かしい夢のような思い出になっている。



病に伏せる迄は八十歳を過ぎて尚、剣道場に行つて道具を着けて学生の相手をしていた。研究と教育に寸暇を惜しむ忙しい日々でありながら、剣道と学問を愛した先輩に頭が下がります。今はただ冥福をお祈りするばかりです。

写真は三十年前の旧制高専剣道京都大会において、八高が優勝した時の祝賀会での乾杯の姿で、勝沼先輩と筆者である。

尚ご当地徳島は二〇〇三年ねりんピックの剣道大会が阿南市で開催された時、名古屋チームの大将で私も参戦して準優勝となった思い出の地であり、勝沼先輩にも喜んで頂けた。



30年前の旧制高専剣道京都大会で八高優勝の祝賀会にて  
(左)筆者 (右)勝沼信彦先輩

## 勝沼信彦先生を偲ぶ

徳島大学名誉教授  
疾患酵素学研究センター特任教授

木 戸 博



日本生化学会名誉会員、徳島大学名誉教授、元徳島文理大学学長、勝沼信彦先生は二〇一三年十一月十日に肺炎のため逝去されました。享年八十七歳でした。

第二代徳島大学学長によって我が国初の酵素学研究施設として、一九六一年に設立された徳島大学医学部附属酵素研究施設の初代教授に着任され、その後国内外の多くの研究者に多大な影響を与えながら、輝かしい酵素学研究の道を走り貫かれました。先生の長年に渡る酵素学研究に対して、一九九〇年紫綬褒章、一九九七年勲二等瑞宝章が授与されました。

勝沼信彦先生は一九二六年七月七日長崎でお生まれになりました。一九五三年名古屋大学医学部を卒業後、名古屋大学理学部天然物有機化学の平田義正教授に師事し、その後名古屋大学医学部助手を経てスウェーデンノーベル医学研究所に留学し、一九五九年より大阪大学蛋白質研究所助教授、一九六一年に三十四歳の若さで徳島大学医学部附属酵素研究施設の教授に着任されました。

徳島大学着任後、ミトコンドリア内の新規Glutamic-Oxaloacetic Transaminaseを発見、その後リソゾーム酵素群の研究で世界をリードされ、この研究領域のトップランナーとして世界の研究者

から尊敬されておられました。

勝沼信彦先生のオープンで飾らない暖かい人柄は、多くの国内外の研究者を勝沼研究室に引き寄せました。私もその一人で、一九七四年弘前大学医学部での卒業を控えて内科医を志しておりましたが、勝沼研究室を訪問したことがきっかけで弟子になった一人です。同じように多くの研究者が国内外から訪れてこられました。これらの方々が異口同音に「自分が若くて不遇な時に、勝沼先生から多くのチャンスをいただいた」と言われることから、勝沼先生は名伯楽として多くの研究者を育ててこられたことが判ります。勝沼信彦先生が徳島大学を退官された後は、教室を引き継ぐことになりましたが、勝沼先生の自由闊達で活気ある教室運営の継承に心がけてきました。

勝沼信彦先生を語る際にも欠くことのできないことは、先生が剣道教士七段の剣豪であることです。剣道を知らない私から見れば先生の印象を書かせていただきます。それは、何事についても勝ちにこだわった先生の勝負師としてのお姿です。梅雨開けのある日、教室間対抗の野球試合をした時のことが思い出されます。チームの中には臨床からの大学院生で、ネクタイを締め革靴を履いて参加していた教室員がおりました。この人がゴロを打って一塁に向かって水溜りを器用に避けながら走ってアウトになった時でした。勝沼先生は「真直ぐ最短距離で走れ」と大声で叱っておられました。その真剣さと迫力は今も忘れることができませぬ。当の先生は、ズボンの裾をまくって水溜りの中をまっしぐら



在りし日の勝沼信彦先生

に走ってお手本を示されたことが今も鮮明に思い出されます。剣道においてもきつと勝負にこだわって、あらゆる自己鍛錬を続けられておられたのではないかと想像いたします。先生はまたこよなくお酒を愛しておられ、飲み始めたら翌朝まで研究と剣道の話で盛り上がったことが思い出されます。先生はお酒を飲まれると私たちには、「馬上討死をモットーとして生きている」とよく申されておられました。天国でも先生は、研究者としてそして剣客として、馬上で剣を振りながら、夢に向かってまっしぐらに走っておられることと思います。

勝沼先生の類稀な大物としてのカリスマ性と行動力、先生と出会った人達をたちまちとりこにしてしまう人的魅力は、今も心の中に鮮明に残っております。勝沼信彦先生から頂いた数多くの教えと思ひ出、終生変わることの無い酔素学に対する熱き情熱に感謝し、ここに改めて心より哀悼の意を表します。



## 勝沼信彦先生を偲んで

徳島大学医学部剣道部部长 久保 宜明



徳島大学医歯薬学部剣道部勝沼信彦名誉師範が平成二十五年十一月十日にご逝去されました。幾度の病氣も乗り越えられた勝沼先生もここに、二年のご病状から、いつかこの日がと畏れていましたが、

現実はこの日を迎え想像以上に大きな喪失感を感じています。私の生まれる二年前昭和三十六年に若くして徳島大学教授として徳島に生まれ、半世紀以上にわたり徳島大学医歯薬学部剣道部を育てて指導いただき、門下生一同深く感謝いたしております。

勝沼先生との出会いは三十二年前、私が徳島大学医学部剣道部(当時)に入部した昭和五十七年四月にさかのぼります。私は小五より阿南剣道教室で剣道を始めましたが、富岡西高校二年の総体後に退部した経緯から、一浪を経て医学科に入部した際、大学では剣道を全うしたいという気持ちで迷わずに入部を決めました。道場で初めてお会いした勝沼先生は、先輩方から聞いていた大魔神そのままの先生で、風貌、構え、豪快な面、するどい返し胴を見てこんなにすごい教授がいるのかと驚いたことを覚えています。当時道場のそばにお住まいだったこともあり、頻繁に道場に来られ、正しく強い剣道をめざし、熱心にかつ的確にご指導いただき

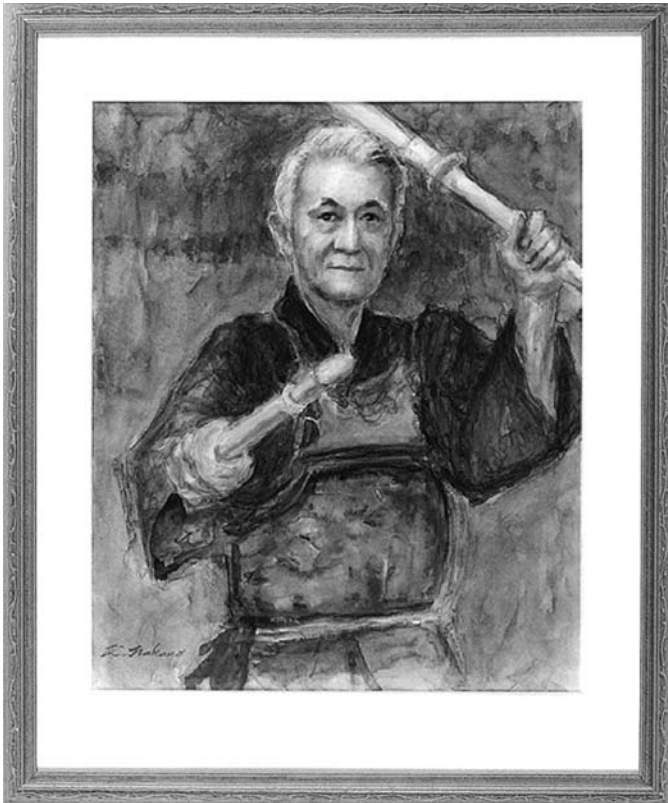
ました。幹部前の学年になると、稽古後に一杯行こうとよくお誘いいただき、グラス片手に遅くまで剣道談義をしていただきました。剣道のみならず、本業の医学研究にまで話は及び、「医師は興味本位で研究してはいけない。患者のためになる研究をしなければいけない。」と切々と語られた言葉は今でも私の胸に刻み込まれ、日々の診療・研究の礎になっています。

勝沼先生は医学部生も歴代の畠山、根岸、倉都先輩方を目標に全日本学生をめざせとのお考えのもと、徳島県下の大学生が切磋琢磨する目的で、徳島県大学選手権を発案され眉山杯と名付けられました。私の大学一年時に始まった思い出深い大会です。第二、三回を倉都先輩、第四、六回を私と医学部勢が五年連続で制し、勝沼先生に喜んでいただいたことを覚えています。大学卒業前に勝沼先生からいただいた「君は剣道に感謝しないといけないよ。」という言葉には多くの思いが込められ、今も忘れることができません。医学部皮膚科学教授、医学部剣道部部长として今の私があれるのも、大学六年間まさに剣道部で勝沼先生を筆頭に諸先生・先輩方に育てていただいたおかげと感謝しております。

私は昭和六十三年に大学を卒業後、稽古回数はかなり減りましたが、大変光栄なことに勝沼先生からお声をかけていただき、社会人一年目から徳島県社会人剣道大会に徳大医学部OBチームの一員として出場させていただきました。翌平成元年には準優勝、平成二年第三位を経て、平成三年には徳大医学部OB虎チーム(久保、倉都、畠山、谷木、勝沼)が念願の優勝をかざることが



第20回徳島県社会人剣道大会（平成3年）の  
優勝杯を持つ勝沼先生  
大塚薬報平成13年9月号より



二刀流の勝沼先生 勝沼先生のご友人 中野和夫画伯 作

できました。勝沼先生が日頃おっしゃっていた「医師の剣道は強い。」ということを県下に示すことができ、今でもその夜の美酒をよく覚えています。チーム編成も通常のA・Bチームではなく、両チームとも強いと龍・虎チームと名付けられたのも勝沼先生でした。勝沼先生が大将に鎮座されるチームでの試合は、緊張感が張りつめていましたが、安心感も絶大でした。勝沼先生と同じチームで出場させていただいたことは、私にとって大変貴重な経験になりました。

勝沼先生がお亡くなりになられ、今まで徳島大学医歯薬学部剣道部が勝沼先生によっていかに支えていただいていたのかを痛感しております。今後、徳島大学医歯薬学部剣道部OB各々が勝沼先生からいただいたご恩を胸に、微力ながら尽力していきたいと存じます。勝沼先生も天国からこれからの徳島大学医歯薬学部剣道部を見守っていただけることと思います。

勝沼信彦先生のご冥福をお祈りいたします。



第26回徳島県社会人剣道大会（平成9年）  
武道館前で勝沼先生を囲んで



## 勝沼先生を偲んで

鳴門教育大学 木原資裕



私と勝沼先生の出会いは、ちょうど平成五年十月に私が鳴門教育大学に赴任した折りの眉山杯剣道大会でした。その時の大会会場は徳島大学常三島体育館の武道場でした。柔道場の畳を上げ、やっと

二試合場が確保できる広さで審判員や学生が溢れていた感がありました。大会設立者であり、大会会長である勝沼先生はポケットマネーで優勝者の賞品を用意しておられ、アットホームな雰囲気漂う大会でした。試合の後、稽古会、懇親会がセットになった大会であり、懇親会では各大学の下級生が芸を披露合って、盛り上がり、楽しく酒を飲んでおりました。

勝沼先生は剣道ができる大学教員としての私の赴任と稽古会での私の稽古ぶりを大変喜んでいただき、懇親会終了後も先生行きつけの美味しい寿司屋に連れて行ってくださいました。その後も、ことあるごとに徳島の夜のお供をさせていただきました。ちなみに私一人ではとても入店できそうな高級感溢れるお店です。

平成十年二月、私にとって一代転機となる出来事がありました。それは、当時、勝沼先生が会長を務める徳島県学校剣道連盟の反省会（懇親会）の折のことでした。勝沼先生にお酌をしながら、

「私（木原）はまだ博士の学位を持っておりません。どのようにしたらいいでしょうか？」と相談しました。勝沼先生は開口一番「私のところで論文を作ればいい。」と言われました。その当時、勝沼先生は徳島大学の医学部長を勇退された後、徳島大学を退職され、徳島文理大学健康科学センター長として赴任されておりました。（後に学長になられます。）また、酔素学の世界的権威でもあり、毎年のように何千万円もの文科省からの科学研究費を獲得されておられました。しかし、私は人文社会学的な研究で修士号をとっていますが、勝沼先生がやられているような研究とは分野が違い過ぎるので、「私には先生の分野の研究は無理です。」と申し上げました。そうしましたら、「この勝沼信彦が責任を持って学位をお世話しようと言っている。君はそれを断るのか！」と真顔で語気を強められました。その迫力に押され、「わかりました。よろしくお願いします。」と答えてしまいました。

反省会が終わり、帰宅してから、勝沼先生は学位のお世話をするとおっしゃったものの、酒席でのこと、忘れていらっしゃるかも知れないと思っていました。すると、翌日の朝、勝沼先生から私の自宅に電話があり、「学位を取得するにあたり、いろいろ決めておきたいことがあるので、私の研究室に来て欲しい。」とのことでした。こうして、酒席で（首席ではない）学位取得を目指すこととなりました。

博士論文提出も徳島大学へ出す方がよいとのことで徳島大学の木戸博先生（勝沼先生の直弟子）のところの研究生となり、また、

実験やデータ解析を徳島文理大学の掛川寿夫先生（現・香川大学工学部教授）に全面的にお世話になりました。学位取得の第一条件である私を筆頭著者とする論文が研究生になって四年目に国際ジャーナルに掲載されることになりました。

次に問題になるのが、徳島大学では論文博士取得にあたっては、語学試験を博士課程大学院入試と同じ問題を同じ試験場で受け、六十点以上を獲得しなければなりません。一問A4版一枚の英文を時間内に二問（A4版二枚）を全訳するのですが、医学系のジャーナル英文を学生時代にあまり読んでいない者にとっては、かなり厳しいハードルです。結局三回連続、不合格。このままでは、ずっと合格できないかもしれないと思って臨んだ四回目に奇跡が起きました。語学試験の前日、何気なく、読んだ医学雑誌（日本語）の記事とほぼ同じ内容が試験の一問目に英文で出ているではありませんか。ここはほぼ完璧にクリアーでき、二問目もそれなりに対応し、やっと語学試験を合格することができました。

最後に残った最大の関門は、約四十分間の公開審査の口頭試問でした。徳島大学では指導教員が審査担当となることができず、口頭試問会場の審査員はなじみのない先生方でした。何をどのよう回答したかは、ほとんど覚えていません。ただ必死に回答していたところ、公開審査会場で私の発表を聞いていた指導教員の木戸先生の顔が見え、木戸先生は目を閉じて私の回答にうなずいておられました。私は回答の方向性に間違いなしとの確信を

得、四十分間をきわどく乗り切ることができました。

勝沼先生は私の博士号取得をたいへん喜んでいただき、記念にネーム入りのウォーターマンの万年筆を下さいました。その際、「早く教授になって、堂々と仕事ができるようになりなさい。剣道のために自分の時間を作りなさい。」との指示をいただきました。お陰様で、私はその後、教授に昇任し、現在、芸術・健康系教育部の副部長という立場で仕事ができるようになりました。剣道の方も八段審査に挑戦し、一次審査に二回合格できるまでになりました。また、徳島県剣道連盟の中に中体連・高体連と同等の組織として、大学連を承認していただき、私が担当理事となり、助成金の支給を受け、徳島県大学剣道選手権眉山山杯大会の充実、大学生のための講習会等を実施しています。

私は今、勝沼先生の指示を大きく実現させるために、二つの目標を抱いています。一つは、「私が博士課程の指導教員となって、剣道をテーマにした博士を誕生させること」、もう一つは、「私自身が剣道八段になり、剣道指導にあたること」です。勝沼先生のご恩に報いるためにもぜひ実現したい目標です。

勝沼先生、天国からのご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願ひします。  
合掌





勝沼先生よりいただいた万年筆



ありし日の勝沼先生

## 在りし日の弟を偲んで

麻植支部 出葉成一

真源院教功導慈居士、これは今は亡き、私の実弟で、剣道教士七段、元羽ノ浦小学校校長でありました俗名芝原功一の戒名です。

弟は、平成二十五年二月三日、日曜日の早朝、自宅において就寝中、急性心不全により、享年六十一歳という若さで急逝致しました。

三日後の二月六日の告別式には、徳島県剣道連盟会長坂下彦之先生はじめ、多くの諸先生方や剣友諸兄の皆様、並びに学校教育関係者の方々等、総勢九百余名に及ぶ大勢の方に御会葬頂き、厳粛且つ盛大な葬儀が挙行でき、その上、御鄭重なる御弔慰まで賜り厚く御礼申し上げます。

尚故人が生前中に皆様から賜りました御交誼御指導に對しても茲に併せて、本紙面を拝借させて頂き、厚く御礼申し上げます。

弟は、昭和二十六年三月十四日、美馬市脇町西俣名の清水峠の麓で、半農半商を営む出葉家の男五人兄弟の末っ子として誕生し、生来の明るく、人懐っこい性格から、家族はじめ近所の人達からも可愛がられ、伸び伸びと大らかに育ちました。

弟が剣の道に足を踏み入れたのは、昭和四十一年四月、県立脇町高校に入学してからのことで、私と同様に、剣道居合道共に教

士七段でありました恩師の故滝下勝先生に師事してからのことです。在学中の三年間、同先生から、基本に忠実で真っ直ぐな大技の剣道を仕込まれたことによって、弟の今日の剣道の基本ができたものと思います。

また、弟は元来、子供好きであったこと等から、脇高卒業後は、小学校教員を志して、徳島大学教育学部に進学しました。

当時、徳島県警察剣道師範で、徳島大学剣道部師範もされていた故堀江幸夫先生との良縁を得て、剣道の腕前を上げると共に、すばらしい先生からの薫陶を受けて、人間的にも、剣道修行者としても大きく成長致しました。

更に弟は、徳大卒業後の昭和四十八年四月、小学校新任教諭として、那賀町木頭小学校へ赴任した際に、地元在住の居合道の原田勝先生との良き出逢いに恵まれ、それ以来、同先生から御指導、御交誼を頂くこととなり、今日に至っております。

弟は、同先生から、適宜適切な御指導を頂いて、精神的にも、人間的にも更に大きく成長したものと思います。

私が弟の人となりを申し述べますと、我田引水になりますが、一口で申しますと、弟は温厚誠実な男であり、明朗闊達な性格であったと思います。また、人には優しく、自分には厳しい面を持ち合わせると共に、本当に心根が優しく、又良く気が付く人間でした。

このようなことから、弟は昭和五十一年四月に縁あって、阿南市羽ノ浦町の三代養子が続くという教職家庭の芝原家の三代目の養子となり、男三人の子宝に恵まれ、無事御養子としての大役を

果しております。

家庭にあつては、家族思いの優しい一家の主であり、何時も我子のことを心配したり、たまの休日には、おばあちゃん（養母）の庭木や花の手入れを手伝ったり、家族を自分の車に載せて、県内の名所旧跡やお寺巡りをする等して、良き養子ぶり、親父ぶりを発揮していました。

教職にあつては、小学校教諭として、木頭小学校を振り出しに、鳴門市内、上勝町内、阿南市内の各小学校で教鞭を執り、理科を得意科目としておりました。そして生徒に対して、理科や科学の世界のすばらしさを楽しみ、わかり易く教えることをモットーとしており、授業に使う教材を自分が徹夜で手作りしたり、授業の合間にジョークを混ぜえたりして、楽しく面白い授業をしていたことから、生徒達からも慕われ、結構人気もあつたようです。

教員生活の終盤の二年間は、地元の羽ノ浦小学校の校長として勤務し、平成二十三年三月に三十八年間に及ぶ教員生活を無事に努めあげ退職しております。

弟は、その功績を称えられ、没後とはいえ、命日と同じ日付で、内閣総理大臣安倍晋三から「瑞宝双光章」という名誉ある叙勲を授与されています。

弟の剣振りについては、どっしりとした構えで、余り小細工はせずに、真っ直ぐな大技の剣遣いであり、身長一七五センチ、体重九十キロに及ぶ巨体から繰り出す真面には、可成の破壊力があつたと思います。

私が弟と稽古できるのは、毎年恒例の年末十二月三十日の脇高剣道部OB会と高齢剣の交流稽古会等の機会だけで、年に僅か数回でありましたので、弟の顔が見えれば、私の方から積極的に声を掛けて稽古していました。

私が兄貴面して、迂闊に中途半端な気分面で面に打つて出ると、見事に摺り上げられて、真面を割られました。

今思えば、平成二十四年十二月末の脇高OB会での稽古が、私と弟との最後の稽古となつてしまいました。その時も同様であり、二人の稽古は、互いに気を張って気迫の込めた稽古であつたので、どちらが勝つても負けても気持ち良く、とても爽快な気分になりました。それが今も懐かしく思い出され、つい昨日の出来事のような気がしてなりません。

弟は、「我以外皆師」という訓之を座右の銘として、強い求道心をもって、真剣に剣道に取り組んでおり、密かに八段審査に向けて人知れず蔭で努力をしていたようです。

弟の遺品の中に稽古日誌があり、目を通すと、毎回の稽古の様子が克明に記されており、弟の心情を思うと、急に目頭が熱くなり、自然と涙が溢れ出ていました。

何もかも、これからという矢先に弟は亡くなり、誠に残念至極であります。反面、弟は、これまで剣道を継続してきたことにより、多くの皆様から交剣知愛、交盃知愛をもって、良き御縁を結んで頂くとともに、御指導賜りましたことを思うと、本当に幸せ者であつたと思います。有難うございました。弟もきつと草葉



(左)全国高齢剣会長 高崎慶男範士八段 (中)筆者 (右)故芝原功一

の蔭で、皆様方に感謝致していると思えます。  
結びにあたり、諸先生方、剣友諸兄の皆様  
の益々のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、筆を置かせて頂きます。

合掌



## 芝原功一先生を偲ぶ

羽ノ浦少年剣道教室代表指導者 森 眞 一



芝原功一先生と初めてお会いしたのは、次男の誠くんが羽ノ浦少年剣道教室へ入部した時です。最初は子供の剣道を見学するだけでしたが、三男の勇くんが剣道を始めたことをきっかけに剣道具を付け

指導者の一員として参加して頂けることになり、剣道教室の指導者も故尾崎行男先生、濱田逸郎先生を筆頭に六名と大変充実することになりました。

芝原先生が指導者として活躍されてから教室生も四十名あまりと大幅に増えるとともに、剣道を始める保護者も出てくるなど活動も大変活発になり、後援会組織（保護者会）も充実、昭和五十六年に始められた羽ノ浦少年剣道大会もこれら後援会に後押しされ第二十回大会まで開催できました。

教室の活動も剣道の練習・試合だけでなく、キャンプ・宿泊訓練等レクリエーションも活発になってきました。これも芝原先生のご指導のおかげではないかと思っています。

レクリエーション活動の一つ、一泊研修では、羽ノ浦町武道館（現羽ノ浦中学校武道館）で練習をした後に、岩脇妙見山頂の「青雲城（旧羽ノ浦町が設置運営していたが現在は撤去されてい

る。）」まで移動し、保護者も含めて全員が宿泊、教室生は先生のお話を聞きながら夕食を食べたものです。

夕食後は指導者と保護者で夜遅くまで飲物を飲みながらの懇談もしていました。翌朝六時には早朝練習として体操・竹刀による素振りを行い、お昼まで活動するという宿泊訓練も行っていました。

先生と私が同学年であったこと、また、互の子供が同年代であることから機会あるごとに他の指導者の先生方も交え、共に一献交わしながら「子育てから剣道談義」と朝まで話をしたものです。

先生から七段昇段の折に頂いた面タオルに「浩然の気」とありましたが、先生のお考えと行動を实によく表された言葉だと感じました。剣道教室での若い指導者が集まる時には、先生に持ちいただいた剣道形のDVDや子供たちの試合のビデオを見ながら「今の技は良かった。今の動きはどうだったかな？」などと話をしたものです。今思えば色々なことがきのうのように大変懐かしく思いおこされます。

先生は教師として羽ノ浦小学校で勤務されていた時、また、県教育研修センターでの勤務、木頭小学校長等の管理職として勤務時でも、ご多忙の中、時間を作って剣道教室の練習に参加していただき、子供から大人まで熱心に指導をして頂きました。近年は、剣道連盟阿南支部の副支部長としてご活躍されながらも羽ノ浦朝稽古会に参加され、ご自身の修練にも励まれ、剣道八段を目指して頑張られていました。私たち剣道教室の指導者も教室生たちも

芝原先生の昇段を心待ちにしていたのですが、道半ばで他界され誠に残念でなりません。

先生は、よく子供たちに「継続は力なり」と教えられていました。ご自身が諸先生方から指導を受けたことを我が身で実感し、これからの少年・少女剣士に伝えられたのだと思います。私も教室生一同もこの言葉を糧として頑張っていきたいと思っています。

芝原功一先生から頂いた羽ノ浦少年剣道教室へのお心遣いを感じるとともに、ありし日のお姿を偲び心よりご冥福をお祈り申し上げます。



## 芝原功一先生を偲んで

藤 本 辰 夫



平成二十五年二月三日、芝原功一先輩の訃報が届きました。なんの前兆もなく急逝されたとのことで、知らせを聞いた私は思わず本当かと問い正してしまいました。例年、十二月三十日には、脇町高校剣道部のOB会と稽古会があります。十一月にケガをしていた私は欠席をしてしまったのですが、功一先輩はいつものように会に元気に出席されていて、また剣道八段位の審査に向けて稽古を頑張っておられたとお聞きしていたばかりなので、亡くなったことがにわかには信じ難く、しばらく茫然としてしまいました。

今から四十数年前、私が高校の剣道部に入部した時に芝原功一先輩は二年生、お兄さんの出葉栄先輩は三年生で、お二人とも脇高剣道部を背負って立つ、文武両道を絵に描いたような頼もしい存在でした。当時、私は剣道初心者で、おまけに身長一五〇センチのガリガリのチビっ子だったので、竹刀を持つのもやっとのあり様で、先輩や仲間に変迷惑を掛けました。功一先輩は少し堅物ではありませんでしたが勉強もよくできて、そんな私に対しても気長く指導して下さい、その後の私の剣道人生のお手本となる見習うべき先輩に出会うことが出来たのです。

先輩が徳島大学教育学部に進学した翌年に、私も工学部に入学して剣道部で再びお世話になり、功一先輩が剣道部主将を務めた後は、私が主将を引き継いで、先輩の後塵を拝しながら徳島大学剣道部の一時代を共に過ごすことが出来ました。当時、徳島大学には剣道場がなく、県立武道館で一般の先生方と一緒に稽古をさせてもらうので、いろいろな先生方と厳しい稽古ができる反面、大学独自の活動が出来にくかった環境でもありました。そのため先輩は稽古が終わると、たびたび下宿に連れて行ってくれてお酒を飲ませてくれました。先輩も学生の身ですから、お金の面でも大変だったと思うのですが、にもかかわらず面倒を見て下さり、様々なフォローをして下さいました。あの当時の厳しい稽古に耐えることができたのも、徳島大学剣道部がその後、全日本選手権大会に出場することができたのも、先輩のおかげだったと今更ながら懐かしく有り難く思い返されます。

大学を卒業してからお互い進む道は違いましたが、高校のOB会や大学のOB会、剣道の大会や稽古会などで年に何回かお会いする機会があり、お稽古もしていただくこともありました。数年前には大学の剣友会会長を引き受けて下さり、徳大剣道部OBの面倒も見てくださいました。思えば高校入学以来、功一先輩には、血を分けた兄弟のように親しくしていただき、人生や剣道についての悩みにもいつも耳を傾けてもらいました。まだまだ教えていただくことがあったのと思うと残念でなりません。本当に功一先輩は私の剣道人生にとってなくてはならない存在でありまし

た。

私事ですが、実は先輩の訃報があった二月三日は、私の九十九歳になる伯父が横浜で亡くなったとの知らせが届いていたのです。大切な二人のどちらかを見送ることが出来なくなるのではないかと悩みましたが、伯父の告別式の日程が遅くて、先輩に最期のお別れをさせていただくことができました。

終わりにりましたが、紙面をお借りして長年の公私にわたる芝原功一先生のご厚情に深く感謝申し上げますとともに、ご冥福を心からお祈りさせていただきます。

功一先輩、本当に有難うございました。





## 芝原功一先生を偲ぶ

白木 崇

故芝原功一先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

芝原先生と出会ったのは、私が小学四年生の時でした。当時、先生は徳島大学を卒業したばかりで、臨時教員として木頭小学校に赴任してこられました。

先生は若くはつらつとして、とても気さくなお兄さんのような存在でした。大学の剣道部で活躍されていた先生は、そのまま木頭錬心館に防具を担いでやってきたのです。先生との記憶は小学校での授業より、道場での稽古の方が多くかもしれません。何せ声が大きく活発で、実際の体つきよりも一回りも大きく怖く見えましたが、掛かっていくと、とても熱心に優しく指導して下さい、僕たちの何倍も動かれていたと思います。

また先生は普段から、おしゃべりが好きで、博学でいろんな事を僕たちに教えて下さいました。竹刀の使い方やどうしたら上手になるか、社会的なこと、難しいことも分かりやすく丁寧に説明して下さいました。

授業では、理科を教えて下さりよく実験をしました。シヨウジョウバエの研究の時には、みんな、家では見たことがないので困っている、「よし、先生の宿舎に來い。」ということになり、数人でおじゃましました。すると台所に小バエがわんさか！実験には

十分すぎる小バエを持ち帰り、授業は無事終わりましたが、女子生徒には部屋の掃除をするよう約束させられていたことを覚えています。

先生は羽ノ浦町にお住まいで、少年剣道の指導にも携わっておいででした。「ワシが小学校の教員として大切にしてきたことは剣道の中にある。おまえらが学んできた剣道をしっかり活かせ！」と常々ご指導をいただきました。

私も家庭を持ち、羽ノ浦に住むことを決めましたが、理由は、そこで剣道を教えていらっしゃる多くの先生方のお人柄や地域性に惹かれたからです。その教えを少しでも引き継ぐべく、今は羽ノ浦中学校剣道部の外部指導者として羽ノ浦の子供たちと汗を流しています。

先生が教えられた子供たちは元気に育っています。私もその一人として、先生のご遺志を継いでこの羽ノ浦町で、この徳島で、子供たち一人一人と関わりながら剣道の精神を伝えていきたいと思っています。

# 全国講習会報告

## 第十二回剣道講師要員（指導法）

### 研修会に参加して

米倉 滋



わが国の伝統と文化に培われた剣道の普及・発展を図るとともに、心身の錬磨による人造りと「剣道理念」に基づき、社会から高く評価される活力ある剣道界の発展の実現を目指し、剣道の質の向上と現場への浸透を図るために、指導法の講師要員を育成することを目的とした第十二回剣道講師要員（指導法）研修会が、平成二十五年十月十九日から同二十日までの二日間、東京スポーツ文化館において全国各地から二十四名（教士八段以上）の講師要員が参加して実施されました。

研修会の冒頭、福本副会長から「剣道指導者のあり方」について、これからの剣道指導は技術指導だけでなく、各人の持つ才能を引き出す指導が必要とされるとの講話がなされました。

又、作道指導委員長から剣道指導について、

一、「剣道指導要領」等教本の活用

二、講師要員研修会の充実

三、木刀による剣道基本稽古法を基盤にした指導の実施

四、各委員会と連携し、国内外に普及推進する

五、各層・各領域等に適した効果的な指導の実施

等を推進する中で指導法を大きな枠組みの中でとらえ、より掘り下げた指導を行い、現場で生きた指導を実践しなければならぬとの講義があり、その後、別表の日程表に基づき技術実習が行われました。

剣道は、厳しい稽古の中で技術を磨くことは大切なことですが、その一方初心者や後輩に対し適切な指導がなされなかった場合、青少年の剣道離れや、後輩が育たず、結局剣道は衰退してしまいます。

剣道を指導する者は、技術を磨くと同時に指導力や知識を身につけることが大切です。今後、私は本研修会で培った指導法を生かし、講習会講師として、それぞれ各地で剣道を指導される方々の指導力の向上を図る一助になり、剣道を正しく現場へ浸透させたいと思っています。

第12回 剣道講師要員（指導法）研修会 日程表

平成25年10月19日（土）～10月20日（日）

於・東京都江東区 東京スポーツ文化館

10月19日（土）		10月20日（日）	
		7:30	
			朝食
9:00	受付	9:00	日本剣道形 ◎中田 ○金木
9:20	開講式		
9:30	講話 演題 剣道指導のあり方について 担当講師 福本副会長		
10:20	休憩		
10:35	剣道の技術実習1 (1) 礼法 (2) 基本動作 ◎加藤 ○金木		
12:00	昼食	11:50	昼食
13:00	木刀による剣道基本技稽古法 ◎遠藤 ○金木	13:00	〈演習〉 木刀による剣道基本技稽古法を活用した指導 演習者 講師要員
14:20	休憩	14:00	木刀による剣道基本技稽古法を活用した指導に関する質疑・応答および総括 ◎作道委員長 ○大矢
14:35	剣道の技術実習2 木刀による 剣道基本技稽古法(剣道具装着) (2) 応用動作(对人的技能) 1) しかけ技 2) 応じ技 ◎金木	15:00	閉講式
16:00	剣道の技術実習3 ◎作道		◎は主 ○は補佐
16:30	(1) 講義-稽古法のあり方 (2) 稽古法の展開 1) 切り返し 2) 約束稽古 3) 打ち込み稽古 4) 掛かり稽古 5) 廻り稽古 6) 互格稽古		
17:50	稽古 ◎姫野		
18:30	入浴 夕食 自由研究		

# 第四十八回剣道中央講習会

(西日本) 報告書

一六時～一七時 救急法(心肺蘇生とAED)  
一七時～一七時四五分 稽古  
四月七日(日)

教士八段 西谷肇一  
教士七段 生田浩章

九時～一二時三〇分 日本剣道形(西出講師)

一三時二〇分～一五時 試合審判法(鈴木講師)

一五時～ 閉講式・解散

講義(作道範士)

日時 平成二十五年四月六日～七日

場所 神戸市立中央体育館

役員 全日本剣道連盟 会長 武安義光 副会長 松永政美

専務理事 福本修一

講師 剣道範士 西出 功 作道正夫 鈴木康生

共催 兵庫県剣道連盟

受講生 教員関係十九名 警察・刑務官十八名 その他十二名

全国組織剣道団体五名 全剣連派遣三名 合計五十七名

日程

四月六日(出)

九時～九時三〇分 集合・受付

九時三〇分～一〇時 開講式 趣旨説明

一〇時～一〇時五〇分 講義(作道講師)

一一時～一二時三〇分 指導法(作道講師)

一三時三〇分～一四時三〇分 木刀による剣道基本技稽古法

(西出講師)

一四時四〇分～一六時 指導法(作道講師)

剣道の国際化のために、武道としての文化性を持続しながら競技化の難しさを克服して行く。また、剣道の理念として、剣の理法の修練による人間形成の道と言われる剣(刀・木刀・竹刀)道の竹刀を刀という概念で捉えて扱う。有効打突・剣先と鎧・攻防を一体で行う。

礼節 居付かないこと(礼法と言う)

子供の教育において 禮と躰

子供の教育で人間らしく育つためには次の四つのことができるようにする。

一、腰を立てる。(自分の意思で背筋を伸ばして前を向く。)

二、挨拶を相手より先にする。(自分の気の充実と相手の心を開く。)

三、名前を呼ばれたら素直に返事する。(自分の我を捨てる。)

四、履物をそろえる。(反省や自浄作用)

## 体罰と剣道

指導のあり方を求めて行く。剣道で礼節がなければ野蠻で殺伐としたものになる。師弟同行・活人剣等

## 生涯剣道

老いてなお完成度を増すもの

年齢でできないと決めないで、できる可能性を求め、体感できるとなるような取り組みが必要。継続することによって成果が出てくる。(例) 歩けなかった人が、三歩歩けた。五歩歩けた。速く歩けたなど)

## 二十五年度全剣連(指導法)資料

### 〈指導目的〉

わが国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承してその発展を図り、「剣道の理念」に基づいた高い水準の剣道を目指す。

### 〈技能の指導目標〉

- ・初心者―礼法・基本動作の習得を図る。
- ・初級者―仕掛け技を中心に気剣体一致した技能の向上を図る。
- ・中級者―仕掛け技の鍛錬度を高めるとともに応じ技を中心に懸待一致した技能の向上を図る。
- ・上級者―理合に基づいた総合的な心気力一致した技能の向上を図る。

## I 指導法の重点事項

高い水準の剣道を目指すために次の内容を踏まえた指導法の

普及を推進する。

一、受講生の特性に応じて効果的に指導する。

二、所作、礼法、着装について徹底指導する。

三、刃筋・手の内・刃え・鎧を意識した竹刀の操作について徹底指導する。

四、一足一刀の間合いから、一拍子で正しく打ち切る技能を中心課題とするとともに、それぞれの技量に応じて理に適った応用技の習得を図る。

五、正しい攻防の指導を徹底する。

(1) 氣勢の充実をもって中心を外さない攻め合いを重視する。

(2) 安易に左拳を中心線から外す防衛体制を厳しく是正する。

六、正しい鏢せり合い(鏢と鏢が接する構え)からの技を理解させ徹底指導する。

(1) 鏢せり合いからの技能を高める。

(2) 分かれる場合は、積極的に技を出すか、相互に間を切る。

七、「木刀による剣道基本稽古法」の普及を図る。

八、剣道の理解を深めるため、講話を積極的に取り入れ、心の問題について認識を深め、修練を通して道徳的価値観の育成を図る。

## II 指導展開の方針

全日本剣道連盟刊行の文献(剣道指導要領、木刀による剣道基本稽古法、剣道講習会資料、剣道授業の展開、剣道社会体育教本等)を活用して、技能の向上を図るとともに人間力を醸成

する。

### III 指導の内容

#### 一、講話（剣道指導要領参照）

(1) 「剣道の理念（目的）」 「剣道修練の心構え（目標）」 「剣道指導の心構え（指針）」 の講話を通して、剣道実践者としての姿勢態度を養う。

(2) 剣道小史（剣道の流れ）などの講話をもって剣道の興味や意欲を高める。

(3) 剣道指導の在り方について

① 指導者（心得）

② 指導のねらい

③ 指導の展開

④ 技術の修習と稽古に対する指導

⑤ 指導上の留意点

#### 二、実技（剣道講習会資料・剣道指導要領等参照）

##### (1) 指導内容一

① 剣道着・袴および用具

② 礼法（立礼、座礼、正座、座り方・立ち方）

③ 基本動作（姿勢、構えと目付け、構え方と納め方、足捌き、素振り、空間打突、跳躍素振り、掛け声、間合い）

④ 木刀による剣道基本稽古法

##### (2) 指導内容二

① 応用動作（対人技能）

剣道の技術構造の理解を図るとともに、「攻め合い」から「木刀による剣道基本技稽古法」を活用した「仕掛け技」「応じ技」の指導。

##### (3) 稽古法

① 基本稽古・切り返し、約束稽古、打ち込み稽古、掛かり稽古

② 互角稽古・試合稽古他

### IV 平成二十五年度指導の最重点項目

#### 一、礼法

正しい礼法の指導とともに、激しい攻防のなかでの礼についての指導。（礼で始まり、礼をもって行い、礼で終わる精神の啓蒙を図る。）

#### 二、「木刀による剣道基本技稽古法」の指導内容

(1) 制定の趣旨、技の構成、基本指針、指導上の留意事項、「手引き」作成の趣旨、解説の要旨などについては、剣道講習会資料に基いて指導する。

(2) 礼法、立会前後の作法について徹底指導する。

(3) 習熟段階を考慮して、構成された技に関連する内容も取り入れた指導を展開する。（例 基本二―連続技…小手一面 小手一胴 小手一面一胴 基本三―すり上げ技…小手すり上げ面、面すり上げ面など）

(4) 竹刀剣道に発展させる指導。

(5) 初心者から上級者までの技能レベルの如何にかかわらず、

「木刀による剣道基本技稽古法」の実践を奨励する指導。  
三、基本動作

(1)体当たり

①体当たりからの積極的な技の展開を図る指導。

(2)鍔せり合い

①正しい鍔せり合いからの攻防と技の展開と分かれ方の指導。

四、応用動作（対人技能）

(1)剣道具を装着しての「木刀による剣道基本技稽古法」の活用した指導。

五、稽古法（別紙参照）

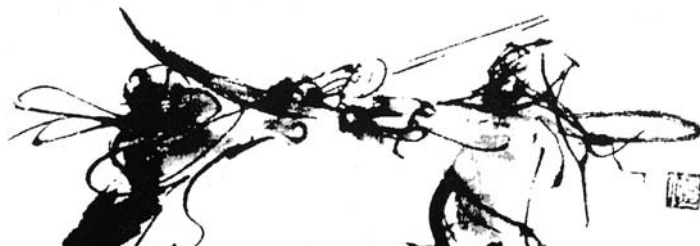
(1)各種稽古法を組み合わせた指導。

例 切り返し―互角稽古―掛かり稽古―切り返し。

日本剣道形と木刀による

剣道基本稽古法の指導（西出範士）

試合審判法指導（鈴木範士）



## 第四十回居合道中央講習会に参加して

居合道部長 岸 田 光 博



日時 平成二十五年九月七日～八日  
場所 京都武道センター  
講習生 全国各都道府県より一〇二名

居合道中央講習会の目的は、全日本剣道連盟居合（昭和四十四年五月制定）の内容を全国に徹底させるとともに、居合道の作法、術技、居合道試合・審判規則および細則を各都道府県において適正に施行できる指導者の育成である。毎年この時期に実施され、今年も徳島県からは原田勝先生（範士八段）と私・岸田が参加しました。

第一日目は武安会長の挨拶のあと、河口委員長（範士）の連盟居合解説にあわせて山崎範士が実技を行い、その「指導要点」を確認しつつ、作法および術技一本目より十二本目までを学んだ。昼食前に恒例の参加者全員の記念撮影がありました。午後からは実技練習の為の班分けがあり、八段参加者はサブ道場へ、七段以下の参加者は四つの班に分かれて講習を受けました。私は第三班に配属され、山崎範士より細部にわたり、丁寧に実技指導していただき、たいへん勉強になりました。

第二日目は試合と審判講習でした。七段の受講生が試合を行い、それを八段の先生方が三班のグループ（今年の第四十八回全日本居合道大会の審判団）に分かれ、審判するものでした。掲示板に对战相手が表示され、指定技二本で、審判員による判定後、判定の理由を審判員三名がそれぞれマイクを通して発表する形式で実施されました。主審が毎回交代し、試合者も集中力を発揮しているため、会場内は非常に緊迫した雰囲気満ちており、判定理由の観点や技の評価がたいへん勉強になりました。

午後は各流派に分かれての古流研究でした。私は無双直伝英信流で本館道場の仕切られたところで、山崎範士が指導し、三谷範士が号令をかけ、八段の先生と七段以下の先生が向かい合う形式で交互抜きが行われました。同じ流派であっても、先輩指導者から受け継ぐ間に、若干の個性が出ている感があります。そのことについて、山崎範士は「それも皆、正しい。諸先輩の理合を正確に引き継ぐようにして下さい。」と指導されました。

古流研究の後、再度、全員が集合し、閉会式が行われ、解散となりました。私は徳島県剣道連盟居合道部の代表として全国講習会に参加させていただいたことに感謝するとともに、この講習会の内容を伝達することに緊張と責任を感じております。また、全国都道府県の先生方との交流もでき、たいへん意義のある講習会でありました。以上、報告とさせていただきます。



## 第48回 全日本居合道大会審判団

審判顧問  
(立会) 範士 河村 好雄 範士 児嶋 克  
範士 上野 貞紀 範士 岸本 千尋  
範士 武田 清房

審判長 範士 石堂 倭文

審判員 第1試合場(七段の部) 主任 範士 小倉 昇

1組	—	範士 草間 淳壹	2組	—	範士 上國料 修一
	—	範士 宮崎 賢太郎		—	教士 小笠原 正幸
	—	教士 中村 正人		—	教士 古山 義和

第2試合場(六段の部) 主任 範士 三谷 昭雄

1組	—	範士 青木 栄治	2組	—	範士 井手 友太
	—	教士 大群 和史		—	教士 森重 鎮男
	—	教士 津金 政雄		—	教士 大下 政一

第3試合場(五段の部) 主任 範士 原田 勝

1組	—	範士 丹野 捨勝	2組	—	範士 前原 敏雄
	—	教士 佐藤 四十一		—	教士 立野 忠男
	—	教士 森田 忠彦		—	教士 高橋 佑治



平成25年度(第40回)居合道中央講習会 主催(財)全日本剣道連盟 平成25年9月7日 於 京都市武道センター

## 第五十一回 剣道中堅剣士

### 講習会から学んだこと

警察支部 山 室 雅 幹



柳生と聞いて真っ先に頭に思い浮かぶことは、愛読書でもある「六三四の剣」に出てくる奈良県・柳生の里出身の東堂国彦、東堂修羅の親子です。剣道の聖地ともいえる柳生について、この修行を経験された先生方から「柳生は絶対に行ってこい!」、「柳生は少年剣士を指導するうえで自分自身の勉強になるぞ!」と聞かされていました。期待と不安が心の中で交差しながら、武者修行に行く日が徐々に近づいてきたのです。

そして、奈良県中央武道館において、第五十一回剣道中堅剣士指導者講習会の武者修行が始まりました。五月にもかかわらず、気温は三十度を超える暑さでした。北海道から沖縄県までの剣士(六段二名、三十六歳〜三十九歳 七段六十二名、三十八歳〜五十二歳)が寝食を共にし、稽古に励むことになりました。

六時に起床し、六時三十分から七時三十分まで範士の先生方の指導のもと朝稽古から始まりました。指導内容は全日本剣道連盟が発行している、剣道指導要領に沿って九時から十七時三十分まで行われました。剣道指導の在り方、基本動作、応用動作、審判

法、指導法、木刀による剣道基本技稽古法、日本剣道形、スポーツ医学等について先生方から情熱溢れる、講義及び実技等の指導をいただきました。

年齢に関係なく講習生は三班に分かれ、先生方の道着・防具等の準備、道場の床を雑巾掛け、食事当番を実施しました。講習生の中には、警視庁の先生、強豪高校の先生なども参加し、私や他の受講生と同じように必死になって稽古に励んでおられました。礼儀作法から始まり、先生方が元立ちの稽古、道場全体を使った切り返しや追い込みの連続技、基本技等を繰り返し行いました。特に先生方が元立ちの稽古では、互角稽古ではなく「掛かる稽古」を指導していただきました。掛かる稽古とは、先生方に対して待つて打突したり返したりするのではなく、構えを崩さずいかに中心を攻め、前に出て打突するかということ。当然、中心の攻めや打突が甘ければ出頭を打たれ、返されず。

したがって、そこを恐れず、捨て切って攻め、前に出て打突するということを先生方から学びました。

また、講師の先生方から、少年剣士の指導について、剣道の技術や試合の勝ち方だけ指導するのではなく、剣道の理念である「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」を念頭に私生活においても、指導者が少年剣士の模範にならなければならぬことを教わりました。指導者が少年剣士に対し恥ずかしくない指導態度や指導方法、試合会場での立ち居振る舞いなどが出来るかということ。です。

剣道中堅剣士講習会

平成25年5月22日(水)～26日(日) 於：奈良市中央武道場

講習期間中の班別役割分担表

全日本剣道連盟

	役員・講師のお世話	道場掃除	食事当番
22日(水)	1班	2班	3班
23日(木)	2班	3班	1班
24日(金)	3班	1班	2班
25日(土)	1班	2班	3班
26日(日)	2班	3班	1班

\*役員・講師のお世話 … 食事の準備、その他身のまわりのお世話をお願いします。

\*道場掃除 … 道場の清掃をお願いします。

\*食事について … 朝・昼・夕食時の準備をお願いします。

\*講習中の号令 … 上記の表で、「役員・講師のお世話係」になっている、班長が号令をお願いします。

講習会を終えた今、指導者として剣道の理念等の意味を理解し、成長していかなくてはならないと改めて強く感じました。最後に、講習会に参加させていただくにあたり、徳島県剣道連

盟坂下会長、諸先生方、上司の皆様方には大変お世話になり深く感謝しております。

貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

平成25年5月22日(水)～26日(日)  
 第51回剣道中堅剣士講習会役員・講師名簿(奈良市中央武道場)  
 全日本剣道連盟

役員

全日本剣道連盟 会長	武安義光
全日本剣道連盟 副会長	松永政美
全日本剣道連盟 専務理事	福本修二
全日本剣道連盟 常任理事	長尾英宏
全日本剣道連盟 常任理事	浅野修

講師

剣道範士	太田忠徳
〃	島野泰山
〃	高橋俊昭
〃	石塚美文
〃	亀井徹
剣道教士	三宅一志
〃	香田郡秀
地元講師	大辻幸正
〃	松田勇人
スポーツ医学講師	佐本憲宏

修了証

徳島県 山室雅幹

あなたは本連盟主催の平成二十五年度第五十一回(剣道中堅剣士講習会)に参加し、その課程を修了したのでこれを証します

平成二十五年度五月二十六日

全日本剣道連盟

会長 武安義光



## 平成二十五年 全剣連後援剣道秋期講習会報告

理事長 近 藤 巨

十月二十七日(日) 鳴門ソイジョイ武道館において全剣連派遣講師、剣道範士八段、亀井徹先生をお迎えして秋期講習会を開催いたしました。

内容は、「指導法」について講習いただきました。

### 【剣道講話】

剣道は「楽しく」が、私のモットーです。皆さん朝起きるとまづ鏡を見てニコッと笑ってください。顔の筋肉を動かすと脳が活性化するといわれています。軽妙な話術で受講生を引きつけながら本題に入りました。

指導法、審判法、昇段審査は同じものです。試合・審判規則第一条は剣の理法を全うしつつ公明正大に試合することを目的とし、第十二条は有効打突の条件を充たすことにより正しい剣道に導き、昇段審査は、試合で乱れた剣道を修正することができます。更に、指導法は①言葉で理解させる②示範をする③相手にやらせる④悪いところをチェック修正することにより正しい剣道に導いていく。そういう意味で三者は同じものと言えます。その他先生の豊富な経験と書物等から引用した中身の濃い講話をいただきました。

### 【実技指導】

構え、足捌き、素振りについて懇切丁寧に指導いただきました。初心者足さばきを指導する場合は、竹刀を持たずに床の板目を使って足さばきを行う。

竹刀の握りは、左手は元手、右手は添え手であり左手は竹刀の柄頭いっぱい握る。構えたまま前後左右の足捌きを行い、自分の足を見て正しい足の位置になっているか確認させる。というふうに順序立てて受講生が実際に指導場面を描けるように具体的にご指導いただきました。更に注意点として、言われたことを言われたとおりにやるのが大切であり、我流に陥ってはいけないと強調された。

その後、幾種類もの素振りのやり方についてご指導いただきましたが、素振りの合間には必ず前後左右の足さばきを入れ、徹底した基本の修得を促されました。

午後からは、面を着装して基本打ち、切り返し、打ち込み稽古、掛かり稽古、地稽古についてご指導いただきました。頭で覚えたことはすぐ忘れるが、身体で覚えたことは忘れない。面の打ち方ひとつとっても掛かり手は力を抜き、元立ちの右足と左足の間に右足を進める。元立ちは掛かり手との間に注意しながら下がる。など受講生が理解しやすいように具体的にご指導いただきました。また、指導の合間には、「竹刀の点検」の声が掛かり、事故防止の細かい配慮も欠かさず行われるなど非常に参考になりました。

本講習の終わりには亀井先生の理合に叶った美しい稽古をいただき、心地よい汗を流すと共に中身の濃い充実した講習会を終了することができました。

終始熱心に懇切丁寧なご指導をいただきました亀井先生に心より感謝申し上げ報告といたします。



## 第十八回女子剣道審判講習会

徳島支部 金野裕美

平成二十五年五月十八日から十九日の日程で、兵庫県立武道館に於いて、第十八回女子剣道審判講習会があり、徳島県からは、竹内佳代子先生、平野悦子先生と私の三名出席させていただきました。

この講習会は、正しい剣道の普及・発展を考え、各都道府県の中核的指導者の立場となる女性を対象として、より高い剣道の試合・審判技術を備えた女性審判員の要請を図ることを目的として、北は青森県から南は沖縄県まで五十七名の女性剣士が集まり開催されました。

役員、講師の先生方は次のとおりです。

役員

全日本剣道連盟 専務理事 福本修二

試合・審判委員長 田口榮治

常任理事 三宅一志

講師

剣道範士 中田瑋士

剣道範士 石田健一

剣道教士 笠村浩二

この講習会に参加したことがある先生のお話を伺うと、とても

厳しく、熱心にご指導していただけたことでしたので、覚悟を決めての参加でした。

開講式の後、福本先生、田口先生、中田講師より、審判の目的、審判員の任務、心得を講義していただき、その後は実際に試合の審判をし、試合を中断しながら、講師先生が付きっきりになって、審判実技を二日間徹底的におこないました。

特に技術の未熟な私は、すぐに目立って、一日目には石田講師が、二日目には笠村講師から名前を連呼される始末。受講生の方々からは、お蔭で勉強になったとなくさめていただきました。

特に指摘が多かったのは次の四点でした。

○審判旗は体側につけ、床を刺すようなイメージで持つ。旗の表示は、鏡の前で練習すること。

○審判が試合を活性化させる(発声、機敏な動き)。審判が良くなると試合が良くなる、試合が良くなると剣道が良くなる。

○主審と副審の関係は、有効打突と反則の判定に関する権限は同等であるが、試合の運営は主審の専決権限である。

○位置取りは、主審を頂点とした二等辺三角形を維持しながら動くことが原則である。主審が試合を先取りして素早く位置取りすることがより、副審は連動して位置取りしやすくなる。

最後に、中田講師より、剣道試合・審判規則 剣道試合・審判細則を暗記して、正しく運用し、試合による全ての事実を正しく判断し、決定していかなければならないというお言葉がありました。有効打突としての一本の質的価値や、剣道の特性を見落とし

てしまうことのないよう、判定の重大さを認識し、審判技術の向上に努めていきたいと思えます。

今回この講習会で指導していただきました講師の先生方、ご協力いただきました本県剣道連盟の先生方に感謝を申し上げます、報告とさせていただきます。





## 日本剣道形講習会報告

中尾 正輝



恒例の初心者向け、日本剣道形講習会を平成二十五年八月三日(土)、四日(日)の二日間ソイジョイ武道館において実施しました。

実技実施前に「日本剣道形実施上の留意点」について、次の事項につき重点的に講義しました。

一、立会前後の作法

礼法・木刀の取り扱い方を的確に行うこと。

二、構え(五つの構え)

中段・上段(右、左)・下段・八相・脇構えを的確に行うこと。

三、目付けについて

常に遠山の目付けで行い、決して相手から目を離さない。

四、打太刀、仕太刀の関係について

五、運足について

前進するときには前足から、後退するときには後足からを原則

として行い、足さばきは全てすり足とする。

六、打突の際の後ろ足の引きつけ

七、太刀を振りかぶる度合いについて

八、発声について

「ヤー・トオー」で行い一拍子の打突

九、一足一刀の間合から打突部位を確実に捉えて打つ。残心十、終始剣道の礼法を正しく行い、充実した気迫をもって行う。

以上の事項について、範を示しながら受講生に理解させ実技指導にあたりました。

講習会は、審査部の兵頭、吉田(昌)先生(第一日目)、佐藤・福井先生(第二日目)の協力の基に実施しました。

第一日目の受講者が九名、第二日目が八名というまれに見る少人数の参加でした。昨年が十五名と二年続きで参加者の少ない講習会になりました。

しかし、受講生の中には、「大変参考になった、これからもしっかり剣道形をやっていきたい。」等今後の剣道形修練に積極的に取り組んでいく姿勢も見受けられました。

この講習会は、低段位者(初段から三段位)をも対象としたものであります。

県下の剣道指導に携わる先生方が、剣道形の必要性(形の効果)等を再認識され、来年は多くの参加を望みたいものであります。

## 第三十七回全国高等学校・中学校 剣道(部活動)指導者講習会

中体連 長 池 千 景



平成二十六年一月四日から六日まで、  
千葉県勝浦市で行われた全国高等学校・  
中学校剣道(部活動)指導者研修会に参  
加させていただきました。

私が深く感銘を受けたことを書かせて  
いただきます。一日目の教養講座にて、全日本剣道連盟副会長の  
松永政美先生のお話の中に、次のような言葉がありました。「昨  
日の稽古に恥を知り、明日の稽古に活かす。反省の上に成り立つ  
のが剣道である。」稽古の大切さ、昨日の自分より今日の自分、  
ということに気づかせていただきました。

三日目、最後の教養講座では、秋田県剣道連盟副会長の目黒大  
作先生よりお話をいただきました。「剣道は人間形成の道である。  
勝利ばかりを求めるのではなく、意味ある剣道を伝えていくべき  
だ。」と語られました。意味ある剣道という言葉に？が浮かびま  
した。自分が考える剣道とは何なのか。それは今後の自分の課題  
だと思っています。

三日間の実技研修では、構え・振りかぶり・素振り・面打ちな  
どを丁寧に指導していただき、今学校の方で実践しています。ま

た、たくさんの先生方に稽古をつけていただき、全く打ち込んで  
いけない自分も知りました。

二日目の夜、中体連研修会にて、教士八段の江島良介先生より、  
貴重なお話がありました。どうすれば、子どもたちの剣道の力、  
また生きる力を強くすることができるのかという内容でした。江  
島先生が実践されていることが四つあると伺いました。

①「時間を守る」子どもも教師も時間を守ることが礼儀であり、  
マナーである。

②「そうじをする」道場・部室は常にきれいにすること。強いチー  
ムかどうかは道場・部室を見れば分かる。

③「子どもに何か一番を作ってやる」子どもに自信を持たせるた  
め、これだけは誰にも負けないという自信が強みになる。

④「監督としての力量を深める」監督が一生懸命やれば子どもに  
伝わる。共に行動し、稽古に励めば思いは伝わる。

重い言葉でした。今の自分には何ができるのか、どれだけできる  
のかと考えるきっかけにもなったのと同時に、剣道を通じて子供  
たちに心身ともに強くなってほしいと思いました。

三日間という短い期間でしたが、学べることが多く、充実した  
研修となりました。まだまだ剣道の指導、自分の力量不足を痛感  
しましたが、研修を経て、今後子どもたちと共に頑張っていこ  
うという気持ちになりました。仲間との出会い、自分自身の稽古。  
厳しい稽古もありましたが、稽古なしには強くなれないこと。そ  
の苦しい稽古を子供たちは頑張っていること、普段の生活では得

られない経験ばかりでした。

最後に、このような研修の機会を与えてくださった県中体連専門部の先生方に感謝いたします。剣道を通じて、日々努力していきたいと思っています。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



## 全剣連社会体育指導員養成

### 講習会（初級）に参加して

高体連剣道専門部 上 田 宏 司



平成二十五年十月四日～六日の三日間、広島市の広島サンプラザホテル及び体育館で行われた、全剣連社会体育指導員養成講習会（初級）に参加致しました。

年度初めより、県剣道連盟から案内をいただき、高体連で話し合った結果、八名で参加することになりました。それぞれの先生方、職場に無理を言い、三日（木）の前泊から三泊四日の日程でした。この年の凄まじい暑さ（四万十市（四一度）が嘘のような初秋の気候に恵まりました。

この講習会へ提出する課題の論文八〇〇字程度を二つ用意して、仲間も大勢いるし、初級ということで気楽な気分で見ました。ホテルに着き部屋に入ると三人部屋でした。同行のI先生と同室で、まだ到着していないもう一人は愛媛県の先生でした。三泊とすることで「これは部屋長を決めなあかん」「上田さんして下さいよ」「もう一人はものすごい長老だったらどうするよ」と話し合っていると、はたして、軽く六十歳を超えた方でした。その方は、少年剣道の指導者で、「去年、この講習を受けた先生の少年指導が見違えるほどよくなったように感じたので受けに来まし

た」ということでした。高尚な考え方を聞いて、これは初級といえども今一度心新たに取り組もうと決意いたしました。余談ですが、誓いの酒を酌み交わし翌朝早く目を覚ましたとき、長老大先生はベッドの上であぐらを組みうなだれているようでした。私がI先生に何気なく「I君のいびきは健在やな」というと、すかさず長老が「かなり重症ですね」とのこと。そうです、初日からI先生の洗礼を受けて一睡もできなかったそうです。この講習会では、その他いろいろな地域の指導者の方々と情報交換や懇親会等を通じて親交を温めることができたことも大きな収穫の一つでした。

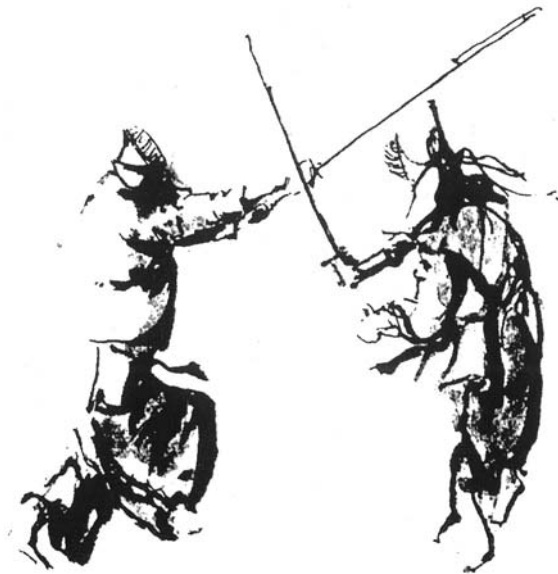
さて、初日はガイダンス・開講式に引き続き、四十五分の九コマ、二日目は十一コマ、最終日は九コマ、合わせて三十コマ近く授業を受けました。通信教育分テストには、「審判法」「日本剣道形」「剣道の歴史」が穴埋めや○・×方式で出ました。事前に「剣道社会体育教本」を予習してあったのですが、引っかけたような問題もあり苦しみました。理論テストでは、「指導法」「体力トレーニング理論」「傷害疾病について」「日本剣道形」「審判法」で講習期間中の講義や実技指導で示された内容でした。実技テストは、「審判法」「基本実技」「日本剣道形」でした。

三日間、講義・実技実習・テストと昼食以外は朝から午後七時近くまで勉強させていただきました。忘れていた基本的なところや、基本技術指導法では、刃筋・間合い・呼吸・理合など初心者への指導法、また、安全・衛生管理などを再認識、学習できまし

た。そして、何より感激したのは講師先生方の私たちに對する熱心でひたむきな講義授業を受けることができたことです。さすがは、日本を代表するような講師先生ばかりで、厳しい雰囲気の中にも、とても気さくで上品で、ごく自然に自ら範を示しているような所作に、自分も少しでも学ばなければと感じました。

徳島県の高校剣道生徒数は徐々に減少しています。学校現場では他の競技の部活動生徒数も同様です。団体戦の五人を集めるのにもご苦労されている監督・顧問の先生ばかりです。高校から剣道を始めると生徒は非常に少ないです。少年剣道・中学校で育てていただいた貴重な生徒をできるだけ引き継がなければと思います。この講習会で学んだものを各講習生が各地域に持ち帰り、伝え、指導に活かし、少数でも生涯、剣道を継続していく生徒へ育成できたらと考えます。高体連剣道専門部では本講習を受けているものがほとんどいなかったため、計画的に先生方に受けてもらえたらと考えております。

最後になりましたが、この講習会を案内して下さい、お世話になった事務局の方々に厚くお礼申し上げます。



# 徳島の剣道史

## 鴻山の宍戸神社再考

―河野次郎右衛門の墓地―

坂本憲一

はじめに

『徳島の剣道』第二九号において「鴻山の宍戸神社」と題した論考の中で坂本裕二は、阿波における貫心流剣術継承者「河野次郎右衛門」の遺跡を紹介している。その中で吉野川市鴨島町牛島の鴻山にあるとされる「河野次郎右衛門の碑文」については、執筆坂本裕二の再三の現地探訪にも関わらず発見されておらず、『麻植郡郷土誌』所載の「宍戸次郎左衛門の碑文」を引用して「消えた河野次郎右衛門の碑文」として掲載している。

その後、病床の父の依頼を受けて推敲に関わった筆者が、再度現地に探索を試みたところ、その碑文は失われることなく、向麻山の西中腹の墓地に存在しているのを確認した。父の調査記録には、直ぐ近くの「佐藤兵八郎先生之墓」が記載されていることから、今一步のところで探索を断念していることがわかる。

今回は「鴻山の宍戸神社再考―河野次郎右衛門の墓地―」と題して、新発見の碑文と墓・門弟衆の名が刻まれている宝篋印塔を紹介する。

### 貫心流と河野次郎右衛門概要

藩政時代、徳島藩内で盛んに行われた剣術の流派には、直指流・心形刀流・貫心流が挙げられるが、中でも最大の流派は貫心流である。貫心流は、剣儀の遠祖を源九郎義経とし、流祖は宍戸家俊司箭で芸州広島で栄えた。阿波には、元禄年間に芸州からきた溝口仁五右衛門（鉄柱無端）によって伝えられ県下各地に広がった。幕末期、郷分における拠点の一つとなったのが、麻植郡牛ノ島村にあった河野次郎右衛門の道場であった。河野次郎右衛門は、阿波に同流を伝えた鉄柱無端から数えて四代目にあたる人物である。河野次郎右衛門の人物像を碑文（詳細は「徳島の剣道」第二九号を参照）、地元での聞き取りから紐解いてみると、生まれは現鴨島町麻植塚で、河野家は父河野安兵衛延房から二代に渡り貫心流を継承する武門の家柄であった。次郎右衛門は、寛延三年（一七五〇）、父、延房の長男として麻植塚に生まれた。性は豪壮の気風を尊び、若年期から老年期まで剣術の研鑽を怠ることなく、武者修行のため県内は勿論遠く県外まで足を伸ばした。また、儒者鉄復堂を学問の師とし、あらゆる古い剣術書を熟読するなど、文武両道にたけた人物であった。日々酒を愛したが平常心は失うことなく、竹刀さばきは乱れることがなかった。知人道場で痛飲

しての帰途、刀を手にした数人の追いはぎを一瞬にして打ちのめしたという逸話を残す。次郎右衛門は終生妻帯しなかったが、貞則という弟がいて貞則はよく兄を慕い、兄が武者修行で不在の時は、この貞則が師範を代行した。

次郎右衛門は、文政五年（一八二二）に七十二才で病のため没したが、生前から、貞則や門弟たちに、鴻山に建てた流祖穴戸司箭の霊を祀った穴戸神社近くに「私の骨は此処に埋めてもらいたい」を遺言していたことから、鴻山の西端北斜面の墓地に門弟たちによって埋葬された。新しく発見された碑文は、親交のあった儒者、鐵煥（鉄復堂）の撰による。

### 発見された河野次郎右衛門の碑文

先の『徳島の剣道』「鴻之山の穴戸神社」では、「消えた河野次郎右衛門の碑文」として掲載したが、鴻山の墓石群の中から碑文が発見できなかった理由は、所在場所を穴戸神社近くと推定したこと、碑文が墓石型であるにも関わらず、平たい通常の石碑をイメージして探索したこと、墓石群は棚田状に拓かれた地形にあり、崩れた土砂が堆積し碑文の半分が埋まっていたこと、さらに、無縁墓地のため周辺が樹木や葛に覆い尽くされていたことであった。

碑文は穴戸神社から尾根伝いに西へ二〇〇メートルほど降った所の墓地にあり、治郎右衛門の墓の左横に北面して立っていた。材は砂岩、形状は方柱型の石塔、総高一二二センチ、方柱部分は高さ八八・五センチ、幅三〇センチ角、台座部は高さ二三・五、幅

五五センチ角。碑文は方柱部分に四面、右回りに彫られており、一面に

一行一八〜一九文字で五行に刻まれている。また、台座部分には、世話役三名の名が刻まれている。

現物と先に引用掲載した『麻植郡郷土誌』掲載の碑文の比較を試みたところ、碑文の語

句にも若干の誤記が認められたので、今回碑文については、改めて是正分を掲載することとし、大意は変わらないので前掲のものをそれぞれ各面通りに区分し掲載することとした。なお、標記は理解し易くするため、現物通り四面ごとに区分して記載し、訂正箇所には傍線を付した。

麻植郡郷土誌では、この碑文の標題を「穴戸次郎右衛門」としているが、内容からしても姓を「穴戸」ではなく「河野」とするのが正しいことを再度申し添える。



国道192号線より向麻山（鴻山）西端を望む。

## 河野次郎右衛門の碑文（原文）

## 河野次郎右衛門之碑文（大意）

（注）新しく発見された碑文、行数文字数は現物通り記す。

（正面）

宍戸氏刀法所謂貫心之流與于藝而盛子我  
阿其汎濫城中者勿論而已其派入村野滾々  
取不滾者為麻植塚河野氏二世相傳至次郎  
右衛門先生其人豪壯尚氣自幼至老帷武是

（左側面）

講凡百世利紛華斷然不經乎心性又嗜酒痛  
飲爛醉尚能演法無異平日擊刺開合不亂  
其煉熱可想也文政五年壬午十月十三日疾  
歿于客年七十二先生諱道時稱次郎右衛門

（裏面）

考諱延房號寨翁村上先生銘其墓碣妣山井  
氏先生之壯也或請簡聘先生不肖使弟貞則  
代理家道而專心此技逐無子姓貞則奉之如  
嚴父既而葬之其居東南鴻山先是先生嘗與

（右側面）

諸弟子謀起小祠於鴻山祀司箭宍戸氏靈兼  
築演武場其側常謂人曰吾亦瘞骨於此耳至  
是從其言云嗚呼奇哉蓋所謂烈士夫者非耶

徳島 鐵煥謹識

（正面）

宍戸氏の劍術は貫心流という。この流派は安芸の国で盛んに行われ、我が阿波国でも城下の徳島は勿論、郷分に於いても盛んに行われ絶えることがなかった麻植郡の麻植塚村（現鴨島町）の河野家も二代に渡り同流派を相伝え、次郎右衛門に至った。次郎右衛門の人となりは、豪壯の氣風を尊び、幼少期から老年に至るまで、

（左側面）

道場で劍術の修練を通じ弟子の指導に当たる。凡そ百年の間、道場は隆盛で、少しも衰えることはなかった。また、先生は、酒を好み、痛飲してもなお能く劍術を教えたが、平常心は変わららず、竹刀さばきは少しも乱れることなく、その練熟ぶりが窺われた。先生の諱は道時といい、俗名を次郎右衛門と称した。先生は文政五年壬午の十月十三日、病のため亡くなった。数え年は七十二歳であった。

（裏面）

亡父の名は延房、寨翁と号し、村上にあるその墓にもそのように記されている。亡母の生家は山井氏である。先生の壮年時代には、劍術の古い書物を読み、礼を尽くして師を招き、また、土産を携え先生や先輩を訪ねて教えを請うて研究に励んだ。その間は、不肖の弟、貞則が代理として専心、道場の弟子たちを教えた。先





河野次郎右衛門の碑文



河野次郎右衛門碑文台座

生には子は無かったが弟の貞則は親を慕うが如く先生に仕えた。先生が亡くなって、家の東南にある鴻山に葬った。

(右側面)

そこは、かつて先生が弟子たちと相談して流祖穴戸司箭先生の霊を祀り、兼ねて剣術の道場を建てて稽古をしたところである。その側で常々先生は、人々に「私の骨は此処に埋めてもらいたい」と言っていたので、遺言どおりそこに墓を建てた。が、これも奇縁である。嗚呼、先生こそは烈丈夫というべきか。

徳島 鐵煥謹識

## 碑文台座の刻銘

碑文の台座部分には次の三名の名が刻まれている。山根大蔵・工藤宇三郎・板東宗九郎、いずれも河野次郎右衛門の高弟。中でも山根大蔵は城代家老稲田氏の臣で、名西郡石井町高原の人。徳島における鉄柱無端から数えて五代目貫心流継承の一人として著名である。なお、大正十年九月、大日本武徳会から範士の称号を受けた山根正夫はこの大蔵の嫡男である。

## 河野次郎右衛門の墓

河野次郎右衛門の墓は、碑文の右横に北面して立つ。この場所は河野次郎右衛門の家のあった麻植塚からみると方位は東南に位置し、碑文裏面の文言「而葬之其居東南鴻山先〓先生が亡くなって住居の東南のある鴻山に埋葬した」の記述に合致する。

墓石は阿波特産の青石の自然石を用いたもので、総高二二七センチと大きく、標柱は一〇六センチ、表面上部に「ア」すなわち大日如来の種子を配し、その下から戒名「精閑諦道居士」を陰刻する。右側面に「文政五年壬午十月十三日卒」と刻む。これによって河野次郎右衛門の宗旨（真言宗）と戒名と没年がわかる。

下段の石祠には「佐藤利三右衛門・羽山主税」、華立には「加藤正右衛門・前坂平八」、手洗鉢には「入交貞蔵・佐藤善二」の刻銘がある。いずれも河野次郎右衛門の高弟で墓石建立の世話役たちである。

## 門弟名刻銘の宝篋印塔

宝篋印塔とは、文字通り宝篋印陀羅尼經を納めた塔で、後には供養塔・墓碑塔として建立されるようになる。中国の呉越王の踐弘俶の八万四千塔が原型で我が国に伝わり鎌倉時代以降、一定の形式が生まれる。まさに金属製のものも見られるが、石造のものが大半である。下から基壇・基礎・塔身・笠・相輪と積み上げられ、笠の隅飾の部分が垂直に近いのは鎌倉期のもとのとされ、時代が下がるにつれ開く形になる。

門弟名刻銘の宝篋印塔は、次郎右衛門の碑文前にあり、西向きに建立されている。砂岩製で総高二四四センチ。相輪は高さ一五センチ、笠の高さ二五センチ、塔身は二段で高さ五六センチ、上部の四面に蓮台に乗せた梵字、下段の正面には、宝篋印陀羅尼經の梵字「シチリア」を配し、右回りに「一時消滅 生面災殃 支



河野次郎右衛門墓地の石造物写真

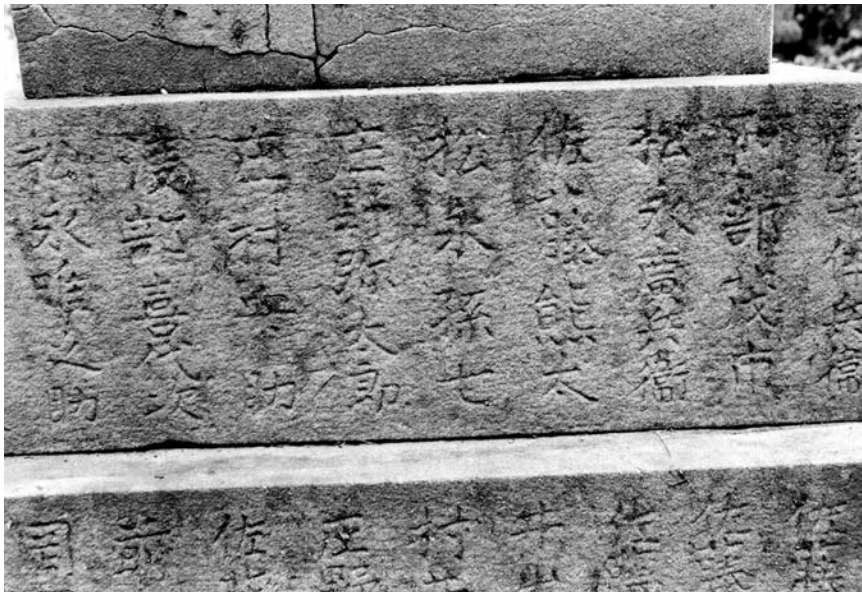
河野次郎右衛門墓碑刻銘



河野次郎右衛門墓手水鉢



河野次郎右衛門墓碑刻銘



宝篋印塔塔身部門弟衆刻銘



宝篋印塔上部塔身



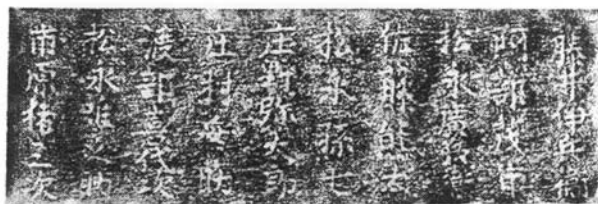
宝篋印塔下部塔身



生佛家 若宥有情 能於此塔 一番一萃 禮拜供養 八十億佛  
生死重罪」の文字がある。  
反花座下の二段の基礎石には、門弟衆の名前が次のように刻ま  
れている。

河野次郎右衛門墓地の宝篋印塔拓本

宝篋印塔塔身部門弟衆刻銘拓本



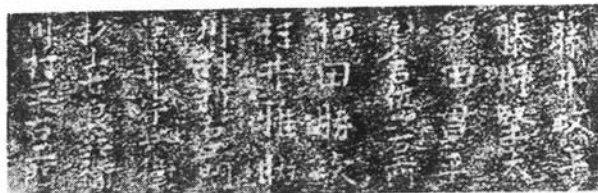
(正面上段)

藤井伊兵衛  
阿部茂市  
松永廣兵衛  
佐藤熊太  
松永孫七  
庄野弥太郎  
庄村安助  
渡辺喜代次  
松永唯之助  
市原猪三次



(正面下段)

竹内与蔵  
前塚貞左門  
佐藤民太郎  
佐藤曾左門  
佐藤源太郎  
井出与市助  
村井弥重蔵  
庄野勝左衛門  
佐藤馬之助  
前坂鹿太  
岡田龜三郎  
外山三太夫  
岡田佐五郎



(左側面上段)

藤井政平  
藤野堅太  
飯田貫平  
今倉佐次右衛門  
横田勝次  
村井雅助  
川村新右門  
藤井宇兵衛  
杉山七良兵衛  
川村平右衛門



(左側面下段)

橋本柳吉  
井出泰太  
杉村芳三郎  
小井田久吉  
藤井喜代助  
片山祐弥太  
野口壽之助  
細谷勘五郎  
堀北森蔵  
安田勇左衛門  
日野利之助  
栗村瀧蔵  
渡辺藤七



(右側面上段)

永田平三郎  
井形弥壽太  
無藤吉右衛門  
吉田恵市助  
元木文太郎  
藤井与三郎  
佐藤武之蒸  
川真田常太  
後藤田次三郎  
前塚栄右衛門



(右側面下段)

山下良吉  
萩原庄左衛門  
平嶋仲蔵  
新居熊吉  
柏木只良  
川村百兵衛  
須見政助  
横田武吉  
小原嘉兵衛  
細水善左衛門  
坂卷荒之助  
柏木龜太  
後藤田慶太郎  
杉山武五郎



(裏面上段)

川人藤三郎  
岡田次左衛門  
伊形茂市助  
野口伊之助  
井内為太郎  
藤井藤左門  
井内□六郎  
藤井祐蔵  
細井栄之助  
酒卷喜三郎



(裏面下段)

川人藤三郎  
岡田次左衛門  
伊形茂市助  
野口伊之助  
井内為太郎  
藤井藤左門  
井内□六郎  
藤井祐蔵  
細井栄之助  
酒卷喜三郎  
新田辰蔵  
佐藤廣之助  
田中綿之助  
羽山弾正

## 宝篋印塔刻銘概要

この宝篋印塔は、師匠が没した後、その菩提を弔うため弟子たちが浄財を集め墓前に建てたものである。宍戸神社前の石造物に刻まれた門弟衆の刻銘には山根大蔵他数人の重複が見られるもの、上段に四〇名、下段に五四名で総数九四名の名がある。これらの門人たちの出身地を可能な範囲で調べてみると、鴨島町を中心として東は石井町・西は川島町・山川町、吉野川を挟んで市場町・阿波町・土成町と吉野川中流域全体に及んでおり、河野次郎右衛門の道場の繁栄ぶりが偲ばれる。余談だが、裏面上段の川人藤三郎なる人物は阿波郡西野川村の組頭庄屋だったことから、天保十三年に同郡で起こった百姓一揆の打ち壊しに遭うも危うく難を逃れた人物である。

## おわりに

河野次郎右衛門の墓地の発見により、一挙に碑文の正確な解明が成り、付属する宝篋印塔からは門弟衆の多くを知ることができた。山道を隔てた横の墓地には同じく貫心流を極めた佐藤家の墓がある。父の調査記録には、墓を始め同家に伝わった貫心流剣術関係の遺品が写真で納められている。しかし、所有者覧には麻植塚と有るだけで詳しい住所氏名は記されていない。

本稿執筆のため碑文・墓・宝篋印塔の拓本採取に訪れたさい、佐藤家墓地に立ち寄ってみたが、墓前には真新しい檜の華が供え

られており、子孫の方は健在のようでした。訪問の機会があれば調査してみたいものである。

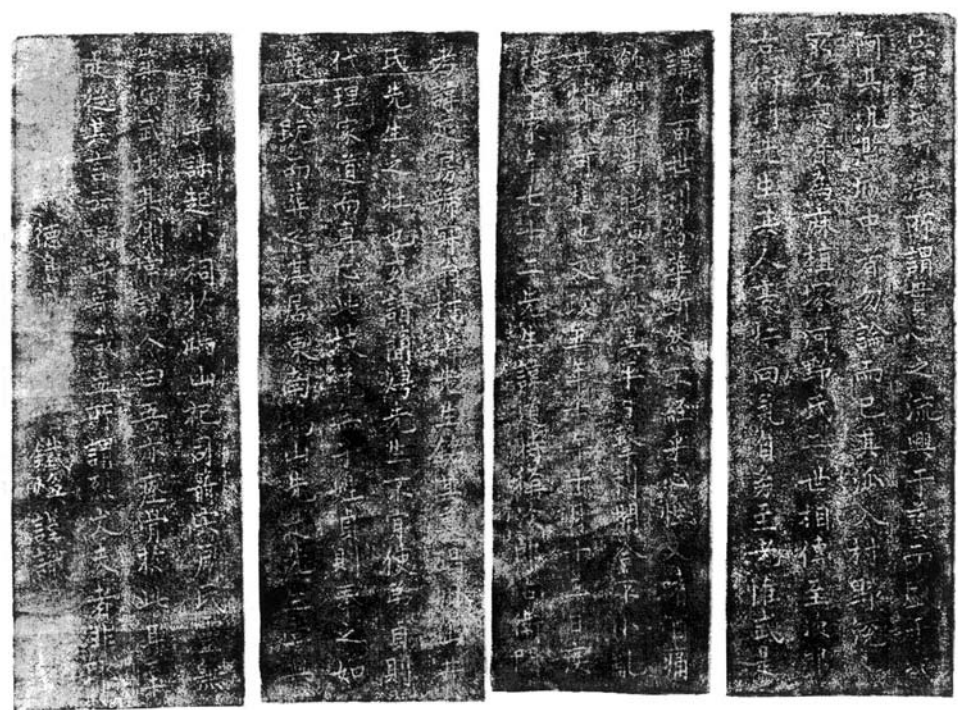
「世俗鴻山に柴天狗住めりと傳ふ前記宍戸（河野）氏門弟山根、佐藤其他の人々山上に於て武道修練せしより此説出でしならん」と、前書に続き、再度『麻植郡郷土誌』の一文を引用するが、文中の山根・佐藤両家の資料に加えて今回掲載した河野次郎右衛門の関係資料が、吉野川中流域における貫心流剣術究明の一助となれば幸いである。

河野次郎右衛門墓地石造物拓本

河野次郎右衛門墓碑刻銘



河野次郎右衛門碑文刻銘



碑文台座部刻銘





# 大会・行事所感

## 磯部旗争奪那賀川剣道大会

### 休止にあたり

那賀川少年剣道クラブ

二反田 和 則



一昨年の平成二十四年十一月二十三日をもちまして今大会も四十回の大きな節目を迎えることができました。

この偉業は徳島県剣道連盟はじめ、剣道連盟阿南支部、大会関係者のおかげで皆様に深く感謝しております。

さて、この大会は故磯部茂治先生中心に四十年前に発足しましたが昨年度をもちまして暫くのあいだ休止となりました。この件につきましては多方面の方々から意見、要望いただき感謝しております。大会運営

側といたしました。現部員数で続行は非常に厳しいのが現状です。学年別に一年生

五年生〇人、二年生一人、三年生一人、四

年生四人、六年生五人の十一名です。大会

は小学校から高校生まで団体あるいは個人

戦がありました。大会はおよそ四ヶ月わた

り協賛金集め、案内状作成、プログラム作

成、会場設営など色々な行程があります。

当日に至りましては駐車場案内、大会運営

など数多くの人数（お手伝い）プラス時間

が必要となります。

今まで運営していた経験の中で問題だったのは、保護者のマナーです。駐車場案内

無視し何処にでも止めたり、開門時に座席

確保の為選手の後から押し続け、選手達そ

ちのけで土足のままフロアーに駆け込む、

座席にチーム名だけが残されたカード、座

りたくても座れない出来事が日常茶飯事と

なっております。「剣道は礼に始まり礼

に終わる」と学んだ私達にとっては悲しい

出来事です。日本古来の武士道には思いや

り精神が美徳とされてきました。これから

は、先の出来事が、無くなり気持ち良く観

戦出来ること切に願います。

最後になりましたが、我々剣道部は先代

の意志を引き継ぎ色々な方向から大会再開

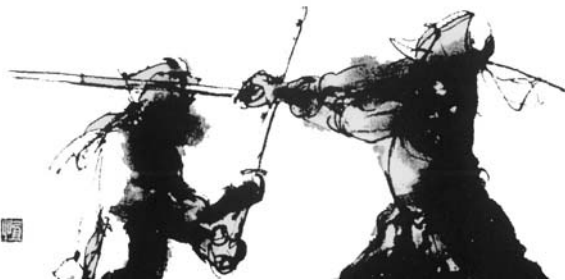
を検討しながら、部員数増加を願いつつ、

さまざまな問題を解消しながら前向きに考

えて行きたいと思えます。これからも諸先

生方のご指導 ご鞭撻、ご意見よろしくお

願いたします。



# 各種大会に参加して

## 第三十五回全国スポーツ

### 少年団剣道交流大会報告

監督 武蔵 純 郎



。期日 平成二十五年三月二十五日～二十七日  
。場所 佐賀県総合体育館

- 。徳島県チーム（阿南Bチーム）
- 。監督 武蔵 純郎（徳島至誠館）
- 。先鋒 福田 優那（徳島至誠館）
- 。次鋒 松葉 そら（徳島至誠館）
- 。中堅 本木 輝（新野少年剣道教室）
- 。副将 朝田 萌香（徳島至誠館）
- 。大将 後藤 高志（徳島至誠館）

中学校男子

湯浅 滉平（那賀川中）

中学校女子

長谷川 瑞実（那賀川中）

もうすぐ桜も満開になる穏やかなこの日、田畑も多く、どこか徳島に似た雰囲気のある、佐賀市の佐賀総合体育館にて全国スポーツ少年団剣道交流大会が開催されました。

昨年十二月に行われた徳島予選会では、阿南市のBチームながら抜群のチームワークで勝ち上がり、決勝戦では、二対一の接戦を制して徳島県の代表となりました。選手七人中四人が徳島至誠館。また、中学校の二人是那賀川中学ということで良い雰囲気です。大会まで本大会に望めると思えました。大会までの三ヶ月間では、大会の手続き、合同稽古や練習試合の日程調整、選手や保護者の宿泊や移動手段の手配、多方面への表敬訪問など、決めなければいけない事が多くありました。事務的な内容や合同練習試合の事は、昨年の監督をされた阿南少剣の中西先生からいろいろ教えていただき大変お世話になりました。また、その他の事などは、保護者の方々がつきつきに連絡をとるなどして手配して下さり、大変助かりました。三月には高知県での合同試合稽古のお誘い

があり、高知県を始め香川、愛媛、広島、岡山などレベルの高いチームと内容の濃い試合ができ、自分達の足りない所が良くわかり選手たちにも良い刺激になりました。

あつという間に三ヶ月が過ぎ、佐賀に乗り込み大会初日、開会式とその後交歓交流会があり、全国各地の指導者の先生や選手達と稽古やレクリエーションを通じ交流を深めることができました。交流会後、バスに乗り込み指定された宿泊先へ移動、細い山道をひた走り到着してみると周りが墓地という立地の古いホテルで全員ビックリ、フロントで「大浴場はありません。あとドライヤーでブレーカーが落ちる事があるので注意して下さい。」と言われて二度ビックリです。(笑)ですが、眺めはガラス窓から佐賀市が一望でき最高で、選手達と部屋だったので学生時代の合宿のような楽しさがありました。さていよいよ試合が始まりました。本大会内容は以下の通りです。小学生団体戦は福井県に快勝し、続く奈良県との接戦を制して決勝トーナメントに進出しましたが、一回戦で神奈川に敗れベス

ト十六で終了。中学生女子では、長谷川選手がベスト八で、最後の試合も初太刀に豪快なメンを決めるも逆転負けという惜しい内容でした。中学生男子での湯浅選手は予選リーグで敗退しましたが正々堂々と真っ向勝負の素晴らしい試合で、代表者七名ともに堂々としており、徳島県の代表として立派なものでありました。

閉会式では、審判長の「すばらしい試合が多く良かった。しかし所作がきちんと出ていないチームが多く残念です。所作も含めて剣道です。」との言葉が印象に残っています。

最後に、今回の大会を通じ得た貴重な経験を生かし、新たな目標に向けて、選手だけでなく私も精進していきたいと思っています。本大会参加に当たり、たくさんの方々からご協力いただき、心より深く感謝しております。本当にありがとうございました。

予選リーグ2 試合目

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数	代表
徳島県	福田	松葉	本木	朝田	後藤	1	2	
				⊗ ⊗				
奈良県		一本勝⊗				1	1	
	前田	福井	木村	細田	ハッ本			

予選リーグ1 試合目

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数	代表
徳島県	福田	松葉	本木	朝田	後藤	4	5	
	⊗一本勝		⊗ ⊗	⊗一本勝	⊖			
福井県						0	0	
	大矢	山川	保花	堤腰	田崎			

団体戦 (ベスト十六)

決勝トーナメント 1回戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数	代表
徳島県	福田	松葉	本木	朝田	後藤	0	2	
			⊗	⊗				
神奈川県	⊗ ⊖	⊖ ⊗	⊗	⊗ ⊗	一本勝⊗	4	8	
	岡大	井上	村木	岡あ	佐々木			

男子個人予選リーグ (○勝二敗)

湯浅 | 熊倉 (新潟)

湯浅 | 壁谷 (愛知)

女子個人予選リーグ (二勝〇敗)

長谷川 | 瀬戸 (岩手)

長谷川 | 高木 (石川)

決勝トーナメント 一回戦

長谷川 | 中蘭 (鹿児島)

長谷川 | 嶋田 (富山)

ベスト八



## 全国矯正職員大会

### 施設対抗試合に出場して

刑務所支部 前 田 秀 一

平成二十五年四月に行われた四国管区大会で優勝し、平成二十五年五月二十九日、東京都で開催された第六十一回全国矯正職員武道大会施設対抗試合に、二十八年ぶりに出場することができました。毎年、後一步のところで悔しい思いをしていたので、今年こそは!!という思いで管区大会に挑みました。

初戦の高松戦では、両者譲らず、引き分け。高知戦では、接戦の末、本数勝ち。勝負は最終戦の松山となりました。四年前には、この最終戦で、高松に本数差で敗れ、優勝を逃していました。

先鋒戦、攻め続けるも一瞬の隙をつかれ、負け。このまま終わってしまうかと思いましたが、次鋒・中堅が二本勝ち。この流れを守りきり、優勝が決まりました。優勝が決まった瞬間、チームメイトと、抱き合っ

て喜びました。二十八年前に出場した先輩方や、これまで苦楽を共にしてきた先輩方からは、たくさんのお祝いの言葉をいただきました。皆さん、自分のことのように喜んでくださり、うれしい限りでした。

全国大会では、勝者数により決勝トーナメントに進むことはできませんでした。しかし、今大会の出場により、全国大会でも十分に戦える。上位進出を狙える。という自信を持つことができました。「また、来年度も出場したい。」という思いが強くなったのは言うまでもありません。来年度の四月にまた仲間と一緒に喜ぶことができるように、今後いっそう努力していきます。

全国大会の出場にあたり、徳島県剣道連盟の先生方、警察支部の先生方にはいろいろとご尽力いただき、本当にありがとうございます。これからも、御指導、御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

### 全国大会結果

	徳島	神戸	横浜	勝 負	勝者数	総本数
徳島		1 (2)	3 (3)	1勝1分	4	5
神戸	1 (2)		4 (4)	1勝1分	5	6
横浜	0 (0)	0 (0)		2敗	0	0

# 全国高等学校剣道

## 選抜大会に参加して

阿南工業高等学校剣道部

小川 虎太郎



私たちは平成二  
十五年三月二十七  
日・二十八日に、  
愛知県春日井市で

開催された第二十

二回全国高等学校剣道選抜大会に出場しました。この大会は私たちが目標としていた大会の一つで、自分たちの力を試すことのできる全国の舞台でした。この大会に出場できたことを本当に嬉しく思っています。

今回の全国大会に出場するために私たちに  
はある思いがありました。それは一昨年の六月に行われた県総体でインターハイ出場を逃したことから、「自分たちの代は絶対  
に全国へ行く。悔しい思いはしない。」  
というものでした。日々の稽古はもちろん、  
合宿や多くの遠征・練習試合を必死で行っ

てきました。また、剣道と日常生活のつながりを意識することで剣道の技術だけでなく精神的にも成長することができました。その成果は選抜大会県予選での苦しい場面や接戦の中で活かすことができ、優勝することができました。全国大会に出場が決まっ  
てからは、新たな目標として予選リーグを突破・ベスト八以上をあげ、今まで以上に稽古や遠征に取り組みました。

迎えた全国大会当日、開会式が始まると共に緊張感が高まりました。予選リーグでは滋賀県代表 八幡工業高校と岩手県代表 福岡高校と対戦でした。第一試合は八幡工業高校との対戦でした。練習試合でも対戦したことがあり、私たちの力を出せば勝てない相手ではありませんでしたが、一―二で敗れてしまいました。緊張の中で力を出し切れなかった課題の残る結果となりました。二試合目は福岡高校との対戦でした。

予選リーグを勝ち上がるためには、この試合は確実に勝ち切ることが前提でした。もう後がない私たちは、「捨てるものはない。挑戦する。」その気持ちで臨み、三―一で

勝つことができました。しかし、私たち選手は相手同士の対戦が残っているのにも関わらず一勝一敗という結果にトーナメント出場を半ば諦めていました。そんな時、佐々木先生が「他力本願、勝負は何があるからかない。最後まで諦めない。」その言葉を胸に試合結果を待ちました。先生が言ったとおり、勝負は何が起こるか分かりません。福岡高校が八幡工業に勝ち、阿南工業と福岡高校が同率で並び、代表戦を行うことになりました。代表戦には、私が出場することもありませんでしたが、もう一度勝負ができるという嬉しさもありました。代表戦では、なかなか攻め勝つことができず苦戦しましたが、粘り強く我慢をするこ  
とで得意のメンで勝つことができました。勝負は絶対に諦めてはならない。本当にそう思えた一日でした。

次の日は決勝トーナメントが行われ、一回戦栃木代表の小山高校と対戦しました。ここからは勝つか負けるか一度きりの勝負であり全力で試合に臨みました。結果は先

鋒引分け、次鋒一本勝、中堅引分け、副将一本負、大将二本負の一二で敗戦しました。大将戦までつないでくれたにも関わらず大将の私が踏ん張りきれず、悔いの残る結果でした。しかし、全国の強豪校と互角に渡り合えたことは自信にもなり、夏のインターハイへの気持ちも一層強くなりました。

今回の選抜大会では目標のベスト八には入れませんでした。決勝トーナメントには進むことができませんでした。このような結果が出せたのも佐々木先生、岩原先生、谷先生、坂本先生の熱心なご指導や保護者の応援があったからだと思えます。また、厳しい稽古の中でも互いに声を掛け合い、助け合いながら頑張ってきた仲間のお陰でもあります。今回の大会を通じて、改めてしっかりと剣道に取り組める環境に私たちはいることを実感しました。

この環境を当たり前と思わず、感謝の気持ちを持つこともできました。この経験を忘れず、これからも剣道を続けていきたいです。ありがとうございました。

○平成二十四年度

第二十二回全国高等学校剣道選抜大会

平成二十五年三月二十七日・二十八日

愛知県春日井市総合体育館

阿南工 一―二 八幡工業（滋賀）

阿南工 三―一 福井（岩手）

八幡工 一―三 福井

阿南工 小川 メー 坂本 福井

（代表戦）

決勝トーナメント

阿南工 一―二 小山（栃木）

ベスト十六



## 第二十二回全国高等学校 剣道選抜大会に出場して

徳島文理高校 川原 眞実



平成二十五年一月十三日、全国選抜大会県予選会、私たちは強豪富岡

対戦しました。試合は一敗三引き分けて私に回って来ました。私は無我夢中で戦い何とか大将戦を制し、代表戦に持ち込みました。監督からもう一度試合をするチャンスを受賞、代表戦に臨みました。相手は格上の先輩でしたが、必死になって粘り、一〇分を超える長い試合でしたが、最後は無心で打ったコテが決まり、ついに全国選抜大会への切符を手に入れることができました。そして三月二十七日、私たちは愛知県春日井市で行われた全国選抜大会当日を迎えました。中学の頃から同じメンバーで戦ってきたので、みんな落ち着いてはいました

が、生演奏の入場行進が始まると身が引き締まる思いがしました。

開会式の後、第一試合が始まりました。

応援に来て下さった沢山の仲間達や保護者の姿が見え、少し緊張がほぐれました。相手は地元の愛知県代表、名古屋経済大学市邨高校でした。地元のチームと戦うのは少し難しいことがありますが、そこはきっちりと先鋒の玉田先輩が二本勝ちをしてくれました。次鋒で一本落としたものの、中堅が引き分けて悪い流れを止めました。続く副将の栗野先輩が二本勝ちし、チームの勝利を決めてくれました。お陰で私は、リラックスして試合ができましたが、リーグ戦なので少しでも有利になるように集中して試合をし、二本勝ちすることが出来ました。客席からの拍手が大きく聞こえ、とても嬉しかったです。チーム全体がリラックスでき、文理らしい試合ができました。

続いて二試合目は、熊本県代表の八代白百合高校と対戦しました。誰もが知る強豪校であり、苦戦は覚悟していましたが、先輩方がチームをまとめて下さり、皆で心を

一つにして戦いました。しかし、さすがに全国を代表するチームは、簡単にはチャンスを与えてくれず、一敗三引き分けて、大将の私に回って来ました。「始め」の合図で構えた瞬間、相手選手の攻めの強さを全身で感じました。それもそのはず、相手はインターハイの個人戦で準優勝した選手でした。私も調子は良かったので、どんどん勝負を仕掛けました。試合の終盤、私のコテ・メンと相手の飛び込みメンが同時に当たりましたが、旗は相手に上がり、私の一勝負となりました。自分的には最初の試合以上に動けたし、技も出すことができ、納得のいく試合ができたと思いますが、全国を代表する選手との力の差を痛感しました。

その結果、チームは一勝一敗で予選リーグ敗退となりました。残念ではありましたが、これからも続く沢山の試合に向けて、貴重な経験をすることができました。この経験はこれからの心の支えとなってくれると思います。他校も勿論同じだとは思いますが、勉強と剣道を両立させることは大変



なことです。高校生として最後の一年となりますが、卒業の時、後悔が残らないように、これからも『文武不岐』の部訓の下、頑張っていきます。

最後になりましたが、中山先生、玉田先生をはじめ、ご指導頂いた全ての先生方、そして、応援して頂いた保護者の皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。



## インターハイに出場して

阿南工業高等学校剣道部

主将 岩原将平



私たち阿南工業  
剣道部は今年、県  
高校総体団体の部  
で優勝を勝ち取り  
インターハイに出

場することができました。また、個人の部  
で私も準優勝することができました。この  
結果に至るまでの道のりは辛く厳しいもの  
でした。

私は小さい頃に剣道を始め、小学校・中  
学校と続けるうちに高校でも剣道がしたい  
と思うようになり、阿南工業高校に入学し  
ました。しかし、ただ剣道をするだけとい  
うのではなく、やるからには全国をめざそ  
うと思ひ稽古に取り組みました。稽古は年  
間を通じてほとんど休みなく行われました。  
休日には県外遠征や練習試合ばかりでした。  
でも、ここまで熱くご指導してくださる先

生の期待に応えたいと思い必死で稽古に取  
り組みました。

私は先輩が引退して、新チームになって  
すぐに自分の不注意で足を骨折してしま  
いました。今から新しくスタートするとい  
う大切なときに、自分の行動でチームに大  
変な迷惑をかけてしまいました。そんな私に  
剣道部の皆は電話やメールで励まし支え  
てくれました。

三年生になり県総体が近づくにつれ練習  
にも熱が入り、チームの意識も更に高ま  
っていききました。私たち新チームは県内の大  
会はすべて優勝してきました。また、昨年  
の総体では優勝できなかったこともあり、  
今年は必ず優勝するという強い気持ちで大  
会に臨みました。試合当日は全員がベスト  
の状態で試合をすることができ、優勝する  
ことができました。この優勝は阿南工業高  
校剣道部が一丸となり勝ち取ることができ  
た優勝だと今でも思っています。

インターハイは九州の佐賀県で行われま  
した。全国大会は独特の雰囲気と緊張感が  
ありそれを経験できただけでも大変嬉しく

思います。

インターハイ1日目は個人戦が行われま  
した。個人戦は各県の1・2位の選手が出  
場するハイレベルなものでした。私は二回  
戦から出場し鳥取県の選手と対戦しました。  
初戦ということもあり緊張のあまり思うよ  
うに試合ができませんでしたが、時間が経  
つにつれ緊張もほぐれ、勝つことができま  
した。三回戦は熊本の選手と対戦しまし  
た。自分の力を出し切れず負けてしまいま  
した。全国のレベルを身に染みて感しま  
した。

二日目は団体戦でした。団体戦では三校  
リーグで行われ、阿南工業は島原高校（長  
崎）と草津東高校（滋賀）の組み合わせで  
した。第1試合目は島原高校との対戦し、  
結果は引き分けでした。次に草津東高校と  
対戦し四対〇で勝つことができました。最  
後に島原高校対草津東高校の対戦が行わ  
れ、私たちはその結果を待ちました。結果  
は島原高校が五対〇で勝ち、勝者数で阿南  
工業は決勝トーナメントに進むことがで  
きませんでした。残念でしたが、全員が力を

出し切る事のできた最高の試合だったと思います。

私たちがここまで剣道を続けてこられたのも、佐々木先生、岩原先生、谷先生、坂本先生の熱いご指導と保護者の協力があつたからだと思います。特に先生方からは剣道の技術だけでなく生活面についてもご指導していただきました。私たちに部員にいつも言われていた先生の言葉に「生活即剣道、剣道即生活」があります。日頃の生活態度や心がけが自分の剣道や試合に直結することを教えていただきました。また、三年間、助け合い、競い合い過ごしてきた仲間が私の一生の宝物です。

私は四月から社会人として新しくスタートしますが、剣道や高校生活で学んだことを活かし、進んでいきたいと思っています。お世話になった多くの方々、本当にありがとうございます。

○平成二十五年度

全国高等学校総合体育大会

平成二十五年八月七日～九日

佐賀総合体育館

予選リーグ

第1試合

阿南工 一―一 島原(長崎)

第2試合

阿南工 四―一 草津東(滋賀)

第3試合

島原 五―〇 草津東

勝者数により島原高校が決勝トーナメントに進出



# 平成二十五年 全国高校総体に出場して

徳島文理高校 玉田 理沙子

平成二十五年六月一日から二日、阿南市那賀川スポーツセンターで徳島県高校総体剣道競技が行われました。会場の雰囲気はピリピリしていましたが、いつも通りリラックスして試合に臨もうと心掛け、決勝まで駒を進めることができました。決勝の相手は富岡東高校、「勝っても負けても後悔のないよう全力で戦おう！」と声を掛けて勝負に挑みました。試合は先鋒の私が面的一本勝ちをし、後の四人が相手の猛攻を守りきり、一対〇の僅差で、勝利することができました。皆の気持ちがあつて勝ち取れた優勝でした。

今年の全国高校総体は、平成二十五年八月六日から九日、「吹きわたれ若人の風 北部九州へ」のスローガンのもと佐賀県で開催されました。六日の開会式の後、大会二日目女子団体戦予選リーグが行われました。予選リーグで春の全国選抜大会で優勝

した岐阜県代表の麗澤瑞浪高校と、全国大会常連校富山県代表の富山北部高校と対戦しました。

リーグ戦一試合目、麗澤瑞浪高校との試合は、強豪を相手に大差で負けるかもしれないと不安な気持ちになりましたが、「とにかく自分たちらしく戦おう！」と挑みました。先鋒の私が何とか流れを作ろうとしましたが、いつものように体が動かず、

一瞬の隙をつかれ一本負けをしてしまいました。続く次鋒、中堅も相手のペースになってしまい勝負がついてしまいました。その後、副将が粘って引き分け、大将が一本勝ちをして一対三のスコアになりました。次の試合で麗澤瑞浪高校が富山北部高校に勝利したので、この時点で私たちの決勝トーナメント進出はなくなりました。

リーグ戦二試合目、富山北部高校との試合は、決勝トーナメントには進出はできなくなりましたが、気持ちを切り替え、中学時代から組んできたこのチームでの最後の試合になるので、「いつものように粘り強く、悔いの残らない試合をしよう！」と臨みました。先鋒の相手は上段でした。相上

段では負けない自信があったので、積極的にしかけて一本勝ちを収めました。続く次鋒から大将までが、その一本を守りきり、県総体決勝と同じ一対〇の僅差の勝利を得ることができました。全国大会においても粘り強く自分たちらしい良い試合ができたと思います。

私たちは、『文武不岐』の部訓の下、勉強と剣道の両立を図ることを第一に考え、全員が剣道ばかりを中心に考えてはいません。従って、一人一人の練習量に違いがありますが、お互いを認め合い、「インターハイで試合をする！」という大きな目標に向かい、チャレンジ精神を持って、それぞれが真面目にコツコツやってきました。そのチームワークはどこにも負けないという自信があります。その集大成をインターハイの舞台で発揮することができて、本当に嬉しく思います。

今までお稽古をつけて下さった先生方、また励ましの言葉をかけて下さった皆様方に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 第四十三回全国中学校 剣道大会に出場して

徳島中学校 美馬 州一



「全中出場。そして、決勝トーナメント進出。」これが僕たちが徳島中学校に入学して

からの目標でした。この目標を達成するために豊田先生の指導の下、日々厳しい稽古に励んできました。技術だけではなく、精神面の強化にも取り組んできました。そして、中学校最後の夏、念願の全中出場の切符を手にすることができました。

徳島県代表としての重みを感じながらも指導してくださった先生方、支え励ましてくれた家族や剣道仲間全員の思いを一本の竹刀に込めて全国大会に臨む決意をしました。大会までの期間、それぞれが課題を持ってさらに気合いを込めて稽古を積みました。大会は、平成二十五年八月十七日～八月

十九日、静岡県浜松アリーナで行われました。「東海で君が叶える夏の夢」の大会スローガンのもと、レベルの高い熱戦が繰り広げられました。試合当日、緊張はありましたが、今までやるだけのことはやってきたという自信を持って試合に臨みました。

三校で争う予選リーグの初戦は、島根県代表松江第四中学校との対戦でした。みんなの気持が一つになり、四対一のスコアで勝利することができました。念願の予選突破まであと一勝。相手は、栃木県代表壬生中学校です。今まで努力してきた成果を十分に出し切りましたが、結果は、〇対一で惜敗してしまいました。残念ながら、私たちの目標は達成できませんでしたが、この全国大会の舞台に立ったこと、そして勝利したことは、自分たちにとって生涯忘れることのできないものとなりました。この経験をこれからの剣道や人生に生かしていきたいと思います。

僕たちの夢が叶ったのは、今まで共に頑張ってきたチームメイト、毎日厳しく指導してくださった豊田先生の支えがあったか

らだと思えます。そして、いつも応援してくれた家族や指導していただいたすべての先生方にも感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。



# 全国中学校剣道大会に

## 参加して

那賀川中学校 長谷川 瑞 実



「東海で君が叶える夏の夢」のローガンのもと、八月十七日（土）から十九日（月）

の日程で平成二十五年年度の全国中学校総体が静岡県浜松市で開催され、私たちも徳島県代表として参加させていただきました。昨年に続き十三度目の出場になります。三度目の優勝を目指してチーム一丸となって厳しい稽古を積み重ねてきました。限られた部活動の時間を補うために少年剣道教室や警察学校、支部の練習などに積極的に参加もしました。「稽古の質と量」を意識して努力しましたが、予選リーグを勝ち抜けることはできませんでした。

予選リーグ初戦では、熊本県代表の錦中学校との対戦になりました。冬の若鷲旗優

勝、九州総体優勝で優勝候補の一角でした。結果は中堅の二本勝ちを除き四一で敗れてしまいました。先鋒から大将までそれぞれが旗一本あがる惜しい打突もあったのですが、相手の巧みな試合運びに自分たちの流れを作ることができませんでした。広島県代表の瀬野川中学校には三〇で勝利しましたが、錦中学校が二勝したため決勝トーナメントには進めませんでした。

那賀川中学校の選手としての引退が決まった瞬間、悔しくてたまりませんでした。部員八人全員の力を合わせ、出し切った自分たちの試合ができたので、その点では満足もありました。私たちの思いは後輩の皆さんに託したいと思います。

最後になりましたが、稽古をつけてくださった先生方や先輩方、最後までずっと応援してくださいました保護者の皆さん、本当にありがとうございました。また、大会直前に練習会場を用意してくださったOBの内田さんから先生やいつもお世話になった剣道連盟の皆さんにも感謝の気持ちでいっぱいです。これから私たちはこの経験を生かし

て頑張ります。ありがとうございました。



## 第五十五回全国教職員 剣道大会に参加して

木頭中学校 林 義真



平成二十五年八月十二日、和歌山県和歌山ビックホールで第五十五回全国教職員剣道

大会が開催されました。

試合方法は個人戦三部門(幼・義務教育、高校・大学・教育委員会、女子)と男子団体戦の計四部門で行われました。本県の試合結果は次の通りです。

個人戦(幼・義務教育の部)

一回戦

福多 博史(阿南第一中学校)

メ 今野 透(宮城)

個人戦(高校・大学・教育委員会の部)

一回戦

谷 善史(阿南工業高等学校)

ド 山崎 洵(秋田)

個人戦(女子の部)

二回戦

前田奈々枝(山瀬小学校)

メド 中村久美子(長崎)

団体戦

先鋒 林 義真(木頭中学校)

次鋒 大石真也(鳴門高等学校)

中堅 岩原靖人(阿南工業高等学校)

副将 富浦廣志(日和佐中学校)

大将 富田 正(鷲敷小学校)

団体戦は、過去に多くの実績があり、ここ最近も優勝・準優勝などを行っている強豪チーム大阪府との試合でした。接戦の末、惜しくも一回戦敗退となりました。詳細結果は次の通りです。

徳島県 一(二)ー(四)二 大阪府

先鋒 林 梅 ー 浦田

次鋒 大石 × 吉田

中堅 岩原 ー 久保

副将 富浦 × 川上

大将 富田 ー 緒方

優勝 長崎県

準優勝 大阪府

第三位 熊本県

岡山県

最後になりましたが、今大会出場に際しましてお世話をして下さった徳島県の先生方、選手団の先生方のおかげで思い出に残る大会となりました。多くの方々に支えていただいたことへの感謝の気持ちを胸に、今後の稽古や後世の指導に励んでいこうと思います。本当にありがとうございました。



# 第八回全日本都道府県対抗 少年剣道優勝大会に出場して

小松島少剣クラブ

檜田 胡桃

平成二十五年九月十五日舞洲アリーナで全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会が行われ、徳島県代表として出場させていただきました。この大会に先輩方が出場していただきましたので出場したいと思い、一生懸命練習してきました。春から月に一度の強化訓練で、毎回試合練習をしていました。夏に、兵庫に遠征に行きました。初めて他のチームの子達といっしょにお泊まりをして稽古をして友達が増えました。ごはんを食べて、お風呂に入って、一緒に寝て、とても楽しかったです。二日目の最後の試合、今日一番良かったメンバーですと言われ、ドキドキしました。そして副将のとき呼ばれすぐくうれしかったです。そして八月の強化の時全国大会のメンバーを発表されました。そして四番目の副将の時「檜田胡桃」と呼ば

れすぐくうれしかったです。そして毎日の生活を見直し、けがをしないように気をつけました。そして全国大会当日、バスでドキドキしながら試合会場に向かいました。予選リーグ一回戦は滋賀とでした。一本負けで回ってきて二本勝ちで回そうと思って攻めに攻めましたが引き分けてしまいました。そして○対二で負けてしまいました。「次、行こう。まだ行ける。」と言ってくれました。二回戦は山形とです。みんな二本勝ちで回ってきて私とも思い攻め、二本勝ちができました。それで四対〇で勝てました。うれしく次もと思えました。三回戦は静岡とです。○対二で私が勝たないと負け決定になってしまいます。そこで私はいつも練習している面を打とうと思いました。そして、

攻めて真っ直ぐ思いっき

り面を打ち、二本取れました。チームが負けてしまって予選リーグ敗退でしたが、一緒に戦い友情が深まったと思います。全国大会という大きな大会で試合できたこと、最後まで一所懸命指導して下さった先生、応援して下さいました保護者の方々に感謝し努力していきたいと思えます。これからもよろしく願いいたします。





## 都道府県対抗 少年剣道優勝大会

飯田 翔太

平成二十五年九月十五日、大阪府で人生二度目の全国大会がありました。ぼくは、全国での大将は始めてでした。

大将になるまでには、月一回の強化練習がありました。ぼくは毎回メンバーにはいるためにひっしになってやりました。そうすると強化で選ばれた人の中から行く、兵庫県の印南遠征に連れて行ってもらえました。「選ばれたからには全国メンバーに入る」と印南に行くバスの中で思っていました。印南道場につくと、ぼくの全国予選が始まりました。ぼくは大将で試合をしました。その時は、まだ大将に決まっていませんでした。約一〇試合くらいして一日目は終わりました。一日目は、楽しく試合ができました。二日目、いよいよ本番です。勝ちにこだわって試合をしました。でも印南の大将の三浦くんには勝てませんでした。

引き分けや負けばかりでした。そこが一番くやしかったです。そして印南遠征が終わりました。ぼくはこの時、悔いは残っていませんでした。その次の強化の日にメンバーが発表されました。「大将・飯田」と言われた時は、うれしいという気持ちよりホッとした気持ちでした。でもここが始まりだと思って、より練習を頑張りました。

平成二十五年九月十四日、徳島から大阪に出発しました。この日は練習試合でした。ぼくは、試合会場に入ると普通の試合とは違う空気感でした。いよいよ始まったと思いました。練習試合は、負けずに終わりました。九月十五日、本番のこの日を目標に何ヶ月も頑張った事を思い出すと自信が出てきました。徳島県は、静岡、滋賀、山形と当たりました。結果は予選敗退でした。ぼくは一回も試合に勝てませんでした。すごく悔しかったです。ぼくが勝たないとダメな試合で二本負けをしてしまい、大将として全然ダメな事ばかりしてしまいました。これが全国レベルなんだと思いました。でも全国の強い人の試合を見ることができて

勉強になりました。この経験をかかしてこれからも頑張っていきたいです。



# 第八回全日本都道府県 对抗少年剣道優勝大会

監督 豊田 佳男

○期日 平成二十五年九月十五日

○会場 大阪府舞洲アリーナ

○徳島県中学生選抜チーム

監督 豊田佳男(徳島中)

選手 先鋒 長谷川瑞実(那賀川中)

次鋒 丸岡由理奈(富岡東中)

中堅 塚田 圭吾(徳島中)

副将 熊橋 凌司(徳島中)

大将 美馬 州一(徳島中)

○試合結果 ベスト一六

予選リーグ 一試合目

徳島 一(一)一(〇)〇 長野

先 長谷川 ドー 穂刈

次 丸岡 × 野黒

中 塚田 × 井上

副 熊橋 × 大久保

大 美馬 × 柳沢

予選リーグ 二試合目

徳島 四(六)一(一)〇 青森

先 長谷川 × 齊藤

次 丸岡 コー 村川

中 塚田 コー 場崎

副 熊橋 コーメ 立花

大 美馬 メー 平野

決勝トーナメント一回戦

徳島 〇(〇)一(一)一 神奈川

先 長谷川 × 北條

次 丸岡 × 西口

中 塚田 × 金子

副 熊橋 ーメ 白須

大 美馬 × 杉本

「徳島県代表として、同郷の仲間たちの

思いを胸に正々堂々と戦うこと」「各学校・

道場でいつも指導してくださる先生方の教

えをよく守って試合に臨むこと」大会前に

この二点を確認し合った。選手たちは共に

声をかけ合いながら、よい雰囲気の中で予

選リーグ一試合目を迎えた。長野県チーム

との対戦である。先鋒長谷川選手の一勝を、

続く四選手が攻めの姿勢を貫いて守りきり、

勝利を収めた。予選二試合目の相手は、青

森県チーム。選手たちは、気負うことなく

自分たちのリズムで試合運びをし、有効打

突を奪っていった。結果は四対〇。この勝

利で決勝トーナメント進出を決めた。決勝

トーナメント一回戦の相手は、強豪神奈川

県チーム。最後まで攻めの姿勢は崩さず、

互角の戦いを繰り広げたが、結果は〇対一

の惜敗となった。今大会準優勝の神奈川県

チームに対して、正々堂々と中心を攻める

剣道に徹した選手たちの姿勢が目焼き付

いている。また、ここしかないというポイ

ントを見逃さず、有効打突を奪う神奈川県

チームや上位入賞チームの剣道は、大変参

考となった。全国トップレベルのチームと

互角に戦った五名の選手たちの今後の活躍

に期待している。

大会出場に対し、ご支援、ご協力いただ

いた徳島県剣道連盟の先生方、保護者の皆

様に感謝しております。本当にありがとう

ございました。



## 第五十二回全日本女子 剣道選手権大会に参加して

大阪教育大学 山本 千尋

平成二十五年九月八日、日本女子剣道界の頂点を決める大会が兵庫県立武道館で行われた。

私は、この予選で勝ち上がることができ、初めて今大会への出場権を得た。会場へ着き、まわりを見渡すとそこにはジャパン候補選手ばかり。最初は「こんなところに自分自身がいることは、場違いなのでは？」と思った。しかし、このような大舞台に立てることを逆に誇りに思い、自分の実力を試してみようとも思った。

一回戦、対戦相手は大阪府代表の田山選手。大阪府警のトップ選手であり、ジャパン候補選手でもある。私は、プレッシャーも何もない挑戦者として胸を借りる気持ちで戦った。それと同時に、今の自分の剣道がどこまで通用するかを試してみることにした。既定の試合時間では決着がつかず、

試合は延長戦に突入した。延長に入りしばらくして、私は一瞬前に出るかを迷った。勝負がついたのはその瞬間だった。前に出ることができず、反応が遅れたときには相手は私の面をとらえていた。結果は一回戦敗退であった。結果としては悔しい気持ちがあるが、自分の剣道を貫くことはできた。

徳島の代表としてこのような大舞台に立たせて頂いたからには、一つでも多く勝ち進み、結果を出したいという気持ちは強かった。けれど、私にはこの大会で頂点を取るという気持ちは低かったのかもしれない。トップ選手との対戦を通じて、ほかの選手の試合を見て一番感じたことは、最後に勝つ人は一本に対する執念が一番強い人だということ。集中力を切らさず、最後まで一本を狙って戦えるかどうかだと感じた。

また、これほどまでに相手との勝負を楽しむことができる大会は、ほかにはないだろう。たくさん経験と刺激を与えてくれる場であり、技術、精神面、全ての面でステップアップするきっかけを与えてくれた。同じ大学生が活躍する姿、高校生がトップ

選手相手に奮闘する姿を見て、自分も負けていられないと感じた。そして、もう一度レベルアップしてこの舞台に立ちたいと改めて思った。

今大会、大阪府代表の山本真理子選手が二連覇を成し遂げた。決勝戦での緊迫感、連覇へのプレッシャーは計り知れないものだろう。しかしそれを感じさせない姿に圧倒された。誰よりも練習し、誰よりも苦難を乗り越えた結果が最終的に、見ているまわりを虜にする試合展開を実現するのだろう。

私には、まだまだそれにはなりえない。けれど、代表としてこのようなチャンスと貴重な経験を積ませて頂いた恩を、これから結果で返すことができるよう日々努力していきたい。そして、いつか日本のトップ選手に仲間入りできるように学生剣道、これからの剣道人生を充実させていきたい。

## 第五十九回全日本東西対抗 剣道大会に出場して

警察支部 吉 田 茂 生

平成二十五年九月十五日、山梨県甲府市の小瀬武道館で開催されました第五十九回全日本東西対抗剣道大会に出場しました。

朗報が届いたのは七月末。平成十三年に機動隊（特別訓練生）を卒業し、十二年ぶりの公式戦出場でありましたので、県剣道連盟から連絡があったときは本当に嬉しく思い、その喜びを家族に伝えたことを覚えています。また、選手時代に全国強化訓練などで御指導をいただいた先生方や剣友と再会できることに喜びに浸っていました。

選考されてから大会までの期間は一ヶ月半。それまでは週二回程度の稽古量で、それほど緊張感もなく稽古をしていたのですが、大会出場が決まってからは機動隊の朝稽古、剣道連盟稽古会、町道場等に足を運び、多くの剣友と剣を交えるなど、仕事以外の日は、勝負勘を取り戻すべく必死に稽

古に励みました。とはいえ、猛暑が続いた今夏の稽古は、稽古不足の私には地獄のようなものでした。また、本年四月から交替制勤務に就いたことで体調管理に苦労しましたので、正直、試合までに調整ができませんでした。しかし、稽古は嘘をつきませんでした。

涼しさを感じ始めた頃には完璧とまではいきませんでした。それでも大会が近づくにつれて緊張感が増し、今度は勝負に対する不安が寄りかかってきました。というのも試合相手は北海道の栄花直輝選手。「世界の栄花」と称される強者。平成十年の東西対抗大会出場時に次鋒（六段）で対戦した相手で、一本負けを喫していました。弱気になりかけた私に、ある先生から「相手も人間だ。必ず隙がある。」と。また、他の先生からは、「とにかく良い試合をしてくるように。」との激励を受け、気持ちが高まりました。

大会前日、西軍合同の稽古会で選手時代ご指導を頂いた先生方や剣友と剣を交え、



夕食会では、昔話や現状を語りあい、幸せなひとときを過ごしました。

いよいよ大会当日。大会は、女子特別試合（五試合）の後、三十五人制の対抗戦。私は十八将で出場しました。過去五年は西軍が勝利を収めており、このため東軍は優勝旗を奪還すべく、全日本選手権優勝経験

者を数多く揃えるなど、万全のオーダーで臨んできました。試合は、私の前までは試合時間一〇分以内（ほとんどが二本勝ち）で勝負がつき、ハイペースの試合展開。しかも大差で東軍が優勢。予定していた調整稽古を早めに済ませて試合会場に入り、時を待ちました。会場は、一コートで中央雑壇には全剣連の先生方が試合を見守り、観覧席は観客で埋め尽くされていました。久しぶりの公式戦。緊張は高まったものの不思議と落ち着いていたように思います。

さあ決戦。立ち上がり、久しぶりの対戦であるため、攻め合いで相手の出方を探りました。攻め合い十数秒で栄花選手のスピード感溢れる小手面。さすがトップレベルの選手。なんとか凌いでいましたが、その後も遠い間合いから勢いよく面に飛び込んでくるなど、正直受けるので精一杯でした。私も手元を挙げず、中心を外さないように攻め返しましたが、返し技が得意な相手と知っていましたので思い切って飛び込めませんでした。

前半、返し技をねらう相手に対して攻め



合いから小手に飛び込みましたが若干拳。一瞬の気も抜けない状況での試合展開で、あっという間に一〇分間の試合時間が終了しました。本大会初めての延長戦。応援席にいた西軍選手の拍手で力を貰い延長に入りました。相手の攻めやスピードにも慣れ、少しずつ攻めて打突の機会を窺いました。

暫くして栄花選手の飛び込み面を受けてから一瞬の間をおいて引き面を放つも決めきれない。膠着状態が続いたのち決定的な場面。攻め合いの中、お互い一瞬ピタッと止まった瞬間、私は無意識に諸手突きに出ました。部位から若干外れた。タイミングがバッチリでしたので「ひょっとしたら」と思ったのですが旗は上がらず。延長に入り、少しずつ体力が奪われていくのがわかりましたので、どこかで思い切らなければと思い、注意を払いながら間合いを詰めていく中で前半と同じような小手に出しましたが不十分。すぐさま振り返り、一足一刀の間合いになったところで飛び込み面に出ました。しかし、相手に体を捌かれての面を打たれ万事休す。結局試合に要した時間は一八分。負けた瞬間、「終わった」という感じで、負けた悔しさよりも今の自分の力は出し切ったという満足感に浸っていました。

試合内容を自分なりに振り返ってみますと、良かった点は、「打ち急がず、機会を窺ったこと」、「中心を外さず、手元を挙げなかったこと」、「不用意に下がらなかった

こと」で、何よりも集中力が切れなかったことだと思います。反省点は、「攻めが打突につながらなかったこと」。要するに思い切りが足りなかったことであり、また攻める過程で肩に力が入ってしまっていたことです。

試合結果は、西軍十二勝、東軍二十三勝で惨敗でしたが、全日本剣道連盟会長から優秀試合賞をいただき、個人的には喜びと充実感でいっぱいでした。

本大会は、勝つことが使命であった選手時代とは違った気持ちで臨むことができ、楽しく試合をすることができました。選手に推薦していただいた徳島県剣道連盟の先生方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

(なお、本文中の写真は全剣連の許可を得、ホームページよりコピーしています。)



第五十九回  
全日本東西対抗  
剣道大会

平成25年  
と き： 9月15日(日)  
午前9時開始

と ころ： 小瀬スポーツ公園 武道館  
入場無料 (甲府市小瀬町840番地)

主 催 / 全日本剣道連盟  
主 管 / 山梨県剣道連盟  
主 後 援 / 山梨県・山梨県教育委員会・公益財団法人山梨県体育協会  
甲府市・甲府市教育委員会・財団法人甲府市体育協会  
朝日新聞社・山梨日日新聞社・NHK甲府放送局  
YBS山梨放送・UTYテレビ山梨

# 国民体育大会成年男子

監督 西谷肇一

第六十八回国民体育大会剣道競技成年男子の部が平成二十五年九月三十日（月）午前十一時より東京武道館で開始された。本県の対戦相手は凶らずも昨年二回戦で対戦して惜敗した京都府である。今回も昨年以上に普段の稽古を大切に強化してきた。また京都での練習試合でも優位に立っていたので自信をもって試合に臨んだ。

（先鋒）玉田選手、

立ち上がり小手を先取して優位に進めるが中盤少し受身になったところ面を打たれて五分五分となる。その後、気を取り直し相手の無理な攻めに対し乗り返しての面を決め先勝。

（次鋒）六條選手

先鋒に続いて先を取って面を先取、このままの勢いで連取するかと思っただが少し守りに入ったところを面で取り返され対になる。その後こう着状態が続き、鏝迫り合い

からの引き面を打たれ惜敗。

（中堅）山名選手

二刀で優位に進めるつもりだったが、相手によく研究されていて相手の積極的な攻撃に防戦的になり、決定的な技が出ず無理な体勢で小手に出た所をすり上げ面に乗られて一本先取された。その後積極的に攻めるも間合いが合わず時間切れで惜敗。

（副将）平野選手

昨年と同じ高橋選手との対戦で昨年は小手を先取しながら二本取り返されて惜敗した。そこで気持ちを新たに昨年の雪辱を果たす思いで望んだ。立ち上がりからの気の充実した構えで先を取り、相手の攻撃に対しても動じず体捌きと剣捌きで圧力をかけていく中で延長戦になり、高橋選手が不用意な片手突きに来たところを刷り上げて面を打ち一本勝ちを収めた。

（大将）近藤選手

大将戦でチームの勝敗が決まる一戦、その重圧を撥ね退けるかのような立ち上がりの出頭面が炸裂し一本先取、その後も攻撃を緩めず先を掛けて追い詰めながら相手が





小手に来る起こりを面に出た。面が決まったように見えたが、審判の旗が面と相手の小手二本に分かれ相手の小手に決まる。これで動揺した近藤選手が勝負になって開始早々相手の変則な面を受け損ねて勝敗が決まった。

今回も試合の結果は期待に添えなかったが、昨年同様試合態度も良く、剣道も堂々とした立派な内容であった。これも日ごろの稽古を大切に組み組んできた成果だと思う。選手は着実に力をつけている。今の強化の取り組みをより充実させると共に強い心をもって続けてゆけば必ずよい結果がでると信じている。



## 女子躍進、国体五位入賞

強化委員長 平野 誠 司

今年の国体は四国ブロック大会での活躍で、成年女子と少年女子が四国代表となり、成年男子とあわせて三部門が本大会へ出場することになりました。

女子剣道の今年の躍進は、七月の全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会での三位入賞を皮切りに、八月の国体四国ブロック大会においても対高知を二対一、対香川を三対〇、対愛媛を二対一と快勝して、見事全勝で本大会の出場を果たしています。

強化委員長としてここ数年、女子強化を共にしてきた思い入れは、「この辺で形としての成果ができれば勢いがつくの……」という期待と、「もっと多くの女性が目標を抱き、仲良く、楽しく、そして澁刺として剣道に取り組んでほしい……」という希望でありました。

こんな思い入れを抱きながら、都道府県、四国ブロック大会の監督として、遠慮なし

の優しい対応で（このニュアンスが大事）チームを作ることに専念してきたように思っています。

剣道の試合は、「人間は真剣（必死）になれば誰でも互角になれる」ことを体得することである。と言われますように、まずは勝負の前に自分のあり方を正すことが一番重要になります。ここがわかって旺盛な気力で立ち向かうこと、選手に伝えなかったことはこの一点でありました。

国体の本大会は私も選手出場しますので、監督業は西谷総監督にお願いしました。本大会でも選手達は持ち前のエネルギーを剣振りを披露してくれました。

今年の本大会は東京足立区での開催、会場は東京武道館です。九月二十九日、少年男女の試合に引き続き、成年女子が始まり、各ブロックを勝ち抜いた十六都道府県が鎧を削りました。

徳島の陣容は、先鋒が西柚衣選手。那賀川中学校出身で守谷高等学校から明治大学へ進学。中学生の時から全国の舞台で活躍しており、大学生になって全日本女子学生

剣道選手権大会で三位に入賞していますし、前述した都道府県女子三位入賞にも貢献しています。

中堅は前田奈々枝選手。ご存じの通り上段の構え。火の構えと言わんばかり、会場一杯に氣勢を発し、大上段から思い切って打ち切るところが真骨頂です。片手、双手と先にかかった技が冴え渡ります。

大将の北村環選手は、国士館の理詰めした正當な剣捌きが光ります。女性らしい清楚な構えから、柔らかな対応で出頭を捉えていきます。

初戦の相手は群馬県でしたが、三人の持ち前が見事に表現でき二対〇で快勝して、ベスト八に駒を進めました。

ベスト四をかけた相手は、大阪府。相手にとって不足なしです。

大阪の布陣は、先鋒に全日本二連覇の本真理子選手、大将には石田真理子選手を擁しています。今年やってきたこと、学んできたことがこの一線に活かされるかどうか、期待がもてます。

先鋒西選手は、山本選手に一步も譲らず、

勇猛果敢な姿は徳島を勇気付けました。立ち上がりから攻め続け、ついに山本選手から面を先制、すぐに小手を返されますが、十三分粘って最後は飛び込み胴を奪って見事先勝しました。

続く、前田選手も俄然勢いが増してきました。立ち上がり、攻めて追い込んだところを懐に飛び込んで、双手の小手を完璧に決めました。もはや会場は、徳島の快進撃を固唾を呑んで見守っています。攻勢が続く中、押せ押せの前田選手、中盤に片手の小手が炸裂。捉えたと思った瞬間、旗が一本、二本目の旗も半分上がったところで取り消され降ろしてしまいます。非常に惜しいこの一本が勝敗を分けました。結局、大阪島中選手に面を二本返されてしまいました。

勝負となった大将戦、北村選手も善戦しましたが、石田選手の冷静な剣捌きを崩すことができず、中盤に突きを奪われ惜敗。結局一対二で大阪に敗れてしまいました。

徳島の存在を大きく示した戦い、やればできる、互角に戦えるという自信を持ち帰れることが五位入賞という形と共に大きな

自信になったのではないかと思います。

来年の戦いは既に始まっています。新たな布陣でやれることを精一杯頑張るだけです。今年経験したことを自信としてステツプアップしてほしいと願っています。

まずは徳島という一隅を照らすことの意味、一緒に頑張ろうという仲間を大切にすることの意味、次の世代に素晴らしいこの剣道を橋渡しすることに一人でも多くの女性に加わり、剣を通して心が豊かになることを自らが実感してほしいと思っています。

自分の問題として相対する空間で何を学ぶか、いい汗を流しながら、人生を想像する大切な一時（ひととき）に自分が生きていくことを実感してほしいものです。

結びとなりますが、剣道連盟の先生方には日頃からご指導を賜り厚く御礼申し上げます。女子剣道の充実、発展のため、今後ますますのご支援を宜しくお願い致します。



## 第六十八回

### 国民体育大会に出場して

徳島文理高校 玉田 理沙子

私は、国体の県代表選手になることが、高校生になってからの目標の一つでした。昨年は県の代表選考会で一本差で代表入りを逃してしまいとても悔しい思いをしましたが、今年の代表選考会は参加人数が多く、厳しい予選でしたが、何とか勝ち残ることができました。その上、大将とチームのキャプテンを任せて頂くことになりました。

国体四国ブロック大会は、八月十八日、徳島文理大学体育館で行われました。他県の代表チームはどの県も強く、厳しい戦いが予想されていましたが、私たち徳島県チームはピリピリすることなく、リラックスして大会に臨むことができました。また、地元開催で応援も多くとても励みになりました。一戦目の対戦は愛媛県でした。下馬評では愛媛県が最も充実した布陣で、優勝候補の筆頭と思われていました。勝負は一進一退で二勝二敗で大将戦になりました。相

手は今年のインターハイの個人戦で三位になった選手でしたが、私は弱気にはならず勝負に挑みました。先に一本取られました。その後、気持ちが吹っ切れ、自然に体が動き、メンを連取して逆転勝ちを収めました。その後、二戦目の高知戦も三対二と接戦を制しました。最終戦は香川戦でしたが、大将戦で私が負けてしまい、二勝一敗となってしまいました。この時点で、どのチームが一位になるか分からず、隣の試合場で行われている愛媛県対高知県の結果を待たなければなりません。祈るような気持ちで試合を観戦しましたが、愛媛県の勝利が決まり、徳島県の国体出場が決定し、チーム全員で喜び合いました。

今年の国体は九月二十九日から十月一日まで、東京で開催されました。国体少年の部は十六チームの参加で、一回勝てばベスト八です。とにかく一回戦突破を最低目標に練習を積んで臨みました。対戦相手は北海道でした。北海道のチームとは練習試合をしたことがほとんどなく、どのような剣風か分からず、不安なまま試合が始まりました。先鋒から接戦に次ぐ接戦で、二勝二

敗で大将戦となりました。試合時間五分の終盤、相手の片手突きを捌いての引き面が決まりました。勝利目前でしたが、終了間際に相手選手の捨て身の小手に一瞬動きが止まってしまい追いつかれてしまいました。延長戦になり勝負に出ましたが、面を合わされてしまい、逆転負けを喫してしまいました。あと数秒で勝っていたのに勝利を逃してしまい、高校生最後の試合は反省点の多く残る試合となり、悔しくて涙が止まりませんでした。チームのみんなが優しい言葉をかけてくれました。国体ベスト八という目標は達成できませんでした。小学生の時から高校三年生の夏までライバルとして何度も戦ってきた他校の選手の方々と一つのチームとなって、このような貴重な体験ができたことは生涯忘れることはないと思います。この経験を生かして今後も精進して参ります。

最後に、国体出場に際し、稽古を付けて頂いた先生方、遠征に連れて行って下さった先生方、この場をお借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 第四十八回全日本

### 居合道大会を振り返って

監督 岸 田 光 博

平成二十五年十月十二日、大分県別府アリーナにおいて第四十八回全日本居合道大会が開催されました。今回の徳島県チームのメンバーとして、七段の部に坂本憲一選手、六段の部に一村昌和選手、五段の部に内海直弥選手が選ばれています。私は、監督として前日の監督会議に合うように徹心道場の吉岡修一先生（七段）とともに車で出発しましたが、途中のフェリーの欠航があり、監督会議の時間に合うことができませんでした。しかし、別ルートで会場入りしていた坂本選手に連絡がとれ、監督代行をお願いすることができました。

- 徳島県チームのメンバーが決定後、大会に臨むに当たって、毎週水曜日午後六時より九時まで、徳島市農業環境改善センターにおいて、強化練習を実施しました。指導陣としても福井勝・吉岡修一・森将先生が交代で指導していただきました。選手は全国大会に向けての各道場での練習はもとより、毎週水曜日の強化練習、伝達講習会、四国四県稽古会、高知大会に参加しました。その間、古流二本・制定三本を想定した実践練習を繰り返し行い、前回成績である全国総合七位に恥じることはない居合をスローガンに頑張って参りました。
- 大会当日、指定技の発表（制定居合三・六・十本目）があり、試合が始まりました。結果は次のようになりました。
- 【五段の部】内海選手  
一回戦 荒木選手（富山県）に2対1で勝ち  
二回戦 阿部選手（秋田県）に3対0で勝ち  
三回戦 庄司選手（茨城県）に2対1で勝ち
- 【六段の部】一村選手  
一回戦 齊藤選手（茨城県）に3対0で勝ち  
二回戦 塩見選手（福島県）に0対3で負け
- 【七段の部】坂本選手  
一回戦 不戦勝  
二回戦 萩原選手（山梨県）に0対3で負け
- 【都道府県団体順位成績】全国十一位  
六段の部の一村選手と七段の部の坂本選手はともに二回戦で敗退しましたが、普段の居合が出せれば、十分ベスト八で戦える

実力は備えていると思います。五段の部の  
内海選手は、京都大学在学中より居合道部  
で活躍され、社会人となっても修行を続け  
られ、徳島への転勤により、徳島県居合道  
部への所属となり、福井勝先生のところへ、  
稽古に励んでおられます。研ぎ澄まされた  
集中力を発揮し、見事な試合でベスト四に  
残られたことは快挙であります。次回には  
優勝をし、早く六段へ昇段され、六段の部  
でも優勝を目指してほしいものです。

今回も開催県の大分県が優勝しています。  
開催県はこの大会に向け、猛烈な準備をし、  
大会に臨んでおり、その気迫が審判員の旗  
を上げさせる原動力になっていると思われ  
ます。徳島県居合道部においても少数の居  
合道部員ではありますが、原田勝先生のご  
指導のもと、前回の全国七位、今回の全国  
十一位と全国で通用する技量を持っている  
ことを確信しております。

他県の顔見知りの監督より、「徳島はよ  
く頑張っていたね」と声をかけていただき  
ました。さらに、上位を目指して、精進し  
なければとの思いでいっぱいです。

第48回  
全日本居合道大会  
都道府県対抗優勝試合

剣はたなり  
心正しからざれば  
剣又正しからず  
剣を学ばんと  
欲すれば  
先ず心より  
学ぶべし

中井 博之  
居合道之師也

日時 平成25年10月12日(土)  
開会/午前9:00

会場 ベっぶアリーナ (別府市総合体育館)

主催 全日本剣道連盟 主管 大分県剣道連盟

後援 大分県・大分県教育委員会・大分県体育協会・別府市・別府市教育委員会  
大分合同新聞社・NHK大分放送・OBS大分放送・TOSテレビ大分・QAB大分朝日放送



大会終了後 会場正門前で  
左から 一村昌和 坂本憲一 岸田光博 内海直弥

## 第六十一回全日本剣道 選手権大会に出場して

警察支部 仁 科 文 宏



平成二十五年十  
一月三日、第六十  
一回全日本剣道選  
手権大会に私は出  
場しました。剣道

をする者であれば知らない者はいないであ  
ろう大舞台です。その大舞台に立てたのも、  
同年七月二十一日に行われた徳島県剣道選  
手権大会（全日本剣道選手権大会県予選）  
で、優勝出来たことが、夢の舞台への始ま  
りとなりました。少し県予選を振り返ると、  
準決勝で勝利し、決勝が決まった時、「も  
うこのチャンスは二度と訪れないかもしれ  
ない、またとないビッグチャンスが巡って  
きた。」と感じたことを覚えています。「時  
間をかけても構わない。とにかく勝ちをも  
ぎ取ろう。」と望んだ結果、優勝と言う結  
果に繋りました。旗が上がった瞬間「やっ

と終わった。」と言う安堵感と共に喜びが  
こみ上げたことを覚えています。

全日本剣道選手権出場が決まってからは、  
自分の剣道の未熟さを思い知らされました。  
先輩に誘われ食事に行った時、「これから  
どんどんプレッシャーがのし掛かるぞ。大  
会まで自分で頑張らないと気がやられる  
けんな。」とアドバイスを頂き、その時は  
まだ、正直疑心暗鬼でしたが、稽古や遠征  
に行つて勝てない日々が続き、気持ちも体  
調も悪いわけではないのに不調に陥りまし  
た。とにかく悩み、自分で試行錯誤しなが  
ら稽古に励むも、益々調子は悪くなりまし  
た。たぶん、気持ちのどこかであぐらをか  
いていたんだと思います。そこから、「自  
分は弱い。」その事実を受け止め、もう一  
度気持ちを入れ直し「攻めの姿勢」と弱気  
にならない「強い気持ち」を練る取り組み  
を全日本選手権まで必死で行いました。

そして迎えた試合当日、付き添いで来て  
くれた玉田とアップを行い、やはり緊張し  
ていたのか、体を動かしてもどこかそわそ  
わして落ち着きません。そのとき、対戦相

手である鳥取の播本選手がアップをしてい  
る姿を見かけ、播本選手も緊張しているの  
が分かりました。「やはり誰でも緊張はし  
ている。よし。」と気持ちが入り、落ち着  
きました。

対戦相手である播本選手は、医師と言っ  
大変忙しい仕事をしながら鳥取予選を勝ち  
抜いてきた選手であります。面をつけ試合  
を待つ間、県予選同様「時間がかかっても  
いい。とにかく絶対に勝つ。」その事だけ  
を自分に言い聞かせ集中しました。それは、  
特練代表として、徳島代表としての私なり  
の強い気持ちでした。試合が始まり、とに  
かく相手に余裕を与えないよう、打たずと  
も前でプレッシャーをかけ、攻めることを  
心掛けました。しかし、播本選手も技を繰  
り出してきます。しっかり相手の技を見極  
め、足を使って捌きながらチャンスを窺い  
ました。五分で勝負がつかず延長に入り、  
長期戦となり相手が疲れているのが目で見  
て解り、私の中では想定通りでした。播本  
選手に負けない絶対の自信が練習量、つま  
り体力だったからです。そして、播本選手



が小手を打ち損じた瞬間、私は竹刀を振り下ろし面が決まりました。旗が上がった瞬間「ふう」と安堵のため息をつきました。

続く二回戦、相手は神奈川県警の亀井選手です。激戦区の神奈川で代表となり、今年警察官大会でも大将を務めた選手です。こんな選手と試合をする機会はそうはありません。「挑戦だ。」と言う気持ちで臨みました。試合が始まり、一回戦同様プレッシャーをかけ、前に攻めますが、そこは百戦錬磨の亀井選手、そう思い通りにはいかず、しっかりこちらの攻めに反応し、間合いを詰めさせてはくれません。全神経を研ぎ澄ませた攻防の中、時間内に有効打突は生まれず延長戦、集中力は切れていませんでした。しかし、鏝迫り合いから分かれようとした瞬間、引き面を打たれ、これが一本となりました。

今回、勝利と敗北の差異は無心の打突が表現できたか否かだと感じています。まだまだ未熟であり、稽古を積み、更に高い目標を持って、自分の剣道を突き詰めたいと思います。

最後になりましたが、全日本剣道選手権出場にあたり多くの先生方はじめ先輩、後輩、また、剣道に携わる方々、家族に支えられ、あのような大舞台で貴重な経験をさせて頂いたことに感謝しています。ありがとうございます。そして、剣道を始めるきっかけとなった祖父（堀江幸夫）に感謝します。今回の経験を生かし、これまで以上に頑張りますので、これからも変わらぬご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



## 第五十六回全日本実業団

### 剣道大会に参加して

大塚製菓徳島剣道部

部長 櫻 井 一 志

大塚製菓徳島として一昨年に全日本実業団剣道連盟に加盟し、昨年九月二十三日、日本武道館で開催された第五十六回全日本実業団剣道大会に始めて参加しました。今回の大会には、全国から三三六の実業団チームが参加し、同時に十六会場で試合が進行され、武道館は実業団剣士の気合と熱気、そして応援の拍手に包まれておりました。試合会場が隣接しており、試合前後の整列も隣の試合会場との間を縫うようにと窮屈でしたが、周りの熱気も伝わる感じで武道館全体が高揚していました。今回、徳島からは大塚製菓の他に日亜化学工業と四国電力が参加しました。大塚製菓は若手主体で、先鋒・久保、次鋒・矢野、中堅・仁木、副将・西田、大将・谷口、監督・奥田でチームを組みました。前日に東京に入り、大会

当日の朝に武道館に移動し、アップして試合に備えました。一回戦は不戦勝で、二回戦は強豪の三井住友銀行大阪本店と対戦しました。ともに一勝三分一敗と勝敗では並んだものの、先鋒・久保の二本勝ちが貢献し、からくも本数勝ちで全日本実業団剣道大会初参加の緒戦を初勝利で飾ることができました。三回戦はこれまた強豪の東レ名古屋でしたが、一試合を終えて体が動くようになったせいも、先鋒から三人が順調に勝ち進んで二勝目をものにしました。そして四回戦は東芝テック本社とベスト三十二をかけた試合に臨みました。この日二勝と好調だった久保が破れ、矢野が取り返したものの、西田、仁木と敗れて四回戦敗退が決まりました。四回戦で敗れはしましたが、全日本実業団大会に初参戦で強豪相手に二勝出来たことは、嬉しいことです。今後の自信にも繋がりました。

徳島から本大会に参加した日亜化学も二回戦で鹿島建設本社を破り三回戦まで進みましたが、日立製作所本社に敗れました。四国電力は二回戦でベアハグ渋谷店、三回

戦で四電工、四回戦で新日鐵住金名古屋を撃破し、ベスト十六を賭けて第四十回大会で準優勝の経験がある強豪の伊田テクノス本社と対戦しました。残念ながら伊田テクノス本社の壁は破れなかったものの、ベスト三十二と素晴らしい戦績を残しました。参加した三チームともに勝利を残すことができた訳ですが、この大会に先立って七月三十一日に三社合同稽古会を開催したことが、全日本実業団剣道大会に向けて意気高揚の一助になったのではないかと考えております。

今後も全日本実業団剣道大会に参加することで大塚製菓徳島剣道部員のレベルアップを図るとともに、徳島における実業団剣道を活性化する上で多少なりともお役に立てればと考える次第です。最後になりましたが、徳島剣道連盟の皆様方には日頃からのご指導、ご鞭撻に対しましてこの場を借りて深く感謝申し上げます。これからも実業団剣道を温かく見守って頂き、ご指導、ご協力頂ければ幸いに存じます。

表 第56回全日本実業団剣道大会における大塚製薬徳島の戦績

二回戦	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	引分	負数	本数
大塚製薬徳島	久保	矢野	西田	仁木	谷口	1	3	1	2
	メメ〇								
		△	△		△				
三井住友銀行 大阪本店				メ〇		1	3	1	1
	竹下	丹羽	牛丸	渡邊	軸原				

三回戦	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	引分	負数	本数
東レ名古屋	林	伊藤	早場	都竹	安本	1	0	4	2
				メ〇	コ				
大塚製薬徳島	ド〇	コ〇	メ〇		メコ〇	4	0	1	5
	久保	矢野	西田	仁木	谷口				

四回戦	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	引分	負数	本数
大塚製薬徳島	久保	矢野	西田	仁木	谷口	1	0	4	2
		コ〇	コ						
東芝テック本社	メツ〇		メメ〇	メ〇	メメ〇	4	0	1	7
	高橋	尾崎	鈴木	佐伯	澤野				



# 第六十五回(平成二十五年) 四国四県剣道大会報告

監督(麻植支部)

藤川和秋



第六十五回(平成二十五年) 四国四県剣道大会が平成二十五年五月十九日(日)高松

市香川総合体育館で開催されました。(大会成績表、出場選手、対戦結果については本文末に掲載)

昨年度は徳島県が開催地で、本県が七年前に優勝したことから「今年も優勝を！」との思いで試合に望みましたが、健闘及ばず、結果は第四位となりました。

当日の初戦は高知県で、本県選手は気合十分で試合に望みました。先陣の女性三名がよく頑張り勝敗を五分に持ち込んで男性陣にバトンを渡しましたが、初戦の固さがあったのか接戦の末五対三で惜敗してしま

ました。

しかし、その中で副将の白木洋一選手が熟練された技、試合運びにより二本勝をおさめたのは見事でありました。

第二試合は愛媛県と対戦しました。愛媛県は香川との第一試合で大敗していることから奮起し、徳島県との試合は見違えるほどの気迫と動きでした。これに対し本県は第一試合の余韻が残っていたのか、選手は自分の力を十分出しきれず、九対二で大敗してしまいました。

第三試合は香川県と対戦しました。香川県は本県に勝てば優勝であることから、香川県選手には優勝への意気込みが感じられました。しかし本県の女子先鋒、平野千尋選手は、これに負けじと果敢に攻撃し小手の一本勝をおさめたのです。これで本県の勢いがついたと思われましたが、さすが試合巧者がそろう香川県、それ以降は香川県の試合の主導権を握られ、結果は九対四の惨敗となりました。しかし香川戦では、本県の四将青木博志選手が二本勝をおさめたほか、大将戦では西谷肇一選手が香川県の

第65回四国四県剣道大会成績表

	愛媛	高知	徳島	香川	勝敗	勝者数	勝本数	順位
愛媛		18/9	15/9	2/1	2	19	35	2
高知	12/4		9/5	11/4	1	13	32	3
徳島	5/2	7/3		9/4	0	9	19	4
香川	10/6	15/8	18/9		3	23	43	1

試合巧者である三原悦男選手と対戦し、見事な小手打ちで勝利するなど見応えのある試合も見受けられました。  
今回の大会は残念ながら第四位という不本意な結果に終わりましたが、来年度の大会を目指し選手皆さんの今後の取り組みに期待して大会報告とさせていただきます。

出場選手

徳島県	年齢別	女子			20代		30代			40代			50代			60代	
	順位	監督	先鋒	次鋒	13将	12将	11将	10将	9将	8将	7将	6将	5将	4将	3将	副将	大将
	氏名	藤川和秋	平野千尋	前田奈々枝	玉田真理	玉田赳大	大石真也	隅田憲男	金野卓司	山本泰史	鳴川善人	岩原靖人	平野誠司	青木博志	富浦廣志	白木洋一	西谷肇一
	年齢	61	23	30	46	24	27	31	37	38	42	42	49	51	52	52	61
	段位	教七段	四段	五段	五段	四段	五段	五段	六段	錬七段	錬七段	錬六段	教八段	教七段	教七段	教七段	教八段
	職業	県嘱託員	警察官	教員	教員	警察官	教員	警察官	刑務官	会社員	刑務官	教員	警察官	警察官	教員	教員	無職

対戦結果

第一試合	県名	順位	先	次	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大
	高名	氏名	近藤	濱田	大崎	西村	中澤	立石	宮地	中原	山下	石川	田村	岡本	久保	小松	門田
	知得	9 5	⊖	⊗	⊗		⊗		▲			⊗		⊗	⊗		
	徳点	7 3	⊗	⊗						⊖					⊖	⊖	
島名	氏名	平野千	前田	玉田真	玉田赳	大石	隅田	金野	山本	鳴川	岩原	平野誠	青木	富浦	白木	西谷	

第二試合	県名	順位	先	次	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大
	愛媛	氏名	黒河	松木	三木	菅太	高橋	谷口	川上	藤田	片山	片桐	原	菅幹	青野	馬越	俊野
		得点	15 9	⊗	⊙ ⊗	⊙ ⊗	⊙	△	△	⊙ ⊗	△	⊗ ⊗	⊗ ⊗			⊙ ⊗	⊙
	徳島	得点	3 2				△	△					⊙ ⊗	⊗			△
島	氏名	平野千	前田	玉田真	玉田越	大石	隅田	金野	山本	鳴川	岩原	平野誠	青木	富浦	白木	西谷	

第三試合	県名	順位	先	次	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大
	香川	氏名	中野	谷本	立川	矢野	村上	木下	安部	柳	井口	笹谷	玉浦	真鍋	松本	桑原	三原
		得点	18 9		⊗	⊙		⊗ ⊙	⊗ ⊗	▲	⊗ ⊗	⊙ ⊗	⊗			▲	⊗ ⊗
	徳島	得点	9 4	⊙	⊗		○ ○							⊙ ⊗			⊗ ⊙
島	氏名	平野千	前田	玉田真	玉田越	大石	隅田	金野	山本	鳴川	岩原	平野誠	青木	富浦	白木	西谷	

## 無心の一振り

### 〈全国警察剣道大会三位入賞〉

警察支部 平野 誠 司

全国警察剣道大会、徳島県警のこれまでの成績は、昭和五十六年に第二部で三位。その十年後の平成三年に同じく第二部で三位。三部制となり、十年後の平成十三年には第三部で優勝。次は平成二十三年であったが大震災で中止。その二年後の今年、ようやくこの十年周期に乗っかり、第三部で三位入賞、第二部への昇格を果たすことができた。

「負けても負けても、目標達成に向けてひたむきに努力する。」まさに起き上がり小法師の剣道教育がここにある。第二部への昇格は五年ぶり、久しぶりに全国の土俵に上がった気分となった。

一次リーグの結果は、島根県を二対一、栃木県を三対一で下し、二次リーグへ駒を進めた。次の対戦相手は富山県と山梨県である。

「勝てば選手の力、負ければ監督の責任」監督の覚悟を前面に押し出し、まさに総力戦、本来あまり選手を動かすことを好まないが、今回はさすがにその起用には苦しんだ。

「負けることなし、勝つことなし、是非を云わず、己を全うして、外を願わず」雲弘流の箴言どおり、

「開始のところで絶対に五分に立ち会わない。ここでは先をとれるかどうかの一点だけ。打つ、打たないは別として、とにかく前に出て相手を十分に構えさせない。敵を前にしては自己のまとまり、そして精一杯しかない。いいか。いくぞ。」「よーし。」

剣道の監督はいざ試合が始まれば、選手を信頼し、全てを任せて見守るだけであるが、試合と試合の幕間だけは狂言師と化する。オーダー選考に痺れながら、起用した選手の見事な勇姿に大きな感動を覚えた。

二次リーグの結果は、初戦の富山に〇対三で破れたものの、山梨が富山に二対一で競り勝ち、徳島が山梨に四対一で快勝したため三つ巴となり、徳島は富山と勝者数で

並んだが、本数が二本足りず、富山が一位、徳島は二位と涙を吞んだ。

最後の試合は、三位決定戦。最後は勝って終わろうと勢いに乗った徳島は、滋賀を四対一で圧勝し、第三位が確定した。

今年の収穫は、若手選手がベテラン勢の心に火をつけ、お互いの勝負心が高まってきたことに尽きる。若手起用で全員が競り合い、大会直前には横一線となっていた。

剣道の試合で学ぶもの、それは「人間は真剣（必死）になれば誰とでも互角になれる」ということを体得することであり、そこがわかれば「元気」を換気し、旺盛な「気力」を養うことができる。

「術の媒介として道の工夫をする」術を高めながら、自分も前進しなければならない。この手段と目的を一体化させていく過程こそ、自らの鍛錬である。ものの見方、考え方、生き方等々、その場その場に応じて正しい心の持ち方や判断ができるように修行しなければならない。

単に非現実的な勝負論にとどまることなく、高い目標を持ちながら、剣道家の一人

一人がその立つ位置で自己を表現していくことが、「剣は心なり」と言われる「剣心」を育んでいくことになるのだろうと思う。

若い世代に伝えていかなければならないこと。それは単なる「心なしの術」ではなく、現実の社会に活きる「心ありの術」。これが「剣の心」である。

田舎の地・徳島ではあるが、その片隅で一隅を照らし、剣道が継承されていくための価値観を見据えていきたいものだ。

話は戻るが、来年の全国大会は第二部に昇格し、選手構成も一人増え、もう一つ厳しい舞台での勝負となる。選手一丸となって第二部での優勝を目指しながら、一年間の修行に邁進したいと思っている。

**試合結果(第三部)**

**一次リーグ**

徳島県警 2(5)ー(3) 1 島根県警

先鋒 玉田 コ×ツ 花田

次鋒 六條勝 メー 吾郷

中堅 六條洋 ー コ上 田

副将 敦賀 メ×ド 佐藤

大将 山名 メメー 恩田

徳島県警 3(4)ー(2) 1 栃木県警

先鋒 村井 メー 吉原

次鋒 玉田 メメーメ 大塚

中堅 六條勝 × 若林

副将 六條洋 ーメ 大友

大将 山名 メー 白石

**二次リーグ**

徳島県警 0(0)ー(5) 3 富山県警

先鋒 村井 ー コメ 吉田

次鋒 玉田 ー コメ 小木

中堅 六條勝 × 野崎

副将 敦賀 × 安田

大将 山名 ー コ 若林

徳島県警 4(5)ー(2) 1 山梨県警

先鋒 村井 ーメコ 雨宮

次鋒 六條勝 メドー 丸茂

中堅 六條洋 メー 北村

副将 仁科 コー 堀内

大将 山名 メー 亀谷

**三位決定戦**

徳島県警 4(6)ー(3) 1 滋賀県警

先鋒 六條勝 メー 南部

次鋒 六條洋 メコー 豊富

中堅 仁科 ーメド 中野  
副将 敦賀 コメーメ 三雲  
大将 山名 メー 清水





## 第十五回中四学連剣友

## 剣道大会優勝

藤 本 辰 夫

徳島大学剣友会は、かつて徳島大学剣道部に所属し卒業しているOBの集まりです。平成二十五年十二月十五日、香川大学で開催されました第十五回中四学連剣友剣道大会において、徳大剣友会が熟年の部で大変うれしい初優勝に輝きましたのでご報告をさせていただきます。

学連剣友剣道大会は、関東地区、関西地区、中四国など地域別に分かれて実施されている大会ですが、どこの大学であっても申し込めばどの地域の大会にも参加でき、二年に一度開催される全国大会の予選も兼ねている大会です。今大会の一週間前に私たち徳島大学熟年チームは、大阪の舞洲アリーナにて開催されました関西学連大会に参加し、先鋒志田、中堅藤本、大将は元大阪ガス理事の井口昭則先輩という布陣で三位になり、優勝まであと一步という惜しい

結果を残しました。

今大会は、そのリベンジという意味でメンバー一同大変気合が入ったものとなりました。先鋒は徳島大学医学部卒、現在関西のベルランド総合病院副院長の倉都滋之君、中堅は教育学部卒、兵庫県立家島高等学校で教頭をしている志田守君、大将が私、工学部卒、有限会社藤本興産の藤本が今回の熟年の部の参加メンバーでした。

初戦の相手は日体大Bチームです。このチームは過去に三度優勝しており、私たちのチームも昨年敗れた相手でした。それだけに今度こそはとの気持ちも強く、先鋒倉都君、中堅志田くんが一本勝ちで見事勝負を決めてくれました。第二戦は鳥取大学剣風会A、第三戦は山口大学と対戦して順調に勝ち上がり、準決勝で国士舘大学愛媛Bと戦うことになりました。先鋒、中堅が引き分けて大将戦での勝負となり、引き分けてもよし、とにかく一本も取られてはならないとの思いで、三分の試合時間の最初は間合いを切って勝負しました。中盤になって相手が引いたところを押し込んで面を打っ

たところが一本となり、さらに二本目の面も取ることができて待望の決勝戦に進むことができました。

決勝の相手は愛媛大学Bでした。決勝は試合時間が四分と長く、力のこもった戦いをしましたが、先鋒、中堅ともに引き分けて大将の私も引き分けになってしまいました。規定によると、代表決定戦は大将同士のじゃんけんで勝った方がくじを引き代表を決めることになっていて、くじの結果は大將戦でした。私がやるしかありません。体力は限界でしたがこれまでやってきた稽古を信じて精一杯戦いました。最後は相小手からの面が決まり輝かしい優勝を決める一本を取ることができました。

表彰式では立派な錦の優勝旗とカップをいただき、一緒に戦ったメンバーと、最期まで応援に残ってくれた徳大剣友会成年部のメンバー一同で感慨深い喜びを分かち合いました。徳島大学剣友会の会員は、離れたそれぞれの地で稽古をしています。いざ試合となると結集してチームワークを強く固にして相手チームに向かう一方、お互い

もライバルとして負けまいと、切磋琢磨をして日ごろから少しでも力をつけようと努力をしています。今度は全国大会で成果を出したいと思い、私は還暦を越えた老体に鞭打って益々稽古に励んでいるところです。

## 平成二十五年

### 徳島県高齢剣友会活動状況

事務局 笠 井 勝



徳島県高齢剣友会は、遠藤一美会長のもと、九十九名の会員（平成二十五年四月末現在）

で活動を進めてきた。

平成二十五年度は、主な行事として次の活動をした。

（四月）

・第二十八回徳島県高齢者剣道交流大会  
開催

（五月）

・第二十五回土佐生涯剣友会交流大会参加

（六月）

・第三十五回全日本高齢者武道大会参加

（七月）

・西部地区稽古会開催（吉野川市）

（九月）

・第十九回徳島県健康福祉祭剣道交流大会（二〇一三とくしまねりんピック）  
開催

（十二月）

・南部地区稽古会開催（阿南市）

（毎月）

・原則二回の稽古会開催（松茂町）

以上の行事の内、「第二十五回土佐生涯剣友会交流大会」、「第三十五回全日本高齢者武道大会」については、直接関係する会員の先生方から、ご報告いただくこととして、その他の活動について事務局の方から報告することとした。

◎第二十八回徳島県高齢者剣道交流大会

平成二十五年四月十四日（日）午前九時から県立中央武道館で実施。

開会式の後、日本剣道形が、打太刀・教士七段松村和宏先生、仕太刀・錬士六段寒川博文先生により行われ、続いて、居合道長谷川英信流古伝組太刀、太刀打・居合道教士七段坂本憲一先生により、鞘付き木刀を使用して、迫力のある打ち合い演舞が実



施された。

その後、四十四名の参加選手を年代順に二分して、紅白戦を実施した。

試合結果は、紅組七勝（一五本）白組九勝（一七本）で白組の勝利となった。

紅白戦が終了した後、徳島県高齡剣友会総会が開催され、平成二十四年度の事業報告及び会計収支決算報告並びに会計監査報告がなされ、続いて、平成二十五年度事業計画案及び同予算案が審議され了承された。

午後からは、全日本高齡剣友会（高崎慶男、岩立三郎）の二名の先生方、土佐生涯剣友会（監督・橋本正視、鮫島重雄、篠崎俊雄、中田伊佐夫、戸田七夫、栗尾博義、門田豊、山中康喜、浜田善司、山本進）の十名の先生方、兵庫県高齡剣友会（監督・伊澤章、磯崎昭朗、栗山博、佐藤義典、北二郎、岡本浩、阿部春冶、蛭子稔、河原田良一、岡本洋子、川東清一、川東夫人）の十二名の先生方、香川県高齡者剣道有志の会（世話役・小田俊夫、福浦征紀、修理輝男、小川健一、伏見憲男、田中正広、伊賀昭芳）の七名の先生方の参加を得て、親

善交流試合を実施した。

試合結果

第一試合場

一・香川県高齡者剣道有志の会 対

徳島県高齡剣友会B

一勝（五本） 対 五勝（一〇本）

二・土佐生涯剣友会 対

徳島県高齡剣友会A

三勝（六本） 対 四勝（八本）

第二試合場

一・兵庫高齡剣友会 対

土佐生涯剣友会

二勝（五本） 対 五勝（八本）

二・兵庫高齡剣友会 対

香川県高齡者剣道有志の会

三勝（七本） 対 六勝（一〇本）

親善試合後、全参加者による合同稽古を実施して、お互いに良い汗を流した。

本県会員による試合だけでなく、土佐生涯剣友会、兵庫高齡剣友会、香川県高齡者剣道有志の会の各先生方との親善試合・全日本高齡剣友会の高崎会長、岩立顧問の先生方を含めた合同稽古も行っことが出来、



西部稽古会（平成25年7月13日）於 美郷体育館

大変爽りの多い一日となった。

午後六時からの第二道場は、ホテルグラ  
ンドパレス徳島において懇親会が開催され、  
全日本高齢剣友会、土佐生涯剣友会、兵庫  
阪神高齢剣友会、香川県高齢者剣道有志の  
会、徳島県の高齢剣士四十九名が剣道談義  
に花を咲かせた。

### ◎西部地区稽古会（吉野川市）

平成二十五年七月十三日（土）午後二時  
から美郷ふるさとセンターにおいて、県剣  
道連盟麻植支部の先生方のお世話で、西部  
地区稽古会を実施した。

稽古会は、高齢剣友会を中心に先生方等  
四十名が集い、酷暑の中冷房設備の恩恵を  
受けて、心地良い汗を流した。

稽古会の後、二十二名の先生方は、第二  
道場として用意した油屋美馬館において、  
剣道談議に花を咲かせた。

### ◎第十九回徳島県健康福祉祭剣道交流大会

#### （二〇二五とくしまねりんピック）

平成二十五年九月二十九日（日）午前九  
時から松茂町第二体育館において実施した。

開会式の後、日本剣道形が打太刀・教士

七段兵頭新平先生、仕太刀・錬士七段久次  
米繁興先生により行われた。

その後、準備運動をして、会員選手五十  
七名による交流試合が、団体戦・個人戦の  
順に展開された。

団体戦は、十六チームによりトーナメン  
ト戦が行われた。

・優勝：徳島 B（寒川博文・忠津和憲・中  
村稔裕）

・二位：徳島 D（乾清孝・那倉文夫・川人  
護）

・三位：名 西（松島一成・六条一博・泊  
利治）

・三位：板野西 B（兵頭新平・久次米繁興・  
福永徳）

個人戦は、四十五名の選手が年齢別の四  
グループに別れてトーナメント戦を行った。

〔特組〕優勝（川田武志）、二位（遠藤一  
美）、三位（泊利治）

〔A組〕優勝（美馬勝行）、二位（沢井勝  
之）、三位（中尾正輝・高島稔之）

〔B組〕優勝（出葉成一）、二位（忠津和  
憲）、三位（西堀和文・谷博）



健康福祉祭剣道交流会（平成25年9月29日）於 松茂武道館



高齡剣友会南部稽古会 (平成25年12月14日) 於 阿南スポーツセンター

〔C組〕優勝(藤本辰夫)、二位(東徳美)、

三位(乾清孝・寒川博文)

◎南部地区稽古会(阿南市)

平成二十五年十二月十四日(土)午後二時から阿南市スポーツ総合センターサブアリーナにおいて、県剣道連盟阿南支部の先生方のお世話で、南部地区稽古会を実施した。

参加者は、高齡剣友会員及び、阿南支部会員並びに少年剣士合わせて四十一名が参加し、会場一杯になって相互の稽古を実施した。

なお、午後六時からの第二道場は、ロイヤルガーデンホテルにおいて、二十二名の有志が参加して懇親会が行われ、稽古における技の研究など、剣道談議に花が咲き、会場閉鎖後の寝室において、二次会が熱心に盛り上がった。

◎定例の稽古会

定例の稽古会は、毎月第二、第四土曜日の午後二時から、松茂町第二体育館において実施しており、新しい会員先生の参加もあり、毎回十数名から二十数名の会員が参

集し、熱心に心技体の向上を目指して稽古が行われた。また、少年剣道の錬成にも一助した。



## 徳島愛媛香川高知四県 親善試合に参加して

徳島県高齢剣友会 寒川博文



平成二十五年五月十五日に高知武道館において四国四県の先生方が試合に臨まれました。

徳島は徳島県高齢剣友会、愛媛は愛媛県高齢者剣道同好会、香川は香川県高齢者剣道有志の会、高知は土佐生涯剣友会の剣道大好き人間の集まりでした。

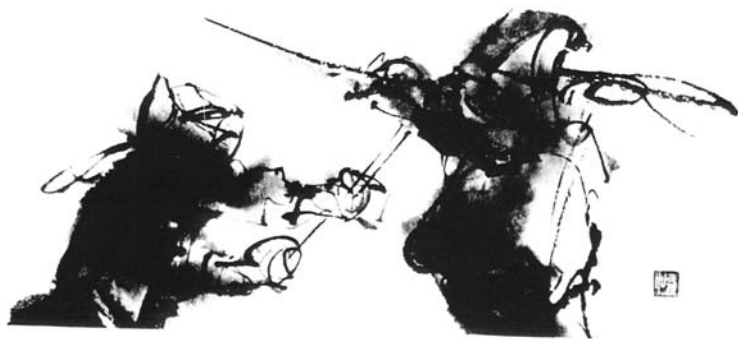
徳島の先生方の長年鍛えてこられた凄さは徳島大会で拝見し、年輪の重みを感じさせていただいておりますが、高知、愛媛、香川の先生方の凄さも今回実感させていただきました。

試合全体で私が思ったことは簡単でした。先生方は剣道が大好きだから怪我にも負けず、多忙でもなんとか時間を作り練習時間を取られているようです。

剣道において「勝負は勝たなあかん」と煽る先生方もいらっしゃいますが、今回参加させていただいた四国四県の交流大会は勝負よりも試合を楽しみ、緊張感の中に剣道ができる喜びをもって闘っているようにお見受けしました。

試合が終わった後の合同稽古は「先ほどありがとうございます」と挨拶を交わし「お願いします」と稽古に汗を流し、そして自分が稽古をつけていたきたい先生の前に並び順番を待ちました。普段あまりお会いできない他県の先生方が交流し稽古されておられました。四国四県の大会が長く続いていくことを願います。

最後になりましたが、お世話いただいた土佐生涯剣友会の皆様、地元のお世話いただいた方々に心より感謝申し上げます。



ねんりんピックよさこい高知

二〇一三に参加して

監督 福井 軍 二



平成二十五年  
度の全国健康福祉祭  
は「長寿の和 龍  
馬の里で ゆめ交  
流」をスローガン

に高知県全市町村で開催された。スポーツ  
交流大会、ふれあいスポーツ交流大会、文  
化交流大会に、徳島県選手団は二十四種目  
一四九名で、期間は十月二十五日～二十九  
日の五日間であった。

十月二十五日十三時より徳島県庁の講堂  
で結団式があり、十四時、バス三台に分乗  
して高知市に向かった。その日は強い台風  
二十七号が南海方面から接近中で、秋雨前  
線を刺激して荒天となり、翌日の総合開会  
式が心配された。高知道は濃霧のため通行  
止めとなり、井川より国道三十二号に変更  
したので高知着が一時間遅れの十八時になっ

ていた。その夜は県選手団全員の交流会が  
あり旧知の方も多数いて楽しい懇談ができ  
た。

十月二十六日、二十七号台風が進路を東  
よりに曲がり、北東に去って、北西の強風  
が吹いていたが、快晴で澄み切った深く青  
い空に雲一つなかった。それは、今日の総  
合開会式に相応しい朝を迎えた。選手団は  
高知県立春野総合運動公園に移動する。開  
会式まで時間が残り各種イベント会場を視  
察した。龍馬の里らしく龍馬の姿でよさこ  
い踊りしているところでは多くの参加者が  
交流をしていた。開会式は十一時～十二時  
盛大に行われ、炬火のランナーとして宿毛  
出身の「間寛平」さんが登場して会場は盛  
り上がった。その後すばらしいアトラクショ  
ンが続いていたが剣道会場となる「宿毛市」  
に三時間かけて移動。二十七号の余波で太  
平洋の荒波が押し寄せていた。宿毛市は四  
国の西南端で温暖な気候と豊かな自然に恵  
まれた静かな印象を感じた。我々一同は明  
日の剣道交流大会の健闘を誓ってリラック  
スして夕食をとり、今日一日の流れを思い

出しながら早めに就寝する。

十月二十七日 剣道交流大会第一日目。  
参加チーム六十八、選手三九四名。本県は  
第四試合場の第十六ブロックで福井県・長  
崎県・東京都A・宮城県・徳島県で第八試  
合目東京都A、第十六試合目長崎県との対  
戦であった。

徳島県選手

- 先鋒 七段 藤本辰夫 六十二才
- 次鋒 七段 藤川和秋 六十二才
- 中堅 七段 東 徳美 六十四才
- 副将 七段 中村稔裕 七十一才
- 大将 七段 高島稔之 七十一才

この陣容が決定した昨年、私は各選手は  
剣道に特質があり、日頃剣の理法の修練を  
心がけて稽古に余念の無い方が選出されたと  
思いブロック予選は勝利すると密かに感  
じていた。

第一試合、東京都Aの試合が刻一刻と迫  
り、試合前の練習を開始する。東京都Aも  
練習を始めており、その練習を観察して、  
この試合は先鋒・次鋒で試合の流れが大き  
く動くと思っていた。十三時過ぎいよいよ

試合が開始。先鋒藤本速攻の攻めで面二本を先取、次鋒藤川試合開始まもなく面を先取、小手を取られたが再びすばらしい面を取って二勝となる。中堅東は果敢に攻め凌いだ。副将中村、気迫十分で粘りよく攻めていたが面を先取され一本負けとなる。勝負は二―一で有利になったが決定せず、大将戦となる。大将高島は冷静に中心を攻めて相譲らず後半高島が面が決まったかに見えたが赤旗一本しか上がらず引き分けとなり、東京都Aに快勝する。次は長崎県との対戦、第四試合場第四試合で、福井県―長崎県の試合を観戦して難しい試合になるが勝負は本県にありと読んでいた。長崎一勝、徳島一勝この試合を制すれば予選リーグより進出し、ベスト一六となる。十六時試合開始、先鋒藤本互いに攻め合い技の応酬を展開したが決定打突なく引き分ける。次鋒藤川、果敢に攻めて攻防優勢な試合運びであったが引き分ける。中堅東、相手も必死で挑んでくるも必戦し攻防が続いたが引き分ける。

副将中村、相手の気迫を上回る勢いで前



に出て攻め善戦したが引き分ける。先鋒から副将まで四引き分けとなって、いよいよ大将決戦である。大将高島、厳しい攻防から一瞬について見事な面を打ち決まる。二本目は冷静に攻めて相手がやや動揺したところを間髪を容れずすばらしい面が決まり観衆からの大きな拍手を聞く。試合時間一分十八秒、長崎県に勝利して第十六ブロック代表となる。その日宿舎に移動中美しい

だるま太陽を見た。交流大会第二日は第十五ブロック代表の大阪府である。この戦いが苦戦することは予想された。先鋒藤本、次鋒藤川は果敢に攻めて応戦したが、引き分ける。中堅東渾身の攻めで凌いでいたが、面二本先取され、副将中村、大将高島充実した氣勢で攻防を展開し善戦したが引き分けとなる。勝敗は決したがベスト一六となり優秀賞メダルを授与された。

剣道交流大会といっても全国的に若手の選手でチームを編成し勝負にかけている県が多数をしめていた。長崎県に快勝したとき全員で手が痛くなるほど拍手を送る。各選手が自己の特質を生かして果敢に厳しい攻防を続けて後になぎ大将で勝つとは、まさに剣道のすばらしさであった。今回の本県剣道選手団は、自己管理、チームワークも良好、終始リラックスして大会に望んだ事が好結果に繋がったと思い選手の皆さんに心から感謝しています。これからの選手の皆さんは健康管理に十分配慮し、ご精進されますことを希望して監督の報告と致しますと共に徳島県剣道連盟、高齢剣友会





に御礼申し上げます。

予選リーグ (第16ブロック)

平成25年10月27日

第4試合場 第8試合

団体名	先	次	中	副	大	勝者	本数	勝敗
徳島県	藤本	藤川	東	中村	高島	2	4	○
	⊗ ⊗	⊗ ⊗						
東京都A	栗原	土方	今津	⊗	早川	1	2	×
				宮谷				

第4試合場 第16試合

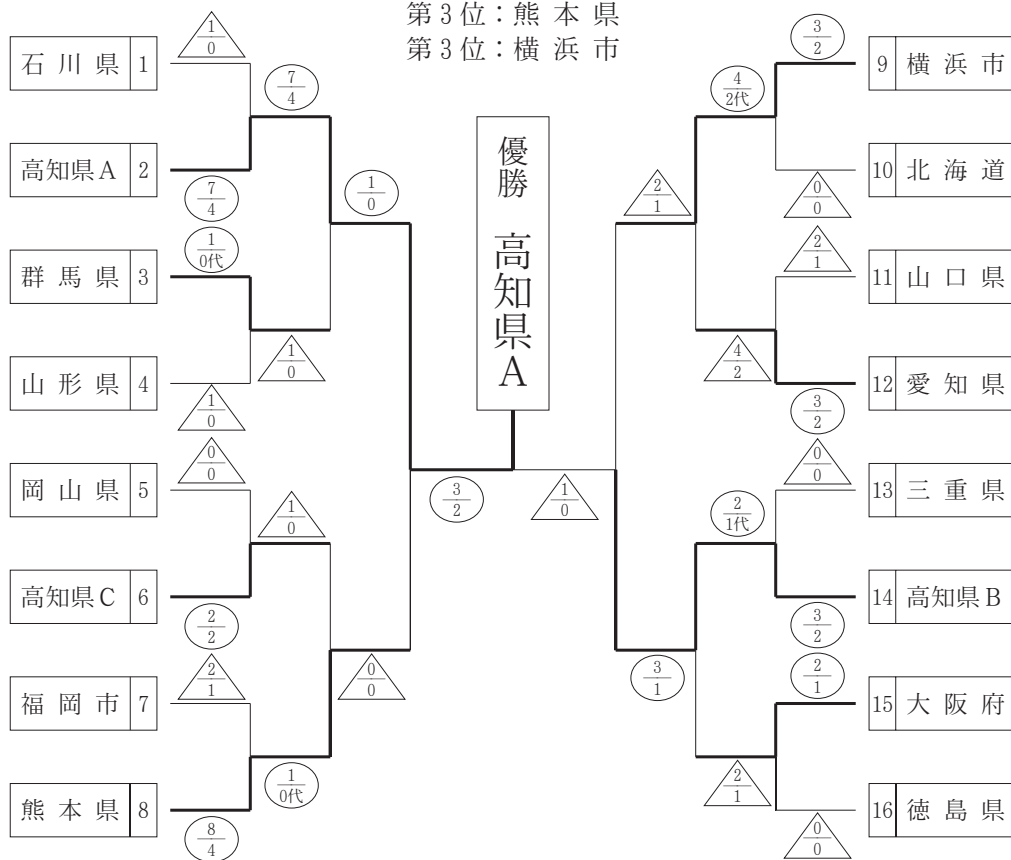
団体名	先	次	中	副	大	勝者	本数	勝敗
長崎県	小ヶ倉	梅本	友永	古竹	林田	0	0	×
徳島県	藤本	藤川	東	中村	⊗ ⊗	1	2	○
					高島			

16ブロック	福井県	長崎県	徳島県	東京都A	宮城県	勝敗	負数	勝者数	総本数	順位
福井県		$\frac{1}{0}$			$\frac{2}{2}$	1	1	2	3	3
長崎県	$\frac{2}{1}$		$\frac{0}{0}$			1	1	1	2	4
徳島県		$\frac{2}{1}$		$\frac{4}{2}$		2	0	3	6	1
東京都A			$\frac{2}{1}$		$\frac{3}{3}$	1	1	4	5	2
宮城県	$\frac{1}{1}$			$\frac{1}{1}$		0	2	2	3	5

# 決勝トーナメント

平成25年10月28日

優勝：高知県A  
 準優勝：高知県B  
 第3位：熊本県  
 第3位：横浜市



## 第4試合場 第2試合

団体名	先	次	中	副	大	勝者	本数	勝敗
大阪府	田中	西本	石丸	廣田	大鳥濱	1	2	○
			⊗ ⊗					
徳島県	藤本	藤川	東	中村	高島	0	0	×

# 全国高齢者武道大会に

## 参加して

藤 本 辰 夫

### 一、開会式

開会式は、日本武道館が狭く感じられるほどの選手が一堂に会した。徳島県は男性十四人、女性二人の選手団であった。選手宣誓では、宣誓を予定していた最高齢の選手が前夜お亡くなりになり、黙祷をささげた後代読で行われることとなったが、高齢者大会ならではの重厚な開会式であった。

### 二、団体戦

開会式が終了すると、演武の後すぐ団体戦が始まった。我がチームは過去の本大会個人戦に於いて四度優勝経験のある大将の遠藤一美先生、副将は高齢剣友会理事長の高島稔之先生、中堅の美馬勝行先生と次鋒の東徳美先生もそれぞれ個人戦の優勝、準優勝の経験があり、初参加の私以外はそう

そうたるメンバーであった。今大会は参加チームが二十二チームと多くて、団体戦の試合時間は三分が二分に縮められ、勝負のつかないときは引き分けになるとのことであった。私の試合経験上二分という短い試合時間と先鋒を務めるのは初めてのことであり、いつもよりかなり緊張して試合にのぞんだ。

第一試合目（対広島県）私は、先鋒はペースメーカーとして二分の短い時間で士気を鼓舞しなくてはならないと思い、開始早々から全力で相手に立ち向かった。それがあせりとなったためか相手に先に面を取られてしまった。その後なんとか面を二本取り返し無事役目を果たすことができて、チームは三勝〇敗で勝利した。

第二試合目（対山梨県）少し落ち着きを取り戻した私は、小手、面と連取して、チームは二勝〇敗で勝利した。

第三試合目（対高知県）お隣の高知県はこの年の秋にねりんピックを控えており、選手強化が万全で、先鋒の私は引き分けに終わってしまい、チームは一勝二敗で惜敗

した。高知県は堂々の三位入賞を果たした。団体戦はベスト八で敗退したものの、中堅の美馬勝行先生は一本も取られずに全勝されるという見事な戦いぶりを見せて下さった。また、試合では選手同士の気持ちが一つになり、今後の試合につながる手応えを感じた。

### 三、個人戦

個人戦は四人一組の一人二試合しかできない変則予選リーグであった。先輩の諸先生方から予選を突破するためには、対戦する二人に完璧な二本勝ちを収めなければ難しいとお聞きしていて、意識しすぎた私はあっさりと予選リーグ落ちという結果に終わってしまった。今回も三人の先生方は予選リーグを突破し決勝トーナメントで活躍されたが、残念ながら入賞は逃された。徳島県は数々の先生方が過去のこの大会の個人戦において輝かしい成績を残されているが、大会に参加してみても改めてその偉業に敬服した次第である。

#### 四、東京見物

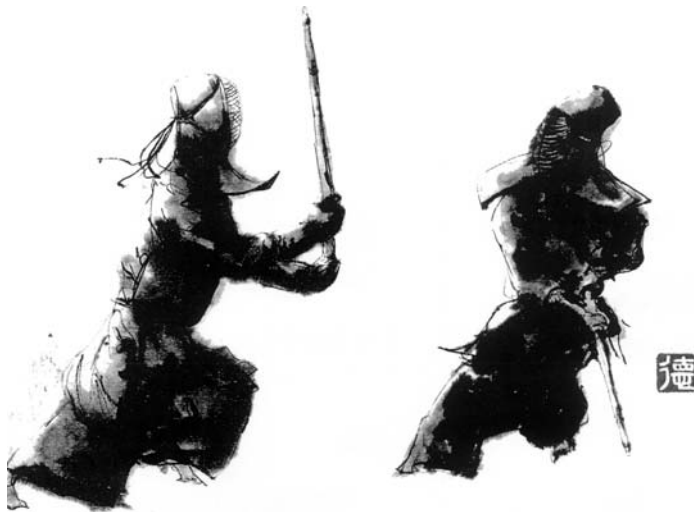
個人戦が終了して、高島稔之先生の周回な旅行計画に基づき、東内勉先生と私の三人で東京スカイツリーと歌舞伎座を見学させていただいた。東京スカイツリーに到着したのは、ちょうど夕方の時間帯で、日中の景色と壮大な夜景の両方を堪能することができ、翌日は、歌舞伎座で日本が世界に誇る歌舞伎の舞台を私は初めて観ることができた。世界における最先端の建築技術と江戸時代から続く伝統文化という両極に位置する二つの東京を見ることができて、改めて日本の技の奥深さと素晴らしさを感じ入り、大変満足のいく東京見物となった。

#### 五、おわりに

第三十五回全国高齢者武道大会は、手応えのあった団体戦、自分の力不足を感じた個人戦、念願であった東京見物と充実した三日間を過ごさせていただき大変印象深い大会となった。平成二十六年を迎え、このたびの経験を生かし今回はより良い試合結

果が出せるよう、これからもさらに稽古に励もうと決意を新たにしている。

最後になりましたが、大会参加に当たりご指導、ご援助を賜りました先生方に深く感謝を申し上げて報告とさせていただきます。ありがとうございました。



# 随想

## 私の剣道修行

大澤 孝 彰

私は幼稚園の時から剣道を亡父に教えられ、中学二年頃迄はまずまずの修業でしたが、中学三年の時世界大戦敗戦で剣道禁止となり、高校・大学、若い時の社会人時代と一番大事な時に剣道が出来ていません。しかし、三十四歳から剣道ばかりの生活に入りました。自分の道場の稽古、高校の正課剣道の講師、県警機動隊の稽古等にも参加させて頂き、無我夢中で修練しました。県の代表選手としての試合、各種講習会への参加等ほんとうに剣道一筋に暮らしてきました。今日まで数限りない思い出がありますが、特に印象に残っている稽古等を思い出すままに年代不同で少し書いてみたいと思います。

### 一

故山家雪藏先生が終戦後、振武館道場を驚敷に開館され、丹生谷地区の剣道発展に尽力されていました。亡父と私と二人でたびたび御指導を受けに参りました。先生に私が掛り、亡父が掛りを二回繰り返し、約一時間余稽古をつけて頂きました。そして入浴の後大変な御馳走をして頂きました。御指導を受けた上に大御馳走です。剣道家とはこんなに迄しなければいけないのかなあと心に深くしみ込みました。

### 二

全日本剣道道場連盟発足の第一回会合が京都の祇園の料理屋で開かれ全国二十四の道場主が集まり、私は亡父の代理で参加しました。会長は佐賀の故大麻先生でした。会の中では私が一番若かったので階段近くの一傘下座にいました。会が終わって宴会になった時大麻先生が自己紹介と芸を注文されました。私は最後に阿波おどりを披露した所、大麻先生(十段)が大変気に入られ、席の前に呼ばれ盃を頂きました。翌年の会合の後稽古会がありました。大麻先生

が最上席に立たれました。すぐに有名な八段先生が前にずらっと並びました。ところが大麻先生が面を着けられ誰かを探している様子でした。私が後ろの方に居たのを見つけて手招きされ、私が一番に呼ばれたのです。八段の先生方に気がねをしながら先生の前に立つと、いきなり「切り返し」と言われました。一回切り返しの後、普通の掛り稽古かと思いきや「へとへと」になる迄切り返しばかりで終わりました。稽古会が終わってお礼の挨拶に行くと「非常に良い切り返しだった」と褒めてくれました。この時私は七段でした。

### 三

香川県で四国の有志の稽古会があり愛媛の故作道先生が御指導に來られました。作道先生が範士になられた時、亡父(先生と知人)と二人でお祝いに行きました。「範士半生ですよ」と笑って居られましたのが大変印象的でした。稽古会では私が掛り稽古で「ふらふら」になってからもう一本もう一本と徹底的に指導して頂きました。一番印象に残っているのは先生の竹刀が私の

竹刀にひっついていて離れないので全く打てなかった事です。

#### 四

私は柳生講習会の参加は第九回です。当時の参加資格が四十歳以上だったので一番若く、講師の故中野八十二先生の当番となり、稽古が終わって先生の稽古着を洗濯して講師室へ持参すると先生が足の手入れをして居られました。見せて頂いてびっくりしました。「木のかぶた」とそっくりでした。こんなになる迄稽古しなければ日本一流の先生にはなれないのだと心に深くきざみ込みました。

#### 五

故堀江先生にお供して全国講習会（各県二名）に上京しました。稽古で故中倉先生が元に立って居られ、埼玉の故市川彦太郎先生（当時範士八段）が掛かって居ましたが、ものすごい力と勢で打ち込まれて居ました。その次が堀江先生、その後私に並んでいて堀江先生の袴を引っぱって違う所へ変ろうと言いましたら、それこそ見つかつたら大変だと言われ堀江先生が掛りました。

市川先生とやって居られたよりは少し手加減された様でした。私は始めから必死で掛り稽古をして、「参りました」と終りました。相手に適した指導をされて居られるのだと感心しました。

#### 六

柳生九回の講習生で九柳会の名称で毎年一回当番県で稽古会を実施しました。徳島でも二回引き受けてその後も盛大にしかも長く続きました。当時二刀流では全国で代表的な存在だった熊本の八木夫兵衛先生も、二回試し切り等も組み入れて盛会でした。一回目の時、地元剣士等とも充分稽古した後、八木先生に掛りました。案外上手に出来たのでほっとしました。ところが二回目の会でよーしと八木先生に掛りました所、こてんぱんにやられました。前年は喜ばしてくれたのだなあと自分の愚かさを反省しました。

#### 七

先にも書きましたが、何回目かの全国講習会（各県二名）の剣道形の講習で最後に匆引での形の代表に選ばれびっくりしまし

た。打太刀は大分の故葛城先生、仕太刀が私で大変緊張しましたが、せいっぱい演じました。剣道形の主任講師の故重岡先生は講習生全員の前では「まあまあ」と言われましたが、後で私を呼んで下さり良く出来たと言って下さいました。大変嬉しかった事を思い出しています。

#### 八

四国四県の八段約十名の講習生が重岡、植田両先生が講師で第一回を香川で、次年度は高知ですばらしい剣道形講習会でした。勿論形終了後、剣道稽古も両先生に御指導を受けました。この形の講習会が、勿論まだまだ未熟ですが、私の剣道形の集大成となった様に思います。その後各種講習会講師に指名され一生懸命勉強して頑張った事が大変な修業になったと思つて居ります。

## 私の剣道人生

川 田 武 志



### 剣道との

#### 出会いと修行

私は、竹刀を握っ

て約六十年になり  
途中、自分の不注

意によって体調を崩し約一年余り療養し、  
お陰をもちまして体調も回復し、現在は、  
少年剣道並びに生涯剣道に励んでいる今日  
です。

私が剣道を始めたのは、昭和二十九年四  
月城西高等学校の一年生からでした。当時  
の剣道師範は下村富夫先生でありました。  
当時城西高校には剣道部と言う部活動がな  
く、定時制の生徒が旧陸軍の兵舎を改造し  
た古い木造建ての教室で机を後方に片付け、  
剣道愛好会として下村先生の指導の下で練  
習を行っていました。

全日制の生徒も剣道を習いたい者が六・  
七名いましたが、その内中学から剣道を習っ

ていた者が一名で他の者は初めての者ばかり  
でありました。そのような状況でしたが、  
下村先生にご指導をお願いしたところ、  
「よし判った。厳しいぞ。」と快く引き受け  
て頂きました。

また、実績を作らなければ全日製の体育  
会に剣道部として置くことができないとの  
ことであり、まず我々一年生は、全日製の  
剣道愛好会として定時制の愛好会と合同練  
習することにしました。当初、下村先生は、  
「武士の剣道をしなければならぬ。武士  
の躰である。」と言い、礼儀作法、足捌き、  
素振り、切り返し等を厳しく鍛えられ、剣  
道具を着装して練習するようになったのは、  
二ヶ月ぐらいしてでありました。

これらにより下村先生より、学校側に剣  
道部設立要請して頂いたところ時期尚早論  
が一部にあったが、先生の熱意とやる気充  
分であり、又各先生方のご援助により全日  
制の剣道部が設立できたのです。

そして、生みの苦しみが、むしろ部員達  
の刺激となり期待に応えるべく厳しい練習  
が始められました。

下村先生は、強くなるよりも武士として  
の心身の躰を基としたことを指導され、礼  
儀作法、剣道具のつけ方、稽古方法、又、  
技等の研究課題を出すなどされ厳しい練習  
が行われました。

練習場所は、定時制が授業をしている教  
室で、授業が終われば机を後方に片付け金  
槌を用意し床に浮き出る釘を打ち込みなが  
ら稽古に励み、教室が使用できない時は、  
運動場片隅に貼られたコンクリート上で運  
動靴を履き稽古に精を出した時もありまし  
た。(当時本校に、体育館が完成したのは  
昭和三十年四月頃からで、二年生になっ  
てから一部剣道練習に使用ができたのです。)  
また、冬には自転車の後部荷台に剣道用  
具と食糧を入れた用具袋を積み、県下の剣  
道が盛んなクラブ、道場を訪ねての武者修  
行も行いました。

当時の国道県道は舗装などされておらず、  
ほとんど砂利道でした。一日何十キロも自  
転車で走り、しかも強風・雪に合うなど大  
変な移動でした。しかし、恩師は「これも  
根性、足腰の鍛錬のためだ、頑張れ」と激

を発し部員達を励ましながら一人の脱落者もなく目的の地まで完走させ、剣道人と稽古に励んだこともありました。

さらに、年間六回の合宿練習を実施しました。試合前は、一週間の合宿練習をし、そのまま試合に赴くなどし、年中無休に近い猛練習でした。

その結果、一年目、初めての県下高校剣道大会は県下の高校から一〇校が参加して行われ、選手は全員一年生でありながら準優勝。二年目（城西高校二年生時）も県大会は、準優勝でした。当時、全国大会は剣道としない競技の二種目行われ、予選第一位が剣道で第二位がしない競技に出場が出来、城西高はしない競技に県代表として全国大会に出場。選手は全員二年生ながら無欲で闘い準決勝まで進出することができました。

昭和三十一年、高校三年生時には（城西高校から徳島農業高校に改名）第三回全国高等学校剣道・しない競技大会が福島県会津若松市で行われた際、県代表となり出場、全国大会は上位入賞を念頭に必死の稽古を



第11回兵庫県国体 剣道高校の部第三位  
左から 藤田博三、下村富夫先生、山田仁先生、川田武志(筆者)、鈴木清

積んで臨みました。

予選リーグでは、地元強豪会津若松高校を破り、決勝トーナメント戦に進出しましたが、準々決勝で九州勢に惜敗してしまいました。

又、昭和三十一年に第十一回兵庫国体から剣道高校の部が取り入れられました。徳島農高は県予選で優勝し、国体出場権をかけた高知市で行われた四国ブロック予選に臨み、そこでも勝ち上がり、兵庫県赤穂市で

行われる兵庫国体の出場権を得ました。そして、再度全国制覇の夢を果たすべく、赤い尿がでるほど死にもの狂いで練習をして赤穂へ行きました。

国体試合は、全国各ブロックを勝ち抜いた一〇チームで、その予選は三組のリーグ戦で、徳農高は三組で、今宮高（大阪）・秋田商業高・長岡高（新潟）・徳島農高の四チームで予選を行い、そこで勝ち上がり決勝リーグ三チームに勝ち残ったのです。

決勝リーグに残った中京商業・鏡野高校（岡山）・徳島農高で優勝を競い、全て一本差で惜敗し第三位に甘んじましたが、四国に徳島の剣道ここにありと全国から注目されるようになりました。そして、本県剣道界の範として、一般、高校はもとより小中学生の間に、剣道を普及発展させる一助になったと自負している次第です。

私は、昭和三十三年徳島県警察に奉職し、四十二年間の警察生活をなし退職しました。現役時代は、警察学校を卒業後一線配属になり、直ぐ剣道特練生として、旺盛な気力、体力づくりと強い警察剣道の貢献を目指し



て体力がつづく限り厳しい稽古に励みまし  
た。特練生と言っても、剣道ばかりしてい  
るのではなく、警察業務が本業であり、そ  
の合間をみて剣道に精進しなければなりま  
せんでした。

当時、湊庄一先生が率いる県警察柔道は無  
敵艦隊のごとく強く、全国的にも上位の位  
置でありました。その刺激により奮起奮奮  
し低迷していた県警察剣道は、その後あら  
ゆる大会において他の一般チームに引けを  
取らなくなり、常に上位を重ね、県下にお  
いて将に無人の境を行くようでありました。  
昭和三十八年、徳島県警察本部の剣道師  
範は魚沢清太郎先生から堀江幸夫先生が就  
任されました。堀江先生は県警師範になる  
も、「俺に黙ってついて来い」と言わんば  
かりに自ら厳しい稽古に打ち込んでいまし  
た。

そして、四国四県は下より全国都道府県  
の警察剣道に太刀打ちでき上位入賞を念頭  
に置き、必死の訓練が行われ、又、強化訓  
練生として京都府警・大阪府警にて合宿練  
習を図り、近畿地区遠征・九州遠征・中国

地方遠征等を行い、強化を計られました。  
特に、大阪府警は毎年初夏時期に三週間  
ぐらい剣道合宿練習のため派遣され、他に



大阪城内修道館にて合同練習  
大阪府警、徳島県警、広島県警、和歌山県警、富山県警、石川県警、静岡県警、北海道警

も、和歌山県警・三重県警・富山県警・静  
岡県警・広島県警・愛媛県警の各県の特練  
生が派遣されており、大阪府警主体の合同  
訓練が行われていました。

当時の大阪府警の剣道主席師範は、徳島  
県出身の範士八段坂本吉郎先生でした。そ  
の下に小林・千頭江・六反田・奥園・園田  
の各先生方がおられ、ご指導を頂きました。  
又、時には大阪府警剣道名誉主席師範の範  
士九段越川秀之介先生が鉄扇用のものを手  
にして見えられご指導をいただきました。

練習場所は、大阪城内に造られた大阪市  
立修道館でした。当時の修道館館長は、井  
上政孝先生・小森園政雄先生であり、両先  
生からも有意義なご指導をいただき感慨無  
量でありました。

大阪府警の基本練習一つにしても、掛り  
手は十分な氣勢、正中線を取り相手の剣先  
を崩し、打突する機会を見て打突しなけれ  
ばならず、掛かり手が気がゆるむと元立ち  
が容赦なく打ち込んでくる。まさに実践的  
な練習で気を許せない真剣そのものでした。  
私は、現役時代は特練を十三年ほど行い、



昭和39年11月23日 脇町スポーツセンターで開催

その後一線に配属になり、署術科指導員（剣道並び逮捕術指導）として、特練で学んだことを各署員に指導しています。県下剣道大会等においても指導した署チー

ムが優勝、準優勝と上位入賞をし、警察業務の激務の中、厳しい訓練を耐えて勝ち取ったことを思うと感激もひとしおです。私も指導者冥利に尽きると自負している次第です。

昭和三十六年七月、徳島県内を東西に流れる四国三郎吉野川を境にし南北に分かれ、第一回徳島県南北対抗剣道大会が開催されました。会場は、剣道普及のため各支部が持ち回りで実施し、大会は盛大に行われていましたが、各支部会場設営に支障をきたし困難になり、（当時市町村に体育館施設等が少なく、殆ど、小中学校の体育館を借用していた）中止となり、代わりに昭和四十年代に毎年警察、教職員、社会人の三者剣道大会が開催されるようになりました。しかし、警察チームには特練生が多く出場していた勢もあるかと思われるが、常勝のため格差が表れ、これも中止となっています。その代わりに、一般社会人が楽しくできる大会をとということで社会人剣道大会が開催されるようになり、好評で現在でも盛大

に行われていることは各地域の剣道活性化にもつながり、大いに期待するところです。

### 生涯剣道

高齢化社会の到来を迎え、心身の健康づくりへの期待が高まってきた体育、スポーツ関係では、生涯スポーツという言葉が多く使われるようになっていきます。

全日本剣道連盟も生涯剣道として、「剣道指導の心構え」に上げているよう、共に剣道を学び安全・健康に留意しつつ、生涯にわたる人間関係の道を見出すように努めるとあります。私が生涯剣道に関わったのは六十歳になるや直ぐ当時の高齢剣友会会長・勝浦守先生の勧めにより本県高齢剣はもとより全国高齢剣友会に入会し、現在に至っています。

そして、剣を通して人の輪と心の輪を広げ、武道の美しさ・強さ・巧さを求め生涯にわたり情熱を燃やし、自らの体力の維持と健康を目的として頑張っています。

現在の徳島高齢剣友会は、月二回の稽古会を実施しています。さらに年一回のねん

りんピック剣道交流大会、四国四県の交流練習試合、毎年六月上旬に行われる全国高齢武道交流大会、並びにねりんピック剣道交流大会があり、それらに参加し、生涯剣道として楽しんでいる次第です。

多くのスポーツ競技は、その選手寿命は極めて短いものです。特に筋肉量や酸素摂取量が勝負を大きく左右する競技においては、大体三十歳前半がほぼ限界であります。また、武道の中でも柔道が同様の傾向がみられます。しかし、剣道は理合を重んじて修練し、身体的無理をしないから怪我もなため競技年齢も長くなり、生涯スポーツとして終生楽しむことができます。

また、剣道は「心身一如」が強く求められ、さらに大命題として掲げている「人間形成の道」は一時的な取り組みでは修得することは難しく、それが故に生涯修行、生涯向上の姿勢を維持することが大切であります。

私はこれから剣の道をひたすら追い求め、技と心を限りなく修練し、老いてもなお美しい「年輪の美」を醸し出されるよう励みます。

いと思う次第です。

### 少年剣道

私が、少年剣道に関わったのは昭和三十七年四月頃からでした。当時、板野東の松茂剣友会の石井清文氏が、松茂小学校の体育館において、近所の少年を集め一人で剣道の指導をしているので一緒に少年剣道指導してくれないかと要請を受けたのが始まりでした。

同時に、松茂剣友会に所属する、高校時代からの剣友である久次米俊治・羽柴敬文・中学校の教員である藤原和則の各先生方に少年剣道の指導の協力を依頼しました。クラブの名称は松茂少年剣道クラブとし、指導者は五人で開始しました。当初の少年剣道は、剣道の普及と青少年の健全育成のためを目的として実施していました。その当時の我々少年剣道の指導者は二十二、二十三歳の若手であり、また当時、少年剣道のクラブや教室は県下にはまだ少なく、松茂少年剣道クラブはその先駆けであると自負している次第です。

発足の当時は、女子も四、五名入部し、全員で二十名ぐらいの稽古を、週二回（木土、午後六時から午後八時）行ないました。実技面では基本を重視し、礼儀所作、基本と動作、打ち込み稽古、掛かり稽古を一生懸命行ないました。

その結果保護者から自分の子供は、「礼儀ができるようになった。集中力、体力が付いてきた。元気な子になった。病弱であったが元気になり、大きな声を出せるようになった。」等期待された意見が伝わってきました。

指導者として励みになり、益々指導に精を出しました。そして、少年剣道クラブも軌道にのり基盤ができてきました。

昭和三十年後半頃から、青少年の健全育成と地域剣道の普及のため少年剣道に携わっているのは、徳島県警察では、鳴門の寺西慶裕先生と私の二人であったと思います。そのお陰をもちまして、昭和六十年十一月十四日に社会法人日本善行会から、長年にわたり青少年の健全育成と地域社会の発展に尽くしたとの功により善行銅章を賜り、



昭和42年 松茂町総合福祉センターにて

表彰を受けました。

昭和四十二年五月、松茂町教育委員会の教育長・河野正一氏から「少年剣道は、よく青少年の健全育成に貢献している。町に少年剣道教室を設けるから、心身ともに健全な子供を育て、剣道を通じて人間形成を目指した剣道指導を」との協力要請を受け

ました。それにより、松茂剣道クラブが小中学生を対象に剣道教室を開講し、松茂少年剣道クラブから松茂町少年剣道教室に改名し、教室を発足させました。また、松茂町に体育協会が発足し、松茂剣道クラブも体協に加盟したので剣道クラブは、松茂町体協の剣道部として活動、これにより少年剣道教室は松茂少年剣道教室として現在に至っています。

少年剣道指導においては、現在も松茂少年剣道教室発足時に定めた道場訓を基として指導に当たっています。

その道場訓は「剣は心なり、心正しからざれば、剣また正しからず、剣を学ばんと欲すれば、まず心より学ぶべし。剣道は、剣の理法の修練による、人間形成の道である。」と定め、これらに則り、心身の鍛錬・礼儀作法・技術の修得に努めるよう指導にあたっています。

練習場所は、昭和五十五年九月松茂総合体育館が完成したのを機に、同体育館に移しました。練習日数は、週三回（火・木・金）でしたが、平成六年四月、少子化によ



昭和56年 松茂町総合体育館サブにて

り教室の生徒数減少により練習を週二回（火・金）に削減しました。

また、平成十七年四月、松茂町第二体育館が武道専用として落成、少年剣道教室の練習場所を第二体育館に移し、現在に至っています。

松茂少年剣道教室発足当時は、生徒数約

二十名位でありましたが、保護者は、自分の子供・また友人知人等に対し、生徒は、友達等に、「剣道は、心の鍛錬・体力の向上と身体が丈夫になる。また礼儀作法や集中力、忍耐力がつき自立心ができる」等と口込み勧誘で、年々剣道を習いたいという者が増加し、毎年三十〜四十名になっていました。

昭和四十八年頃から、「赤胴鈴之助」また「六三四の剣」のテレビ放映で子供達の剣道ブームを引き起こし、昭和四十八年から昭和五十九年位まで剣道教室の生徒数は六十〜七十名位であり、指導者の人数が少なく剣道指導にうれしい悲鳴を上げながら悪戦苦闘の連続でした。

昭和六十年頃から生徒数は三十名位に減少し、さらに平成十年頃から少年の剣道人も少子化のせいか急激に減少に伴い、教室も生徒数は二十名足らずとなり、現在もこの状態が続いています。

さらに、文武両道で学習塾通いの生徒も多く、一回の稽古日に来るのが七・八人の時もあります。

そのような中、子供達は上手になりたい、強くなりたいの思いで真剣に取り組んでいる様子が伺われます。

剣道を正しく・明るく楽しく、生涯にわたりできるよう指導していきたいと思いません。また、そのことが剣道活性化につながり、次代へ剣道を伝承していくことになると確信しています。



## 宮城県で「交剣知愛」

鳴門支部 石 村 行 範



剣道には様々な教えを表す言葉があります。私の中では「交剣知愛」という言葉が最も好きです。つい最近まさにその言葉を実感できる体験を宮城県でしてきたのでここに報告させていただきます。

平成二十三年十一月～十二月の二ヶ月間、東日本大震災で被害を受けた農地や農業用施設の復興支援で宮城県庁に出向しました。厳しい業務を担当するので、当然剣道は無理だろうなあと、思って職場に挨拶に行ったその日の歓迎会で「出会い」がありました。職場で席を並べる宮城県の職員の方（佐藤先生）が剣道を熱心に行っており、「一緒に剣道をやりましょう！」と声をかけていただき、早速その場で徳島の家族に連絡をして防具一式を送ってもらいました。こう

して二ヶ月にわたる私の宮城県での剣道が始まりました。

佐藤先生の稽古している道場は仙台市の緑豊かな太白山の麓にある「養志館」という道場です。私は毎週土曜日早朝（六時半から七時半）の大人の稽古会に参加しました。東北でも比較的温暖と言われる仙台でも十二月にもなれば雪が舞います。水点下の中で稽古は氷のような床や吐く息が長く尾を引く冷気の中、まずは館長の引地先生（教士七段）をはじめとする五、六人の高段者の先生にかかっていき、最後に掛かり稽古で終わるといのが基本でした。折り剣道形をしたり、昇段審査向けの稽古をしたりもしてました。初日は皆の前で佐藤先生との立ち会いをさせられ非常に緊張したのを覚えています。

稽古も二回、三回と重ねると知り合いも増えて道場の雰囲気にも慣れてきました。剣道はこちらよりは若干遠い間合いで、思い切りよく打ち込むきれいな剣道でした。また、大人の稽古会にもかかわらず小学生から中学生の子供たちも早朝から熱心に参

加して、一生懸命稽古していたのが印象的でした。

稽古が終わると、皆で道場に併設されている温泉に入ります。温泉併設の道場は東北でも珍しいそうです。そこに子供から大人までみんなでワイワイ話しながらのひとときがたまらなく楽しく好きでした。引地先生が子供たちに「徳島県ってどこにあるかわかるか？」と聞くと、「福島県よりは南？」との答えに一同大受けしたりしました。その他は、半年間ほとんど家に帰られなかった東北電力の方の話や、中止や延期になった子供の試合の話など、自然と震災の話になりますが、大変だっただろうことを子供たちは屈託無く話していたのに強さを感じました。

わずか二ヶ月間の出向期間でしたので、稽古は五～六回程しか行けませんでした。道場を離れたところでも忘年会に呼んでいただいたり、最後の日には引地先生より「日本酒」をいただいたり、非常に親しくしていただきました。

仕事は、震災からの復旧・復興といった

精神的にも肉体的にも非常に厳しいもので、他県からの出向者の中には体調を崩す人もいる中、なんとか二ヶ月間の業務をやり遂げられたのは、剣道による地元の方との交流が大きな力になっていたと思います。今から思えばまた「剣道」に助けられたんだなと感じています。

佐藤先生とは今でも公私にわたりつきあいがあるなど、宮城県との交流はその後も続いています。今後はお互いの道場を通じて徳島と宮城で交流が図れるといいねと言っています。これからも「交剣知愛」で交流の輪を広げていきたいと思っています。



## 年を経て

笠井 選



十年一昔との諺があるが、大正も末期近くの十三年（一九二四年）の生れ今年で九十歳

となった。特に時代の流れも亦変化も早くて複雑な世相の現今では、既に古い昔人間となった。学生時代の友人や、又同年代の知人の多くも既に故人となって、昔話に花を咲かすよすがもなく、いささか孤独な世捨て人的な老人生活と言えなくもないだろう。

「老人になれば、誰しも単純で気短になる。」とは、吉川英治の「宮本武蔵」の一節であったと思う。やはり世間の様々な事は面倒くさくてわずらわしく思い、又時には腹立たしくも感じられて我関せずと敬遠する。

「世俗の事に携はり、生涯を暮らすは不

愚の人なり。」とは、兼好法師の名言と思う。

さて今回、七十余年前の昭和初期の若き時代を振り返ってみた。半世紀を過ぎた昔の事ではあり、しかも戦時体制（日支事変）の時代であって、学制は言うまでもなく、社会も日常生活も、現在とは全く異なっていた。義務教育は小学校六年間のみであって、以後の進学は学校も非常に少なく、限られた極少数者であった。

中学校（旧制）は男子のみで五年制であって女子は別に高等女学校の名称であった。さて中学校に入学と同時に、剣柔道共に武道として独立した必修の正科目であって、個人の希望によって何れかを選択し、所用の道具は何れも総て自費での購入であった。入学時の学用品としては剣道具が最も高価であった為に、剣道を断念して、柔道に進んだ者もあった。

必修の正科目で、在学中の五年間は毎週授業があり、冬には全校生徒全員の早朝寒稽古があり、自転車での登校時は未だ薄暗くて寒く、手足の冷たかった感覚は今尚残

る思い出である。

又言うまでもなく部員の練習は毎日であって、夏休み中には、一週間の徳島武徳殿（昭和二十年の米軍空襲で焼失）での合宿練習、又冬休みには武者修行と称して、自転車に道具を積んで那賀郡まで行っての四〇五日間の合宿練習があった。宿舎は大野か岩脇小学校かと記憶しているが確かではない。又帰途は冬の北風西風を受けての自転車であった。

今にして思えば、唯ひたすらな精神力にやるものかと我ながら感心している。

年を経て、当時より半世紀以上となった現今では、あらゆる事に国際化が言われている。我が国古来の武道である柔道も世界的となって、オリンピックの種目となり、念願を果したとは言えるかも知れないが最近の状態は、我が国の伝統の武道と称するには、国際化された副作用と言うべきか私にはいささかの疑問を感じざるを得ないと思う。

剣道は、我が国古来の武道を起源とするものと言われて、多くの特有の礼式で成り





立っている。特に世界的になる必要もなければ、オリンピックの種目とする必要もないと私は思っている。唯精神の糧として、名利を求めずに地道に修練すべきではなからうか。

## 旧武道館での朝稽古

小松島支部 西山 伸二



私は小学校四年生の終わりごろから父の勧めで剣道を始め、中学・高校とも指導してく

ださる先生がいない環境で剣道が続けてきた。地元の大学に入り剣道部に入部し、朝稽古に行けば師範の堀江幸夫先生に稽古をお願いすることができることを知り、手塚先生の勧めもあって、私は毎日朝稽古に通う大学生生活を送ることとなった。

朝稽古ではそのほとんどが懸かり稽古であった。最初はそれが辛くて、武道館の近くになると足が勝手に震えていたことを思い出す。長いときには二十分近くずっと懸かり稽古ということもあったが、今思えば朝の大切な時間をそれだけ使っていてくださったのだと本当にありがたく思う。私にとって朝稽古は、大学時代の一番の思い出

であり、剣道のみならず多くの先生方と会うことのできた大変貴重な場であった。

ある日、堀江先生に稽古をお願いしようと長い列を並んでいた。やっと自分の番になって蹲踞をして構えたところ、先生はそのまま竹刀をおさめて稽古をしてくださらなかった。なぜだろうとポカンとしていると、私の道着の腕の辺りが破れているのを見て「稽古する格好でない」と一言話された。剣道に限らず、社会人としてもこの光景が教えてくれることは大きい。

稽古が終わると決まって先生方は武道場の奥にある風呂に入られる。大学一年生の頃、何も知らない私は、私は自分も入りたいたいと思い、先生方の後から「失礼します」と銭湯感覚で入って出てきた。その時は確か堀江先生と大沢先生が入っておられたように思う。風呂を出た後で堀江先生が「お風呂は先生方の背中を流すために入るもの。自分の体は後で二分ぐらいでさっさと出るものだよ。」と小さい子どもに諭すように話してくれた。今思うと、なんと大それた失礼なことをしてしまったのだろうと反

省するばかりである。それから、稽古が終わるとすぐお風呂に行き、先生の背中を流し、出た後は先生方の道着をたたむというところを行くようになった。誰も指導者のいない中で育ってきた私にとって、大失敗だらけの毎日ではあったが、初めての剣道の礼儀や振る舞いを教えていただいた貴重な体験となった。

また、朝稽古がどのようにして始まったのかを堀江先生に直接お話を聞きする機会があった。始められたころはなかなか人数が集まらず、時には誰も来ない日もあり、そんな時は堀江先生お一人で素振りをしたり城山を走ったりという日が一年以上続いたそうだ。そのうち、「朝稽古に行けば堀江がいる」と徐々に人数が増えてやっと定着した、とお聞きした。また、旧武道館には中谷さんという管理人さんがいてくださり、そのおかげで毎日早い時間でも朝稽古ができるのだということも聞きした。私はその中谷さんにとっても大切にしていただし、時々夏の暑い日に冷たい麦茶をいただいたことを覚えている。

朝稽古が終わると、年配の先生方は決まって前の喫茶店へモーニングを食べに行かれた。阿部先生・高松先生・佐藤先生らが私によく声をかけてくださり、モーニングをご馳走になった。そのときお世話になった先生方はすでに他界され、今となってはお礼を返すことができないままとなっている。

朝稽古には一般の方も数多く参加して稽

古をされていた。今も多くの先生方と稽古をお願いし、お話をさせていただくことができるのも大学時代の朝稽古での出会いがあったからこそだと思う。

稽古の終わりに堀江先生がいつも話されていたこと「剣道即生活」この言葉の意味をかみしめながら、これからも剣道を通して自分自身を高めていきたい。



## 剣道が続けられる

### 幸せを感じて

鳴門支部 紅 露 喜代美



中学に上がる直前の春休み、早朝アニメで『六三四の剣』を見たのが剣道を始めたきっかけです。剣道がとても楽しくて、毎日部活の時間が待ち遠しかった覚えがあります。

高校では『柔ちゃん』に憧れて柔道部に入りました。顧問が国体の強化監督だったのですごく厳しかったです。背負い投げで男の人を投げるのは気持ちいいものでした。三人制の団体戦は体重の軽い順で、他のメンバーが私よりも軽かったので、私はいつも重量級選手が相手でした。普段から「立ち技」より確実に練習の成果が出る「寝技」の練習を積んでいたの、負けることは少なかったです。大学でも柔道を続けました。

もう一度竹刀を握ったのは二十四歳になってからです。その時からお世話になっているのが岡崎市剣道連盟の村井光子先生です。光子先生は娘さんが剣道を習い始めたのがきっかけで四〇歳から始められ、六段を取ってされています。

光子先生は子供と女性をとでも大切にしてくださいました。「剣道が子供の身近なところにあってほしい」と願い、「女性も少しずつ審判に挑戦してほしい」と積極的に女性が審判をする機会を作ってくださいました。でも、いきなり審判をさせるのではなくて、市主催の審判講習会など学ぶ場をたくさん設けてくださいました。特に女性には家事・育児などと思うように自分の時間がとれないから、広くつながりを作っておいて、行ける時間に行ける場所で稽古ができるよう、自分が普段から心がけることも教えていただきました。

結婚してからは名古屋の上北朝也先生の春風館でお世話になりました。月に〇〜二回ほどしか稽古できませんでしたが、細々と続けました。上北先生は特に日本剣道形

を大切にされていました。「子供も連れておいで」と言ってくださり、長男次男は道場の隅っこで他の保護者の方と時間を過ごしていました。

四年前、夫の転勤で徳島に移ることが決まった時は不安でいっぱいでしたが、「徳島でどんな先生方とどんな稽古ができるか楽しみだね!」と光子先生が笑顔で送り出してください、その一言で気持ちも軽くなりました。今では徳島で、稽古のお誘いやたくさんのご指導をいただけて、とても感謝しています。

小学生になった長男も剣道を始め、二人で剣道の話をよくします。二人分の防具を積んで愛知に帰省すると、「よく来たね。」と笑顔で稽古に迎えてもらって幸せです。

最初の頃は、大きな声を出してたくさん汗をかければ楽しく満足でしたが、最近はずっと楽しさを感じています。出端技など形では見えないところで先の気持ちで攻め勝っている必要があるところ、一度攻め入り、さらにもう一歩攻め入る勇気が自分にあるか、左の重要性、足さばき、溜めなど

に魅力を感じています。打った打たれたではなく、相手の中心を攻めて打つべき機会に無心で打ち切れるようになりたいと思っています。苦手な日本剣道形も、やればやるほど楽しくなり、自分のレベルに合った理合を理解してもっと美しく行いたいと思うようになりました。稽古ができることに感謝して、一回一回の稽古を大切にしたいと思っています。

ご指導くださる先生方にはもちろん、三兄弟の子守りを引き受けていつも快く稽古に送り出してくれる夫、メンメン頑張ってくれた父母、少年剣道教室の理解ある保護者の方たち、そして剣道を通じての縁に感謝しています。女性剣士として恥ずかしくないように、美しい着装・礼法・所作を普段から心がけ、これからも家族や自分に無理のない範囲で細く長く剣道を続けていきたいと思っています。私は剣道が大好きです。今後ともご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。

## 剣道との出会い

ラートマン・マーティン



ドイツから来たラートマン・マーティンです。二〇一一年八月より徳島県庁国際戦略課

で国際交流員として勤務し、主に次の三つの仕事をしています。①日独交流推進 ②県内の国際化・国際交流推進 ③外国語指導手の世話係です。徳島県とドイツのニーダーザクセン州は二〇〇七年から友好提携を結び、頻繁に交流を行っています。そのなかで、スポーツを通しての交流は特に盛んです。なぜならば音楽と同じようにスポーツは言語の壁を超える力があり、お互いの言葉が分からなくても、心が伝わるからです。二〇〇七年以来柔道と陸上（マラソン）での交流をしてきましたが、昨年より新たなスポーツ種目を加えることになり、徳島

県とニーダーザクセン州が連絡を取り合い検討した結果、剣道に決まり、同年八月ニーダーザクセン州剣道連盟の訪問団体を受け入れることになったのです。

去年の八月中旬、ドイツの剣道家四人が一週間ほど来県した時に、私は観光案内をしました。さまざまな場所を訪れると、本県の魅力の再発見と剣道に関する理解が深められる機会がたくさんありました。まず、鳴門市ドイツ館（坂東俘虜所）、阿波おどり会館、眉山（徳島市スカイライン）を回りました。徳島県は自然が豊かなところであり、食べ物も安心かつ新鮮だと、彼らはすぐ気に入ってくれました。

剣道交流では、さらにいろいろな所へ行きました。徳島城博物館（鐵華爛漫故郷の美）、国体ブロック予選（視察）、教職員大会（視察）、小松島市少年剣道教室（参加）、県警早朝訓練（参加）、竹刀製造元（高橋竹刀店・来店）、富岡東高校女子剣道部（視察）などでした。試合のみならず、部活動や剣道教室まで視察、参加してもらったり、剣道の歴史について学んでもらった

りすることにより、両国における剣道を比較でき、理解をさらに深められたので、日独両方の剣道家にとって意義のあるものになったと思います。それまでは私は剣道に全く興味がなく、専門用語一つ知りませんでした。私がしたことのあるスポーツはインラインスケーティングとジョギング又はランニングのみで、まさかドイツから剣道家の団体が来るとは思わなかったし、剣道についての通訳が務まるかどうかとても心配しました。

しかし、両国の剣道連盟の方々の説明が分かりやすかったし、ドイツでも剣道について話すときは日本語をそのまま使うことが多いので、どうにか通訳をすることができました。剣道の稽古にドイツの剣道家が参加したときも、あまり通訳しなくても意思は伝わりました。あらためて、スポーツは言葉の壁を越える力を持っているということが解り、驚きました。

特に私には、高橋竹刀店で、日本における職人の心技体を知ることができたのが、面白かったです。なぜならば、私の父親は

タイルマイスター（タイルの職人）で、日本とドイツの職人を比較することができたからです。やはり毎日毎日丁寧に作業している職人は素晴らしいです。

最後に、剣道交流によって私は色々なことを学び、たくさんを経験を重ねられました。剣道交流をきっかけに、昨年八月より剣道を習いはじめることになりました。分からないことばかりですが、先生方のおかげで、どうにか毎回剣道の稽古を無事に乗り切れています。今後ともどうぞよろしくお願い致します。



# 称号・段位合格者

## 生涯剣道を目指して

板野西支部 久次米 繁 興



お陰をもちまして、平成二十五年四月三十日の京都における剣道審査会に於いて七段を

授与されることになりました。年一回、京都だけで決めて審査に望んで、今回で六回目、ようやく合格することが出来ました。

長年に渡り一緒に稽古をしていただき、色々と助言を頂きました諸先生方や剣道教室の子供達には、心より感謝申し上げます。有り難うございました。

今回の審査を振り返ってみますと、今迄と違った処が二・三ありました。先ず気持ちの面で「今迄は不合格だったら、また来年来たらええわ」と合格するぞと言う強い

気持ちが無かった事。二つ目は、当然の事かも知れませんが、事前に体を動かしておく事。(素振り、準備運動等)。今迄は、ただ他人の立ち合いをずっと見ているだけでした。もう一つは、立ち合いでは相手の起り・出ばなを打突する事に徹しようと心掛けたことです。しかし、自分で納得できるような打突はできなかったように思いました。何処が良かったのか自分では心当たりがありません。敢えて言えば、起り・出ばなを打つように心掛けたことで、自分で勝手に打突して行く事が少なかったのかも知れません。今後の稽古を通して答えを見つけないと思えます。その答えが見つかった時によりやく七段になれるような気がします。

ます。

思えば、本格的に剣道を始めたのは三八歳の時でした。当時、私は県西部の協町に勤務していました。最初は居合を教わろうと滝下勝先生の道場を訪ねて行きましたが、その時、滝下先生曰く「剣居一体」と言って剣道と居合両方の稽古をした方が良くと言われて始めたのが最初でした。居合

の方は滝下先生がお亡くなりになってからは途絶えておりますが、剣道の方は今日まで続いております。五段取得後は、中央審査には行くつもりが無かった者が、色々な人との出会い・御縁があって、齡六十九・七十歳を目前にしての七段合格には感慨深いものがございます。

今後は皆様に頂きました御恩を少しでもお返し出来ますよう、少剣のお手伝い等に頑張っ参りたいと思えます。又、自身もいつまで出来るか分かりませんが、生涯剣道を目指して無理をせず、楽しく剣道を続けて行きたいと思っております。

各先生方には今後共変わらぬ御指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

感謝

## 剣道七段に合格して

刑務所支部 前 田 秀 一

平成二十五年五月十一日、名古屋市で行われた剣道七段審査会において、昇段することができました。これも一重にご指導賜りました徳島県剣道連盟の先生方のおかげであり、また、日々共に精進してきた職場の剣道部の方々のおかげであり、厚くお礼申し上げます。

最初の七段審査は、平成二十四年四月の京都でした。その後、岡山、名古屋と、三度の不合格が続き、このままいつまでも合格することができないのかと悩んでいるところでした。

五月の審査に行く前に、徳島刑務所は二十八年ぶりに全国大会に出場することができ、その流れにのって審査に向かうことができました。出発する日には、息子に「今度は受かって帰ってきてよ。」と、発破をかけられました。

審査を終えて感じたことですが、今回の審

査では、立ち合いの内容を覚えていないほど、集中ができていました。それまでは、もっと攻めてから相手より先に打たないなど、目の前にいる相手に集中することができず、自分勝手な試合運びになっていたように思います。

さて今回、目標にしていた七段に合格させていただきましたが、ある先生の教えにこのような事があります。

『段位と人間性は比例しない。剣道では称号・段位はもちろん大事ではあるが、それが上になるほど頭を低くしなければならぬ。それが剣道が続けていくうえでとても大切である。』

私自身、これから剣道が続けていくうえで、この教えを忘れることなく修練していきたいと思っています。

最後になりましたが、ご指導、ご鞭撻いただきました先生方に心よりお礼申し上げます。今後とも、精進してまいりますので、宜しくお願いいたします。



## 七段に合格して

徳島支部 岩 原 靖 人



平成二十五年五月の名古屋審査会において、幸運にも七段に合格することができました。この場をお借りしまして、ご指導くださいました皆様に心より御礼申し上げます。

私が剣道を始めてはや三十六年が経ちました。中学時代富浦廣志、佐々木和人両先生、高校時代鎌田恵、福井軍二両先生、大学習時代谷鎌吉郎、渡邊香両先生、社会人になってからは学剣連の先生方や剣道連盟の先生方にご指導頂き、ここまで続けてこられたことに感謝いたしております。

六段に合格したとき、正直自分の中の目標はほぼ達成されたと思っていました。しかも七段が受審できるようになったときは、定時制高校に勤務しており、部活動も軟式野球部の監督であるなど、剣道からしばらく遠ざかっておりました。そんな時、

親友の富田圭介君から七段受審の誘いがありました。私は受審するつもりはありませんでしたが、富田君とは六段受審も合格も同じであったので、名古屋までの運転手という気持ちで受審しました。十分な稽古もしておらず、いい加減な気持ちで受審しているため結果はもちろん不合格でした。しかしその時感じたのは、今の自分が合格するにはハードルが高すぎることと、なんとかこの高いハードルをクリアしたいという気持ちと同時に芽生えました。そしてこの日を境に七段合格を目標として稽古に取り組むことにしました。

とは言っても、夜間定時制高校勤務のため平日は練習相手や時間がありませんでした。そこで、科技高の梶浩人先生や山本義裕先生に協力をお願いし、夕方の給食の時間を利用して、三十分間基本や稽古をさせて頂きました。また、子供が剣道を始めたことをきっかけに小松島少剣クラブで青木先生や梅山先生、平尾先生など多くの先生方と小学生の皆さんに稽古をつけて頂きました。また、機動隊の早朝練習にも参加させて頂き、近藤先生、平野先生をはじめ若

手機動隊の先生方に半泣きになりながら稽古をお願いしました。

そんな中で約三年間頑張りましたが、相変わらず結果も出ず、腐りかけていた時に転機が訪れました。阿南工業高校へ異動が決まり、毎日稽古ができる環境となったのです。それからは、毎日生徒たちに鍛えてもらい、毎週火曜日の稽古会では、遠藤先生をはじめ多くの先生方に稽古をつけて頂き、七段受審から約四年、ようやく合格することができました。

この四年間が私にとって長かったかどうかは分かりませんが、受審当初の事を考えると前向きに、しかも自分から求めて剣道に取り組むことができた四年間であったと思います。また、この四年間だけでなく剣道を始めてからの三十六年間、私はいつも指導者の先生方、剣道仲間にも恵まれてきました。そのことに感謝するとともに、これから何かの形で恩返しができるよう頑張っていきたいと思えます。今後ともご指導・ご鞭撻いただけますようお願いいたします。



## 七段に昇段して

山名 信行



平成二十五年八月、香川県で行われた審査会において、七段に昇段することができました。

日頃からご指導いただいております諸先生方を始め諸先輩方、また共に稽古に励む剣道特練の仲間にご場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、私は審査に臨むに当たり悩むことがあります。皆さんもご存知のとおり私は普段二刀で稽古を行っています。

六段審査を受審した時にも、二刀で受審するべきか、中段で受審するべきか悩みました。

六段審査の時もそうであったように、今回も審査の二ヶ月前から、二刀と中段両方に取り組み稽古を行っていました。しかし、

稽古に取り組んでいても自分の中ではどっちつかずのような状態に陥り、稽古をすればする程、悩んでいました。

そんな時、同じ二刀を学ぶ先輩から自分の剣道をするべきだとアドバイスを受け、最終的には二刀で受審することにしました。審査当日、試合の日でも目覚ましを鳴ってもなかなか目を覚まさない自分が、一時間も前に目が覚め、いつも以上に緊張していると感じ嫌な予感がしました。

会場で説明を受けいよいよ立ち会いです。その予感はやはりの中しました。一人目の立ち会いは、「審査」という言葉の呪縛にかかったような立ち会いとなってしまいました。

自分は特に二刀を構えていることから、周囲から注目され、余計に姿勢や機会を捉えて技を出さなければという意識が強くなり、仕掛けが中途半端だったり、間が遠かったりと、空回りの立ち会いとなってしまいました。

審査中に、周囲の目が気になるようでは自分の剣道ができるはずがありません。こ

のままでは不合格になるにしても何も残らないと思い、二人目の立ち会を行う前に頭の中を試合モードに切り替え立ち会いに臨みました。

すると二人目は気力が充実し、自分の思うような技を立て続けに出すことができ、満足のいく立ち会いとなりました。

その結果、実技審査、続く形審査にも合格し七段審査に合格することができました。

今回の合格は、審査中に失敗しても、うまく自分の気持ちを切り替えることができた事が一番の要因だと思います。また、うまく気持ちが切り替えができたのも、普段の稽古を通じて自分の中に信じられる何かがあったからだと思います。

今後も新七段としてしっかりと稽古に励み、精進していきたいと思っております。ありがとうございました。

## 剣道七段に合格して

小松島支部 園 田 慎 吾



平成二十五年八月 高松市での昇段審査において、七段に昇段させて頂きました。これ

まで何度か挑戦はしてりましたが、全く良い所がなく合格するまでの道のりは程遠いのではないかと半ば弱気になっておりました。今振り返ると、これと言った努力もせずに合気のない自分勝手な剣道だけをして、いつかは受かるだろうという甘い考えで回数だけを重ねていたように思います。

ただ今回の審査前は、九月に行われる全日本実業団大会に向けて会社剣道部の稽古会を増やしていたこともあって定期的に稽古をする事ができ、多くの先生方に稽古をつけて頂く機会もありましたので、これまでの審査前と比較すると、ある程度まとまった稽古と気構えで審査に望むことがで

きました。

また、今回の審査は高松であったため前日入りの必要もなく、普段通りの生活リズムで審査を迎えられたのも、私にとっては好条件であったように思います。

審査当日は、これまでの反省のうえに「打ち急がず、自分の間合いから打ち切る」ということを特に意識しました。それに加えて、私は試合などでは上段を取っておりまずので、審査立会いでも上段と同じように「上からの攻め」と「出頭」をイメージして、最初の攻め入る一步に集中しました。

一人目は初太刀で面を打ち切ることができ、二人目も上から押さえ気味に攻め入ったところを出頭の面に出ることができました。その後は、立会い前に意識していた「打ち急がず……」を何度も言い聞かせながら対処したつもりですが、正直詳しい内容は覚えておりません。おそらく、必死に凌いでいたのだと思います。

立会いを見て頂いていた先生からは、「溜めて打ち切れていた」という言葉ももらっていましたので、もしこれで不合格で

も「このイメージを持って稽古を続けていこう」と、他の受審者の方の立会いを見ながら、合格発表が出る前に次の審査会のことや今後の課題について考えておりました。結果は何かか合格をさせて頂きましたが、今回の昇段は「もっと徳島県剣道連盟や実業団関係のために力を尽くして剣道に取り組みなさい」というメッセージであると受け止めております。

日頃お世話になっている県剣道連盟の先生方や小松島支部の先生方、また日亜化学剣道部の仲間への感謝の気持ちを忘れず、これからも精進して参ります。

微力ではありますが、徳島県剣道連盟発展のために取り組んで行きたいと思っておりますので、今後とも、より一層のご指導をお願い申し上げます。

## 七段昇段所感

阿南支部 林 洋行



「だめだ。どうしても相打ちになる。気が焦る。だが、相手より一歩いや半歩は踏み込

んでいるか……」これが、一人目の立合いの感想だった。「相手がこうきたらこういこう」立合い前にいろいろ考えていたが、なかなかこれといった有効打突が出ず、一度歯車が狂うとなかなか修正がきかない感じであった。

一人目の立合い後、受験番号がAであった私は、B、C、Dの方の立合いを挟むことになり、かつ、Dの方が不在となりコートの向かい側に廻って二人目の立合いを行った。この間に「無心で流れに任せて立合おう」と開き直ることができた。

二人目の立合いの内容はあまり覚えていない。身体が勝手に動くような感じで、面

すり上げ面など数本の有効打突があったと思う。

六段昇段後の六年間、六段に相応しい剣道を身に付けることを念頭に稽古を続けてきた。特に意識したのは「構え」「攻め」そして「品位」である。

「構え」については、稽古中に何度か鏡に自分の姿を映して正しい構えに修正することと、時々左手・左足前の反対に構えて身体のバランスを整えることを先生からアドバイスいただき、稽古の際に実践した。

「攻め」については、これまでの「先」の剣道から「後の先」、そして「先々の先」の剣道へと意識して稽古した。

そして「品位」。これは難題である。未だにはつきりしないが自分なりに思うことを述べる。剣道は激しい性格をもつため、ともすれば乱暴になりがちである。これを未然に防ぎ、「品位」をもたらすのが礼である。単に打ち合うだけでなく、相手を敬い、尊び、礼を尽くし、「是非もう一度お手合せ願いたい」と思われるような剣道を心掛けることにより、自然と「品位」が身に

付いてくるのではなからうか。

実はこれらは六段昇段後の本誌への寄稿にも記しており、私の永遠のテーマとなりそうである。

そして、もう一つは稽古の仕方に気を配った。会社勤めの身では、ともしれば忙しさにかまけて稽古をさぼりがちとなるが、少なくとも週二回以上は稽古することとした。これは決して十分な量とは言えない。これを補うため、できるだけいろいろな方と稽古するよう努め、一般の方だけでなく高・大学生や高齢者の稽古会にもお邪魔した。これにより、人それぞれの剣道に接することができ勉強になった。

また、この間、転勤で三年半を高松で過ごし、稽古の場を求めて香川県立武道館にもお邪魔した。ここでも快く受け入れてくれ、数多くの高段者の先生方に稽古をつけていただき、アドバイスもいただいた。この経験も私の剣道に良き変革をもたらしたと思う。

これらを経て、七段昇段の日を迎えることができた。これまで沢山の先生方にご指

導いただき、沢山の人に支えられて剣道を続けてきた。お世話になった方々に心からお礼申し上げたい。

剣道を通じて学んだことが私の人間形成の根幹となっており、剣道は切っても切れないかけがえのないものになっている。子供の頃にご指導いただいた先生方とは、大人となった今でも剣を交え、交流させていただいている。このように世代を超えしをぎを削ることができるのは他に例をみない。私も生涯剣道に携わり、微力ながらそのすばらしさを伝えていきたいと考えている。

## 七段に合格して

美馬支部 大石 雅 生



平成二十五年八月二十四日、高松市で行われた審査会において七段に合格することができました。

日頃何かとご指導頂きました美馬支部の先生方をはじめ、県西部の先生方、県剣道連盟の先生方にはこの場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。

さて、今回の受審にあたり感じたことを私なりに綴ってみました。まず第一に感じたことは、稽古を詰めていて良かったということでした。(稽古を詰める)これは、上の段の先生方からはよく聞かされる言葉です。「剣道が上手くなるにはどうしたらよいか」と聞くと、どの先生からも「稽古をしろ、稽古以外にない」と言われます。かつての私は、週二回の稽古でした。しかも、穴吹少年剣道教室(平成二

十四年三月休室)での稽古は、ほとんどが小学生が相手です。これでは七段に挑戦できないと思い、平成二十四年度からは、剣道教室を閉めたこともあり七段目指して週三回を目標に決め、主に美馬支部・阿波支部の稽古会に参加しました。時折、三好支部へもお邪魔し稽古をお願いしました。そして、名古屋、岡山、名古屋、京都と挑戦しましたが失敗。まだまだ稽古が足りないと思い、週四回に目標を上げ、県連の稽古会に参加。また、麻植支部の稽古会にも参加させていただきました。どの稽古会においても快く受けてくださり、たくさんの先生方から懇切丁寧なご指導をいただきました。そして、審査日の前日、調整を兼ねて軽めに体を動かしておこうと麻植支部の稽古会に参加しました。しかし、これが裏目に出て超ハードな稽古となってしまい、その夜は疲れと審査前の緊張からか、なかなか眠れず、寝不足となってしまいました。朝起きれば、両足がパンパンに張っている始末。これは参ったと思いつながら、審査会場に着きましたが頭は相変わらずぼーっと

したまま。(今日はだめだ、次の名古屋へ行こう)と思い、(今日はもういいや、でもせっかく来たのだから普段どおりの稽古をして帰ろう)と思い直して審査に臨みました。ですから、あまり内容をよく覚えていません。結果、実技合格。二階席から見ていてくれた先生方からは、「初太刀の面がよかったな」と言ってくれました。この初太刀が出たのも、また体が動いたのも週四回の稽古の中でたくさん先生の先生方からご指導いただいたお陰です。やはり、稽古が一番だなと思いました。

第二に、失敗しても気にせず相手に対することが大事と痛感しました。なぜなら、審査場の床が滑りそうなので、出て行く前にしっかり足の裏の汗を拭いて出て行ったのです。しかし、何度か打ち合った後、機を見て面に飛び込んだ瞬間、左足がズル。相手の前で体勢を崩してしまいました。しかし、相手が打って来なかったのですばやく左足を引きつけたのは記憶にあります。後で、撮っていてくれていたビデオを見ると、その後止まらずに前へ押し切っていた

のですが……。この足で、私は完全に落ちたと思いましたが結果は合格。失敗を気にせず、集中できたのが良かったのかなと思います。

第三に、人の話をよく聞き、動きを観察するです。前述でも述べましたが、これまでにたくさん先生の先生方からご指導をいただきました。その一言一言をしっかりと捉え、自分の中で整理し、体現できるよう努めま

した。また、先生方の構え、動きを横から拝見し、自分の中に取り込めるよう研究を重ねたつもりです。

以上が、今回の審査で感じたことです。今後は、この経験を基に尚一層努力し、生涯剣道を目指して行きたいと思えます。諸先生方のご指導ご鞭撻を、今後共どうぞ宜しくお願い申し上げます。



## 七段昇段に際して

藍住町 原

多三夫



この度、七段昇段にあたりご指導頂いた諸先生方に厚くお礼申しあげます。思い起こし

て見れば三十五歳で六段取得してから七段取得迄に二十九年の年月がかかりました。

当時は民間企業に勤務しており、業務内容から仕事も忙しく、四十歳過ぎて県外勤務となり、剣道をする時間が殆ど取れない状況でした。藍住剣道スポーツ少年団創設当時より席を置いていたので、定年退職後は再度始めることにいたしました。当初は、昇段審査を受ける気持ちは無かったのですが、久次米先生の勧めがありました。これは自分の目標にもなり又子供たちの目標・励みになればと思いい験する事にいたしました。

私は、中学・高校・大学と十年間剣道を

続けてきました。振り返ってみて現在思う事は、小学生の頃は、基本が如何に大切であるかと言うことです。何をやるにしても困ったときは原点に戻ると言いますが、まさに原点は基本。子供を指導するにあたり、勝負に拘り過ぎず基本中心とした練習で且つ礼儀・姿勢等、健全育成を目的に運動を継続するよう指導し、子供の将来の人間形成の一助となればと思います。

我々の団では創設三十七年になりますが、卒団した人等が指導者として団を牽引しています。又その指導者の子供が団員として入団して頑張っています。そのような人数人います。これからも私は、自分の子供もやらせたいと思われる和して厳しい団、その様な好まれる団を作って行きたいと思っております。現在若い先生方は仕事を持って大変忙しい中での指導であり、非常に感謝しております。これからの私の役割は、今まで指導していただいたご恩をひとつでも返すつもりで、若い指導者の補助を少しでも役立って行きたいと思えます。今後ともご指導よろしくお願いいたします。



# 剣道七段に合格して

徳島支部 大野 祐吉



当日は連日の記

録的な猛暑も久し

振りの雨で安らぎ

館内は、クーラー

が効いていて助か

りました。この度、御蔭様で高松審査会にてどうか七段に滑り込みで合格させて頂きました。三年余りで八回目の挑戦でした。

四段と五段で合格に各一年づつ位多く掛りました。六段は運良く御蔭様で二回目に合格させて頂きました。七段もその延長で期待しながら又、一方では合格には程遠い技量とは解っていたのですが六〇歳過ぎているので体が動く内にとまって受験資格に達した時点から挑戦しました。しかし、現実には厳しく、先生方は色々教えて下さるのですが中々出来ません。審査における「剣道実技審査不合格に対する成績開示」の手続きですが、始めの頃は問題にならない位

の出来だったのではがきの申し込みをしませんでした。三回を過ぎて四回、五回目に手続きをしました。結果は共にC評価でした。六回目はB評価。七回目の前回はA評価を頂きました。しかし、今回も相手によって出来具合、評価も違って来るので余り期待せずに臨みました。

当日、立ち会って最初の初太刀とその次の面打ちを打ちかけたのですが相手が出て来ないので止めてしまいました。思い切って打ち抜ける事が出来ず「しまった」と思いました。気持ちを切り変えて開始時の気持ちになって気合いを入れて再度対峙しました。立ち合いの内容は、小さな面、大きな面、出小手、少し攻めての面二本を対戦相手の二人に出したと思います。決まった打ちと不十分な打ちが有ったと思いますが夢中で内容は詳しく覚えておりません。打たれたのは無いと思います。ただ、先生に言われていた「礼から三歩進んで躰を堂々と、打ち急がない、腰から出て、右肘を伸ばす、打ち抜ける、抜けたら縁を切らないで直ぐに対峙し一歩攻め入る、次の攻めは、

最初の（始め）の気持ちで。」等の事を心掛けました。当たらなくても基本通り真直ぐ打とうと意識していました。少し体が右に開いて打ったのも有ったと思いますがどの程度出来たかは解りません。発表待ちは初太刀を途中で止めたのが気掛かりでした。結果は有難い事にどうか滑り込みで合格させて頂きました。実技審査の午後からの部で前半グループの私の第四コート（全部で五コート）は受審者四〇人の内、合格者は三人でした。なお全剣連の発表では当日の合格率は一八、二%でした。

私が剣道を始めたのは三七歳で最初は早素振りが出来たら良いと思って親導館にお世話になりました。その後、武道館での徳島支部稽古会、城東中学で月曜会、渭東少年剣道教室と各道場では小学生始め多くの先生方からご指導頂き大変お世話になりました。この誌面をお借りして皆様にお礼申し上げます。若い頃からされている方と違い歳行って始めたので体も手首も堅く教えて頂いた事が中々出来ません。そんな状況でも家族始め周りの人たちの理解と協力の

お蔭で剣道が続けられる環境に感謝しております。

この度の合格は仮免許の七段で今後、青葉マークの七段から少しでも本物の七段に近づける様、続けて行きたい思いますのでこれからも宜しくご指導お願い致します。本当に有難う御座いました。





## 剣道六段審査に合格して

徳島支部 栗野 佳明

平成二十五年四月二十九日京都で六段に合格させて頂きました。ひとえに諸先生方の御指導によるものと深く感謝しております。

審査当日は、今までになく落ち着いていました。絶対に合格するか、しなければならぬといった事は考えませんでした。ただ、落ち着いて手の内を柔らかく大きく構える、打ち切る、下がらない、大きく発声する、左足をしっかり蹴って打ち抜けて残心をすばやくすることを考えていました。

私はDでしたので、AとCの試合を見る事ができました。BはAから先に面を二本取り、後で面を一本取られました。Cからは、面を三本取り後で面を二本取られていました。AもCもしっかり振りかぶって打っていましたので、私は二人に面を打ち負ける事はないと思いました。

一人目のCとは、来ると感じた瞬間に面

を打ちに行ったのですが、振りかぶりすぎて危険でした。その分早く振り切り打ち抜けましたが、一本にはなっていないと思います。その後三回ほど相面になる事がありましたが、私の方が打ち勝っている様に感じました。

二人目のAとは、引き面が一本と小手抜き面が一本決まりました。小手抜き面は、少し攻めて相手の竹刀を少し押さえ、反応を見てさらに少し前に攻めると相手が打とうとしました。その所をサッと振り上げ、面を打ち切りました。打ち抜ける事ができず、その場でメーンとしっかり大きく長く声を出して剣先を顔の中心に付けてから一歩下がって残心をとりました。

CとAはともに来るといのがわかったので、捨てきって面を打ち切る事ができました。立合中にそれぞれ四回ぐらいは「ヤー」と大きく掛け声を出しました。二人ともに打たれる事も下がる事ありませんでした。また打ち数も各立合四、五本で、多くはなかったです。

合格発表が出ましたら私の番号があり、

ホッとしました。徳島県剣道連盟の三木毅会長が、「おめでとう」と声を掛けて下さり、本当にうれしかったです。ただBが通っていないのが意外でした。Bには、試合前に「二人が当たらなくて良かったですね」と言われました。Bは、起こりの鋭い打ちをしていましたから、試合をすれば私も打たれていたのではないかと思います。その面で幸運でした。私とBとの違いは、私は打たれていないという事です。

六段合格に向けて、多くの先生方に指導して頂きました。構えについては、加茂名少年剣道教室の藤本俊夫先生に指導して頂きました。構えをくずさず、剣先を中心線からはずさず、動じずに肩の力を抜き、やわらかく手首を使い、左手主体に腰からこぞという所を打ち込んで行くということです。

北島少年剣道教室の伊賀雅人先生には、大きな掛け声を出す事と呼吸法、打ち抜けてからすばやく構える事、技の稽古、一分間の試合等で御指導頂きました。端的な質問の指摘と丁寧で心のこもった助言は、

本当に私のささえになりました。そして、合格後に北島少年剣道教室の会において祝って頂きました。感謝の言葉ありません。その時の写真を掲載します。前列左から三番目が私です。右隣りが徳島県剣道連盟常任理事で少年部長の松村和宏先生です。隣が伊賀先生です。

徳島県立中央武道館では、水曜日に徳島支部の先生方に稽古をして頂きました。磯部洋一先生や忠津和憲先生に足が出ていない、左足の引き付けが悪いと、いつも御指導を受けておりました。審査の一ヶ月前くらいから、早足で一時間、週五回ほど歩くようにしました。しだいに左足のけりが向上し、また持久力も付いてきました。

私は十年前、平成十六年七月に藍住町武道館で吉永明彦先生と稽古している時に、突然右足が前に出なくなりしました。左足でける事ができないのです。レントゲンを撮っても全く原因がわかりませんでした。五年後MRIで特発性大腿骨頭壊死症と判明しました。九州大学病院で平成二十年十二月に左股関節を人工関節にする手術を行ない

ました。関節が抜けたり摩耗すると、再手術になります。今よりも動きが悪くなるそうです。しかし最近では、転倒と左股関節に負担をかけないように注意して、週四回程度軽めに剣道をしています。なんとと言っても生涯剣道ですから。

私の目標は、大野祐吉先生のように七段になる事であり、久次米繁興先生や福永徳先生の歳で七段になる事です。



北島少年剣道教室の皆様方と

## 六段に合格して

阿波支部 佐藤 浩

平成二十五年八月二十五日、香川県での審査会において六段に合格することができました。これも、ひとえに阿波支部並びに徳島県剣道連盟の諸先生方の温かいご指導のおかげと深く感謝しています。

今回の六段審査に合格するまでには、仕事や環境の変化により、剣道から離れることが多々あり、週一回の稽古ができればよしとする時期が続きました。しかし一方で、周りの方々が昇段し、試合でも活躍する姿を目にすると、自分は「このままでいいのだろうか。」と、自問自答する時期もありました。このような心の迷いがあったときに、支部の稽古会で諸先生方から、「過去のプライドにこだわらずに、今できることを一生懸命やっていくことが大切だ。」と、励ましのお言葉を頂きました。

これまでの取り組みを振り返ると、自分の剣道に対する姿勢や、認識の甘さが逃げ

道をつくっていたように思います。諸先生方から頂いたお言葉を真摯に受け止め、今一度自らを律し、真正面からぶつかって行くことを決心し、稽古を再開するに至りました。また、幸いにも昨年度から、部活動指導において、剣道部顧問を任されることになり、より多くの場所で稽古をする機会をもつことができ、充実した日々を送ることができました。

初めての六段審査会では、審査を意識しすぎてしっかりと攻めきれずに、受け身の姿勢となり出遅れてしまいました。結局打とう打とうとする気持ちが出てしまい、短時間でのよい立ち会いができずに終わりました。この審査会の経験から、自分自身を分析し、次の審査会に向け、特に以下の三点を心に刻んで稽古に取り組みました。

- ・ 日々の稽古から「初太刀の一本」！
- ・ 有効打突にならなくても「打ち切る」！
- ・ 気持ちをつなげ「縁を切らない」！

しかし、二回目の審査会においても、不合格となり、このままの稽古法でいいのだろうかと迷う時期もありました。しかし、

支部の先生方からは今のままで大丈夫、自信をもって取り組むようにと励まされました。その言葉が自分の支えや自信となり、今回三度目の挑戦ではありましたが、合格することができました。審査会当日は、審査であると感じすぎないように自然体でどんな相手にも「稽古通り」と言い聞かせることで、気持ちを充実させ、初太刀の一本を打ち切ることができたように思います。

また、その後の相手にも打ち急がず、相手の起こりを感じ、体が自然に反応し、落ちていた立合いができたように思います。

この度、昇段することができましたが、まだまだ修行の道半ばです。今回の合格は、ご指導して下さった先生方をはじめ、家族の支えがあったからであり、皆様方には感謝の気持ちで一杯です。この昇段に甘んじず、自己修煉に励み、徳島県剣道連盟の発展に貢献できるよう、微力ながら尽力していきたいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

## 剣道六段に昇段して

小松島支部 切 中 克 樹

平成二十五年八月二十五日に行われた高松市での六段審査会において昇段をさせて頂きました。これも日頃から御指導を頂いている小松島支部、小松島高校OB会、小松島少剣クラブの先生方のおかげだと感謝しております。この場をお借りして心より御礼申し上げます。

過去に二回の審査に失敗していた私は、今回は同じ四国で近い審査会場なので、失敗してもまた次があると安易な気持ちで考えておりました。しかし、前日に行われた七段審査において、同じ小松島支部の園田慎吾先生が見事昇段されたとお電話頂き、「明日はお前も頑張ってください。落ちついでやれよ。」と激励のお言葉を頂きました。

しかし、審査を受けるまでの稽古量がなかなか取れず、不安な気持ちでしたが、審査当日は中途半端な立ち会いは絶対にしないと心に決め、日頃の稽古で取り組んでき

た「初太刀の一本」、「打ち切る」ことに意識を集中して立会いに臨みました。結果、不思議とあまり緊張する事もなく落ちついで二人の相手に対して冷静に対応する事が出来ました。

無事合格となった際には嬉しい気持ちがかみあげてくると同時に、今まで御指導して頂いた先生方や、これまで支えてきてくれた家族に対して感謝の気持ちで一杯になりました。

今後はさらなる向上心を持ち、新たな目標に向かって精進して参ります。これからも尚一層の御指導の程よろしくお願い致します。



## 剣道六段に合格して

徳島支部 船 城 明

平成二十五年八月二十五日、香川審査会において合格させて頂きました。

徳島錬心館館長の大澤孝彰先生、徳島県銃剣道連盟神原常経会長、徳島錬心館の先生方、徳島県剣道連盟の先生方、加茂名少年剣道教室の先生方、葦芽剣友会の皆様のおかげです。心からお礼申し上げます。

平成十九年、二十年の名古屋審査を二度落ちてから、五年ぶり三度目の審査でした。かつて、審査に臨んだころは、週五回は稽古をしていました。また今よりは体力もあつたのですが、その時受からなかったのに、一か月に一回か二回の稽古しかできていない今の自分では受かるはずはないので審査を受けようなどとは思っていませんでした。

平成二十四年の暮れに、徳島錬心館での稽古の時に、「来年は香川県で審査があるから受けてみたら」と大澤先生に勧めて頂

きました。審査を受けるなら、とにかく稽古をしなくてはと思い始めたところに、手術を二回受けなければならなくなってしまいました。手術後稽古ができるようになるのが七月中旬なので、審査の申込みをする事を迷っていました。

そんな折、鈴江俊和先生と桑野佳明先生に「四段の時も、五段の時も、三人は続いて受かっていながら、六段もきつと続いて受かるから、絶対に受ける」とジンクスの的に勧められました。落ちてもととかという思いで審査の申込みを出してしまいました。

七月中旬になって、更に、今度は、白内障の手術を受けることになり、稽古ができるようになったのが八月十一日でした。

八月十七日開催の阿南武道合同演武祭に、銃剣道の部での演目『短剣道の形』を打つ為、参加していたのですが、剣道の部の福井勝先生に「この合同演武祭で遠藤先生に稽古をつけてもらってから昇段審査に臨んだ人は受かりやすいから、剣道の部にも一緒に参加しませんか。」と勧められ、遠藤

先生に掛かり稽古をつけて頂きました。

このように大澤先生始め、色々な先生の勧めのもとに、ほとんど稽古をしていないにもかかわらず昇段審査に臨む結果となっていました。そればかりか、白内障手術の為、まだ利目の右目にはコンタクトレンズを入れることができないので、相手の眼は見えず、焦点も左に大きくずれている状態でした。

審査当日、大雨の中JRと電車を乗継ぎ、審査会場である高松総合体育館に入りました。当会場は、高松近県剣道大会で以前に何度か来ており、練習場所や更衣室、コインロッカー等々勝手知った処なので、着替え等は落ち着いてできました。素振りを少しする程度で、事前練習はほとんどしませんでした。

馬場力元徳島支部長の形見として頂いていた、胴と垂れを付けて、生前の馬場先生との稽古を思い出したりしながら、審査の進行を眺めていました。

先に審査を受けている大部分の先生方は、今日の為に一生懸命稽古をつんできている

のだなあ、それに比べて、稽古もせずにここに来ている自分は何なのかなどと考えているとき、「相手の昇段審査の邪魔をしないよう、相手に失礼のないような立ち合いをしよう。」と今まで持ったことのない、晴れ晴れとした気持ちと決心が生まれました。相手を打つという気持ちは全くない状況で審査に臨みました。

一人目の立会は、竹刀を三振したのみでした。一振り目は相手が打ちに出てくるころ、自然に体が動いたけれど、相手の面の左側の空を切りました。(目の焦点がず

れている為)。一瞬やっぱりやってしまったかと少し笑いたくなってしまいました。相手も自分の面の右側の空を切ったので互角だったようです。相手は振り返った即座の姿勢が崩れている状態で打って出ようとしてきましたが、剣先で相手の動作を止め、合気になる状態まで抑えて、次はやはり相手が出てきたところに面を打ったのですが、昇段審査の応援に来てくれた桑野先生の話では、面は当たっているのだが音が聞こえなかったとのことでした。その直後、

ジンスにせよ振り向き際に相手が面を打ってきたとき、小手を打っていました。殆ど無意識の状態での動作でした。

二人目の時はやはり三振り程度相打ちの面を出した程度でした。竹刀同士が当たりあうということはなかったと思います。特に良い面が打てたということもなかったので、受かるとは思ってもいませんでした。打ってやろうという気持ちが最初から全くなかった為か、空振りしても、力んでいなかったたので、姿勢の崩れは出なかったようです。

今回の審査で、自分が決定的に不利な状況であったことが、自我を捨てることに働き、かえって自分の欠点である「力み」をとる事に作用したと思えました。この昇段審査で得られた一番の事は、六段合格ということよりも、剣道の立会で、相手に失礼のないように、と思う気持ちが自分におこったことだったと思いました。

また、色々な先生方が、根拠のないジンスまで持ちだして、気の弱い自分を心理的に励まし、色々な機会に引っ張りだして

くれたこと。長い時間をかけて御指導下さっていること。さらに、もう他界されている先生がいつも、なお教え続けて下さっている先生がいること。本当に、剣道を通じて知り合った方々の暖かさが身にしみてうれしく感じました。これからも御指導をよろしくお願いいたします。本当にありがとうございます。



## 先生方に感謝して

海部支部 山崎直光



平成二十五年八月二十五日、高松にて六段に合格しました。

これもひとえに

中学校時代の恩師、海部支部・徳島剣道連盟先生方の御指導のおかげであると感謝しております。

私が剣道を始めたのは中学校から、主に若松修作先生、時々丸岡敏邦先生が指導して下さいました。高校では二段を受けたただけでした。海南に帰ってから二十五歳の時、若松先生から西山勝喜先生が剣道をする者がいないか探している、やってみないかと誘いを受け、中学時代の剣道部の同級生二人と共に再び稽古を始めました。その後、子供達に加わり、海部川剣道教室ができて、森本好美先生、丸岡偉人先生、佐藤和久先生と指導者も増え現在に至っています。

五段まではわりとすんなり合格できましたが、六段は受験資格を得て十七年間に四回受験をしました。一回目は一年目の名古屋で、一人目の時胴を打ってはいけないう言うアドバイスを真に受け、相手が遠間から飛び込んできたので思わず返し胴を打ってしまったことで気持ちが舞い上がってしまい、冷静な立会いができませんでした。二回目は三年目京都で、前回の立会いで冷静にできなかったので平常心を心掛け臨みましたが、有効打突がなく不合格。その後左手の構えをちょっと上げるのに二年かかりました。三回目は七年目京都で五十歳の時、打ち急ぎを相手の剣先であしらわれ、相手は合格しましたが、自分は不合格。その後どうしたら合格するのか解らなくなり受験を諦めました。

インターネットで審査の動画を見たり、「徳島の剣道」の六段合格しての随筆を読んだりして、積極的に攻め打ち切る、攻めの剣道をしなくてはいけないと思いついてきたものの、病気や怪我のこともあって受験はしませんでした。六十歳になる二ヶ月

前、高松で六、七段の審査があるから受けに行かないかと誘いを受け受験することにしました。受験すると決めたものの自信は全くありません。週二回の剣道教室の練習では足りないと思い、牟岐中学が夏休みの間午前中に稽古をしていると聞き参加させていただきました。藤井直先生より攻めたら打ち切るという面打ちの稽古をつけてもらいました。丸岡先生の出身校である大阪経済大学の徳島での夏合宿にも参加させてもらい、田中、松尾両先生よりご指導していただきました。

四回目、十七年の受験は立会いが五十七歳から六十歳の第三会場で最終組ABCのBでした。時間があつたので、第四会場六十歳からの立会いを見ていると自然と落ち着いてきました。最初の相手としばらく様子を見て発声し、一歩先に攻め、二歩攻め、三歩攻め相手が出ようとした処、初太刀の面が決まりました。これで余裕ができて、二本目は松尾先生が一度やってみてはと言っていた技（相手の右肩めがけて突いて行き、すかさず面に飛び込む）これが見事に決ま

り、三本目は面返し面をねらいましたが乗ってきません。こちらが攻めたとき相手下がった所に面が決まりました。二人目も初太刀の面と二本の面が決まりました。最後の方で面を誘い返し胴を狙っていたのですが、相手が中途半端な面を打ってきたので、変な面の受け方をしてしまったのが失敗でした。立会いの後、自分では通ったかなと思いましたが合格者番号を見てホッとしました。今回の受験でよかったことは立会いまで時間が有り落ち着いていたこと、初太刀が決まって余裕ができたこと、面を打ち切れたこと、打ち切ることを意識して無駄打ちがなくなっただことだと思います。

六段合格のため多くの先生方、牟岐中学校剣道部、海部川剣道教室の皆さん、家族に感謝の気持ちで一杯です。本当に有難うございました

これからも健康に気をつけて剣道が続けて行きたいと思いますので、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 剣道六段に合格して

勝野 晴 孝



平成二十四年十一月に名古屋で行われた審査会で、剣道六段に昇段させて頂きました。

今までご指導頂いた多くの先生方に、感謝申し上げます。

現在私は転勤で徳島を離れ、大阪府剣道連盟に所属しています。仕事の関係で毎月一回程度は徳島へ戻っているのですが、その度に少年強化錬成や北島少年剣道教室、更には徳島県剣道連盟の稽古始めまで、徳島県剣道連盟に籍のない私の参加を認めて頂き、伊賀先生、松村先生はじめ本当に沢山の先生方より稽古を頂戴することが出来ました。六段受審に向けて、色々なタイプの先生方と稽古を積むことが出来たことは、とてもよいシミュレーションになりました。稽古を頂いた全ての先生方に、この場をお

借りしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

大阪では、難波の大阪府立体育会館内にある「養正会」という道場に所属しています。師範は教士八段太田欣之先生で、竹刀の握り方、構え方から相手と対峙するときの心構えまで、本当に基本から丁寧に指導頂いています。六段審査の直前、養正会の合宿があり、模擬審査も含め審査時の心構え、注意点などみっちりご指導頂きました。正直なところ、太田先生よりご指導頂いた注意点は、まだまだ自分には身に付いておらず、じっくりこない状態でした。合宿の後、審査三日前に、北島少年剣道教室にお邪魔することが出来、板野東支部の先生方に稽古を頂戴する機会がありました。合宿の成果を試す絶好の機会とばかり、勇んで先生方に稽古をお願いしたのですが、本当に散々な結果でした。月岡先生には、それこそポコポコに打たれ、全く良いところなしで稽古を終えました。しかし、その稽古のおかげで、身に付いていないことを意識しても無駄だ、今までやってきたこと



を審査員の先生方に見て頂くしかない、とある意味開き直った心境で審査に臨むことが出来たと思います。その結果、審査本番でも特別緊張することもなく、平常心で立会い出来ました。

審査の状況は、あまり覚えていないというのが正直なところです。初めての中央審査で勝手も分からない上に昼食休憩後、最初の立会いであったため、受審番号を受け取ると緊張するまもなく面を付け立会い会場に立たされた、という感じでした。ある意味、本場に運が良かったと思います。

ただ一つだけ、今回の審査で自分なりによく出来たと思うことは、気持ちの上で相手より優位な立場で立会いが出来た、ということだと思います。常に先の気持ちで相手に対峙し、相手を遣う、という気持ちで立ち会うことが出来たように思います。その結果、二人目の立会いの際には、初太刀で面返し胴を決めることが出来たのだと思います。

運よく六段に昇段させて頂きましたが、決して六段の実力があるとは思っていません。これから稽古を積み六段として恥ず

かしくない剣道が出来ようになる、という権利を得たものと考えています。これからも諸先生方にご指導頂きながら、少しでも早く六段に相応しい実力を身に付けるよう、精進してまいります。今後とも、よろしくご指導の程、お願い申し上げます。



## 六段審査を振り返る

警察支部 隅 田 憲 男

「やっといい報告ができる。」

私が、平成二十五年十一月に開催された名古屋での六段審査において、合格発表がされた時に思わず出た言葉です。

私の六段昇段には、初めての全国審査を経験したその日から一年半の月日が掛かりました。この一年半という月日は剣の道を歩んでいく上でこれからも大切にしなければならぬ一年半だったと感じています。

私が初めて審査を受けに行ったのは、岡山審査でした。毎日のように徳島県警剣道特練員としての稽古を重ね、「よし、やってやる。」と挑んだ審査でした。一人目はイメージ通りだったのですが、二人目も同じようにと意気込んで立ち上がった矢先、こちらの構えが整わないまま奇襲のような連打をその場で受けるような形となり、そのまま良いところを出せないまま初めての審査は不合格の判定とともに終了しました。

帰りの車の中では、一人でブツブツと「何であんなところで打って来るんな。審査ぞ。」と落ちたことを相手が悪かったと勘違いしていた自分がいました。今、思い出すだけでも恥ずかしい限りです……。

「二回目こそは」と更に稽古を重ねて挑戦するも、それなりにできたつもりだったのですが不合格の判定でした。この頃、剣道から目を背けたくなる日もあるぐらい「自分の剣道」を信じられなくなっていました。「腐ってしまったええそれまで。今までの努力が無駄になる。無駄にするぐらいなら、展望が開かれることを信じて竹刀を握った方がマシだ。」と自分に強く言い聞かせながら稽古し、挑んだ三回目も、そこに六段としての資格はなく不合格の判定を受ける結果となりました。

私は審査を受けるたび、お世話になっている先生方、先輩方に「不合格」の報告をしていましたが、回数を重ねるに連れ、内容の暗い報告をすることを躊躇するようにもなっていました。

そして、今回も「不合格」の報告を始め

ると先生方から「二回来い。」審査の内容は聞かれませんでした。それは高校時代の恩師である塩田善治先生の一言でした。毎月一回は川島高校剣友会の稽古会を阿波市で行っており、塩田先生はOBや教え子の為に見に来てくれますが、私は特練員としての稽古や行事と重なりあまり行けていませんでした。また、今の迷っている自分を見られたくありませんでした。

先生は、体調を崩されたことがあり、医師からも稽古はしてはいけないと言われていました。その内容は、高校時代に受けていた指導そのものでした。稽古を頂いた後、不思議と肩の力が抜けて、ツンと天骨を引張られたような自分がありました。その時、初心を忘れていた自分がいることに気付きました。

私は、翌週に中学時代の恩師である白木洋一先生を訪ねるため母校である石井中学校へも稽古に行きました。

先生に挨拶に行くと、「そろそろ来ると思ってたわ」と言われました。剣道の稽

古でも同じですが、見透かされていました。思わず笑みがこぼれると共に稽古したいという気持ちにもなりました。生徒と稽古した後、先生に稽古と掛かり稽古を頂きました。稽古後は晴れたような爽快感と充実感に満たされてパッと目の前が明るくなった感覚がしました。今の気持ちを大事にしようと思いました。

それから県警での稽古を重ね心機一転、六段審査に挑みました。これもまた不合格の判定でしたが、これは自分でも不合格の判定は納得がきました。まだまだ気持ちの練りが足りない、どうも毎回二人目が良くない。六段としての資格はまだないなど素直に感じました。

そして、今回の名古屋審査を迎えました。いつも一人で行っている審査も今回は、中学時代からの親友であり同じ特練員として勤務する同僚の六條洋二君と二人で受けに行くことになりました。六條君は初めての全国審査でしたが、緊張することなく、「待っててくれたんやな。」とふざけた話をしながら「二人一緒に合格する」という思いで名古屋審査会場に向かいました。

私は、会場で全く緊張することなく、今までしてきたことをぶつけるだけと今までにないスッキリした気持ちで挑めました。一次審査一人目は精一杯の声を出し自己の充実を図り、打ち急ぐ相手がよく見え、納得のいく打ちも幾本ありました。ここからです。いつもなら打ち急いでしまうところですが、今回はすぐく落ち着いている自分がそこにいました。相手は小柄で小手がうまく動きの早い人でした。とにかく相手だけに集中しました。時間終了と同時に打った面が相手の面を捉えていました。

六條君は、いつも通り切れ味抜群の打突と動きで二人との立合を終えました。後は一次審査の発表を待つのみです。発表用の紙が開かれたとき二人の番号が並んでありました。こんなこともあるんだなと思いました。そして私の剣道形審査の相手は六條君でした。私は一年半分の思いを形に込めて打ち切りました。

そしていよいよ合格が発表の時、「全員合格っ」。「長かった。これで良い報告ができる。」やっとスッキリできた気持ちになりました。そこには、恩師である塩田善治

先生、白木洋一先生、またお世話になった先生方、先輩方そして、剣友への感謝の気持ちしかありませんでした。合格の報告をすると本当に喜んでくれました。あの時の携帯電話を鞆から取り出す速さは、六條君の面より切れていたように思います。

この一年半を通して、自分でも分かるぐらいの心の変化がありました。そこには「剣道の理念」である人間形成という大きな課題があったように思います。剣道をしているから人間形成できているのではなく、自らが人間形成を求め目指す上での手段・方法が剣道だと考えます。剣は心を現すとよく言われますが、その通りだと思いました。

最後になりましたが、誌面をお借りしまして、日頃からのご指導と落ち続けていた私に暖かくお言葉を掛けて下さった剣道連盟、徳島県警の諸先生方、諸先輩方そして川島高校剣友会・北村会の剣友の皆様、心よりお礼申し上げます。

次は、七段というもっと大きな壁がありますが、これからも今の気持ちを忘れることなく精進していきたいと思えます。

## 剣道六段審査に合格して

六 條 洋 二



平成二十五年十一月、愛知県枇杷島スポーツセンターにおいて行われた昇段審査において

六段に合格させて頂きました。これもひとえに日頃から指導頂いている県警の先生、剣道連盟の先生のおかげであり、また日頃から同じ目標を持って汗を流している先輩、同僚の支えのおかげであると感謝しております。

私は、同級生より二年ぐらい昇段が遅れていたのが初めて六段審査となりました。多くの同級生、先輩が六段に昇段していく中で、悔しさともどかしさがあり、「絶対に一発で合格する」という強い意思を持って稽古に臨んでいました。

私の剣道は、姿勢が前傾で足幅が広く良いうように言えば攻撃的、悪いように言えば

姿勢が悪いという特徴があります。特練の先生には、「その足幅と姿勢を直さな六段は受からんぞ」と指導して頂き、半年ぐらい前から意識して稽古を行ってきました。しかし、今まで身体に染みついた癖はなかなか半年では直しきれず、六段審査に臨むことになってしまいました。逆に吹っ切れた気持ちもあり、「今までしてきた自分の剣道を出しきろう」と心に決めて審査に備えました。

審査の前日、職場の同僚である隅田憲男君と共に車にて出発しました。隅田君とは、中学時代の剣道部の同級生で、別の高校、大学と進学したものの、現在は同じ職場で汗を流している仲であります。昔から良きライバルといえますか、切磋琢磨して成長してきました。車中では、笑い話ではありますが、「絶対に二人共受かって帰ろうな。そうしないと帰りの車が気まずいけん。」と冗談を言いながら、明日の審査に向けて緊張を和ませながら愛知県入りしました。

いよいよ審査当日です。会場入りすると人数と規模の大きさに驚きました。しかし

適度の緊張感、不思議なほどに落ち着いていました。「もうここまでくれば自分の剣道を信じて出すだけ」と試合同様、気持ちを直し、審査に臨みました。

まずは、気合を入れた発声。その後は、無我夢中であり覚えていません。気が付けば立合は終わっていたように思います。少し手数を出し過ぎたかなという思いは残ったものの、これが私の剣道であり後悔はありませんでした。そして一次試験の結果発表、隅田君と共に合格。二次試験も全員合格しました。

この合格は、小学校一年生から剣道の道に歩ませ、支えてくれた両親。大学剣道部の先輩でもある妻の支えがあったからです。あらためて感謝しています。

まずは、職場、特練の先生方に電話で合格を報告しました。そして隅田君と共に中学校時代の恩師である、白木洋一先生に二名同時に無事合格出来たことを報告することができました。二名同時合格ということでは白木先生もとても喜んで頂きました。

さて、これから六段としての修行が始ま



## 剣道六段に合格して

阿南支部 中西 実

ります。正しい剣道を目標に稽古に打ち込んで行きたいと思えます。また、後輩、子供達に剣道の楽しさ、魅力を伝えていけるよう、共に日々稽古に励んで行きたいと考えております。

今後ともご指導の程よろしく願います。

平成二十五年十一月二十五日、東京都での審査会で、六段をいただきました。誌面をお借りしまして、ご指導をしていただいた阿南支部の須藤先生をはじめたくさんの先生方、徳島少年剣道教室の生田先生をはじめ徳島支部の先生方には、改めてお礼を申し上げます。そして審査を通してよき先生方や心暖かき仲間に出会った恵まれた自分に改めて気づかされました。

さて、私は小学四年生から二十歳まで剣道が続けてまいりました。しかし、就職し仕事に追われ、結婚もして、子供中心の日々を過ぎて参りました。再開のきっかけは、平成十四年の冬に阿南に帰ってきたことです。平成十五年正月に、小学校の時にお世話になった徳島県剣道連盟名誉会長でもある遠藤一美先生のご自宅に挨拶に行った時、「こっちに帰ってきたのだから小学校でお

手伝いをしなさい。」と言われました。有賀先生もおいでということでも、お手伝いをしようかなと思いましたが、剣道を離れて十七年が過ぎて防具などありませんでした。しかし遠藤先生から剣道防具一式をいただいた。これは剣道を始めなければいけないと思ったのがきっかけで、十七年ぶりに竹刀を握る事になりました。

高校で三段を昇段してそのままだったので、四段、五段と昇段させていただきました。はや少年剣道教室に携わって、十年という月日がたち、二年前には自分の名誉でもある徳島県の監督として、全国スポーツ少年団剣道交流大会に出場させていただきました。小学五年の娘も剣道をしてくれ、がんばっているの、自分も努力して昇段していかななくてはと心に思いました。まず、昇段に向けては構えを堂々としようと心がけました。その構えができたなら、お調子者の私は、「自分はいけるのではないか」という気になり、必ず一発で合格したいと思うようになりました。

そして、東京審査に臨みました。徳島か

ら、小松島支部の原君と一緒に夜行で九時間かけて東京に向かいました。審査当日、全国から集った人数は千八百人を超え、その規模の大きさに驚きました。この中で審査をするのかと少し緊張しましたが、自分の前の組みの人があまり声が出ていません。自分は声の大きさは、自信があったのでもとにかく立ち上がっての一声は会場の誰よりも大きく、気合を入れて発声し、思いついてかづき面を打ちました。それがたまたま相手の面にはいり、すぐ相手の方が遠間から、面を打ってきたところを、返し胴でうまく決められました。この二本が有効打突となり、落ち着いて一人目が終了しました。一人目がうまくいったせいか、二人目の相手との立会いでは、中心をせめながら間合いをつめていき相手が仕掛けてきた面に対して私の返し胴が決まって、すぐく落ちついて二人目も終わりました。終わった直後は「東京に来てよかったなあー」とすごく思ったのを昨日のように憶えています。実技審査の結果を見た時は、素直に嬉しさが溢れてきました。ただ、次の形審査では

ぜんぜん練習をしていなかったもので、実技審査よりもすごく緊張しましたが、なんとか形審査も合格でき、何とも言えない喜びがこみ上げてきました。

ふりかえってみると審査前、稽古をお願いした先生方のみなさんが、審査に向けてのアドバイスを丁寧にしてくださいました。

審査に合格した時には、たくさんの方がお祝いのメールをくださいました。改めて、たくさんの方々を支えてもらっていたことを感じます。たくさんの方の支え、そして家族の理解と応援があったから、こうして剣道が続けてこれ、六段をいただくこと

が出来たと感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。今も阿南市部、阿南少年剣道教室に身を置き、関係者の方々にお世話になっています。そして、小学生の娘とも剣を交え、同じ場面を共有できることに父親として心底喜びを感じています。

こうして、心身ともに健康で充実した環境で、剣道ができることに感謝しながら、さらに精進していきたいと思えます。これからも、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひします。



## 剣道称号「教士」の重み

原 田 進



も掛かる。

論語の中で、孔子は次のように言っている。

十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順がう。七十にして心の欲する所に従って矩を踰えず。

人生五十年の時代に言われた言葉であるが、私は六十代後半になっても惑い、天命をわきまえず、未だに人の言葉がすなおに聞けず、かえって意固地になっている。なかなか孔子の一生とは比較にならないが、道はずれないように生きなければならない。

剣道七段昇段は六十四才、教士の称号は六十七才。六十八才まで現役で働き、今までの経験を生かし社会に貢献出来るのであれば、まだまだ働きたいとチャレンジ精神は衰えていない。本当に遅咲きである。

孔子は十五才で学問に志したと言うが、私は剣道称号「教士」の筆記試験に臨んで初めて「剣道の学問」に触れ、やっと「剣道の理念」が少し理解できるようになったと思っている。

試験は指導法、試合・審判規則、日本剣道形など剣道指導者にとって最低限必要な知識が要求される。私はこの年齢になって、今更こんな勉強をしなくても、ある程度理解していると考えていた。

しかし、事前に少し勉強しておこうと試験実施要領を見ると私の勉強不足に初めて気がつき、剣道連盟や伊賀支部長から資料や書籍を急ぎ取り寄せることとなる。

それからは毎日が勉強。勉強するに従って、知らなかった事、間違っていた事等の多さに驚く。よく考えてみると、腰を据えじっくり構えて本を読み剣道について真剣

に考えたことなど一度もなかった。ただ過去の経験と講習会で聞いた事等だけで自分の勝手な考えで判断していた。剣道の理念でさえそのもつ意味を十分理解していない。日本剣道形、試合・審判規則などの知識に至っては間違いだらけである。よくこれで剣道指導者の一人であると思ってた自分が恥ずかしかった。

読んでも読んでも記憶できない。書いてあるのと同じように覚えようとするからだ。よく読んで、まず理解し自分の物にし自分の言葉に置き換える。そうしないと人に説明できない。説明出来なければ指導も出来ない。昨年講習会で範士八段亀井徹先生に教わった通りである。

教士とは何か。教える位のある人である。学徳のある立派な人を指し、わが国の伝統と文化に培われた剣道を正しく伝承してその発展を図り、「剣道の理念」に基づき高い水準の剣道を目指さなければならない。そのためには自己の修養を怠ってはならない。

私も「教士」の一員として責任を自覚し、

常に自己の修養に努力して参る覚悟でございます。今後とも先輩先生方のご指導をお願い申し上げます。教士合格の戒めといたします。





平成二十五年年度

称号・段位合格者一覽

― 剣道 ―

【錬士】

【教士】

五月六日

二反田 和則

原田 進

十一月二十六日

山本 泰史

山室 雅幹

平野 悦子

五月六日

金野 卓司

井村 行宏

榊山 紹生

藤本文 義

堀川 修

矢武 秀生

十一月二十六日

美馬 正志

原 芳弘

柳谷 照男

福井 勝

横畠 保

島尾 眞且

金野 裕美

【八段】

五月一日

西谷 肇一

十一月二十八日

吉田 茂生

【七段】

四月三十日

久次米 繁興

五月十一日

前田 秀一

岩原 靖人

八月二十四日

山名 信行

園田 慎吾

林 洋行

大石 雅生

原 多三夫

大野 祐吉

【六段】

四月二十九日

榎野 佳明

八月二十五日

佐藤 浩

切中 克樹

船城 明

山崎 直光

乾 清孝

十一月十七日

隅田 憲男

六條 洋二

十一月二十五日

中西 実

【五段】

五月二十六日

久保 智司

仁木 隆夫

九月八日

白木 健一郎

十一月二十四日

敷田 隆司

安丸 孝生

島田 靖之

黒上 雅史

柏原 葉月

平成二十六年

二月十六日

西本 浩章

【四段】

五月二十六日

藤田 政宏

九月八日

玉田 康朗

倉橋 孝輔

別宮 憲治

栗野 文那

十一月二十四日

原田 直樹

宮崎 唯

平成二十六年

二月十六日

平野 将司

小倉 歩

長谷川 愛実

酒井 奈々

【二段】

五月二十六日

鎌田幹大 久次米恭輔 藤原啓吾 福本正教 山上達也 戎伸二郎 下込昭人 吉田歩生 島田都希子 甘利あかね 松本美紗樹 藤本結衣 楠和馬 上田雄大 後藤田廉 喜多大樹 谷本晃佑 冲野悠太

【二段】

五月二十六日

鳴川了介 谷本真宏 美馬州一 福田大貴 白川真太郎 播磨慶人 目崎良 伊藤碧志 中島佳汰 岡本豊 高砂淳之介 松山和樹 千石貴基 新宮裕太 原田侑汰 島村星伍 柳田詠作 川田将也 山本博也 岡本直人

【二段】

五月二十六日

猪野翔太 市原興基 花川智彦 佐々木南波 川原真実 山口潮音 楠本由美菜 上田知恵 平成二十六年 二月十六日 山下裕生 杉山拓之 友竹真吾 戸村博史 多田卓司 尾関友衣 藤井光莉 美馬あかり 岩木里穂 藤田侑伽 井形拓弥 中川泰介 島村泰介 上田雄大 後藤田廉 喜多大樹 谷本晃佑 冲野悠太

【二段】

五月二十六日

小山太雅 平井利治 藤見文信 福田涼真 岩本竜治 森政悠 小俣達矢 雑賀昭嘉 井本佳孝 板東修司 鈴木一義 中山慎治 丸岡由理奈 福崎ひかり 平田佳那 兼松綾那 堤綾乃 湯浅麻菜美 中野萌々 宮城佑季 石田貴夕 森永真衣 田渊南帆

【二段】

五月二十六日

久賀宏祐 山崎悠真 前川明功 喜多登志郎 高野加奈子 近藤理沙 中川莉子 川真田莉子 桑村美月 上村菜月 熊橋凌司 三宅凜 住友駿介 大和優介 古川勇真 坂野弘氣 野田靖人 香川紘輝 近藤堪太 柏木崇寿 岡田健

美馬百花	阿部美優	岡田悠里亜	野崎みなみ	佐野茜	中西夏香	丸山純弥	宮本未来	峰本珠希	山本麻緒	山本菜緒	平井泰葉	上田麻由佳	生田朱音	喜多純	富永陽介	荃田拳也	山本恭太郎	本田洋輔	絹川嵩仁	喜島涼太	前田宗一郎	楠本直樹
篠原美佳	平井靖子	佐藤美杜	兵頭優里	長谷川瑞実	森浦聖二	藤原康裕	酒巻雄介	高橋将汰	篠原匠実	高下直哉	岸本大希	松本和暉	赤川笙	岡部遼太郎	由比空	中村隼人	中川新	平成二十六年 二月十六日		内藤仁美	新矢麻奈	森田晃代
田上雄大	田上将大	近藤慎吾	松田欣也	藤本隆史	小谷怜史	大津大輔	走川秀司	山本晃大	白木利幸	岡本和真	島田颯斗	井地岡勇人	喜多佑輔	池田圭吾	藤中達矢	久米都晏	西條賢太	長田和樹	和田津皓也	【初段】 四月二十九日		服部比加留
眞鍋和季	松島礼人	小林航	中川雄貴	竹森阿航	野路智樹	山田健太	神田圭吾	井原裕一	朝田智輝	西名晴輝	志賀翔馬	森野友貴	藤岡優樹	後藤雄喜	平田智也	森俊太	佐藤裕次郎	小笠晃聖	佐藤吏樹	木内捷人	矢代宗一郎	篠原健
増金泉	林悠里	西岡彩芽	楠本沙耶	富田瑠莉	竹崎真帆	坪井香歩	田口ひかり	堤優香	西角春那	村木康則	中石昭	東谷崇志	中西雅人	池西泰祐	仁木敬人	幸木俊治	岡崎晋也	渡辺裕人	野路貴紀	須藤啓介	畑中航	篠原健
山室和士	中山拓真	八月二十五日		米木彩	都築千尋	前田愛実	森涼太郎	武田祐弥	清水彰人	竹内秀真	檜森大知	分部叶大	米山諒	青木羽海	森下魁	森本直希	六月二十三日		佐藤真美	田中優	川崎七海	光井美沙樹

鎌田樹季 小松叶弥 西田光俊 宮田大貴 麻野晃佑 泉仁平 岩谷大夢 山川通央 龜井大志 古川光朗 水野兼悟 梶泰征 寺谷明 福田友仁 鳥井健汰 平島大也 四宮海都 高島雄大 後藤貴之 加藤五結 鳥井優花 花岡沙恵 行譜心那

山下栞奈 手塚月美 若木聖奈 西穂乃佳 東繪理 十月二十日 前田龍志 藤本竜也 幸山晴輝 林佳吾 新宅正梧 川崎翔太 高橋潤 中川裕唯 山野裕太郎 吉井佑太 豊井啓介 久賀祐治 喜多風介 梶元達輝 寺内勝之 久保翔太

長尾高明 井上泰史 岡田りか 杉山夏海 竹村友里 森川優花 岩本一沙 福田真由 宮本ひなの 添木葵 高木千尋 大松瑞季 平成二十六年 一月二十六日 山田悠音 山田隼輔 島田聖史 正木拓武 井内駿也 植村友飛 西岡建人 安部匠人 嶋瞭人

藤本佑一朗 野崎大翔 小田優人 中山孝太郎 佐野智宏 柴野顕豊 今治愛貴 向井智哉 藤井統弥 山本大輔 政岡翔 松田旺大 渡部則昌 佐野健太 大家弘暉 山田隼輔 竹内聖史 西浦伸哉 板東拓郎 赤木昭一郎 安達純也 朝国良則 山本仁

原健 井原千優 大塚聖里愛 松葉そら 明口なぎさ 藤島汐里 早岡茉奈美 古川こまき 山西瑞季 堀内愛弓 高橋七海 堀本麗央奈 東條友美 中川浩花 福島鈴香 山下芽実 齋藤のり子

―居合道―

【五段】

平成二十六年 十一月十日

二月二十三日

内海油華

長谷川衣枝

【二段】

五月十二日

近藤亮哉

内藤靖二

十一月十日

村田圭

【初段】

五月十二日

近藤紗羽

十一月十日

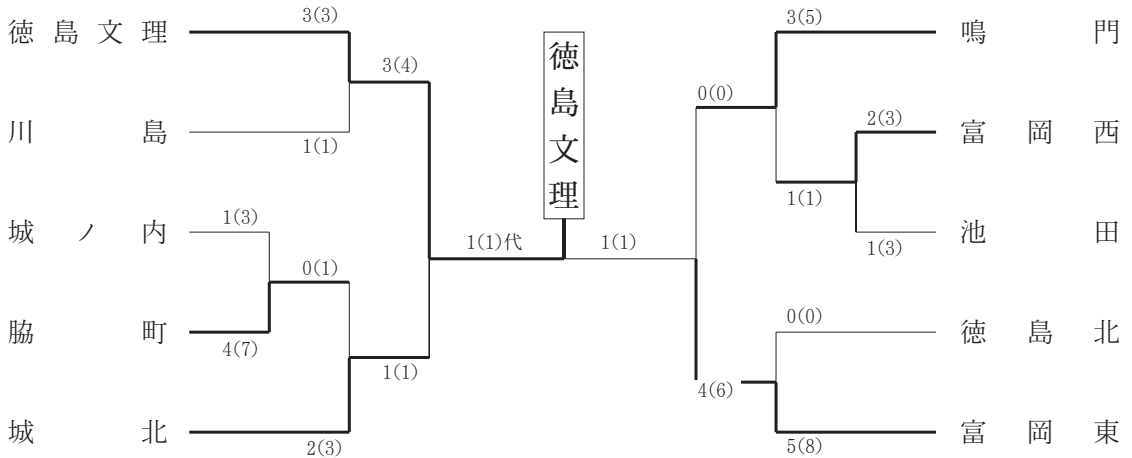
内藤泰典

# 平成25年度 大会 記録

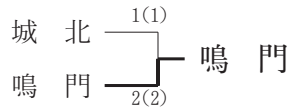
## 第38回徳島県剣道連盟会長杯争奪高等学校剣道大会

日時 平成25年4月21日  
会場 鳴門ソイジョイ武道館

### 〈女子の部〉



### 順位決定戦



### 〈女子の部〉

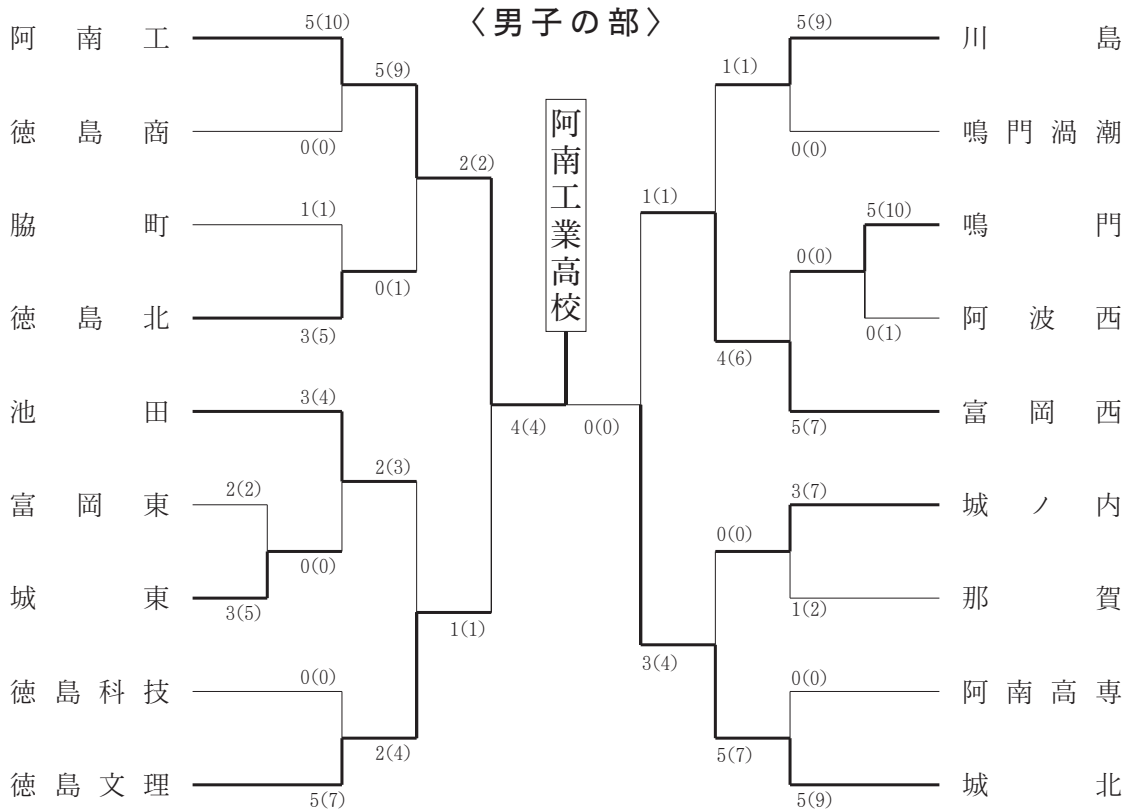
#### 決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	玉田理	大嶺	佐々木	玉田真	川原	1	1	玉田理
	一本勝	延長	延長	一本勝	延長			延長
富岡東	山本	甘利	吉田	藤本	松本	1	1	松本
				一本勝				

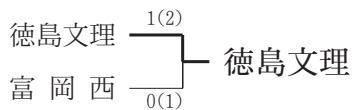
#### 順位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	美馬あ	藤井	美馬汐	三島	松浦	1	1	
			延長	延長	延長			
鳴門	一本勝	一本勝	延長	延長	延長	2	2	
	岩木	笠井	山内	藤田	阿部			

〈男子の部〉



順位決定戦



〈男子の部〉

決勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南工	西田	岩原	福田	小川	大田村	4	4	
	一本勝	一本勝	延長	一本勝				
城北	山田	中川	佐賀	杉本	西田	0	0	

順位決定戦

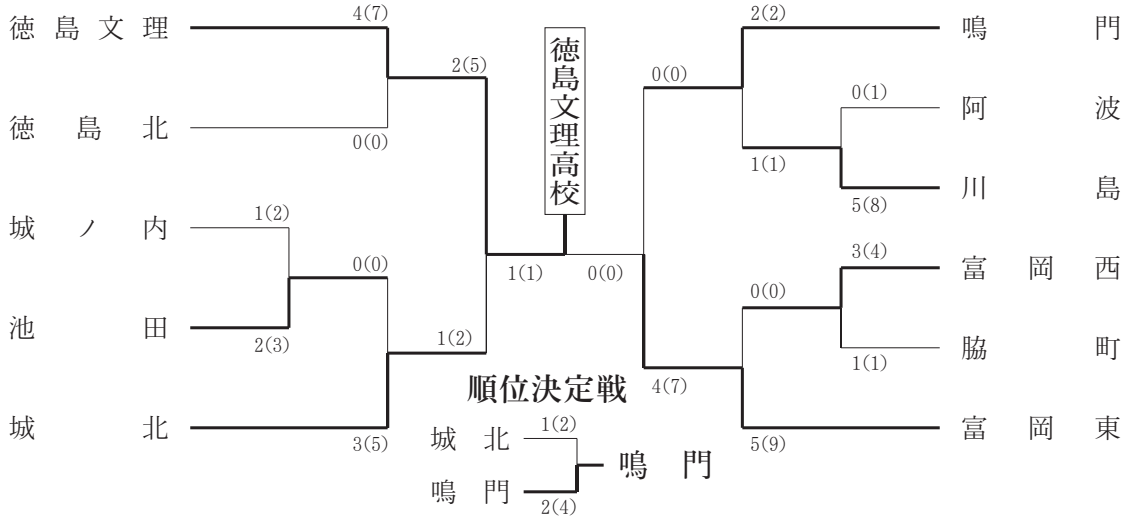
校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	金川	後藤田	上田	喜多	大谷本	1	2	
	延長	延長	延長	延長	一本勝			
富岡西	野村	庄野	松本	米川	上田	0	1	
		一本勝						

# 徳島県高等学校総合体育大会 剣道競技

日時 平成25年 6月1日(土)～6月2日(日)

会場 那賀川スポーツセンター

## 〈女子団体戦〉



## 〈男子団体戦〉



〈女子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	玉田理	大嶺	佐々木	玉田真	川原	2	5	
	⊙ ⊙	▲ 延長	⊗ ⊙	⊗ 延長	⊗ 延長			
城北						1	2	
	美馬あ	藤井	美馬汐	三島	松浦			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
鳴門	岩木	笠井	藤田	山内	阿部	0	0	
		延長						
富岡東	一本勝⊙		⊗ ⊙	⊗ ⊙	⊗ ⊙	4	7	
	吉田	山本	甘利	藤本	松本			

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
城北	美馬あ	藤井	美馬汐	三島	松浦	1	2	
	⊗ ⊗	延長			延長			
鳴門			⊙ ⊗	一本勝⊗		2	4	
	⊙	延長	藤田	山内	阿部			

決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	玉田理	大嶺	佐々木	玉田真	川原	1	1	
	一本勝	延長	延長	延長	延長			
富岡東						0	0	
	小川	山本	甘利	藤本	松本			

〈男子団体戦〉

準 決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南工	岩原	西田	飯田	小川	田村	2	4	
	一本勝	⊗ ⊙	⊗ 延長	⊗ 延長	⊗ 延長			
富岡西						0	1	
	庄野	野村	松本	藤坂	上田			

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
徳島文理	金川	後藤田	上田	阿部	大谷	1	1	
	延長	延長		一本勝	延長			
城北						2	2	
	⊗	佐賀	山田	杉本	中川			

3 位決定戦

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
富岡西	庄野	野村	松本	藤坂	上田	2	3	
	⊗ ⊙			⊗	延長			
徳島文理						2	2	
	一本勝	一本勝	楠	阿部	谷本			

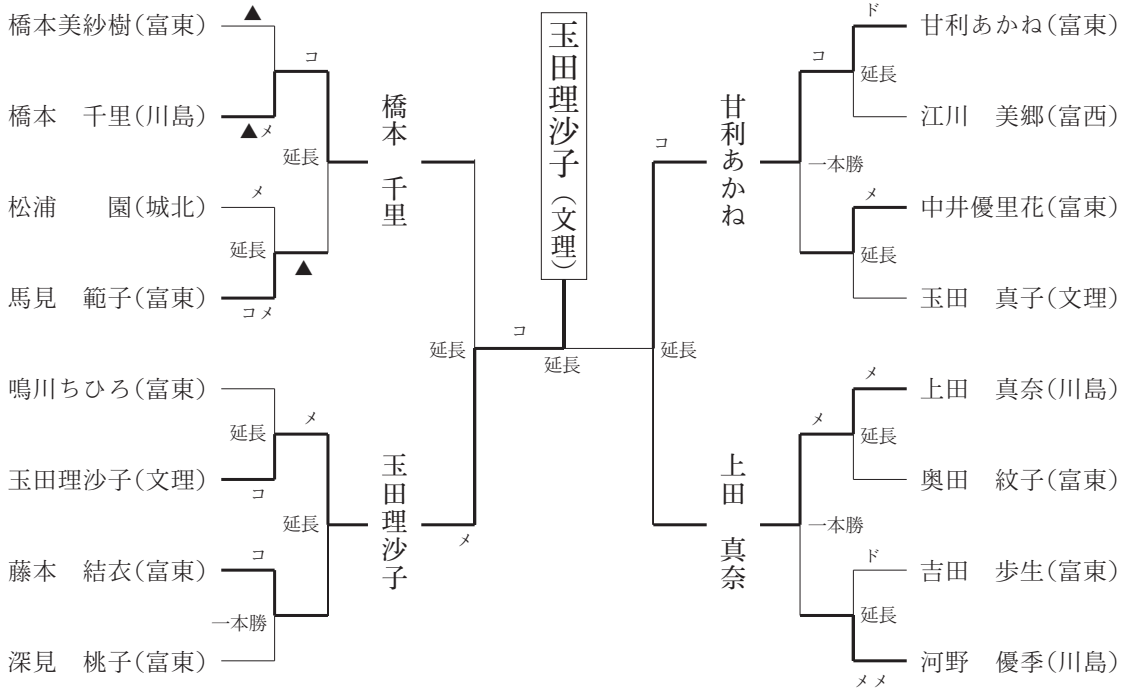
決 勝

校名	先	次	中	副	大	勝数	本	代
阿南工	岩原	西田	飯田	小川	田村	3	4	
	一本勝	⊗ ⊙	延長	一本勝				
城北						1	2	
	佐賀	山田	杉本	中川	⊗ ⊙			

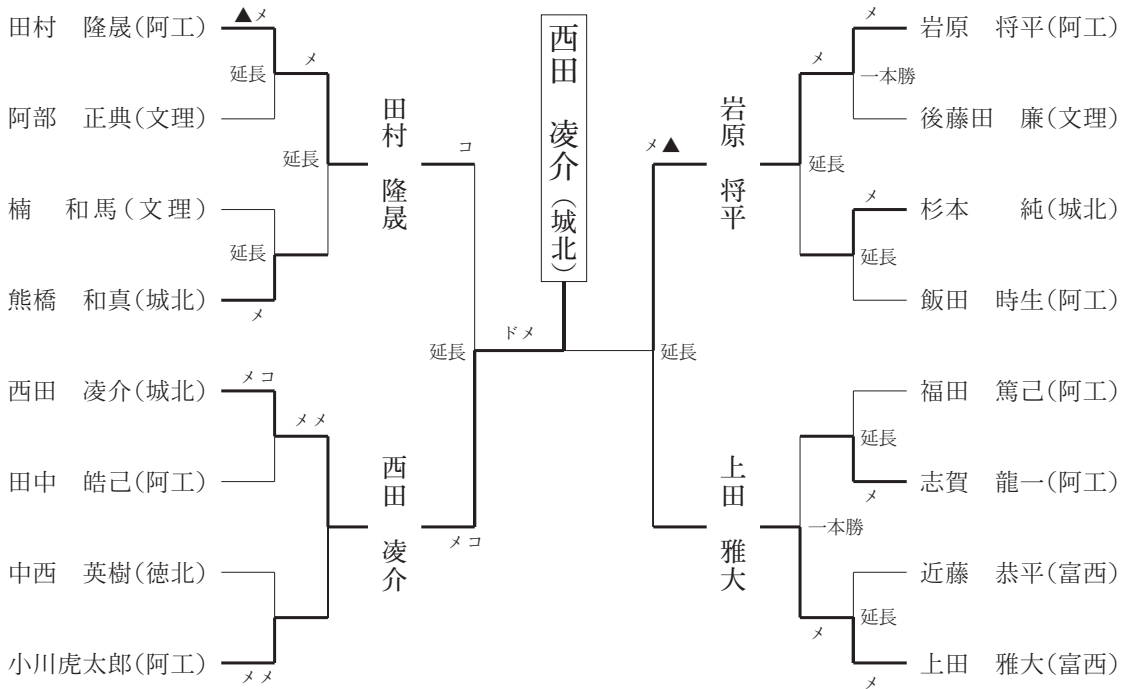


# 決勝リーグ

## 〈女子個人戦〉



## 〈男子個人戦〉



## 第42回 徳島県中学校剣道選手権大会

日 時 平成25年6月9日(日) 午前9時20分開会  
場 所 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

### [団体戦]

順位	男 子	女 子
優 勝	阿 南 第 一 中 学 校	鳴 門 第 一 中 学 校
準 優 勝	徳 島 中 学 校	石 井 中 学 校
第 3 位	石 井 中 学 校	阿 南 第 一 中 学 校
第 3 位	徳 島 文 理 中 学 校	那 賀 川 中 学 校

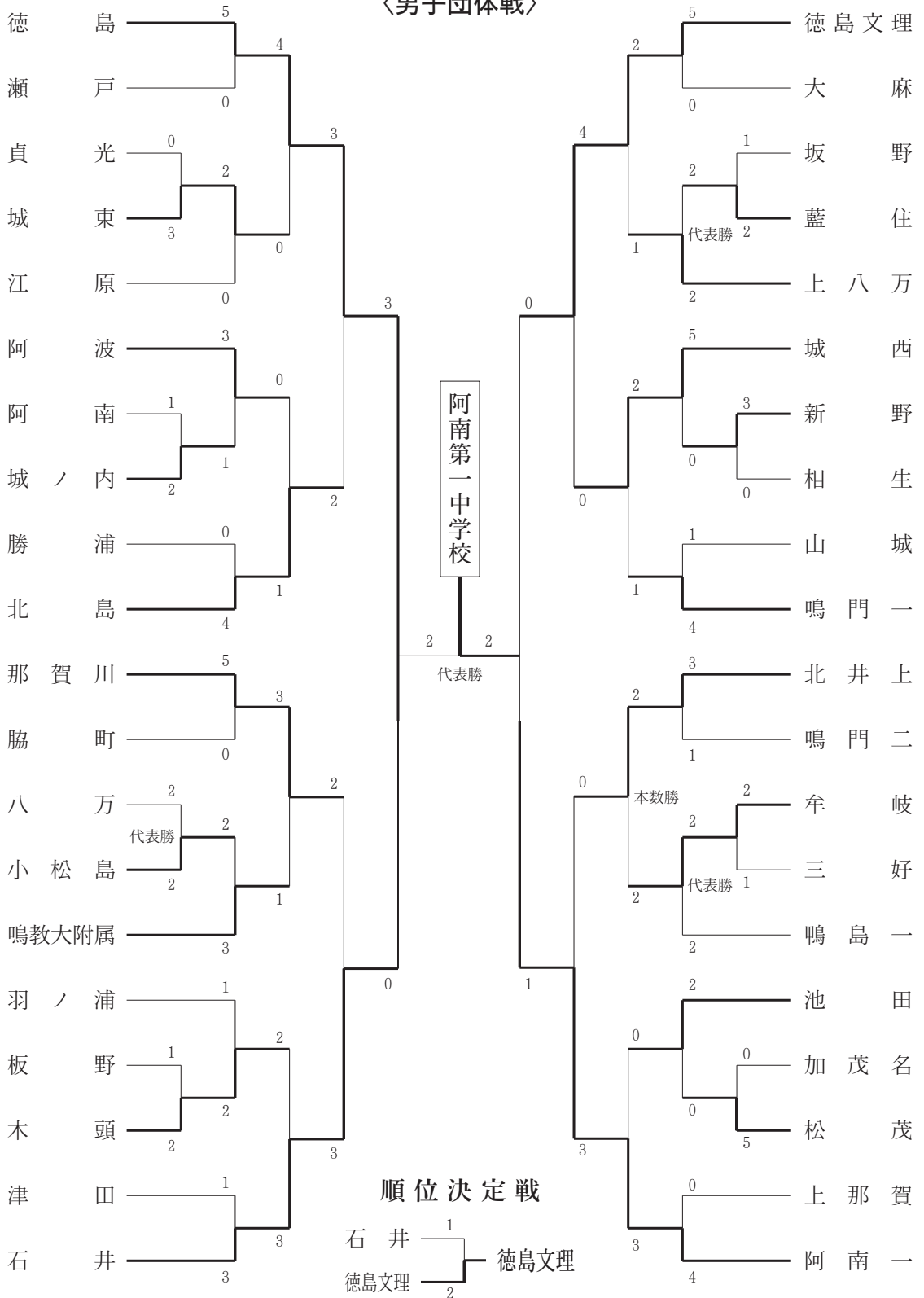
### [男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
徳 島	鳴 川	秋 田	塚 田	高 瀬	美 馬	美 馬	2 (3)
	⊖⊗	⊗一本勝	X				
阿南第一	⊗		X	⊗一本勝	⊖一本勝	⊖	2 (3)
	朝 田	平 田	田 上	木 内	西 名	西 名	

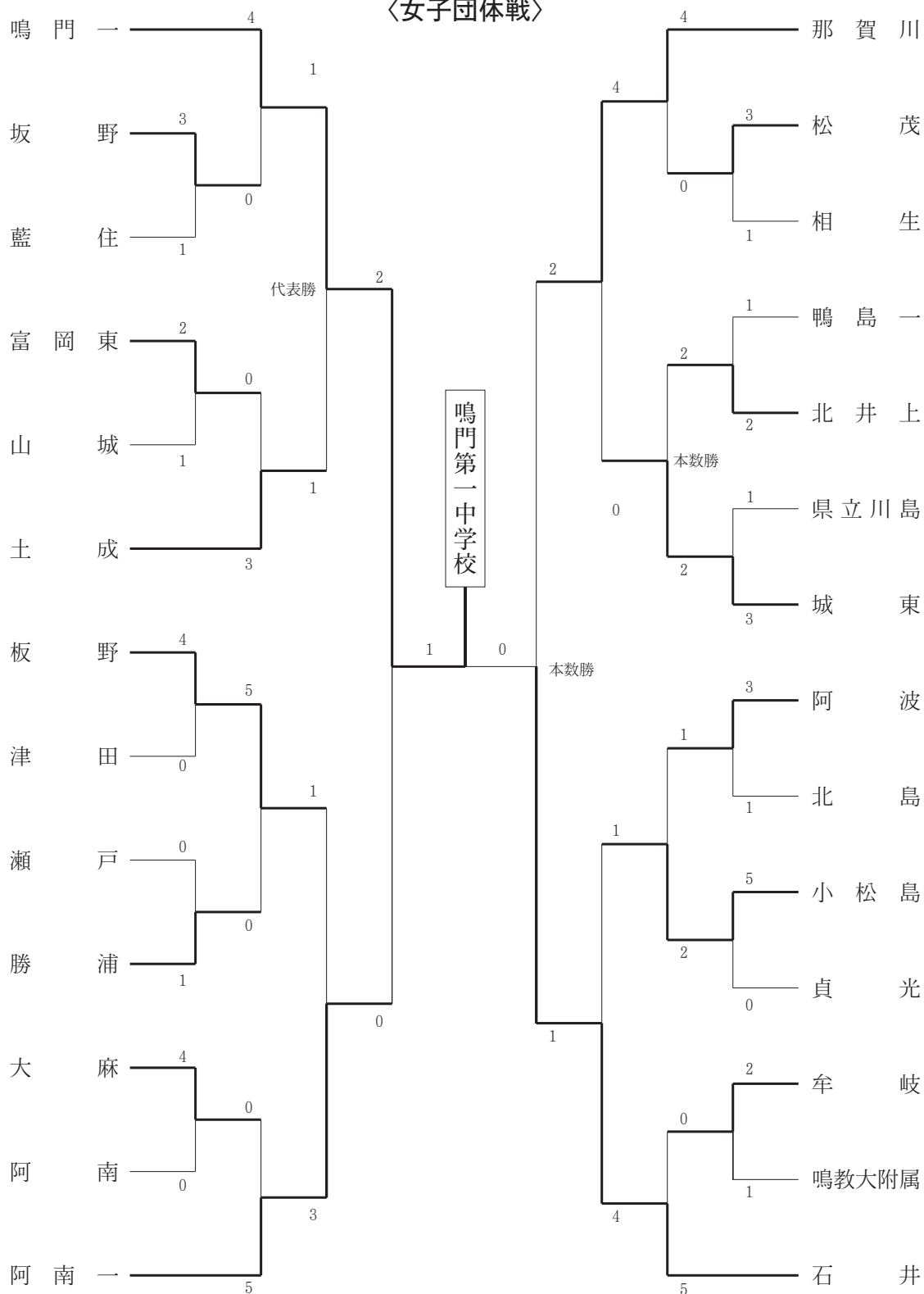
### [女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
鳴門第一	富 田	西 角	田 渕	東 條	太 田		1 (4)
	⊖	X	⊗⊖	X	⊗		
石 井	⊗			X	⊗		0 (2)
	佐 野	宮 本	高 司	丸 山	川真田		

〈男子団体戦〉



# 〈女子団体戦〉



## 第67回 徳島県中学校夏季総合体育大会 剣道競技

日 時 平成25年 7月13日(土) 午前 9 時45分開会  
場 所 ソ イ ジ ョ イ 武 道 館

### [団体戦]

順位	男 子	女 子
優 勝	徳 島 中 学 校	那 賀 川 中 学 校
準 優 勝	石 井 中 学 校	鳴 門 第 一 中 学 校
第 3 位	北 島 中 学 校	阿 南 第 一 中 学 校
第 3 位	徳 島 文 理 中 学 校	徳 島 文 理 中 学 校

### [男子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
石 井	山 室	島 口	西 條	大 西	村 本		1 (1)
	延長 ⊗	⊗一本勝 ▲	延長 ▲				
徳 島				⊗⊗	⊖⊖		3 (5)
	鳴 川	秋 田	塚 田	高 瀬	美 馬		

### [女子決勝]

学校名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	代表戦	勝 敗
鳴門第一	富 田	西 角	田 渕	堤	太 田		1 (1)
		延長 ▲	⊗一本勝	延長			
那 賀 川	⊖一本勝	▲⊗		⊗	Ⓣ一本勝		4 (4)
	西 岡	高 野	坪 井	大 城	長 谷 川		

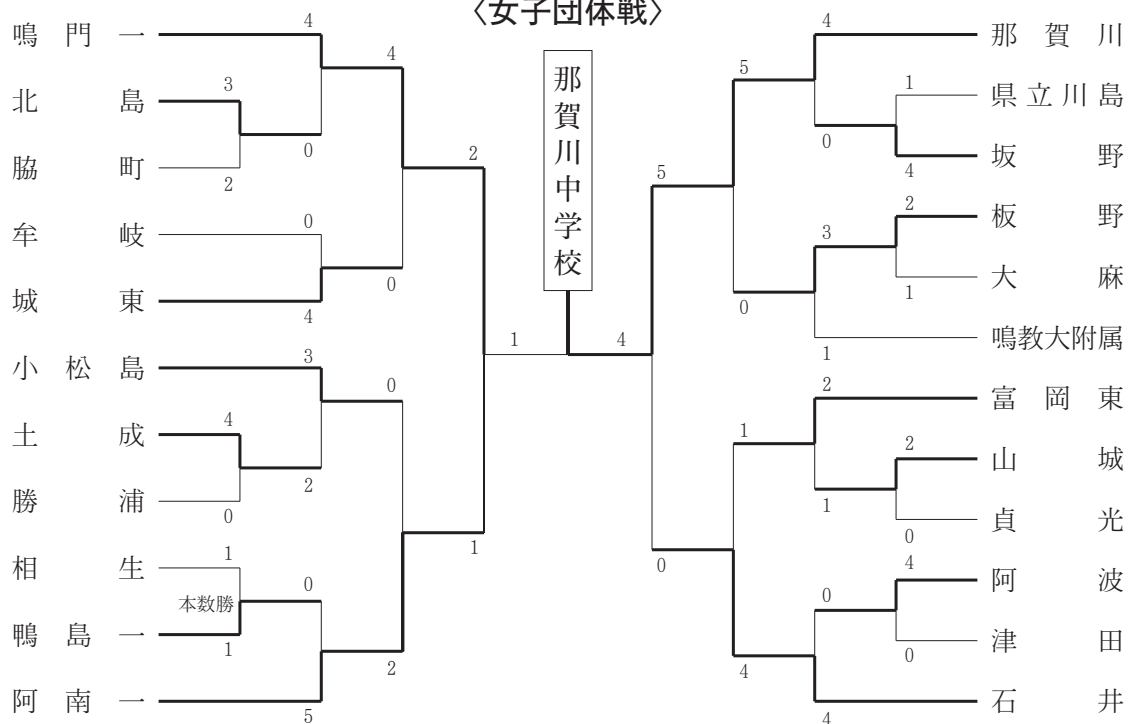
### [個人戦]

順位	男 子	学校名	順位	女 子	学校名
優 勝	美 馬 州 一	徳 島	優 勝	長 谷 川 瑞 実	那 賀 川
準優勝	熊 橋 凌 司	徳 島	準優勝	丸 岡 由 理 奈	富 岡 東
第 3 位	塚 田 圭 吾	徳 島	第 3 位	田 渕 南 帆	鳴 門 第 一
第 3 位	高 瀬 陽 平	徳 島	第 4 位	太 田 あ かり	鳴 門 第 一

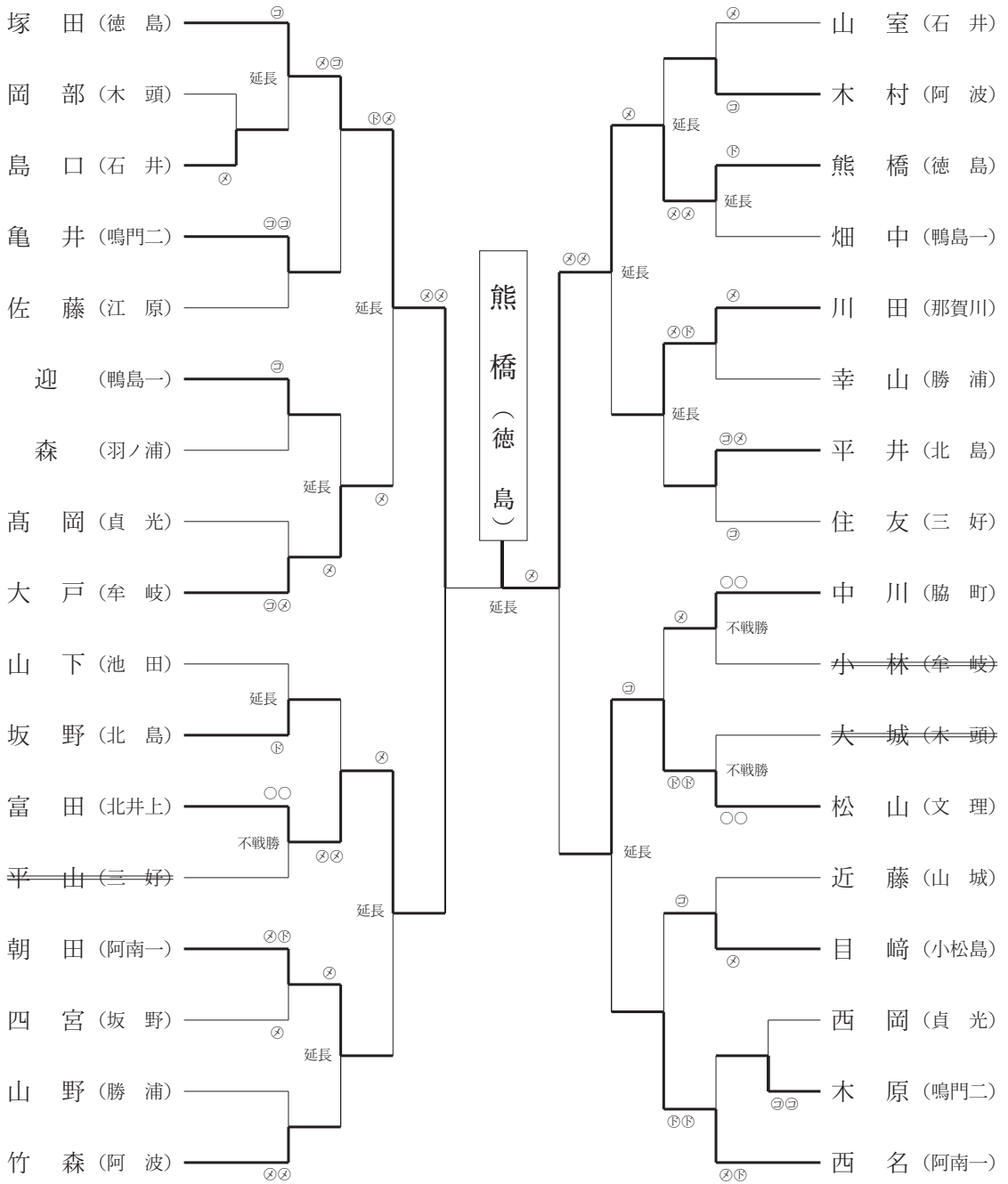
### 〈男子団体戦〉



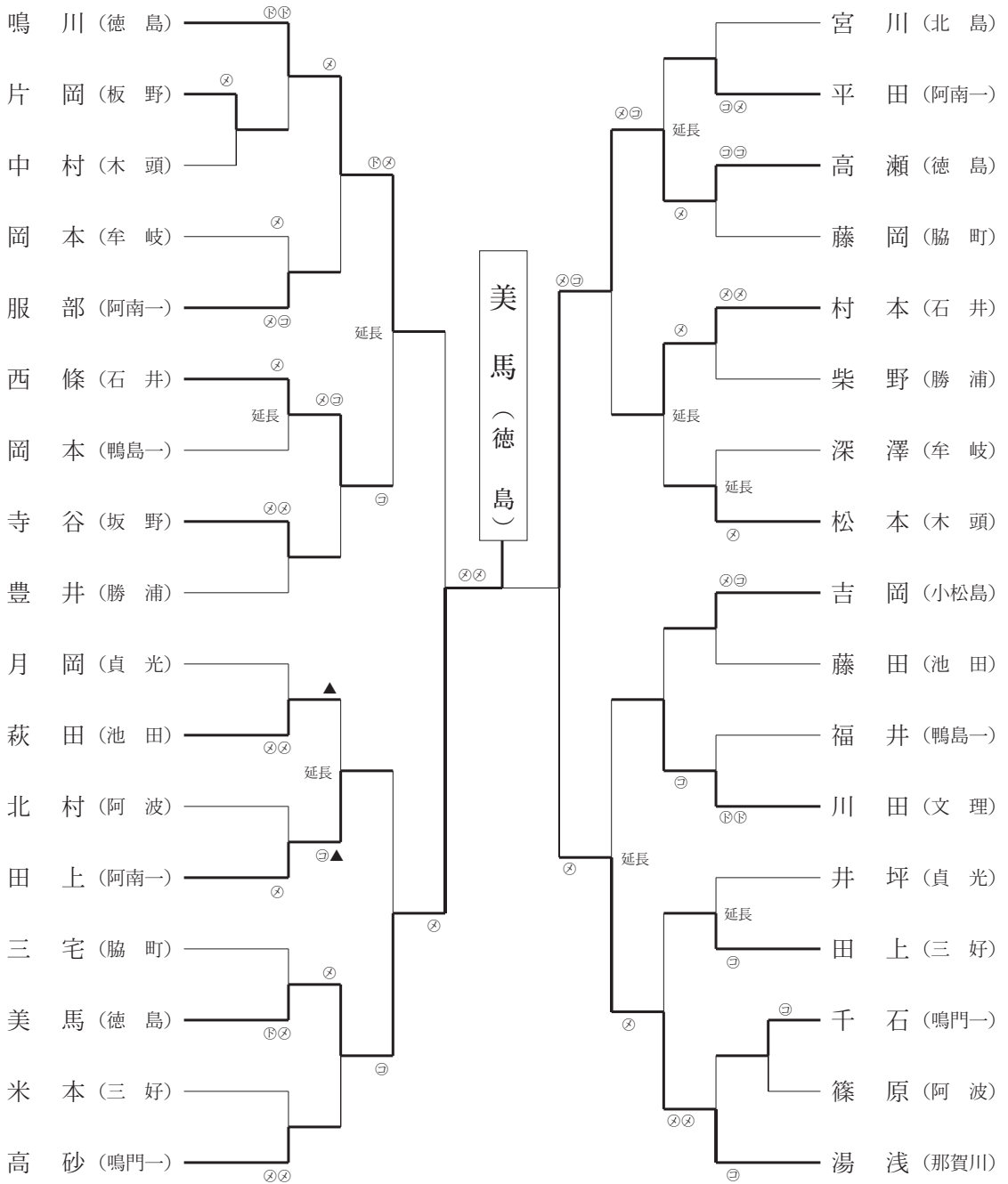
### 〈女子団体戦〉



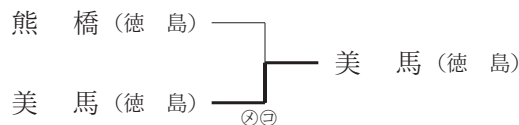
〈男子個人戦1〉



## 〈男子個人戦2〉

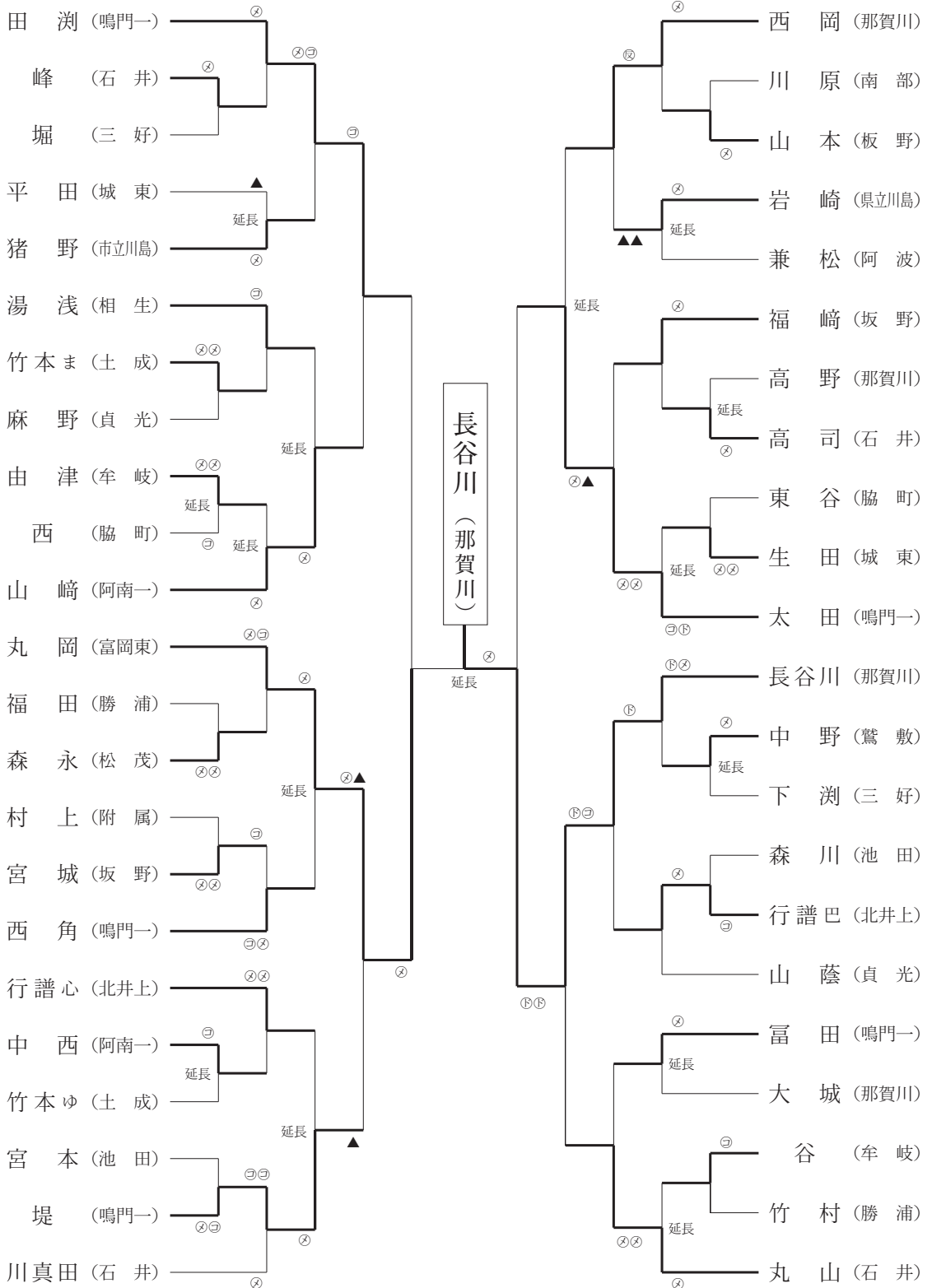


## 男子個人決勝



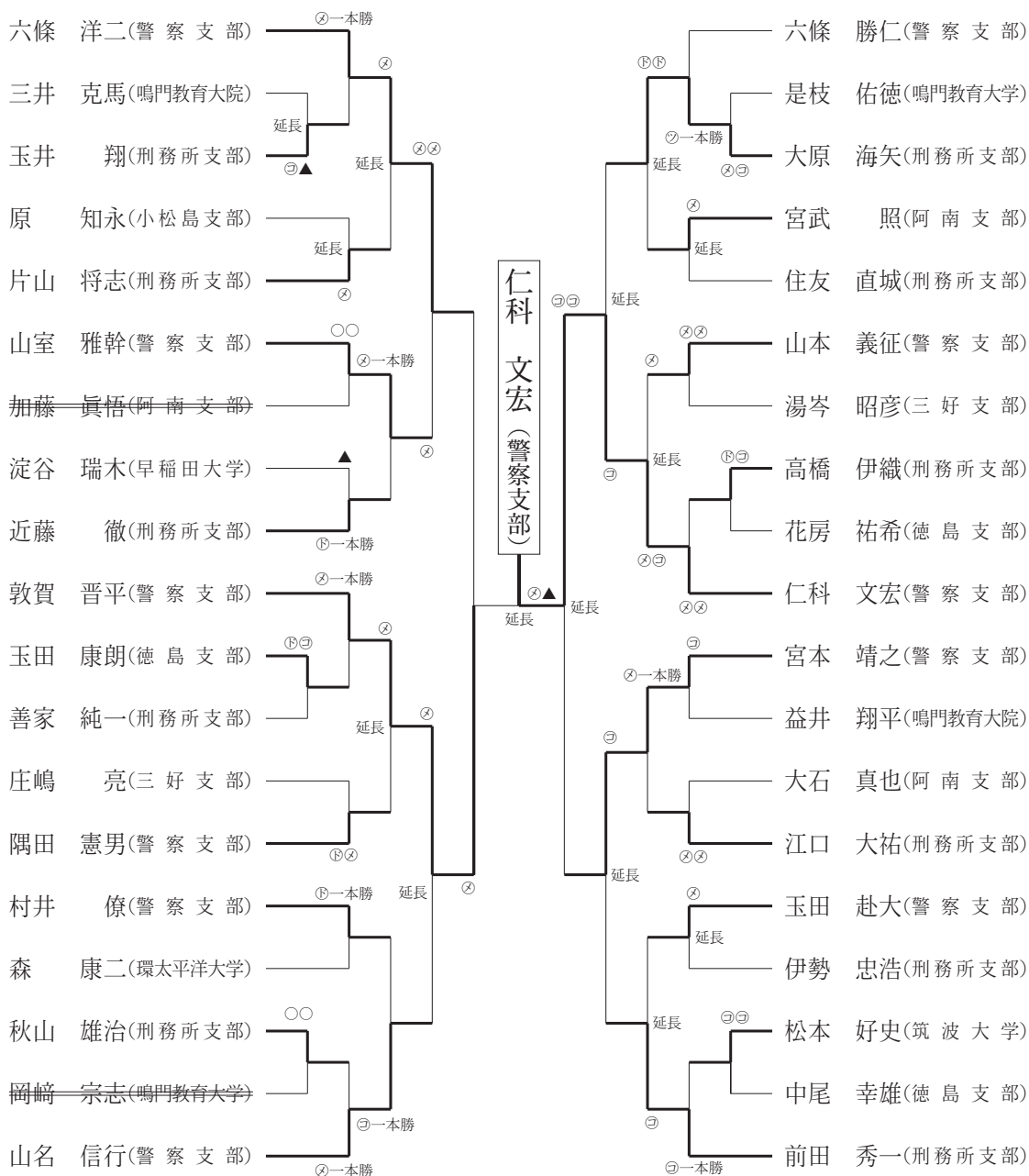


〈女子個人戦〉



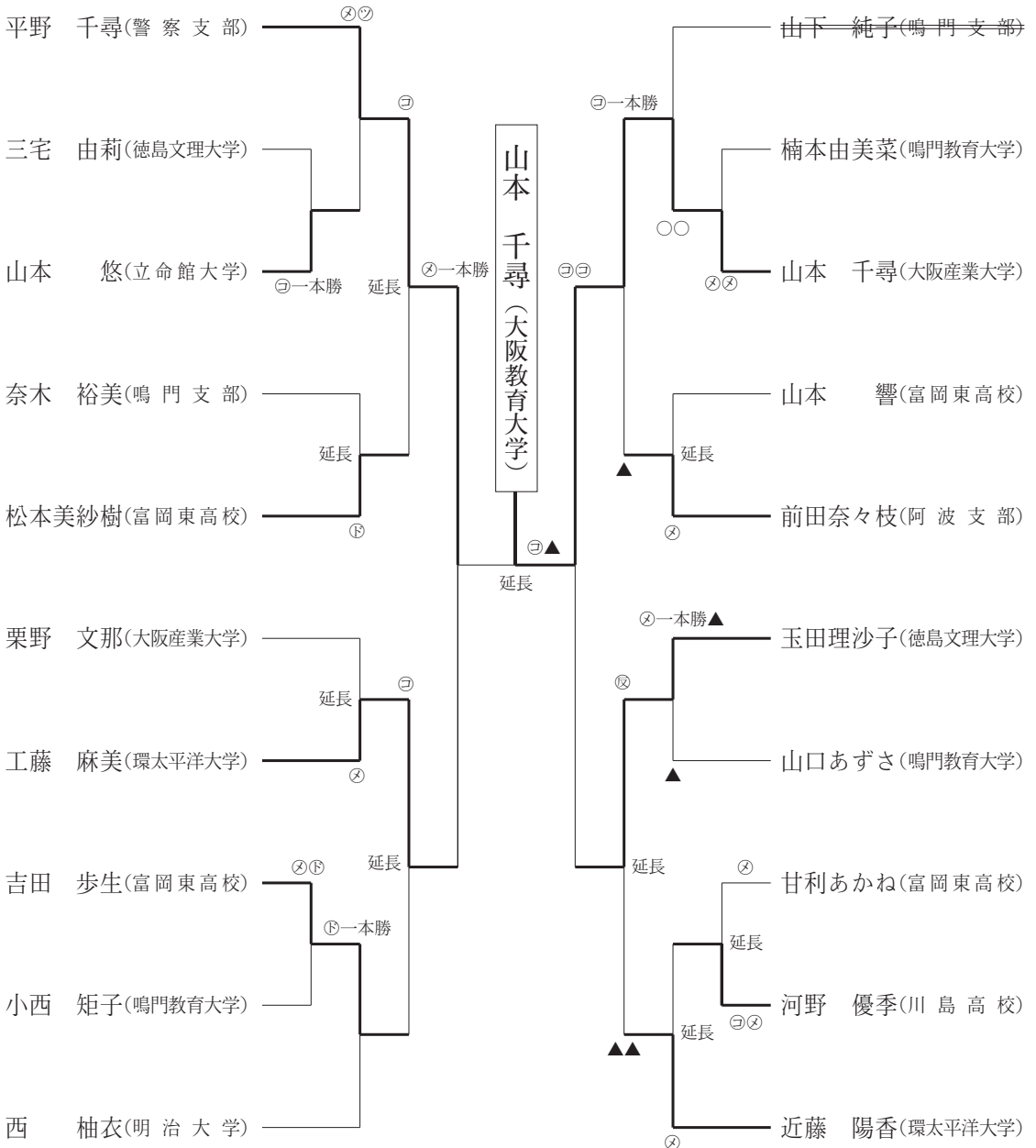
# 第25回 徳島県剣道選手権大会並びに 第61回 全日本剣道選手権大会県予選会

優勝 仁科文宏 (警察支部)      日時 平成25年7月21日(日) 午前10時開会  
 準優勝 敦賀晋平 (警察支部)      場所 松茂町第二体育館  
 第三位 六條洋二 (警察支部)  
 第三位 宮本靖之 (警察支部)



# 第16回 徳島県女子剣道選手権大会並びに 第52回 全日本女子選手権大会県予選会

優勝 山本 千尋 (大阪教育大学) 日時 平成24年7月21日(日) 午前10時開会  
準優勝 平野 千尋 (警察支部) 場所 松茂町第二体育館  
第三位 工藤 麻美 (環太平洋大学)  
第三位 玉田 理沙子 (徳島文理高校)



# 第34回 国民体育大会四国ブロック大会

日 時 平成 25 年 8 月 18 日 (日)

場 所 徳島文理大学体育館

〈少年女子〉

〈少年男子〉

## 第 1 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
愛媛	松田	佐藤	岡田	赤堀	富永	2	4
	⊖ ⊗		⊗	▲	▲ ⊖		
徳島		延長	延長	延長	延長	3	4
	川原	⊖ 山本	▲ 藤本	⊗ ▲ 松本	⊗ ⊗ 玉田		

## 第 1 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	岩原	西田和	西田凌	小川	田村	2	2
		▲	⊗ 一本勝	⊖			
香川		延長		延長	延長	3	3
	⊖ 乙部	⊗ 笠井	▲ 金滝		⊗ 三好 谷口		

## 第 2 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	川原	山本	藤本	松本	玉田	3	4
	▲ ⊖ 延長	⊗ 延長	▲ ⊗ 延長	⊖ 一本勝			
高知	▲ 五百蔵	⊗ 池上	▲ 式地		一本勝 ⊖ 市川	2	3

## 第 2 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	岩原	西田和	西田凌	小川	田村	1	1
		⊖ 一本勝		▲			
愛媛	一本勝 ⊗ 井関	▲ 板谷	延長 ⊖ 山本	延長 ⊖ ▲ 瀬尾	延長 ⊖ 谷林	4	4

## 第 3 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	川原	山本	藤本	松本	玉田	2	3
			▲ ⊖	⊗ 一本勝	⊖		
香川	一本勝 ⊗ 古市	延長 ⊖ 池田	延長 ▲ 内原		延長 ⊗ ⊗ 池内	3	4

## 第 3 試合

県名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳島	岩原	西田和	西田凌	小川	田村	1	4
	⊗ ⊖	⊖		▲	⊖		
高知	延長 ⊗	延長 ⊗ ⊗ 大西	一本勝 ⊗ 松田	一本勝 ⊗ 能勢	⊗ ⊖ 八松	4	7

〈少年男子〉

	高知	愛媛	香川	徳島	勝数	勝者数	勝本数	順位
高知		$\frac{1}{1}$	$\frac{3}{2}$	$\frac{7}{4}$	1	7	11	3
愛媛	$\frac{4}{4}$		$\frac{4}{4}$	$\frac{4}{4}$	3	12	12	1
香川	$\frac{4}{3}$	$\frac{2}{1}$		$\frac{3}{3}$	2	7	9	2
徳島	$\frac{4}{1}$	$\frac{1}{1}$	$\frac{2}{2}$		0	4	7	4

〈成年女子〉

第1試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
徳島	西	前田	北村	2	3
	▲ $\otimes$ 一本勝	$\otimes$ $\otimes$			
高知			$\ominus$ $\otimes$	1	2
	小谷	松本	松田		

〈少年女子〉

	高知	愛媛	香川	徳島	勝数	勝者数	勝本数	順位
高知		$\frac{1}{1}$	$\frac{5}{5}$	$\frac{3}{2}$	1	8	9	4
愛媛	$\frac{4}{4}$		$\frac{3}{2}$	$\frac{4}{2}$	1	8	11	3
香川	$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{3}$		$\frac{4}{3}$	2	6	8	2
徳島	$\frac{4}{3}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{3}{2}$		2	8	11	1

第2試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
香川	中野	松本	諏訪	0	0
			延長		
徳島	一本勝 $\ominus$	一本勝 $\otimes$	$\otimes$	3	3
	西	前田	北村		

〈成年女子〉

	高知	愛媛	香川	徳島	勝数	勝者数	勝本数	順位
高知		$\frac{0}{0}$	$\frac{4}{3}$	$\frac{2}{1}$	1	4	6	3
愛媛	$\frac{4}{3}$		$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{1}$	2	6	8	2
香川	$\frac{0}{0}$	$\frac{1}{1}$		$\frac{0}{0}$	0	1	1	4
徳島	$\frac{3}{2}$	$\frac{2}{2}$	$\frac{3}{3}$		3	7	8	1

第3試合

県名	先鋒	中堅	大将	勝数	本数
愛媛	黒河	松木	三木	1	1
	▲		$\textcircled{1}$		
徳島	延長	延長	延長	2	2
	$\ominus$	$\otimes$ 前田	北村		

# 第34回 徳島県女子剣道大会

日時 平成25年 9月 1日(日) 午前10時  
場所 中 央 武 道 館

## 団 体 戦

優勝 富 東 O G 会 B

準優勝 教 員 剣 美 会

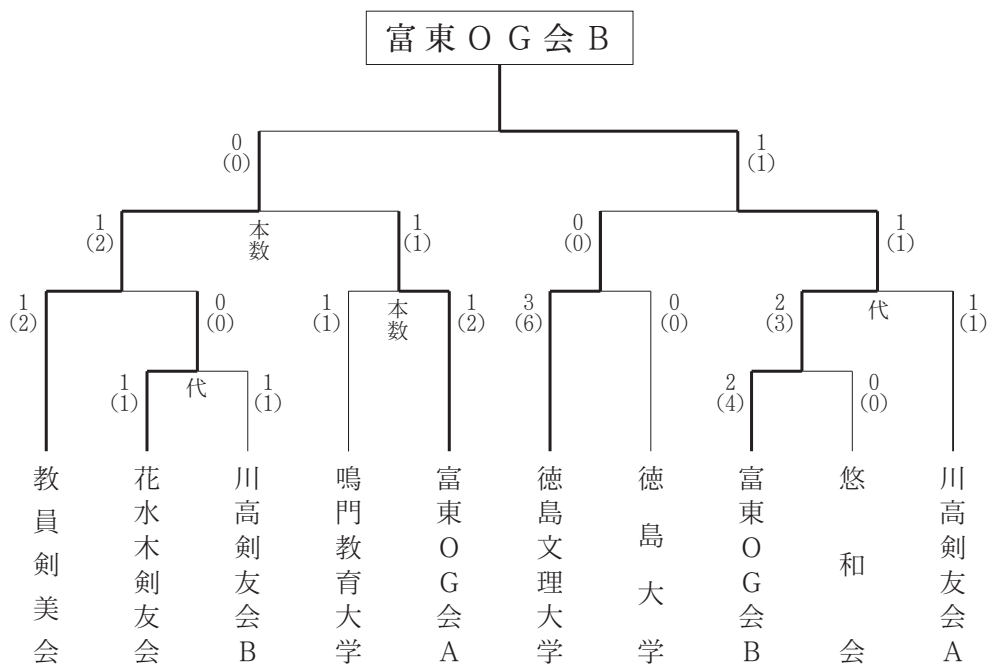
第3位 徳 島 文 理 大 学

第3位 富 東 O G 会 A

## 決 勝

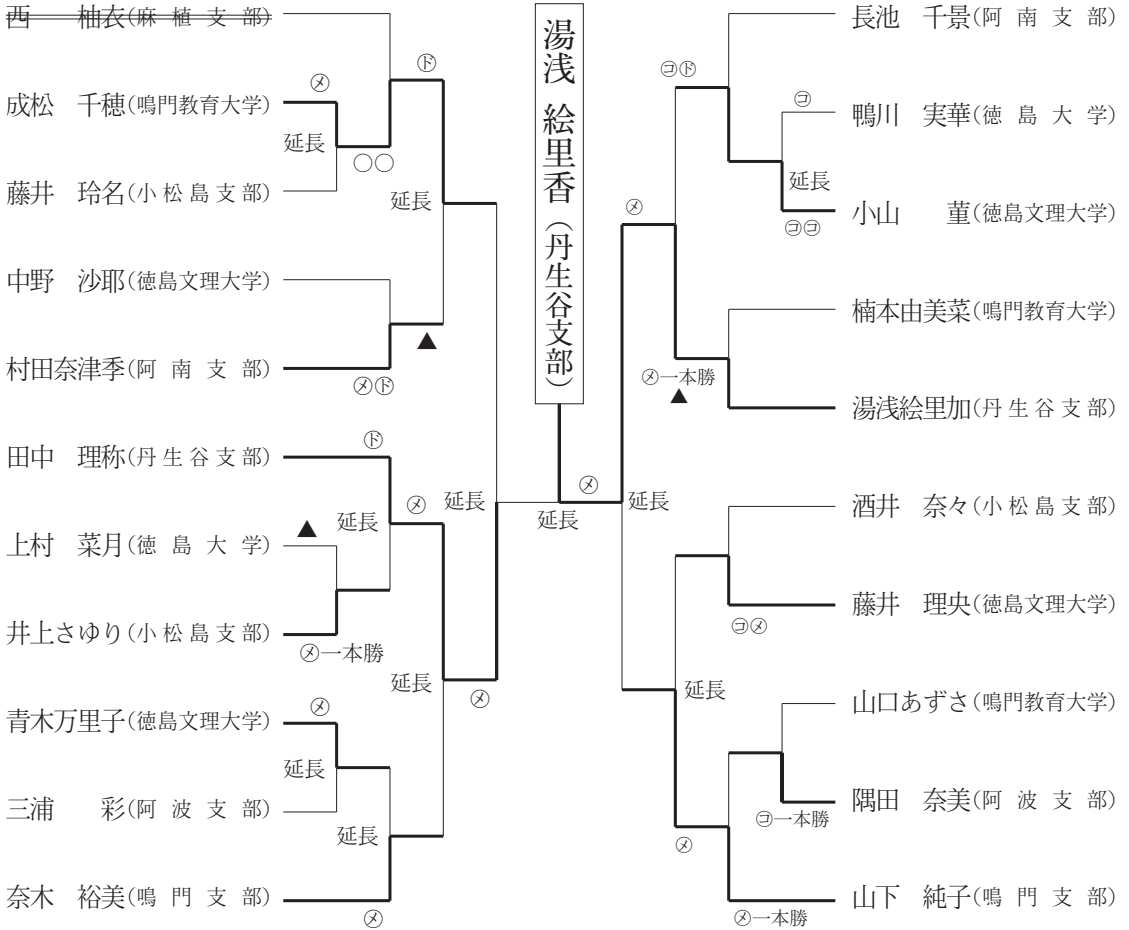
	先鋒	中堅	大将	代表戦	勝数	本数
教 剣 美	長地	山下	奈木		0	0
富東OG会B	一本勝 ⊖				1	1
	湯浅	伊藤	山崎			

## 決勝トーナメント



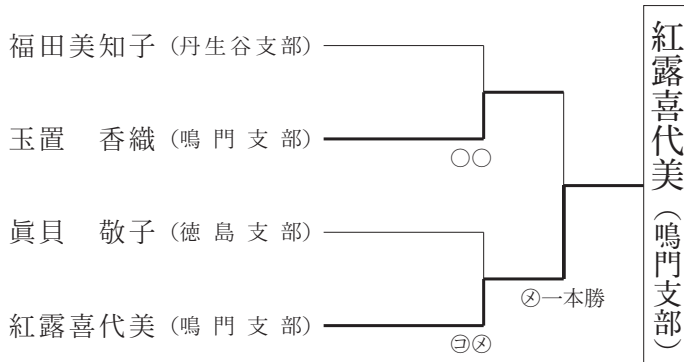
# 個人戦 <区分1>

優勝 湯浅 絵里香 (丹生谷支部)  
 準優勝 田中 理称 (丹生谷支部)  
 第三位 山 下 純 子 (鳴門支部)  
 第三位 成 松 千 穂 (鳴門教育大)



# 個人戦 <区分2>

優勝 紅露 喜代美 (鳴門支部)



## 第42回 徳島県社会人剣道大会

### 予選リーグ

日 時 平成25年 9月22日(日) 午前10時  
場 所 鳴門ソイジョイ武道館

A	名 西 支 部	月 曜 会 A	三 好 支 部 A	勝 数	勝 者 数	勝 本 数	順 位
名西支部		$\frac{4}{3}$	$\frac{3}{2}$	1.5	5	7	2
月曜会 A	$\frac{0}{0}$		$\frac{1}{1}$	0	1	1	3
三好支部 A	$\frac{3}{2}$	$\frac{6}{3}$		1.5	5	9	1

B	大 塚 製 菓	東 内 道 場	板 野 西 A	勝 数	勝 者 数	勝 本 数	順 位
大塚製菓		$\frac{8}{4}$	$\frac{4}{2}$	2	6	12	1
東内道場	$\frac{0}{0}$		$\frac{2}{2}$	0	2	2	3
板野西 A	$\frac{2}{2}$	$\frac{4}{2}$		1	4	6	2

C	美 馬 支 部 A	徳 島 中 央 ク ラ ブ	麻 植 支 部 B	勝 数	勝 者 数	勝 本 数	順 位
美馬支部 A		$\frac{3}{1}$	$\frac{1}{1}$	0	2	4	3
徳島中央クラブ	$\frac{8}{3}$		$\frac{5}{3}$	2	6	13	1
麻植支部 B	$\frac{3}{2}$	$\frac{1}{0}$		1	2	4	2

D	小 松 島 支 部 A	板 野 東 支 部 A	阿 南 支 部 那 賀 川	勝 数	勝 者 数	勝 本 数	順 位
小松島支部 A		$\frac{3}{2}$	$\frac{5}{3}$	2	5	8	1
板野東支部 A	$\frac{2}{2}$		$\frac{4}{2}$	1	4	6	2
阿南支部那賀川	$\frac{1}{1}$	$\frac{1}{0}$		0	1	2	3

E	徳 島 刑 務 所	入 田 錬 成 会	美 馬 支 部 C	阿 波 支 部 (松)	勝 数	勝 者 数	勝 本 数	順 位
徳島刑務所		$\frac{7}{3}$	$\frac{9}{4}$	$\frac{4}{2}$	3	9	20	1
入田錬成会	$\frac{2}{0}$		$\frac{6}{2}$	$\frac{2}{1}$	0	3	10	4
美馬支部 C	$\frac{2}{1}$	$\frac{6}{3}$		$\frac{0}{0}$	1	4	8	3
阿波支部(松)	$\frac{1}{0}$	$\frac{6}{3}$	$\frac{6}{5}$		2	8	13	2

F	月 曜 会 A	阿 南 支 部 A	海 部 支 部	阿 波 支 部 (竹)	勝 数	勝 者 数	勝 本 数	順 位
月曜会 A		$\frac{7}{2}$	$\frac{5}{4}$	$\frac{2}{1}$	3	7	14	1
阿南支部 A	$\frac{1}{1}$		$\frac{2}{2}$	$\frac{7}{4}$	2	7	13	2
海部支部	$\frac{0}{0}$	$\frac{2}{1}$		$\frac{1}{1}$	0	2	3	4
阿波支部(竹)	$\frac{1}{0}$	$\frac{1}{0}$	$\frac{6}{3}$		1	3	8	3



## 予選リーグ

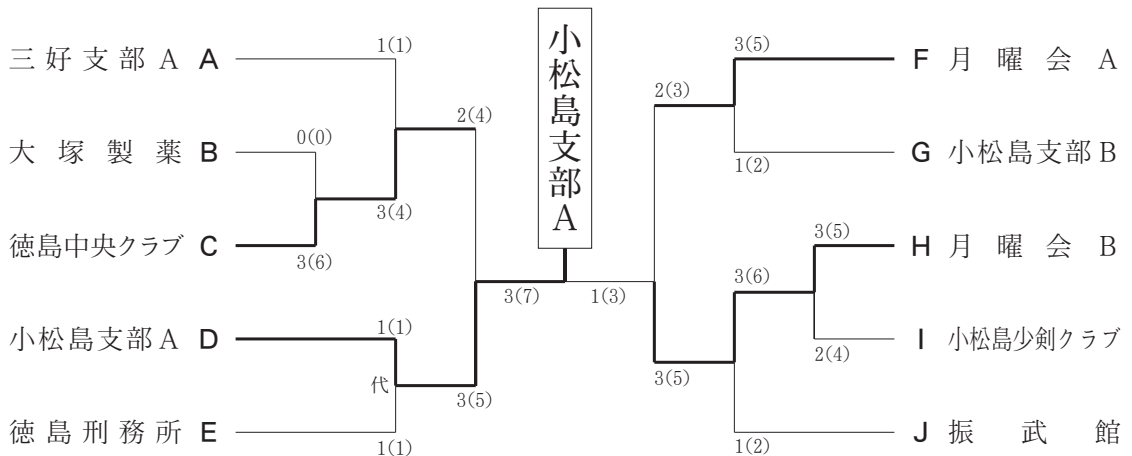
G	美馬支部 B	鳴門支部	小松島支部 B	勝数	勝者数	勝本数	順位
美馬支部 B		$\frac{6}{3}$	$\frac{4}{1}$	1	4	10	2
鳴門支部	$\frac{3}{2}$		$\frac{3}{1}$	0	3	6	3
小松島支部 B	$\frac{5}{3}$	$\frac{5}{3}$		2	6	10	1

H	板野西 B	月曜会 B	麻植支部 A	勝数	勝者数	勝本数	順位
板野西 B		$\frac{2}{1}$	$\frac{6}{3}$	1	4	8	2
月曜会 B	$\frac{4}{2}$		$\frac{5}{3}$	2	5	9	1
麻植支部 A	$\frac{0}{0}$	$\frac{0}{0}$		0	0	0	3

I	小松島少剣クラブ	美馬支部 D	三好支部 B	勝数	勝者数	勝本数	順位
小松島少剣クラブ		$\frac{8}{4}$	$\frac{10}{5}$	2	9	18	1
美馬支部 D	$\frac{0}{0}$		$\frac{2}{1}$	0	1	2	3
三好支部 B	$\frac{1}{0}$	$\frac{3}{2}$		1	2	4	2

J	振武館	上八万絆剣道倶楽部	板野東支部 B	勝数	勝者数	勝本数	順位
振武館		$\frac{3}{2}$	$\frac{9}{4}$	2	6	12	1
上八万絆剣道倶楽部	$\frac{0}{0}$		$\frac{6}{3}$	1	3	6	2
板野東支部 B	$\frac{2}{1}$	$\frac{1}{1}$		0	2	3	3

## 決勝トーナメント



## 準 決 勝 戦

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
徳島中央クラブ	土山	山室	熊澤	生田	福多		4 — 2
	☐	⊗ 一本勝			⊗ ☐		
小松島支部 A	⊗ ⊗		一本勝 ⊗	☐ ⊗			5 — 3
	原	武藏	園田	佐藤	高木		

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
月曜会 A	西本	岸野	小池	井村	乾		3 — 2
			▲	⊗ 一本勝	☐ ⊗		
月曜会 B	⊗ ⊗	一本勝 ⊗	☐ ☐				5 — 3
	松本	星野	岡山	福井	吉田		

## 決 勝 戦

優勝 小松島支部 A  
 準優勝 月曜会 B  
 第3位 徳島中央クラブ  
 第3位 月曜会 A

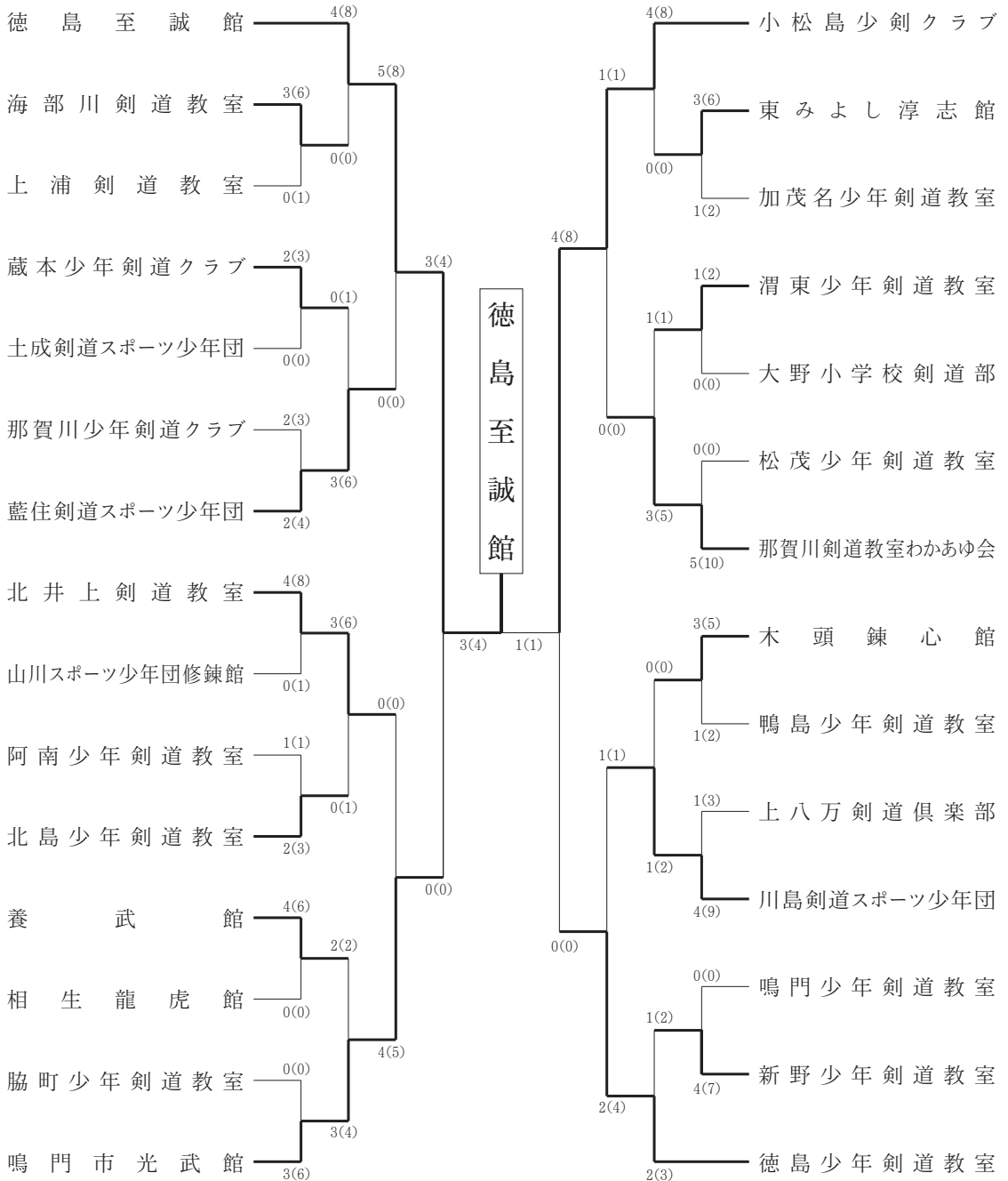
チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	代表	得点
小松島支部 A	原	武藏	園田	佐藤	高木		7 — 3
	⊗ ⊗		⊗	⊗ ⊗	⊗ ⊗		
月曜会 B		一本勝 ⊗	☐	⊗			3 — 1
	松本	星野	岡山	福井	吉田		

# 第44回 徳島県少年剣道錬成大会

## 団体戦

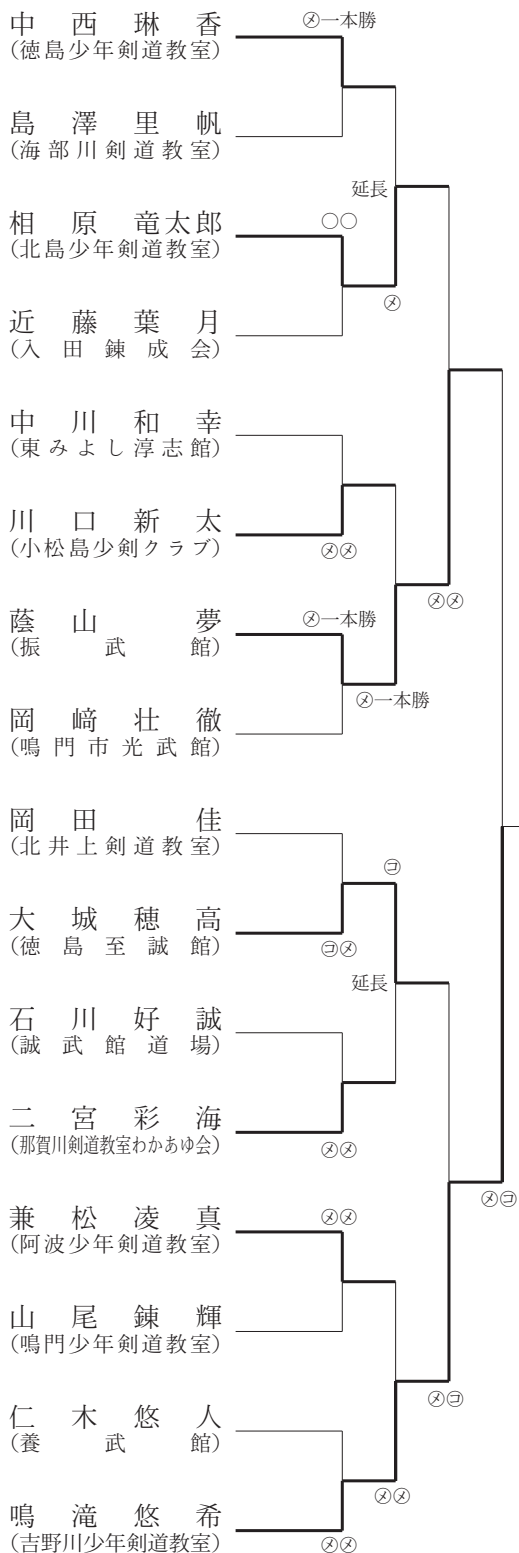
日時 平成25年11月17日(日) 午前10時00分  
場所 鳴門ソイジョイ武道館

優勝 徳島至誠館  
準優勝 小松島少剣クラブ  
第3位 鳴門市光武館  
第3位 徳島少年剣道教室

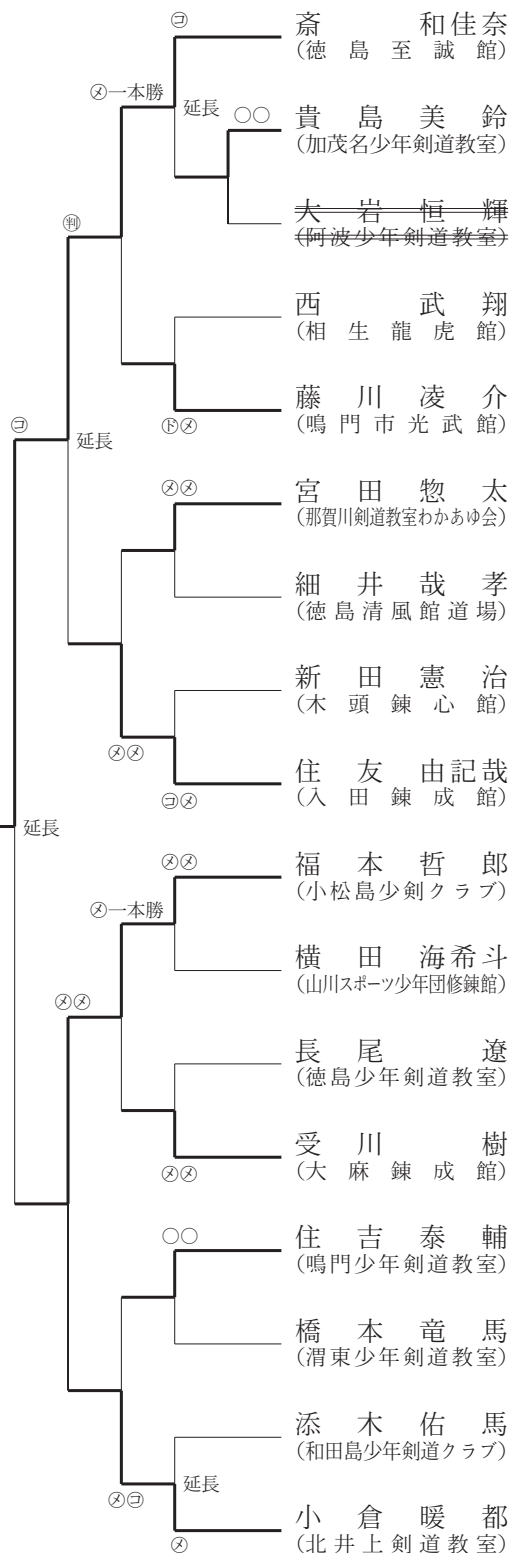


<個人戦B組>

<個人戦A組>

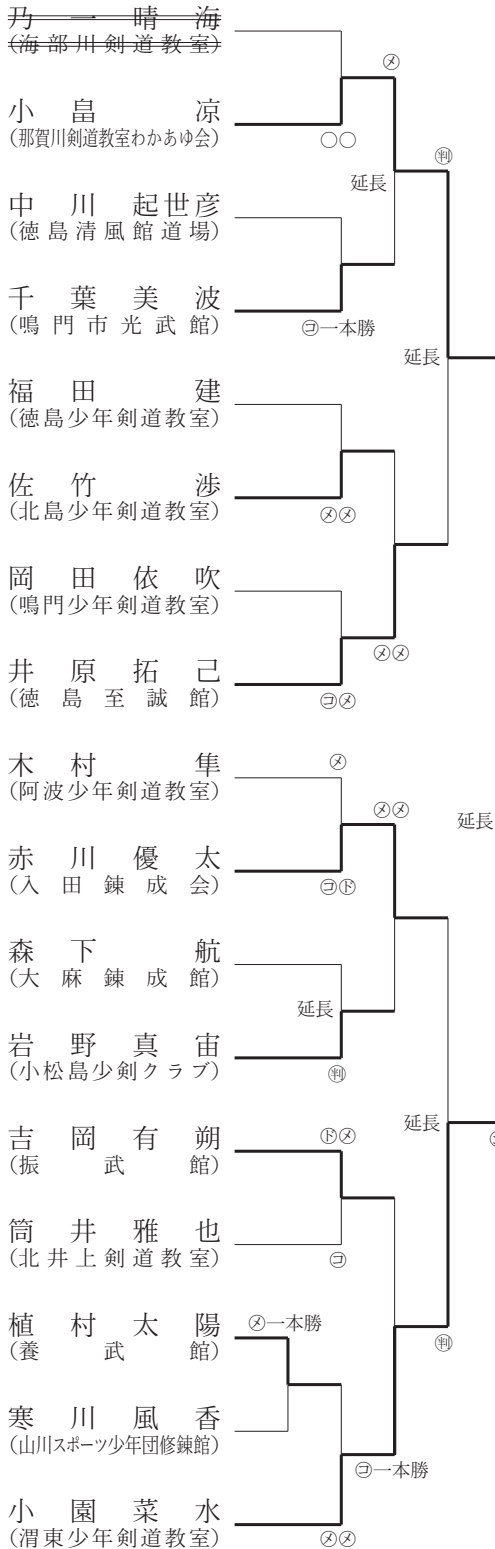


齋和佳奈 (徳島至誠館)

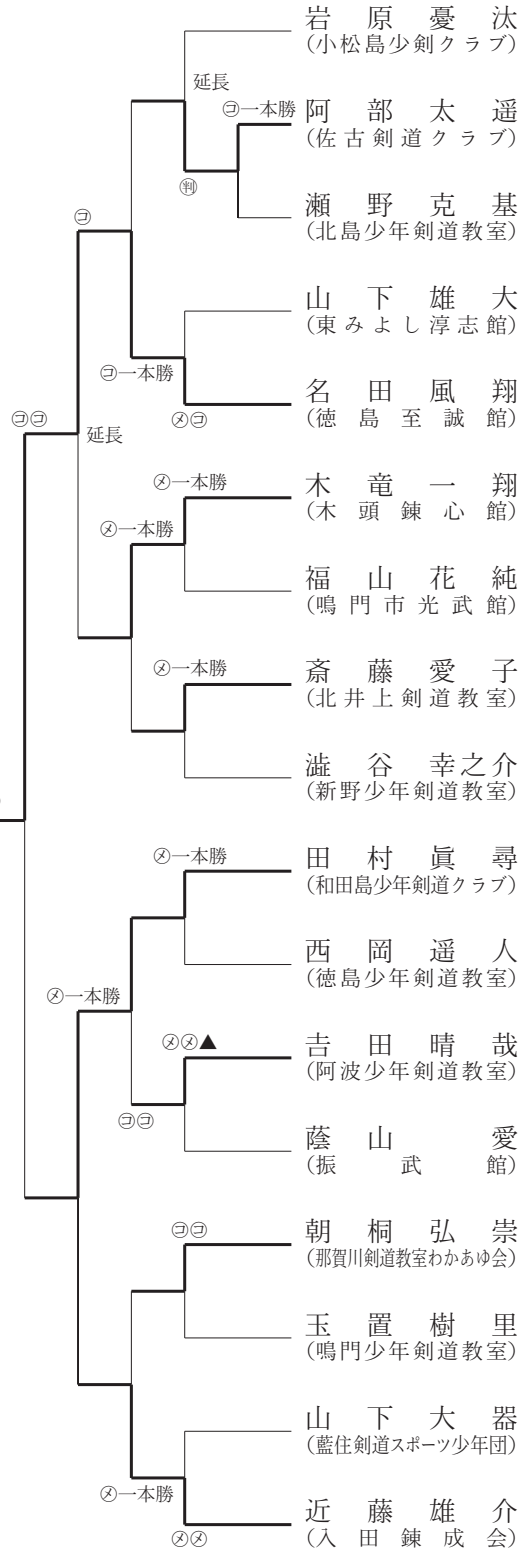


〈個人戦D組〉

〈個人戦C組〉



名田風翔 (徳島至誠館)



## 準決勝戦 (団体戦)

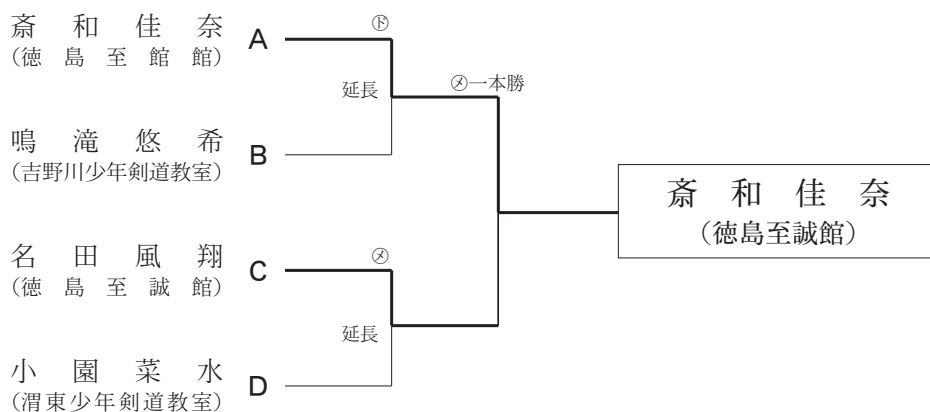
チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将		
徳島至誠館	飯田	福田	朝田	齋	後藤		4
	⊗ ⊗	⊗ 一本勝	⊗	⊗	⊗ 一本勝		3
鳴門市 光武館							0
	炭	北林	佐藤	北林	岩佐		0

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	代表	
小松島 少剣クラブ	松山	江口	岩原	松田	檜田		8
	⊗ ⊗	⊖ ⊗	⊗	⊗ ⊗	⊗ ⊗		4
徳島少年 剣道教室	▲						0
	添木	大空	高瀬	石川	熊橋		0

## 決勝戦 (団体戦)

チーム名	先鋒	次員	中堅	副将	大将		
徳島至誠館	飯田	福田	朝田	齋	後藤		4
	⊗ 一本勝	⊗ 一本勝	⊖ ⊗	⊗			3
小松島 少剣クラブ					一本勝 ⊗		1
	松山	江口	岩原	松田	檜田		1

## 決勝戦 (個人戦)



# 徳島新聞に見る戦いの跡

2月11日

## 徳島文理女子3位

### 剣道

四国高校新人大会

剣道の第13回四国高校

新人大会は10日、香川県の琴平高に各県代表の男女各4校が参加して行われ、徳島県勢は女子の徳島文理が3位に入った。ほかの県勢は男女とも予選リーグで敗退した。

◇徳島県関係と決勝

【男子】予選リーグA組③城北1勝2敗▽B組④川島1分け2敗▽C組④徳島文理1分け2敗▽D組④阿南工2勝1敗

▽決勝トーナメント決勝 明徳義塾(高知)2-1帝京第五(愛媛)

明徳義塾は2年ぶり7度目の優勝。

勝。

【女子】予選リーグA組④城北3敗▽B組①徳島文理3勝▽C組④鳴門3敗▽D組②富岡東2勝1敗

▽決勝トーナメント1回戦

帝京第五 3-0 徳島文理

愛媛 3-0 徳島文理

○松田 メイ 玉田

○信田 メイ 大嶺

赤堀 一 佐々木

○岡田 メイ 栗野

富永 コーメ 川原

▽決勝 帝京第五0(代表勝ち)0高知

ち)0高知

勝。帝京第五は2年連続5度目の優勝。

2月12日

## 富岡東A10度目頂点

男子は阿南工A5年ぶり

### 剣道

県高校大会

剣道の第34回県高校大会は11日、板野町の田園パーク健康の館に男子16チーム、女子10チームが参加して行われた。男子は阿南工Aが5年ぶり13度目の優勝。女子は富岡東Aが3年連続10度目の栄冠に輝いた。

【男子】1回戦 阿南工A不

戦勝)城東、城北B3-0徳島北、池田2(本数勝ち)那賀、川島3-1徳島科技、富岡西4-0阿波西、鳴門瀧瀬、阿南工B3-0城ノ内、阿南工C3-0脇町、城北A4-0鳴門▽準々決勝 阿南工A3-1城北B、川島4-1池田、阿南工B4-0富岡西、城北A2-1阿南工C▽準決勝 阿南工A2-1阿南工B

○住友 中川  
○田村 メイト 佐賀  
岩原 杉本  
小川 西田

【女子】1回戦、城ノ内2-0徳島北、富岡東B3-0脇町、城東▽準々決勝 富岡東A3-0城ノ内、城北(不戦勝)池田、川島4-0富岡西、徳島市立、富岡東B2-0鳴門▽準決勝 富岡東A3-0城北、川島2-0富岡東B

▽決勝 富岡東A 2-0 川島

○山本 河野

○吉田 橋本

○藤本 森本

○甘利 尾関

○山本 山口

飯田 山田

阿南工A 1-0 城北A

# 鳴門一女子が3位



中京大学剣聖旗第1回  
全国中学校選抜大会(2  
月11日・愛知県スカイホ  
ール豊田)は全国各地か  
ら男女44チーム(男子  
25、女子19)が参加し  
て行われた。徳島県の女子  
・鳴門一は準決勝で惜し  
くも代表負けしたが、3  
位に入る健闘を見せた。

◇徳島県の上位  
【団体】女子準々勝 鳴門一  
1(代表勝) 1(高砂)兵庫▽



全国選抜中学校大会女子団体で3位に入  
った鳴門一

準決勝 上郡(兵庫)1(代表勝)次鋒 西角春那、中堅 田淵南  
ち 1(鳴門一)先鋒 富田莉帆、副将 堀綾乃、大将 太田あ  
かり

高・低学年とも  
北井上教室優勝

小学生団体

第18回徳島市スポーツ  
少年団交流大会(2月17  
日・徳島市B&G海洋セ  
ンター体育館)は小学生  
の団体と小・中学生の個  
人戦が行われた。団体戦  
の高学年は北井上教室が  
3連覇し、低学年も北井  
上教室が制した。個人の  
中学男子は高瀬陽平(徳  
島教室)、同女子は生田  
朱音(徳島教室)が優勝  
した。

【団体】小学生低学年 北井上  
教室(徳島教室) ③清東教室(徳  
島教室)



徳島市スポーツ少年団交流大会団体優勝  
の北井上教室

島教室) 高学年 北井上教室 ②  
徳島教室 ③清東教室 ③兼武館  
【個人】小学1～6年生 富田  
部 ⑤・6年生男子 山室和士  
将太郎(北井上教室) ②添木陽仁  
(徳島教室) ③阿部蒼生(佐古  
島教室)、同女子は生田  
朱音(徳島教室) ③美馬雄大  
(清東教室) ③上月優彰(同) ③  
武田樹生(兼武館) ④4年生 富  
田哲平(北井上教室) ②大空航己

(徳島教室) ③廣田和佳(加茂名  
教室) ③飯尾陽祐(六万倶楽  
部) ⑤・6年生男子 山室和士  
(徳島教室) ②藤知晃(同) ③  
小島拓也(北井上教室) ③鎌田樹  
季(同) 同女子 高瀬陽平(徳島  
教室) ②藤島夜里(蔵本教室) ③  
小園菜(清東教室) ③山本裕規  
奈(同)

▽中学生男子 高瀬陽平(徳島  
教室) ②徳島関係の上位  
【団体】小学校高学年 準々決



大鏢大会佐伯静男杯の入賞者

勝 鳴門市光武館 ① 〇 徳紙(香  
川) 〇 準決勝 鳴門市光武館 ①  
〇 池田(香川) 〇 決勝 鳴門市光  
武館(先鋒 矢野郁、次鋒 炭元  
裕、中堅 原和正、副将 佐藤祐  
樹、大将 富田有明) 1 〇 浅野  
(香川)

【個人】小学3年以下 ③炭原  
汰 ③岡崎理 ④年 ③北林琴 ⑤年  
③炭元裕 ⑥年 ③富田有明 ③矢野  
郁 〇 所属はすべて光武館

3月3日



### 徳島男子3位

四国中学新人剣道

剣道の第8回四国中学校新人大会は3日、阿波中体育館で各県の新人大会男女ベスト4の計32校が参加して団体戦を行った。徳島県勢は男子の徳島が3位に入った。

◇徳島関係と決勝

【男子】予選リーグA組②阿南1勝1敗▽B組③徳島文理1勝2敗▽C組①徳島3勝▽D組③那賀川1勝2敗

▽3位トナメント1回戦 大川(青川)0(代表勝ち)○徳島文理、城辺(愛媛)2(本数勝ち)○那賀川

▽2位トナメント1回戦 東子東(愛媛)1(代表勝ち)1阿南

▽1位トナメント1回戦 満濃(青川)2○徳島決勝 満濃(青川)211及方(愛媛)

満濃は初優勝。

【女子】予選リーグE組④鳴門1勝2敗▽F組③那賀川1勝2敗▽G組④右井3敗▽H組③阿南1勝1敗

▽4位トナメント1回戦 鳴門210明德藝塾(高知)・石井312土佐町(高知)▽決勝 鳴門310石井

▽3位トナメント1回戦 城辺1(代表勝ち)1那賀川、阿南121大川▽決勝 城辺21阿南

▽1位トナメント決勝 大方(高知)312東予西(愛媛) 大方は初優勝。

3月4日



県西部地区少年大会小学生の部を制した藍住



## 藍住小学団体制す

第38回徳島県西部地区少年大会(2月3日・阿波西高体育館)は小中学生の団体戦と学年別の個人戦を行った。団体は小学校が藍住、中学校は男

子・石井、女子・板野が王座に就いた。

【団体】小学生①藍住②鳴門市光武館③山修練館④脇野教室  
▽中学生男子①石井②阿波A③北島④藍住▽女子①板野②阿波③土成A④土成B

【個人】小学3年生①美馬雄大(渭東)②武知樹生(養武館)③大前誠也(藍住)④富水涼介(吉野川)▽4年生①鳥海空(川島)②後藤田凛(同)③松本喜冠(藍住)④近藤葉月(入田錬成)▽5年生①庄村凌(川島)②炭元裕(光武館)③吉田晴哉(阿波)④鳥海匠(川島)▽6年生①矢野郁(光武館)②富田孔明(同)③柳田有作(鳴門運動公園)④三宅拓磨(脇野)

▽中学1年男子①西條賢太(石井)②坂野弘氣(北島)③岡本和真(鴨島)④近藤堪太(山城)▽同女子①山下葉奈(石井)②猪口育秀(阿波)③前田愛実(藍住)④森本夢(阿波)▽2年男子①迎直樹(鴨島)②竹森阿航(阿波)③村本恵太(石井)④篠原健(阿波)▽同女子①猪野明日香(市立川島)②兼松綾那(阿波)③川真田莉子(石井)④竹本まりあ(土成)

3月17日

# 藍住が団体戦連覇

個人戦6年の部 富永(吉野川) 1位



第19回藤花旗少年大会  
(3月3日・石井中体育館)は21教室192人が参加して熱戦を展開。18チームで争った団体戦は藍住が2連覇を果たした。個人戦6年の部は富



【上】藤花旗争奪少年大会の団体を制した藍住  
【下】個人1～6年生の優勝者



永康生(吉野川教室)が1位となった。  
【団体】①藍住(先鋒)吉本嵐丸、次鋒)永春樹、中堅)山下隼、副将)松本喜樹、大将)森本真希、②北井上教室(吉野川教室) ③阿波教室  
④東内菜々、東内遥海、⑤藤花(上浦教室)▽年①富田将太郎(北井上教室)②安井大成(吉野川教室)③谷本英(佐吉)④藤川大誠(土成)  
⑤横紗也(入田練成会) ⑥松本尊灯(藍住) ⑦富永涼介(吉野川教室) ⑧工藤誠那介(吉野川教室) ⑨佐藤那由(吉野川教室) ⑩藤田和佳(加茂名教室) ⑪後藤田寛(川島) ⑫美濃駿(藤本) ⑬5年①海島匠(川島) ②鴨滝希(吉野川教室) ③濱田健祐(吉野川教室) ④安本勇輝(鴨島教室) ⑤富永生(吉野川教室) ⑥本丸(藍住) ⑦森本直希(同) ⑧藤川大誠(同) ⑨藤川大誠(同)

4月7日



◆阿南支部少年大会・6年生送る会(2月24日・阿南市武道館)  
【団体】準決勝 徳島至誠館B 3-0 徳島至誠館A、あゆ会A、徳島至誠館A 1-1 本教勝ち、1新



阿南支部少年大会団体で優勝、準優勝した至誠館の選手

野教室A▽決勝 徳島至誠館A(先鋒)飯田翔太、中堅)岩本隆紀、大将)後藤高志、O(代表勝) ②徳島至誠館B(先鋒)朝田萌香、中堅)松葉そら、大将)大城明裕(同)  
③徳島至誠館A(先鋒)飯田翔太、中堅)岩本隆紀、大将)後藤高志、O(代表勝) ④徳島至誠館B(先鋒)朝田萌香、中堅)松葉そら、大将)大城明裕(同)  
⑤徳島至誠館A(先鋒)飯田翔太、中堅)岩本隆紀、大将)後藤高志、O(代表勝) ⑥徳島至誠館B(先鋒)朝田萌香、中堅)松葉そら、大将)大城明裕(同)  
⑦徳島至誠館A(先鋒)飯田翔太、中堅)岩本隆紀、大将)後藤高志、O(代表勝) ⑧徳島至誠館B(先鋒)朝田萌香、中堅)松葉そら、大将)大城明裕(同)  
⑨徳島至誠館A(先鋒)飯田翔太、中堅)岩本隆紀、大将)後藤高志、O(代表勝) ⑩徳島至誠館B(先鋒)朝田萌香、中堅)松葉そら、大将)大城明裕(同)

4月14日

**全国高校選抜大会**

全国高校選抜大会は27日、愛知県などで行わ

**阿南工男子 決勝Tへ**

れ、徳島県勢は3競技に出場した。剣道団体は男子の阿南工が決勝トーナメントに進出したが、女子の徳島文理は予選リーグで敗退した。

**剣道**

(春日井市総合体育館)

【男子】1次リーグ組	八幡工 2-1 阿南工
阿南工 3-1 福手	滋賀 2-1 阿南工
○西田 一 藤澤	○岸 一 田村隆
田村幸 一 佐藤	○栗野 コメー
飯田 一 日山	大嶺 一
○田村隆 一 今松	佐々木 一
○小川 メー	○川原 メド
坂本	
【女子】1次リーグ組	徳島文理 3-1
八代白百合 2-0 徳島文理	
学園 本	
○塩野 一 玉田	

西濱 一	大嶺
黒木 一	佐々木
福屋 一	加藤
福川 一	荒木
栗原	後藤
川原	米中
徳島文理 3-1	
名古屋 大	
市 郷	
愛知	

**全国高校選抜大会**

全国高校選抜大会は28日、新潟県などで行われ、徳島県勢は3競技に出場した。レスリング男子

**阿南工男子 8強逃す**

子96キ級の山下耕平(穴吹)が1、2回戦に勝ち、29日の3回戦に進出。剣道団体の阿南工男子は決勝トーナメント1回戦で小山(栃木)に1-2で惜敗し、8強入り

**剣道**

(春日井市総合体育館)

【男子】決勝トーナメント1回戦	九州学院 1-0 水戸葵陵
小山 2-1 阿南工	九州学院は6年ぶり5度目の優勝。
栃木	熊本 一 茨城
【女子】決勝	麗沢瑞浪 3-0 帝京五
▽決勝	麗沢瑞浪は初優勝。



四国錬成大会で女子団体を制した鳴門一中



# 鳴門一が頂点

## 3位に阿南一

### 女子

第20回四国錬成大会(3月25日・香川県牟礼総合体育館)は中四国や近畿などの中学校から男子60チーム、女子51チームが参加して行われ

た。徳島県勢は、女子の鳴門一が決勝で紫雲に代

表勝ちし、頂点に立った。阿南一が3位に入った。

◇徳島関係の上位

【女子】準決勝 鳴門一4-1 阿南2 決勝 鳴門一(太田あかり、田淵南帆、堤綾乃、東條愛果、富田瑠利、西角寿那)1(代表 森勝)1(紫雲(音川))

▽順位①鳴門一②阿南一

4月21日

男子 阿南工 V  
女子 徳島文理 V  
会長杯高校剣道  
剣道の第38回徳島県連盟会長杯高校大会は21日、鳴門ソレイジヨイ武道館で団体戦が行われた。男子は阿南工が城北に勝つて2年連続10度目の栄冠に輝き、女子は徳島文理が代表戦で富岡東を下

し、初優勝した。  
【男子】1回戦 城東3-2富岡東、鳴門5-0阿波西2回戦 阿南工5-0徳島商、徳島北3-1脇町、池田3-10城東、徳島文理5-0徳島科技、川島5-0鳴門渦潮、富岡西5-0鳴門、城北3-1那賀、城北5-0阿南高専▽準々決勝 阿南工5-0徳島北、徳島文理2(本教勝)2池田、富岡西4-1川島、城北5-0城ノ内▽準決勝 阿南工2-1徳島文理、城北3-1富岡西▽

3位決定戦 徳島文理1-0富岡西  
▽決勝  
阿南工 4 0 城北  
○西田 ムイ 中山 北  
○岩原 コイ 佐川 田  
○福田 ツイ 杉本 川  
○小川 ムイ 西本 田  
○田村 ムイ 脇町 4 1 城ノ内、富岡西2-1池田▽準々決勝 徳島文理3-1川島、城北2-1脇町、鳴門3-1富岡西、富岡東

阿南工 5-0 徳島北▽準決勝 徳島文理3-1 城北、富岡東4-0 鳴門▽3位決定戦 鳴門2-1 城北  
▽決勝  
徳島文理 代表勝 1-1 富岡東  
○玉田理 ムイ  
大瀬 ち  
佐々木 山  
玉田真 甘利本  
川原 藤本  
▽代表戦  
コイ 松本  
松本

4月22日

5月5日

# 高校女子 富岡東A6連覇



の富岡東Aが6連覇、男時生、田村幸夫、岩佐岳大、金子の阿南工Aは2連覇を達成。中学校では女子の那賀川が2連覇し、男子は徳島が制した。

第38回山家旗争奪県大会（5月28日・鷲敷B&G海洋センター体育館）は中学生40チーム（男子25、女子15）、高校生29チーム（男子20、女子9）が参加して団体戦が行われた。高校では女子

【富岡東A】富岡東Aが6連覇、男時生、田村幸夫、岩佐岳大、金子の阿南工Aは2連覇を達成。中学校では女子の那賀川が2連覇し、男子は徳島が制した。

【団体】中学校男子の富岡（鳴川一六、秋田修平、塚田晋、高瀬隼、美州一、熊鷹）②阿南（①并②女子）那賀川（西岡彩芽、大城萌栞、坪井果、高野加奈、長谷穂実、坪内愛弓）②鳴一③并

△高校男子の阿南A（佐藤将平、小坂良、西田和弘、飯田理）以上

【個人賞】高校10人以上勝ち抜き賞 上田雅大（富岡西）10人 △5人以上勝ち抜き賞 山田漢太（城北）8人、谷本嘉祐（徳島文理）7人、玉置沙子（同）美馬あかり（城北）以上6人、河野優季（山島）西田和弘（阿南工）大城和哉（同）後藤田康（徳島文理）以上

# 野試合 躍動する剣士



境内で熱戦を繰り広げる子どもたち＝阿波市市場町の八幡神社

5月12日

小中学生剣士が野試合 奉納演武大会が11日、阿波市市場町八幡神 吉野川の3市から出場して闘う真内唯一の剣道の

## 阿波市の神社 小中学生115人が熱戦

た115人が熱戦を繰り広げた。神事後、学年別など分かれたら5部門でト

ナメント戦を実施。胴着に運動靴姿の子もたちは、慎重な足さきで間合いを詰め、相手の一瞬のすきを付いて「メンバー」「ド」など声を張り上げながら刀を打ち込んだ。

29人が出場した中学校女子の部で優勝した兼松綾那さん（14）阿波中3年には「屋外での試合は開放感がある。思い切り動くことができた」と話した。

大会は大平洋戦争前、神社にあった道場の練習生が境内で奉納試合を行ったのが始まり。戦後は長らく途絶えていたが2003年に同神社剣道同志会が復活させて以降、毎年開かれている。（富十佳輝）

# 栄冠

## 徳島至誠館

## 鳴門

小学校  
低・高学年

中学校女子



第11回東かがわ市武道大会(5月5日・香川県東かがわ市白鳥中央公園体育館)は徳島、香川両県の小学生から一般までのチームが参加して熱戦を繰り広げた。36チームが出場した小学校低学年の部、34チームで争った同高学年の部ともに徳島至誠館が頂点に立った。17チームが参加した中学校女子の部は鳴門一が初優勝を果たした。

◇審判関係の上位

【小学校】低学年準々決勝 徳島至誠館5-0引田(香川)、那



第9回光龍杯争奪少年大会(5月18日東かがわ近畿の道場から小学校低学年46チーム、高学年71

### 小松島少剣ク3位

小学校低学年の部



光龍杯争奪少年大会の団体小学校低学年の部で3位に入った小松島少剣ク

掘金旗争奪少年大会の団体の部を制した小松島少剣ク



徳島県小松島少剣ク

③鳴滝登希(吉野)

香取 中堅II由利帆、副将II堤 大將II太田あかり)3-1 大前(香川)

二般・高校 女子準決勝

三本松高B(香川)2-0城ノ内 高教員剣美会3-0因分寺岡好 会(香川)準決勝 三本松高A 2-1教員剣美会

チーム、中学校47チームが参加して行われた。徳島県勢は小松島少剣クラブが小学校低学年の部で3位に入賞した。

◇徳島関係の上位

【小学校低学年】準々決勝 小松島少剣ク2-0愛知心道場 準決勝 小曾根寺内剣友会(大



③小松島少剣ク(録II 岩原幸枝、次鋒II松岩樹、中堅II切田寛子、副将II藤本輝、大將II松田重也)

小松島少剣クラブ創立39周年記念の第13回堀金旗争奪少年大会(5月26日・小松島市立体育館)は28チーム311人の小学生が参加し、熱戦が繰り広げられた。団体は低学年、高学年ともに小松島少剣クラブが制した。

【団体】低学年①小松島②那賀川教室わかあゆ会③徳島至誠館④徳島教養⑤高教養武徳⑥新野教養⑦徳島教養武徳⑧(個)1・2年①栗田見舞(那賀川わかあゆ)②藤村愛斗(浮志館)③川口寛太、小松島④徳島少剣ク⑤黒川文佳、徳島至誠館⑥桂久郎、小松島⑦原拓海(同)⑧1年①美馬雄大(清東)②上月優彰(同)③仲井智菜(全岐)④福良優季(真心館)⑤5年①大城穂高(徳島至誠館)②佳友大洋(同)③北林葵(光武館)④飯田菜々(徳島至誠館)⑤6年①井原拓己(同)②齋和佳奈(同)③安本勇輝(鳴門)

# 阿南一11年ぶり制覇

## 女子は鳴門一初優勝

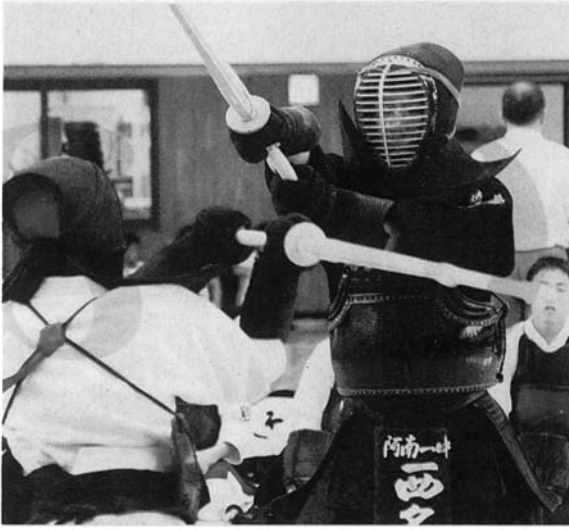
### 剣道

#### 県中学選手権

剣道の第42回徳島県中学校選手権は9日、鳴門ソイジョイ武道館で男子40校、女子27校が出場して団体戦を行った。男子は阿南一が11年ぶりに制し、女子は鳴門一が初優勝を飾った。

(川辺健太・写真も)

【男子】1回戦 城東3〇真光城ノ内21阿南小松勝2(代表勝5)2八万、木頭21板野、藤井21板野、新野3〇加茂名2回戦 徳島51〇瀬戸、城東21〇阿波31〇城内、北島4〇勝浦、那賀川51〇勝野、鳴教大付31〇水松嵐、木頭21羽ノ浦、石井31津田、徳島文理1〇大麻六万2(代表勝5)2藤井、城西51〇新野、鳴門141山城、北井21鳴門1、牟岐2(代表勝5)2鳴島、油井2〇松茂、阿南14〇上那賀23回戦 徳島4〇城東、北島1〇阿波、那賀川31鳴教大付、石井31木頭、徳島文理21六万、城野1鳴門、北井1六万(本教勝5)2鳴島、阿南13〇油井準々決勝 徳島31〇北島、石井31〇那賀川、徳島文理4〇城西、阿南131〇



男子決勝・徳島対阿南一 大将戦で一本勝ちした阿南一の西名(左)=鳴門ソイジョイ武道館

北井1準決勝 徳島31〇石井、阿南11〇徳島文理

▽決勝

阿南一 212

代表勝 徳島

朝田 21

平田 11

田上 1

西名 1

代表勝 鳴門

〇木内 2

〇西名 1

〇代表勝 高馬

〇西名 1

〇代表勝 美馬

〇西名 1

〇代表勝 堀田

〇西名 1

〇代表勝 秋田

〇西名 1

〇代表勝 塚田

〇西名 1

〇代表勝 高潮

〇西名 1

〇代表勝 美馬

〇西名 1

〇代表勝 高馬

〇西名 1

〇代表勝 高馬

〇西名 1

〇代表勝 高馬

〇西名 1

〇代表勝 高馬

〇西名 1

〇代表勝 高馬

西角 1 宮本  
田淵 ムー 高司  
東條 1 丸山  
太田 ムー ム 川喜田  
雪辱果たせ最高

〇：2年生主体の阿南一男子が代表戦の末、優勝候補筆頭の徳島を打ち破った。大将の西名は「絶対」に勝ちたかった相手。雪辱を果たせて最高」と息を弾ませた。

昨秋の県新人大会決勝で惜敗した徳島との再戦は、先鋒(せんほう)と次鋒が連敗する苦しい展開に。優勝するには勝ちしかない副将戦で、木内が「挑戦する気持ちで思い切りぶつかった」とメンを打ち込み希望をつないだ。

仲間の踏ん張りに奮い立ったのが西名。大将戦、代表戦ともに冷静な試合運びでコテを決め、逆転優勝を果たした。成長著しいチームのけん引者は「もっともっと強くなりたい」。栄冠をおこることなく、さらなる高みを目指す。

勝負強さを発揮

〇：鳴門一女子の中堅田淵(写真)が躍動した。準々決勝で代表戦を制するも、決勝でも勝負強さを発揮。メンと



田淵(写真)が躍動した。準々決勝で代表戦を制するも、決勝でも勝負強さを発揮。メンと

6月11日

コテを決める2本勝ちで初優勝を引き寄せ「会心の試合ができた」と喜んだ。

副将丸山が引き分けて迎えた大将戦。「みんなの頑張りを無駄にはできない」と太田主将が踏ん張った。これまで連敗していた格上相手に気迫で対抗し引き分けに持ち込み、田淵の勝利で逃げ切った。

昨秋の県新人大会を制し追われる立場だったが、第一シードの意地を見せられた」と太田。県大会2冠に自信を深め、夏の県総体制覇を狙う。

7月16日

# 徳島過去最高の3位

## 剣道

都道府県対抗女子大会  
 剣道の第5回全日本都道府県対抗女子優勝大会は15日、東京・日本武道館で行われ、徳島（玉田理沙子、西柚衣、平野千尋、北村環、竹内佳代子）は過去最高の3位に入った。徳島は2回戦から登場し福岡、大阪、熊本に競り勝って準決勝に

進出。埼玉に0-2で敗れた。徳島の玉田（徳島文理）が優秀選手（7人）に選ばれた。

決勝は埼玉が代表戦の末、神奈川を破って優勝した。

徳島	玉田	西田	平野	北村	竹内	竹内	徳島	玉田	西田	平野	北村	竹内	竹内	徳島	玉田	西田	平野	北村	竹内	竹内	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	代表戦	
福岡	大阪	松本	島添	森	大西	大西	福岡	大阪	松本	島添	森	大西	大西	福岡	大阪	松本	島添	森	大西	大西	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	準決勝	
石田	福本	渡邊	木原	梅津	古館	古館	石田	福本	渡邊	木原	梅津	古館	古館	石田	福本	渡邊	木原	梅津	古館	古館	



## 剣道

### 中川ら県大会へ

第7回徳島県連盟美馬支部管内錬成大会美馬署管内防犯大会（6月30日）は小学生28人、中学生27人が参加して行われた。小学6年は三宅諒紀（脇町教室）、中学男子



徳島県連盟美馬支部管内錬成大会の入賞者たち

1・2年は中川新（脇町）が優勝。小学5、6年の上位各2人と中学1・2年の各上位3人は県防犯少年柔道・剣道大会（8月10日・鳴門ソジヨイ武道館）に美馬警察署管内代表として出場する。

【小学校】1・2年①木俣（脇町教室）②植山慧（徳島春風館道場）③青山空（脇町教室）④3年の藤本泰夫（徳島春風館道場）⑤藤原大（脇町教室）⑥青山陸（同）⑦4年の崎まひろ（同）⑧中山陽（同）⑨尾形直紀（徳島春風館道場）⑩脇町連（脇町教室）⑪5年の正彩加（同）⑫美馬伽

【中学校】男  
 子1・2年中  
 川新（脇町）②  
 三宅遥稀（江  
 原）③藤岡優樹  
 （脇町）④三宅  
 拓磨（同）⑤3  
 年①西岡竜成  
 （貞光）②松浦  
 源輝（同）③月  
 岡侑人（同）④  
 井坪右京（同）  
 ⑤女子①佐友美  
 夢（江原）②西  
 穂乃佳（脇町）  
 ③東谷瑞穂（同）  
 ④藤野佑真  
 光

7月21日



7月14日

第67回徳島県中学校総合体育大会（県中体連、県教委、徳島新聞社主催）第1日は13日、県内各地で3競技が行われた。剣道団体の男子は徳島が31年ぶり6度目、女子是那賀川が2年連続13度目の栄冠に輝いた。サッカーは1回戦7試合が行われ、川内、鳴教大付、市場などが



第1日

2回戦に進出。軟式野球は1回戦4試合があり、接戦を制した市場、驚敷などが2回戦に駒を進めた。予定されていたこのほかの4試合は14日に雨天順延となった。第2日の14日はサッカーなど3競技と陸上（全日本中学校通信徳島大会）が行われる。

# 徳島31年ぶりV

## 女子是那賀川が連覇



男子決勝・石井対徳島 メンの2本勝ちで優勝に貢献した徳島の副将・高瀬（鳴門）イシヨイ武道館（森丘幹也撮影）

### 徳島副将 相メン制し流れつかむ

この数年は優勝候補に挙げられながらも勝ち切れなかった徳島男子が、31年ぶりに全国への扉を開けた。OBで最後の優勝メンバだった豊田監督は「大一番で普段通りの力を出してくれた」と教え子の成長に目を細めた。決勝は先鋒（せんぽう）鳴川の1本勝ちで好発進したものの、次鋒秋田が敗れ、中堅塚田が引き分け。緊張が高まる副将戦で高瀬が期待に応えた。「飛び込む速さには自信がある」と相メンを制します。1本。焦る相手の隙を見逃さず、コテを払ってメンを決めた。リードで余裕ができた大將戦。6月の県選手権決勝では守勢に回って逆転負けした美馬が最後まで攻めの姿勢を貫いた。全体練習に加え週2回の自主練習を積んだ主将は「責任を果たせ」と会心の2本勝ちに笑みを浮かべた。5人は「休日も惜しまず指導してくれたおかげ」と感謝の言葉を口にす。31年前には果たせなかった予選突破で恩師の熱血指導に報いるつもりだ。（川辺健太）

【男子団体1回戦 鳴教大付  
1-0 鳴門 4-0 鳴門  
北島 3-0 坂野 4-0 鳴門  
成、脇野 4-1 相生、北井上 1-0 鳴門

#### 剣道

（本教）1 羽瀬、阿波 4-1 門、牟岐 2-1 脇野、石井 4-0 三好、江原 2-0 本教 2-0 勝  
○北井上、徳島 3-1 阿波  
酒、藤 3-1 山城、那賀川 3-1 相生、江原、那賀川 4-1 小文  
1 鳴門、小松 5-0 日和佐、松島、徳島 3-1 木頭、準々決勝  
木頭 2-1 鳴門、△同戦 阿南、北島 3-1 阿南、貞 2-1 牟岐、徳島 4-0 藍住、徳島 4-0 鳴川、メー、山室、阿南 5-0 鳴門、那賀川 4-0 鳴門

秋田 1-0 山口  
塚田 2-1 西條  
○高瀬、メー、大西  
○美馬、コト、村本  
【女子団体1回戦 北島 3-0 坂野、貞 4-0 鳴門、鳴門 5-0 相生、坂野 4-1 本教 2-1 大塚、山城 2-0 鳴門、阿波 4-0 津市、同戦 鳴門 4-0 北島、城東 4-0 牟岐、小松 5-0 主成、坪井、メー、田淵、大城、メー、堤、太田、長谷川、ド、太田

#### 8人一丸の勝利

○：県新人大会、県選手権では4強止まりだったが那賀川女子が優勝候補筆頭の鳴門を破って2連覇を達成。成長の跡を示した選手が目につけ、涙が光った。決勝は、負けん気の強い先鋒の西岡が「練習してきた技」という会心のコテで1本勝ち。流れに乗れた」と次鋒高野は鋭いメンを決めた。中堅塚田は敗れたものの、唯一の1年生の副将大城が「私で決める」と気迫でメンを打ち込み栄冠をつかんだ。



「みんなで頑張ったから連覇できた」と大將の長谷川（写真）は、控え選手を含む部員8人一丸での勝利を強調。2度の日本一に輝いた名門の誇りを胸に、全国での活躍を誓った。



小学生・庄村  
中学生・岡本 V  
第25回吉野川市防犯少



若武者杯争奪サニーマート少年錬成大会の団体でベスト8に入った小松島少剣クラブと徳島至誠館Aの選手たち

年大会(7月7日・山川中武道館)は小学5、6年生20人、中学1、2年生11人が参加し、日ごろの練習の成果を發揮した。小学生の部は庄村凌(川島スポーツ少年団)、中学生の部は岡本和真(鴨島一)が制した。小学生上位4人、中学生上位3人は県防犯少

年柔道・剣道大会(8月10日・鳴門ソイジョイ武道館)に吉野川警察署チーム代表として出場する。  
【小学生】①庄村凌(川島スポーツ少年団)②鳥海空(同)③鳥海匠(同)④後藤田凛(同)  
【中学生】①岡本和真(鴨島一)②青川紘輝(鴨島東)③大塚聖聖(鴨島一)

◆第9回若武者杯争奪サニーマート少年錬成大会・野市少剣創立40周年記念(6月30日・高知県青少年センター)  
◇徳島県関係の上位  
【団体】小学校低学年決勝トナメント準々決勝 小曾根剣友会(大阪)2(本数勝ち)2小松島少剣ク(先鋒)岩原千佳、次鋒山松山若樹、中堅中野中實子、副将徳原充輝、大将松田宙大  
▽高学年決勝トナメント準々決勝 光館道場(香川)0(代表勝ち)O徳島至誠館A(先鋒)飯田翔太、次鋒福田優那、中堅朝田萌香、副将齋幸佑、大将後藤高志、養徳館道場(岡山)4-1小松島少剣ク(先鋒)松山知樹、次鋒江口弘純、中堅岩原潤哉、副将松田匠輝、大将梅田胡桃

8月4日

徳島至誠館、団体制す



2013年度阿南中央ロータリー杯争奪夏祭り少年大会兼県スポーツ少年団阿南市代表選考会(7月28日・阿南市武道館)は阿南市内の小学生が参加して団体戦と個人戦を行った。団体は徳島至誠館が優勝。個人5・6年生の男子は飯田翔太、女子は朝田萌香が制した。5・6年生男女各上位2人と4年生の優勝者の計5人は全国スポーツ少年団交流大会県予選

会(12月1日・鳴門ソイジョイ武道館)に出場する。  
【団体】①徳島至誠館②新野少年剣道③那賀川教室わかあゆ会  
【個人】①新入生①齋藤秀汰②齋幸佑③岩佐ほのか③津山裕也▽橋本妃③岩佐ほのか③津山裕也▽

3年生以下①武蔵小春②小島泰③尾畑翔③和泉皓大▽4年生①松葉佳音②田上力③河野菜々子③和泉敬彦▽5・6年生男子①飯田翔太②後藤高志③齋幸佑③井原哲己▽同女子①朝田萌香②飯田奏々③岩崎桃花③武蔵千咲

8月25日

第51回

四国中学総体

鳴門一女子が準優勝

剣道

(徳島市立体育館)

【男子】団体予選リーグA組①  
高知3勝②高知(香川)2勝1敗  
③石井(徳島)1勝2敗④久万(愛媛)3敗▽B組①日吉(愛媛)2勝1敗②明徳義塾(高知)2勝1敗③徳島1勝1分け1敗④

協和(香川)1分け2敗①、2位は勝者数による。  
各組1、2位が決勝トーナメントへ。  
▽決勝トーナメント1回戦 明徳義塾4-1高知、高知3-1日吉、決勝 明徳義塾4-1高知  
明徳義塾は3年ぶりの5度目の優勝  
▽個人準々決勝 平田(明徳義塾)



女子決勝・鳴門一対城辺 勝利を挙げた鳴門一の副将・東條(左)＝徳島市立体育館(家段良匡撮影)

意地を見せ「充実感」

県大会で優勝候補筆頭とみられながら2位に甘んじて全中出場を逃した鳴門一女子。現チームにとって最後の大会となった四国総体は決勝に勝ち上がり意地を見せた。四国一を争った相手は一昨年の全中8強で愛媛1位の城辺。先鋒(せんぼう)の富田が開始早々、立て続けにメンを決めて先勝したものの、次鋒、中堅が敗れてあとがなくなった。しかしこのままでは引き下がらなかった。迎えた副将戦。3年生の東條は相手が飛び込んできた

県大会は出場機会がなかったが、黙々と稽古に励んだ成果を裏付けた。最後は大将の太田が懸命の戦いを見せたが一步及ばず、3年生の熱い夏は終わった。四国一に限りなく近い準優勝に、竹内監督から「みんな集中していい戦いだ」とねぎらいを受けた太田は「充実感はある」と涙を拭いて竹刀を置いた。(岩村純志)

【女子】団体予選リーグA組①  
鳴門1分け1敗②山田(香川)1分け2敗③、3位は本数による  
B組①鳴門一(徳島)2勝1分け1敗②、2位が決勝トーナメントへ。  
▽決勝トーナメント1回戦 城辺3-0高知、鳴門一3-1小田  
▽決勝 鳴門一3-2城辺  
三堂 1-メ 富田 0-入江 メー 西角

②城辺(愛媛)1勝1分け1敗③  
協和(香川)1勝1分け1敗④大方(高知)1分け2敗①、3位は代表戦による。  
各組1、2位が決勝トーナメントへ。  
▽決勝トーナメント1回戦 城辺3-0高知、鳴門一3-1小田  
▽決勝 鳴門一3-2城辺  
三堂 1-メ 富田 0-入江 メー 西角

○本多 田淵  
上杉 東條  
○二神 太田  
城辺は3年ぶりの2度目の優勝。  
▽個人準々決勝 田淵(鳴門一) 福田(香川・協和)、二ノコ(福田) 西岡(那賀川) 近藤(愛媛・小松) 太田(鳴門一) 準決勝 長谷川 田淵  
▽決勝 矢野 長谷川 明徳義塾

# 全国高校総体

未来をつなぐ北部九州

## 剣道

(佐賀県総合体育館)

【女子】団体予選リーグ1フロ

ツク

麗沢瑞浪 3-1 徳島文理

岐阜 徳島

〇片山③メー 玉田理③

〇小角②メー 大嶺②

〇三宅③コー 佐々木②

長田③ 玉田真②

乗田③ 川原②

徳島文理 1-0 富山北部

〇玉田理③ 川口②

大嶺② 野口②

佐々木② 笠原②

玉田真② 荒井②

川原② 竹内③

▽エプロック順位(1位は決勝)

トナメント(2)の徳島文理1勝

1敗

【男子】個人1回戦

松本良真② 西田俊介③

岡山・興 北徳島・城

護国館 ー

▽2回戦

岩原将平③ 渡辺匡哉③

徳島・阿 ー 鳥取・米

南工 ー 子松隆

▽3回戦

曾我貴昭③ 岩原将平③

熊本・九メー 州学院

## 剣道

(佐賀県総合体育館)

【男子】団体予選リーグMフロ

ツク

阿南工 1-1 長崎

徳島 引き分け

岩原③ 牧島②

西田③ 宮崎③

飯田③ 山崎英③

小川③ コー 山崎将③

田村③ 上村③

阿南工 4-1 草津

滋賀

〇岩原③メー 兼田②

〇西田③メー 野村②

飯田③ ー 児玉③

〇小川③ ツー 巖本③

〇田村③ コーメ 対馬③

▽エプロック順位(1位は決勝)

トナメント(2)の阿南工1勝

1敗

分

【女子】個人1回戦

吉野沙③ 中野玲奈③

徳島・徳 ー 千葉・流

島文理 ー 山

▽2回戦

岡本香② 玉田理子③

山形・左 ー

沢

## 剣道

(佐賀県総合体育館)

【男子】団体決勝

九州学院 3-1 高輪

熊本 ー 東京

九州学院は15年ぶり3度目の優勝。

▽個人決勝

佐々木陽一

曾我貴昭③

朗② 熊本・九州学院

輪② 東京・高メツー

【女子】団体決勝

麗沢瑞浪

長崎 2-0 岐阜

島原は4年ぶり2度目の優勝。

▽個人決勝

大井理緒③ 板垣佑東③

熊本・阿メー 青森・東

蘇中央 ー 奥義塾

# 剣道とサッカー 2種別で出場権

## 国体予選 四国 ブロンズ大会

第68回国民体育大会（東京）予選の第34回四国ブロック大会は18日、徳島県を中心に13競技が行われた。県勢の団体は剣道とサッカーの2種別で団体出場権を獲得。パドミントン、クレイ射撃、バスケットボール、弓道、柔道でも出場権を得た。ライフル射撃は10人が出場を決め、重量挙げは出場生枠を決めた。

### 剣道

（徳島理天体育館）  
【成年女子】リーグ①徳島（西、前田、北村）3勝②愛媛2勝③高知1勝④香川3敗 徳島が団体に出場。  
【少年男子】リーグ①愛媛3勝②香川2勝③高知1勝④徳島（岩原、西田和、西田凌、小川、田村）3敗 愛媛が団体に出場。  
【少年女子】リーグ①徳島川原、山本、藤本、松本、玉田2勝②高知1勝③愛媛1勝④高知1勝⑤高知1勝⑥高知1勝⑦高知1勝⑧高知1勝⑨高知1勝⑩高知1勝 徳島が団体に出場。

8月19日



# 阿南一、全試合全勝で連覇

中学  
団体

第41回阿南少年錬成大会（8月17日・木頭体育館）は徳島、高知の両県から小学生170人、中学生79人が参加して熱戦を繰り広げた。中学団体は阿南一が全試合で全勝

【上】阿南少年錬成大会の団体戦小学生の部を制した徳島至誠館  
【中】団体戦中学生の部で優勝した阿南一  
【下】団体戦中学生の部準優勝の阿南少年教室



する圧倒的な強さで2連覇を果たした。  
【団体】小学生①徳島至誠館②高知至誠館③新野少年教室④養力（那賀川少年）⑤6年生⑥住友太洋（徳島至誠館）⑦井原拓巳（同）⑧江口弘純（小松島少剣）⑨岩原寛汰（同）  
【個人】小学1・2年生①米田安里（相生龍虎館）②元浦綺雷（同）③比叡森玲乙（養心館道場青雲会）④島田幸輝（同）▽3・4年生①岩原千佳（小松島少剣）②横出翔大（高知至誠館）③岩谷響夢（和田島少年）④田上力（那賀川少年）⑤5・6年生①住友太洋（徳島至誠館）②井原拓巳（同）③江口弘純（小松島少剣）④岩原寛汰（同）  
▽中学生①富水康生（石井）②前田龍志（鷲敷）③撫中隆一（阿南）④服部真佑（阿南）▽2年生①山崎舞（阿南少年教室）②有岡大智（安田）③石川直輝（高知至誠館）④竹本理紗子（野市）

9月15日

9月2日

# 富東OG会B 初制覇

個人 29歳未満 湯浅 30歳以上 紅露に栄冠

## 剣道

県女子大会

剣道の第34回徳島県女子大会は1日、県立中央武道館で団体戦に10チーム、個人戦は25人が参加して行われた。団体は富東OG会B（湯浅、伊藤、山崎）が初優勝、個人は29歳未満が湯浅松里加（丹生谷支部）、30歳以上は紅露喜代美（鳴門支部）が制した。

（岩村純志）  
 【団体】1回戦 花木剣友会1（代表勝）1山高剣友会2 富東OG会B 10 悠和会準々決勝 教員剣美会 10 花木剣友会、富東OG会A 1（本数勝ち）鳴門大、徳島文理大 3 0 徳島大、富東OG会B 2 1 山高剣友会 0 準決勝 教員剣美会 1（本数勝ち）1富東OG会A、富東OG会B 10 徳島文理大

▽決勝  
 富東OG会B 10 教員剣美会  
 ○湯浅 コー 長地  
 伊藤 山下  
 山崎 奈木

【個人】29歳未満準々決勝 成松（鳴美）ド 村田（阿南支部）、甲（丹生谷支部）× 奈末（鳴門支部）、湯浅（丹生谷支部）× 小山（徳島文理大）、山下（鳴門支部）× 藤井（徳島文理大）× 準決勝 甲 × 成松、湯浅 × 山下

湯浅 ムー 田 中 中って先輩につなげよう  
 △30歳以上準決勝 玉置（鳴門）との言葉通り、コーを決めて先勝した。  
 支部）不敵勝 福田（丹生谷支部、紅露（鳴門支部）× 賈（徳島支部）

▽決勝  
 紅 露 ムー 玉 置  
 「一本守り切る  
 ○：団体女王に輝いた「富東OG会B」は高校剣道の強豪・富岡東高の卒業生でつくるチーム。決勝は昨夏の全国総体ベスト8時の主将だった湯浅を先鋒（せんぽう）戦に起用。湯浅は「一本取

なからも引き分けに持ち込み、優勝を決めた。39歳のベテラン山崎は「4分の試合時間が長く感じた。湯浅さんの一本を守り切れた」と笑顔。大会参加を呼び掛けた伊藤は「教員と一緒に戦えてよかった。現役チームも全国大会でいい成績を取りたい」と話した。



教員剣美会对富東OG会B 先鋒戦を制し優勝に貢献した富東OG会Bの湯浅（右）  
 県立中央武道館（河野聡一撮影）

# 全国中学校体育大会

## 剣道

（浜松りょう）

【男子】団体1次リーグE

徳島 4-1 松江

徳島 4-1 島根

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

徳島 4-1 徳島

## 剣道

（浜松りょう）

【男子】団体決勝

高森 3-1 静岡

高森は年ぶりの度目の優勝。

▽個人決勝

内橋 松崎

大阪 長崎

PL学 諫草

【女子】団体決勝

国士館 3-2 須恵

東宮 福岡

国士館は初優勝。

▽個人決勝

井手 大坂

福岡 香川

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂

玄洋 坂



# 徳島少年教室 団体制す

## 個人戦5・6年生は高瀬

9月22日



徳島西ロータリークラブ創立55周年記念少年大会の上位入賞者

徳島西ロータリークラブ創立55周年記念少年大会(8日・徳島文理中・高体育館)が行われ、団

体は徳島少年教室、個人戦5・6年生の部は高瀬桃が優勝した。

- 【団体】①徳島少年教室の養武  
 館②入田錬成会 敢闘賞 潤東少年教室  
 【個人】1・2年生①長尾沙弥  
 ②古川はる美馬輝乃果 敢闘賞  
 谷崎成希 3・4年生①美馬  
 雄大②古川真一③上月優彩 敢闘賞  
 ④菅井雅也⑤東内元 敢闘賞  
 添木大

9月23日

# 小松島支部A制す



副将戦で勝利し優勝に貢献した小松島支部Aの佐藤  
 鳴門ソイシヨイ武道館

### 剣道

県社会人大会  
 剣道の第42回徳島県社会人大会は22日、鳴門ソイシヨイ武道館に32チームが参加して行われ、決勝は小松島支部Aが3-1で月曜会Bを下し優勝した。(岩村純志・写真も)

- ▽決勝トーナメント1回戦 徳島中央クラブ3-1 0大塚製薬 月曜会B3-1 2小松島分剣クラブ  
 準々決勝 徳島中央クラブ3-1 三好支部A、小松島支部A1(代)
- 表勝ち 1 徳島刑務所 月曜会A  
 3-1 小松島支部B 月曜会B3  
 1 振武館 準決勝 小松島支部A3-1 徳島中央 月曜会B3  
 2 月曜会A  
 1 決勝  
 小松島支部A 3-1 月曜会B  
 ○原 メー 松本  
 武蔵 一メ 星野  
 園田 メーコ 岡山  
 ○佐藤 メーメ 福井  
 ○高木 ドメー 吉田

拔きドウ鮮やか  
 ○…小松島支部Aは佐藤が優勝の立役者となった。1勝1敗で迎えた副将戦。メンで1本ずつを取り合った後、佐藤は相手を予想しドウを狙っていた。この言葉通り、鮮やかな抜きドウを決めた。引き分けでも優勝となる大將戦では、主将の高木が堂々の2本勝ちを収めた。梅山監督は「佐藤が最高の形でつないでくれたのが勝因」と殊勲者をたたえた。

# 小松島少剣ク 3位入賞



守山ほたる杯争奪少年錬成大会の小学生の部  
3位入賞の小松島少剣クラブ



第6回守山ほたる杯争奪少年錬成大会(8月31日、9月1日・滋賀県守山市民体育館)は小学生の部77チーム、中学生の部72チームが参加して行われ、徳島県勢は小学生の部で小松島少剣クラブが3位に入賞した。  
 ◇徳島関係の上位  
 【団体】小学生準々決勝 小松島少剣ク2-1奈良西 準決勝 京都太秦3-1小松島少剣ク 先鋒 小松山知樹、次鋒 江口弘純、中堅 岩原潤哉、副将 松田匠輝、大将 檜田胡桃

9月29日



成年男子1回戦・徳島対京都 副将戦で果敢に攻め込む徳島の平野(右) 東京武道館(森丘幹也撮影)

## 成年男子 1回戦惜敗

剣道

【成年男子】1回戦  
 京 都 3-2 徳 島  
 坂本④ コーコメ玉 田④  
 ○兼田⑥メード 六條⑥  
 ○谷山⑥ メー山名⑦  
 高橋⑦ メー平野⑧  
 ○木下⑧ コーメ 近藤⑧  
 【少年男子】決勝  
 岐 阜 3-2 埼 玉  
 岐阜は2年連続2度目の優勝。

成年男子・平野(1回戦)でチームは惜敗したものの副将戦で延長の末に勝ち、「焦らずに相手の隙を突き同点で大将につなぐことができた。チームとしても互角に戦ったが勝負運がなかった」

10月1日



10月2日

# 成年女子 5位入賞

## 少年女子は初戦で涙

第68回国民体育大会「スポーツ祭東京2013」第2日は29日、東京都（一部千葉県）で競技を開始し、14競技に出場した徳島県勢では剣道の成年女子が準々決勝で準優勝した大阪に惜敗したものの、5位に入る健闘を見せた。サッカーと卓球の少年男子がそれぞれ2回戦に進



第2日

出。弓道の成年女子は遠的決勝トーナメントに進んだ。ラグビーの成年（7人制）は予選リーグで前回覇者の大阪を下したが、1勝0敗で決勝トーナメント進出はならなかった。30日の第3日は新たにスタートするゴルフなど15競技に出場する。

岡崎②・梅③・山本④  
少年女子・玉田（団体）  
1回戦で敗れ8強を逃したが最後は相手に気持ちで負けた。副将戦で追いついてくれたので何と  
しても勝ちたかった」

【成年女子】1回戦  
徳島②①群馬  
○西③②ドム中堅④  
○前田⑤④コメ高川⑥

北村⑥⑤コソ反町⑥  
▽準々決勝  
大阪②①徳島  
山本⑥⑤コソ西④③  
○前田⑤④コメ高川⑥  
○石田⑦⑧ツ北村⑥

▽決勝  
東京②①大阪  
東京は4年ぶりの準優勝。  
【少年女子】1回戦  
北海道③②徳島  
○前田⑤④コメ高川⑥

長川③②ドム山本④  
○齊藤⑤⑥梅⑦⑧

### 積極的な攻め奏功

成年女子



成年女子準々決勝・徳島対大阪 果敢にメンを打ち込む徳島の先鋒・西④（東京武道館）

積極的な攻めを買った。大分団体以来5年ぶりに出場した成年女子の徳島が堂々の5位。準々決勝で準優勝した大阪に敗れたものの県勢第1号の入賞を果たした。

群馬との1回戦。3戦全勝で1位通過した四国ブロック大会と同様に、先鋒（せんぼう）西と中堅の前田で連勝するという必勝パターンに持ち込んだ。「気持ちで負けなかった」という西が、果敢に仕掛けてくる相手の隙を付いて得意の引き技で2本勝ち。続く前田は開始直後に上段の構えから鮮やかなメンを奪って勢い付いた。

大阪戦でも西は前に出続けた。全日本女子選手権覇者を相手に延長戦に持ち込み、ドウを決めて植千金の先勝。流れを引き寄せたかに見えたが、前田と大将北村は格上相手に力及ばず4強入りはならなかった。

それでも決して後ろに引くことはなく最後まで相手の懐に飛び込んだ3人。最年長の北村は「前の2人がよく頑張ってくれた」と感謝し、目標だった入賞を果たした充実感に包まれていた。

（南志郎・写真も）

柔・剣道大会200人が熱戦

徳島県警の柔道・剣道大会が、鳴門市の鳴門ソイジョイ武道館であり、15署と県警本部、警察学校から約200人が出場した＝写真。

団体戦は署の規模によりA、Bの2組で競い、柔道A、剣道Aともに徳島東署Aが優勝した。女性警察官23人による剣道特別試合もあった。（萬木竜一郎）

成績は次の通り。

【柔道】A組①徳島東署A②警察学校▽B組①板野署②吉野川署

【剣道】A組①徳島東署A②県警本部▽B組①吉野川署②小松島署



【女性警察官剣道特別試合】①酒巻志穂②國平恵理（以上徳島東署）

【全勝賞】柔道 元木和文、原田大輝、川野洋佑（以上徳島東署）藤岡健太郎（警察学校）丸岡学（板野署）▽剣道 近藤正章、岡山真輔、星野宣哉（以上徳島東署）仲真宏（吉野川署）

10月4日

第31回坂野少年錬成大会（9月16日・小松島市立体育館）は小・中学生が参加して団体、個人戦



小学校低・高学年  
小松島が  
団体制す

を行った。小学校の団体戦は低学年、高学年ともに小松島少剣クラブが頂点に立った。

【団体】小学校低学年①小松島少剣クラブ②徳島至誠館③徳島教室④那賀川少剣クラブ▽高学年①小松島少剣クラブ②徳島至誠館③木頭練心館④新野教室  
▽中学校男子①阿南一②徳島③坂野④徳島文理▽女子①坂野・富岡東合同②阿南③鳴門④北島（個人）小学校1年①大家伶斗（徳島教室）②桑原康輔（那賀川教室わかあゆ会）③長谷川吉会（藍住スポーツ少年団）④吉岡隼（小松島少剣クラブ）▽2年①栗田星舞（那賀川教室わかあゆ会）②元浦綺雷（相生竜虎館）③永濱聡良（藍住スポーツ少年団）④三宅登（同）▽3年①岩原千佳（小松島少剣クラブ）②岩倉夢（小松島少剣クラブ）③大塚未流依（鳴島

をを行った。小学校の団体戦は低学年、高学年ともに小松島少剣クラブが頂点に立った。

【団体】小学校低学年①小松島少剣クラブ②徳島至誠館③徳島教室④那賀川少剣クラブ▽5年 教室⑤▽6年①河野寛之 那賀川あゆ会②4年①古川真（徳島教室）②今草月和田島クラブ③山田利子（徳島至誠館）④富山 咲水（小松島少剣クラブ）▽5年 教室⑤▽6年①河野寛之 那賀川あゆ会②4年①古川真（徳島教室）②今草月和田島クラブ③山田利子（徳島至誠館）④富山 朝桐弘崇（同）③岩崎桃花 新野 室③井原哲三 徳島至誠館



10月6日

【上】坂野少年錬成大会で小学校の団体低学年と高学年優勝、個人入賞した小松島少剣クラブ【中】団体戦中学校男子の部を制した阿南一【下】団体戦中学校女子の部で優勝した坂野・富岡東合同チーム

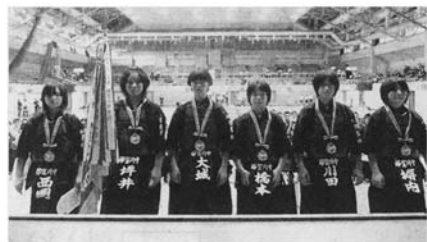


11月3日

# 徳島至誠館勢に栄冠 小学生

2013年度徳島県小学生・中学生大会(10月6日・徳島市立体育館)が行われ、約620人の少年剣士が参加して熱戦を繰り広げた。小学生高学年、低学年の両部とも徳島至誠館が制し、中学校男子は石井、女子は那賀川が優勝した。

- ①小学生 高学年の徳島至誠館
- ②徳島少年教室③小松島少剣クラブ④木頭錬心館
- ▽低学年の徳島至誠館②小松島少剣クラブ③清東少年教室④那賀川教室わかあゆ会
- 【中学校】男子①石井の徳島③北井上④阿南①
- ▽女子①那賀川②鳴門③阿南④小松島



2013年度小学生・中学生大会の(上から)小学生低学年で優勝した徳島至誠館、小学生高学年を制した徳島至誠館、中学校男子優勝の石井、中学校女子を制した那賀川

# 内村4年ぶり頂点

## 剣道

### 全日本選手権

剣道の第61回全日本選手権は3日、東京・日本武道館で64人によるトーナメントで争われ、内村良一6段(警視庁)が小谷明徳5段(千葉県警)との決勝で小手を2本決め、4年ぶり3度目の優勝を果たした。剣道日本一の座に3回以上就いたのは、最多6度の宮崎正裕を含めて4人目になった。

33歳の内村は準々決勝で金成郁5段(千葉県警)を退け、準決勝では安藤翔4段(北海道警)を下した。

- ▽準々決勝
- 小谷⑤ コー 森 ⑥ (千葉県警)
- (福岡県警)

正代⑥メー 勝見⑥ (警視庁) (神奈川県)

内村⑥メー 金成⑥ (警視庁) (千葉県警)

安藤④メー 古川⑥ (北海道警) (大阪府警)

▽準決勝

小谷⑤メー 正代⑥ (北海道警)

内村④メー 安藤⑥ (北海道警)

▽決勝

内村④メー 小谷⑥ (北海道警)

11月4日

◆剣道 第10回徳島県中学校1年生大会(5日、鳴門ノシヨイ武道館)

【男子】団体1回戦 加茂名2-1土成2回戦 石井3-0加茂名、貞光1-0日和佐、上八万2-1鴨島、小松島3-1上那賀 八万A3-0鳴門2、木頭2-1池田、城西A2-0羽浦B、徳島2-0北島B、鳴門2-0徳島文理、松茂2-0城西B、鳴教大付2-1阿南1、牟岐2-0城東、羽浦A3-0国府、坂野2-1八万B、大森3-0川内、北島3-0市場▽3回戦 石井3-0貞光、上八万1-0土成B、城東1(本教勝)1(代表勝)1小松島、木頭2-1相生、石井1-0松茂、八万1-1八万A、徳島3-0城西A、鳴門3-0松茂、鳴教大付1(代表勝)1牟岐、坂野1(代表勝)1羽浦A、北島A3-0大野、徳島文理2-1城東、北島A麻▽準々決勝 石井3-0上八万、徳島1(本教勝)1木頭、鳴門3-0鳴教大付、北島A3-0坂野▽準決勝 石井3-0徳島、北島A2-0鳴門1

▽決勝  
石井3-0北島A  
富永 コー  
坂野  
森本 メコー  
吉本  
山室 メコー  
山下  
個人準々決勝 山室(石井) コー 井内(小松島)、鎌田(北井上) コー 大城(木頭)、前田(篤敷) メー 富田(鳴門)、岩本(那賀川) ドー 今倉(坂野)▽準決勝 山室メー 鎌田、岩本、前田

▽決勝  
山室 コー  
岩本  
【女子】団体1回戦 北島B2-0土成B、城東1(本教勝)1相生、石井1-0松茂、八万1-1八万A、徳島3-0城西A、鳴門3-0松茂、鳴教大付1(代表勝)1牟岐、坂野1(代表勝)1羽浦A、北島A3-0大野、徳島文理2-1城東、北島A3-0石井、牟岐2-1勝浦A、

▽決勝  
那賀川 1-1 小松島  
本教勝  
橋本 古川  
川田 井内  
○天城ドロー 鳥井  
▽個人準々決勝 大城、那賀川、メコー、加島(牟岐)、市川(小松島) メー 早岡(北島)、川田(那賀川) ドー 松葉(徳島文理)、藤島(徳島文理) コー 山口(北島)▽準決勝 大城、メー、市川、川田、藤島

▽決勝  
大城、メー、川田

10月12日

◆第41回阿北地区大会(9月8日、石井中体育館)

【中学校】男子①石井A(先鋒 高橋周平、次鋒 上田環斗、中堅 山室和士、副将 池田善、大将 西條賢太、②徳島A③徳島文理④北島B

▽女子①阿波(先鋒 井内未来、次鋒 西脇光、中堅 藤崎亜美、副将 猪口寛秀、大将 森本夢)②北島③城東④北井上・徳島文理

【高校】男子①鳴門(先鋒 川貴文、次鋒 藤本淳、中堅 東



10月13日

【上】阿北地区大会の中学校の部で優勝した男子・石井A、女子・阿波【下】高校の部で1位になった男子・鳴門、女子・川島



知真、副将 黒崎悟、大将 正木 香、次鋒 民采加、中堅 尾関友宏明)②徳島技A③川島

▽女子①川島(先鋒 竹原桃 真奈、②脇野

11月12日

**男子 大城(阿南) 幸馬見(富岡) V**

【女子】準々決勝 岩末(鳴門) 清水(富岡)、川口(徳島) 吉川(徳島) V 決勝 大城(阿南) 幸馬見(富岡) V

阿南工大城(男子) 人戦を制 調子が良かったの

と鳴川の 入。メン

2人は1年時から稽古を重ね、互いに高め合ってきた仲。攻撃の幅を広げようと苦手の引き技を磨いてきた馬見は「努力が報われた」とこ

り。次の目標に来春の全国切符がかかる県新人大会を掲げ「2人で力を合わせ前回逃した団体優勝を果たす」と力強く語った。

剣道の第47回徳島高  
校選手権は10日、鳴門  
イシヨイ武道館に男子1  
17人、女子56人が参加  
して個人戦が行われた。  
男子は大城和哉(阿南  
工)、女子は馬見幸子  
(富岡東)が優勝した。  
(南志郎・写真)



女子決勝 延長戦を制し優勝した富岡東の  
馬見(右)鳴門イシヨイ武道館

富岡東の2年生対  
決となった女子決勝は、  
馬見・写真が鮮やかな  
一本勝ちで決着を付け  
た。互いに手の内を知り

**内モンゴルの中学生 来県**

11月12日

中国内モンゴル自治区通遼市の庫倫旗第一中……る徳島市の北井上中学校を訪問した。14日まで学校の生徒2人が11日、姉妹校提携を結んでい……県内に滞在し、日本文化などを学ぶ。

**姉妹校の 剣道などで交流  
北井上中訪問**



北井上中学校の生徒から剣道を教わる張さん(右から2人目)と包さん(同3人目)＝徳島市の同校

訪れたのは5年の張風英(けた後、生徒会役員7人とさん(17)と包青花さん(17)。体育館に集まった全での書道体験した。剣道 振った。12日には徳島文理高校(徳島市)の生徒と交流する。2人は「皆さんが歓迎してくれてうれい。貴重経験ができ、とても勉強になる」と話した。 面校は、徳島市出身の残留孤児で庫倫旗第一中の名譽校長を務める鳥雲さんの橋渡しで1992年に姉妹校になった。一時期、交流が途切れていたが、2011年に庫倫旗第一中の日本語教育を支援している徳島県労働者福祉協議会と庫倫旗第一中が教育支援に関する覚書を締結。同年から毎年、日本語の成績が優秀な生徒2人を徳島に招待している。(久米美美)

# 徳島至誠館2冠 低・小学生



第32回善通寺少年錬成



善通寺少年錬成大会で優勝した徳島至誠館

大会(8月25日・香川県善通寺市民体育館)は四国各県と岡山から小学生

低学年部、同高学年の部にそれぞれ47チームが参加して行われた。熱戦の末、徳島至誠館が両部とも優勝を果たした。

◇徳島県関係

【小学生】低学年予選トナメント準々決勝 徳島至誠館3-0

少年部2敗1、2位は本数差による。

▼高学年予選トナメント準々決勝 徳島至誠館3-1南吉井

香風館(香川)▽準決勝 徳島至誠館1-0順正館(香川)▽決勝 徳島至誠館3-0坂出市リーグ 徳島至誠館1-1連盟(香川)、徳島至誠館1-1高知至誠館

1-0高知至誠館▽決勝リーグ 徳島至誠館2-0武揚会(香川)、徳島至誠館3-0順正館(香川)

▽順位①徳島至誠館(先鋒後藤浩也、次鋒山田利子、中堅山本楓華、副将山田利子、大将岩本楓華)

▽順位②徳島至誠館(先鋒飯田翔太、次鋒福田優那、中堅朝田萌香、副将齋幸佑、大将後藤高志)

1勝1分け③坂出市剣道連盟 誠館1勝1分け④高知至誠館1勝1分け⑤坂出市剣道連盟

③武揚会2敗

◆第2回山手錬成旗争奪少年大会(9月23日・岡山県総社市きびアリーナ)

◇徳島県関係の上位

岩原千佳、次鋒山山若樹、中堅切中賀子、副将篠原充輝、大将山田由大

▽高学年Cブロック予選トナメント準々決勝 小松島少剣クラブA2-1神戸枝吉

▽高学年Cブロック予選トナメント準々決勝 小松島少剣クラブA2-1神戸枝吉

▽高学年Cブロック予選トナメント準々決勝 小松島少剣クラブA4-0黒

少剣クラブA5-0西大寺道場

選トナメント準々決勝 小松島少剣クラブA5-0西大寺道場

▽準決勝 小松島少剣クラブA2-1印南(兵庫)▽決勝 倉敷巴会A(岡山)2(代表勝)

2小松島少剣クラブA(先鋒)

将山田匠輝、大将山田胡桃

10月27日



山手錬成旗争奪少年大会の小学生低、高学年予選Cブロック2位の小松島少剣クラブA



男子決勝・石井対阿南一 中堅戦で攻め込む石井の山室⑥＝鳴門ソイジョイ武道館

# 石井、初の栄冠

## 女子 那賀川2年ぶり頂点

### 剣道

県中学新人大会

剣道の第38回徳島県中学校新人大会は16日、鳴門ソイジョイ武道館で男子41校、女子23校が参加して団体戦が行われた。男子は石井が初優勝し、女子是那賀川が2年ぶり13度目の栄冠に輝いた。(南志郎・写真も)

不戦勝 板野、阿波3-0小松	1-0鳴門、北島3-1藍住、阿
島、瀬戸3-0上那賀、松茂4-1	南1-5鳴門2、那賀川3-0
〇川内、津田2-1勝浦、藍住東	山城、鳴教大付2-1木頭、徳島
不戦勝 日和佐、城西3-0池田	3-0八ツ瀬々々決勝 石井2-1
田2回戦 石井3-1園府、城東2	1徳島文理、北島3-1勝浦、阿
(本数勝ち) 2鳴島、大南1-4	〇那賀川、徳島5-0鳴
4〇加茂名、徳島文理3-1北	教大付▽準決勝 石井3-0北
井上、鳴門1-3-2羽浦、勝野	島、阿南1-1〇徳島
2-1阿波、藍住3-0江原、北	▽決勝
島5-0瀬戸、阿南1-5〇松	石井 2-2阿南1
茂、鳴門1-不戦勝 牟岐、山城	(本数勝ち)
2-1坂野、那賀川3-1津田、	高橋 1-0メ
鳴教大付4-0藍住東、木頭4-	上田 ドーメ
〇土成、八万3-0貞光、徳島4-	〇山室 コー
〇城西3回戦 石井4-0城	池田 田上
東、徳島文理3-0大麻、脇町3-	〇西條 メー
	木内
	西名

【女子】1回戦 鳴教大付1-0藍住東、城東4-0山城、鳴島1-4〇石井、瀬戸2-0土成、県立川島2-1〇貞光、勝浦3-1松茂、阿南3-0津田▽2回戦 那賀川5-0鳴教大付、坂野2-0八万、北島2-0城東、阿南1-2-1鳴島、小松島2-1瀬戸、藍住4-0県立川島、阿波3-1〇勝浦、鳴門1-3〇阿南▽準決勝 那賀川4-0坂野、阿南1-3-2北島、小松島2-1藍住、阿波2-1〇鳴門▽準決勝 那賀川3-0阿南、小松島2-1阿波

▽決勝 那賀川3-1小松島  
〇橋本 不戦勝 古川〇  
〇大城 〇鳥井  
〇川田 コー 塚  
〇坪井 コー 榎本

### 「全員でカバー」

〇：強い気持ちで攻め続けた石井男子が夏の県総体で逃した優勝を秋につかんだ。〇-2で迎えた中堅戦で1年生山室が流れを変えた。「何とか追い付いてやる」。しっかりと集中し、開始早々にコテ、その後引きメンを決めた。副将が引き分けた後の大将戦では西條が体格差のある相手にもひるむことなく次々とメンを打ち込み、本数勝ちで勝負を決めた。

県総体後は「県内一の稽古をする」と誓い、毎日、竹刀を振り込んできた。西條主将は「積極性を忘れず全員でカバール合えた」とチーム一丸で初勝利を喜んだ。

夏の全国総体は予選で敗れ実力の差を痛感。強豪と戦える力を蓄えようと猛稽古を積んできた。西岡主将「写真」は「冬場にも心も体ももっと鍛えないと駄目」と来夏を見据え、さらなる精進を誓った。



「冬場にも心も体ももっと鍛えないと駄目」と

11月17日

# 鳴門一A優勝 中学女子

小学 那賀川教室 男子 德島A2位

11月17日



第16回寺西杯争奪近県選抜少年剣道大会

寺西杯争奪近県選抜少年大会で中学校女子の部優勝の鳴門一A



剣道

第16回寺西杯争奪近県選抜少年大会(10月14日)



・鳴門アミノバリエールは12府県から小学校133チーム、中学校98チームが参加して団体戦が行われた。徳島県勢は中学校女子の部で鳴門一Aが優勝。小学校低学年の部の那賀川教室、中

学校男子の部の徳島Aがともに準優勝したほか、3チームが3位に入った。徳島関係の上位

【小学校】低学年の那賀川教室



わかあゆ会(和泉敬浩、栗田空翔太、福田偉那、朝田勇貴、齋幸舞、二宮寛将、森原佑成、河野菜冬子)③小松島少剣クラブ(岩原千佳、松山若樹、切中賢子、藤原希、松田直大)▽高学年③徳島至誠館A(飯田陽平、美州州)▽女子①鳴門一A(天田あかり、富田瑠利、田淵南帆)②那賀川A(西岡彩芽、大城明裕、森井香歩)

【上から】小学校低学年の部準優勝の那賀川教室わかあゆ会、中学校男子の部準優勝の徳島A、小学校低学年の部3位の徳島至誠館A、小学校高学年の部3位の徳島至誠館A、中学校女子の部3位的那賀川A



12月29日



火の用心を呼び掛けながら地域を巡回する  
渭北スポーツ少年団員—徳島市北前川町2

### 感謝の気持ち込め 徳島市の渭北スポーツ少年団

徳島市の助任小児童らでつくる渭北スポーツ少年団が、渭北地区内を巡回して「火の用心」を呼び掛けた。野球やサッカー、バレーなどアチームの団員と保護者約350人が助任小グラウンドに集合。子どもたちは寒さに負けず「1年間のご支援ありがとうございました。火の用心」と声を張り上げ、拍子木を打ち鳴らしながら約1時間半歩いた。助任サッカークラブの菊池望主将(12)「同小6年」は「いつも協力してくれている地域の人たちにお礼の気持ちが届く」と話した。(谷利彦)

## 寒さに負けず「火の用心」

### 少年・少女剣士 元気よく 鳴門

鳴門市撫養町の剣道教室「光武館」の少年・少女剣士19人が、市内を練り歩いて「火の用心」を訴えた。道着に「防火」と書かれた法被を羽織り、市消防本部を午後6時すぎに出発。拍子木を打ち鳴らしながら、「戸締まり用心、火の用心」などと呼び掛け、商店街や住宅街など約1.5キロを歩いた。大津西小6年の炭元裕君(12)は「みんなに伝わるよう大きな声を出した。火の取り扱いには十分に気を付けてほしい」と話した。活動は1988年から毎年、火災が増えるこの時期に行っている。(萬木竜一郎)



拍子木を鳴らして火の用心を呼び掛ける少年・少女剣士—鳴門市撫養町南浜

1月4日

## 剣さばき 初詣客魅了

阿波・賀茂神社 居合道の奉納演武



華麗な剣さばきでわら束を切り落とす会員—阿波市阿波町の賀茂神社

阿波市阿波町元町の賀茂神社で1日、居合道の奉納演武があり、初詣客らが華麗な剣さばきに見入った。奉納演武は武道の繁栄や1年間の安全を祈願する新年の恒例行事で、今年で30回目。坂本憲一会長(66)「市場ごろの修練の成果を披露。神事後、真剣をすすめてさまざまな居合道の型を模範演武した。」(富士佳輝)

12月16日

# 9部門で代表決まる

## 剣道

都道府県対抗県予選

剣道の全日本都道府県対抗優勝大会徳島県予選は15日、鳴門ソイヨイ武道館で行われ、男子5、女子4部門の県代表が決まった。

男子は次鋒(じほう)・白木恒二郎(国土館大)5将・住友直城(刑務所支部)中堅・林義真(美馬支部)副将・前田秀一(刑務所支部)大将・平野誠司(警察支部)(高校生)は11月の県高校選手権を制した大城和哉(阿南工)、3将(警察職員)は24日に予選が行われる。

女子は次鋒・西柚衣(明大)中堅・平野千尋(警察支部)副将・北村環(阿波支部)大将・平野悦子(鳴門支部)が代表。先鋒は来夏の県高校総体個人戦の優勝者が務める。全日本都道府県対抗優勝大会は男子が来年4月29日に大阪市中央体育館で開催。女子は7月19日に東京・日本武道館で開催。(奥村靖之)

白(国土館大)コ久保(同大)・松本(筑波大)コ一 箕井(関学)  
 ▼決勝  
 白 木メコ 松本  
 ▼5将(18〜34歳準決勝) 玉井(刑務所支部)メー 近藤(刑務所支部) 住友(刑務所支部)  
 ▼副将(35歳以上準決勝) 原大(小松島支部)メド 吉田(徳島文理大)  
 住友(刑務所支部) 井友(コ一) 玉井(中堅(教職員)決勝) 林(美馬支部)メー 石(阿南支部) 西(明大)メー 藤井(徳島文理大) 山本(大教大)メー 青木(徳島支理大)  
 ▼決勝  
 前田(阿波支部)メー 北村(阿波支部) 田(ソイ) 原(警察支部)メー 富(海部支部) 野(警察支部)メー 野(警察支部)メー  
 【女子】次鋒(大学生準決勝) 西(明大)メー 藤井(徳島文理大) 山本(大教大)メー 青木(徳島支理大)  
 ▼決勝  
 前田(阿波支部)コメー 山下(鳴門支部)  
 ▼決勝  
 野(コメ)メー 前田(副将(35〜44歳)決勝) 阿波支部)メー 金(野) 野(阿波支部)メー 野(徳島支理大) 大(45歳以上) 決勝 野(鳴門支部)メー 竹(内) 野(鳴門支部)メー



女子次鋒の部で果敢に攻める西(鳴門ソイヨイ武道館) (家段良臣撮影)



男子次鋒 白木一(本も) 許さず3年連続の「自信を」持って試



男子5将 住友(3年ぶり)2度目の全国大会(出場)「決勝の後



女子中堅 平野(決勝を延長で制して)3連覇(上段)に構える

合に臨み、得意の飛び込みメンが決まった。全国では勝って流れをつかみ、チームに貢献したい」がうまく決まった」  
 輩なので負けられない思いが強かった。自分のヘイスを直き、得意のコテ

落着いて反応  
 ○：鋭く振り下ろした竹刀が相手の面を一闪(いっせん)。女子次鋒の決勝で延長戦を制した明大2年の西は「落着いてうまく反応できた」と白い歯をのそかせた。日本代表候補(31人)に選ばれ、12日から強化合宿に参加。速い攻めには自信があったが、全国の強豪と対戦し「それだけでは勝てない」と機先を制す技を磨いてきた。早速成果が表れ、飛び込みメンを狙う相手の動きを見据え、相打ちながら一瞬先に決めた。都道府県対抗県代表は2年連続で、前回大会は3位。153名の県女子剣道界のエースは「集中して粘り強く戦えるようになった。今度は頂点を目指す」と力を込めた。

# 鍛

錬重ね成長

# 剣道

阿波市



真剣な表情で竹刀を振る阿波少年剣道教室の子どもたち—阿波市阿波町の阿波中学校

## 少年剣士 野試合で熱戦

地域・世代を結ぶスポーツ

「メーン」「ドー」。毎年5月、阿波市市場町八幡の八幡神社では、県内唯一の野試合による奉納演武大会が開かれ、小中学生剣士らの威勢の良い掛け声が境内に響き渡る。大人顔負けの迫力ある熱戦が繰り広げられ、応援する保護者の声にも熱が込められる。

大会は学年、男女別の5部門で実施。太平洋戦争前、境内で行っていた奉納試合が始まり、戦後久しく途絶えていたのを、2003年に地元住民でつくる八幡神社剣道同志会が復活させた。以降、毎年開かれている。

阿波市の剣道の歴史を紐(ひも)解くと、江戸時代に徳島藩が設けた「原土(はらし)

### 後進育成 郷土の伝統に

と呼ばれる武士集団の影響が大きいとされる。原土は現在の市場町などに居住し、辺境警備や一揆鎮圧の任務を担当。剣術などの修練に励み、庶民に武芸を教えた。地元史に詳しい市文化財保護審議委員の坂本憲一さん(66)「市場町八幡」は「市場、阿波阿町は原土の功績もあり、伝統的に剣道が盛ん。剣道発展に尽力した人も多い」と語る。

そんな具体例を示す逸話が八幡神社には残る。

太平洋戦争後、剣道は日本を占領した連合国軍総司令部(GHQ)によって、組織的な活動や学校教育での禁止などさまざまな制限を受けた。事実上の弾圧だったが、両町の愛好家が1947年、神社の拝殿を利用した道場を県内でい

ち早く復興。人目をしのぶ稽古(けいこ)だったものの、大勢の門下生が他町からも集まり、徳島での剣道復活の礎を築いた。

その後、時代の変遷とともに両町には数多くの「剣豪」が生まれ、後進の育成に尽力した。80～90年代には市場、阿波阿中学校の剣道部が競い合うように主要大会で優勝を重ねる黄金期が到来する。

当時阿波中で2年連続全国大会に出場し、2013年の全日本都道府県女子大会で団体戦3位に輝いた北村環さん(42)「阿波西高教諭、阿波町下喜来例」は「多くの先生方の熱意ある指導が市の剣道の発展を支えてきた。恩返しの意味

も込めて、今後は自分たちが役割を担っていきたい」と笑顔を見せる。

近年ではサッカーなどの人気種目に人材が流出し、小中学生の競技人口は全国的に減少。しかし、市では「礼儀を学べる」と魅力が見直され、少年剣道教室などへの入部はここ数年回復傾向にある。小学5年から競技に汗を流す北村さんの長男怜輝(さとき)君(15)「阿波中3年」は「剣道は心身共に鍛えられる競技。実績ある母を超えられるよう精進していきたい」と意気込む。

世代を超えて受け継がれる阿波市の剣道。伝統は若い担い手へと託され郷土の誇りとして脈々と歴史を刻んでいる。(富士住輝)

### 攻防激しく

境内で熱戦を繰り広げる子どもたち—2013年5月、阿波市市場町の八幡神社



若い世代に広めたい

阿波少年剣道教室指導者 兼松 佳史さん

1月3日

剣道は礼儀を重んじる競技。練習は厳しい面もあるが、その分、精神力や忍耐力を養うことができる。教え方の中には、「真剣に取り組んだ結果、「人間的に成長できた」「自信につながった」と卒業後、打ち明けてくれた子もいる。子どもに学ばせたいという保護者も増えている。できるだけ多くの若い世代に剣道の魅力を知ってもらおうのが願いだ。

# 男子 城北 V 徳島文理 女子



大将戦を制し3年ぶりの優勝を決めた城北の南谷(左)一鳴門ソイジョイ武道館(家段良匡撮影)

## 剣道

全国高校選抜選手選 剣道の全国高校選抜大会徳島県予選を兼ねた第58回男子、第48回女子県高校新人大会は12日、鳴門ソイジョイ武道館に男子14校、女子9校が参加して団体戦があり、男子は城北が3年ぶり3度

## 持ち前の粘り発揮

城北

最後までもつれた男子決勝は、城北が持ち前の粘り強さを発揮した。西條主将は「突出した選手はいないが、力を合わせればどこにも負けない」とチームワークでつかんだ栄冠に胸を張った。4人が引き分け後の

大将戦で南谷が勝負強さを見せた。相手が突きにきたところを見逃さず、すり上げメンでまず1本。2本目は引き技が得意な相手を隅に追い詰めた。優勝の立役者となった1年生は「毎日5時以上振り込んできたので返しには自信があった。準決勝・富岡西戦の2本勝ちでチームを勢いづけた先鋒(せんぼつ)の井形は「先手必勝の気持ちで押し切った」と笑顔で話した。昨年11月の県選手権個

人戦でベスト8は一人もない発展途上のチーム。18年ぶりの花園出場を果たしたラグビー部に刺激を受け「僕らも全国に行く」と誓いを立て、その通り頂点に立った。福多監督は「熱心に稽古を積んだ成果を出し切ってくれた。この勢いで全国でも勝ち進みたい」と教え子たちの成長に目を細めた。(奥村靖之)

目、女子は徳島文理が2年連続2度目の優勝を果たした。男女の優勝校は全国選抜大会(3月27、28日・愛知県春日井市総合体育館)に出場し、各上位4校が四国新人大会(2月9日・鳴門ソイジョイ武道館)に進む。

【男子】団体1回戦 阿南5-0 徳島理工 城内2(全敗) 徳島文理 城北1-0 徳島文理 北1-0 徳島文理

井形 上田 熊橋 反メ 喜多 中川 コーコ 後藤田 西條 楠 谷本 南谷・メー 鳴門 阿南高専 城北5-0 川島 阿南高専 城北5-0 川島 阿南高専 城北5-0 川島 阿南高専 城北5-0 川島 阿南高専 城北5-0 川島

## 「焦らず戦えた」

○：女子団体2連覇の徳島文理は決勝でも落ち着いた竹刀さばきでライバル富岡東を退けた。大将戦で逆転勝ちした川原主将「写真命」は「仲間が流れをつくってくれたので最後まで焦らずに戦えた」と振り返る。

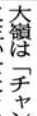
1敗1分けの劣勢で流れを変えたのは中堅大嶺

攻め込んでくる相手の竹刀を巧みに抑え込み

終了直前に飛び込みメンを決めた。



大嶺は「チャンスは確実に生かした」と笑顔を見せ、1本勝ちで続いた1年の副将玉田も「自分の間合いで勝負できた」と納得の表情だ。全国選抜大会では昨年の予選リーグ敗退の悔しさを忘れず、一丸となって決勝トナメント進出に挑む。



大嶺は「チャンスは確実に生かした」と笑顔を見せ、1本勝ちで続いた1年の副将玉田も「自分の間合いで勝負できた」と納得の表情だ。全国選抜大会では昨年の予選リーグ敗退の悔しさを忘れず、一丸となって決勝トナメント進出に挑む。

大嶺は「チャンスは確実に生かした」と笑顔を見せ、1本勝ちで続いた1年の副将玉田も「自分の間合いで勝負できた」と納得の表情だ。全国選抜大会では昨年の予選リーグ敗退の悔しさを忘れず、一丸となって決勝トナメント進出に挑む。

# 平成二十六年年度 剣道・居合道昇段審査 学科試験問題・解答例

※平成二十六年年度は、以下の問題より各段二問出題されます。

この試験問題と解答例は、あくまで自分の剣道修行の参考のために記述したものである。名称等、正確に記憶しておかねばならない事柄もあるが、試験問題の多くは、今の自分のレベルで考え、自分の言葉で表現することを求めている。決して、試験のためだけに丸暗記して、こと足りえたと思わないでもらいたい。

学科問題においても、正々堂々、真剣勝負の気迫で取り組み、今の自分のありのままを表現すべきである。また、そのことが採点者の高い評価を受けることにつながることも付記しておく。

## 【剣道】

### ※ 初段の部

① 中段の構えの姿勢で注意することを書きなさい。

- (1) 肩を落として背筋を伸ばす。
- (2) 首筋を立てて顎を引く。
- (3) 腰を入れて下腹部にやや力を入れる。
- (4) 両膝を軽く伸ばして、重心を両足の中間にかけて立つ。
- (5) 目は全体を見つめる。

② 三つの間合を説明しなさい。

- 間合とは自分と相手の距離をいう。間合には、一足一刀の間合、遠い間合、近い間合の三つがある。
- (1) 一足一刀の間合⇨剣道の基本となる間合で、一歩踏み込めば相手を打突することが出来る距離であり、一歩さがれば相手の打突をかわすことが出来る距離である。
  - (2) 遠い間合(遠間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より遠い間合で、相手が打ち込んできてもとどかないが、同時に自分の打突もとどかない距離である。
  - (3) 近い間合(近間)⇨相手との距離が一足一刀の間合より近い間合で、自分の打ちが容易にとどくかわりに、相手の打突もとどく距離である。

③ 基本打突や技の稽古で気をつけることを書きなさい。

- (1) 正しい姿勢で、気を充実させ、互いの攻め合いから打突する。
  - (2) 適切な間合をとって、確実に気剣体一致の有効打突となるようにする。
  - (3) はじめは「ゆっくり、大きく、正確に」を主眼とし、習熟するにしたがって「速く、強く、より正確に」打突できるようにする。
- ④ 日本剣道形で使われている「五つの構え」について書きなさい。
- (1) 中段の構え⇨すべての構えの基礎となる構えで、攻防に最も適した構えである。
  - (2) 上段の構え⇨太刀を頭上に振りかぶり、相手の気を圧して、捨て身で攻撃する性格をもつ構えで、諸手左上段・諸手右上段がある。
  - (3) 下段の構え⇨剣先をさげて自分の身を守りながら、相手の変化に応じて攻撃に転ずる構えである。
  - (4) 八相の構え⇨太刀を大きく右肩にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方によって攻撃にでる構えである。
  - (5) 脇構え⇨半身になりながら太刀を右脇にとり、あいての動作を監視しながら、相手の出方に応じて臨機応変に攻撃に転ずる構えである。

⑤ 「切り返しの目的」を述べなさい。

切り返しは、正面打ちと連続左右打ちを組み合せ、基本動作を総合的に練習するためのものである。姿勢や構え、打ちの刃筋や手の内の作用、足さばき、間合いの取り方、呼吸法、さらに強靱な体力や旺盛な気力を養い、気剣体一致の打突の習得を目的とする。

※ 二段の部

① 「剣道で礼儀を大切に理由」について述べなさい。

剣道を修練する上で、互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くためのよき協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんのこと、終始、正しい心、慎みの心といった礼の本体を離れることなく、素晴らしい剣道を創造していくうえで、礼儀は大切な要素である。

② 「打突の好機」について説明しなさい。

打突の好機はたくさんあるが基本的には次のとおりである。

- (1) 相手の動作の起り頭(出ばな)
- (2) 技の尽きたところ(動作や技が終わったと

ころ)

- (3) 居ついたところ(身体の緊張がゆるんだ瞬間、気持ちで圧倒されたとき)
- (4) 引き端(退がるころ)
- (5) 受け止めたところ(受け止めた時に隙が生じる)
- (6) 息を深く吸うところ(息を吸うときは、相手の動作が止まる)

③ 「稽古で心掛けなければならないこと」とは、どのようなことか述べなさい。

- (1) 竹刀の点検、準備運動、整理運動をはじめとした安全面に留意する。
- (2) 大きな目標や研究心をもって取り組む。
- (3) 礼儀作法を重んじる。
- (4) 立会いの「初太刀」を大事にして、一本一本をおろそかにしないように、常に旺盛な気力で、精魂を込めて稽古をする。
- (5) 基本に忠実に稽古をする。
- (6) しかけていく技を積極的に使って稽古をする。
- (7) 稽古後は反省し、工夫・研究を怠らない。

④ 剣道形を実施するときの「足さばき」で気をつけることを書きなさい。

足さばきとは、相手を打突したり、相手の攻撃をかわしたりするための足の運び方である。日本剣道形では、歩み足、送り足、開き足が使われるが、注意点は次のとおりである。

- (1) 足さばきは、すべて「すり足」で行い、踏み込み足は使わない。重心を上下動させず、滑らかに行うことが大切である。
  - (2) 足の運びは、原則として前進するときは前足から、後退するときは後ろ足から動作を起す。
  - (3) 足さばきは、原則として一方の足に他方の足が伴う。特に打突時の後ろ足は残さずに、前足に伴って引き付ける。
- ⑤ 「正しい鍔せり合いと注意点」を説明しなさい。

鍔せり合いとは、相手を攻撃したり相手が攻撃をしてきたときに間合いが接近して鍔と鍔がせり合った状態をいう。自分の竹刀を少し右斜めにして手元を上げ、下腹に力を入れて自分の体の中心を確実に保つようにする。お互いの鍔と鍔がせり合う中で手元の変化や体勢の崩れから打突の機会をつくる。

- 注意点
- (1) 手元を上げ、下腹に力を入れて腰を十分伸ばす。
  - (2) 首を真っ直ぐに保って相手と丈くらべをする気持ちで相対し、身体が前傾しないようにする。
  - (3) お互いの鍔と鍔がせり合うようにする。
  - (4) 相手の肩に竹刀をかけたり、刃部を身体にかけたりしない。
  - (5) 必要以上に力んだり、気を抜いて休んだりしない。
  - (6) 積極的に技を出すか、分かれるようにする。

## ※ 三段の部

### ① 「平常心」について説明しなさい。

物事（事象）の変化に対し動揺することなく、日頃の気持ちで冷静に対応できる磨かれた心の状態をいう。事に臨んで心を動かすことなく、ふだんと変わらない平常の心で対処することは非常に難しいことである。剣道では、この平常と変わらない心を持たなければならないことを強く求めている。

### ② 「三殺法」について説明しなさい。

相手を制するための手だてとして、相手の剣、技、気の三つを封ずる。

- (1) 剣を殺す⇨相手の剣を押さえ、払うなどして剣の働きを制する。
- (2) 技を殺す⇨先手先手と攻め、相手に技をしかける余裕を与えない。
- (3) 気を殺す⇨気力で相手を圧倒し、相手が攻撃しようとする機先を制する。

### ③ 互格稽古で注意することを書きなさい。

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行く。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行う。

- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突する。

- (4) 間合のとおり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくり方、技の出し方などを工夫する。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をする。

### ④ 剣道形の必要な理由と効果について述べなさい。

剣道形は剣道の技術の中でもっとも基礎となるものを選んで定められたもので、剣道形を繰り返し修練することによって、剣道の基本的な礼儀作法や技術、剣の理合を修得することができ、さらに内面的な気の働きの気位といった剣道の原理原則をも心得できる。修練の効果としては次のようなことがあげられる。

- (1) 礼儀が正しく、落ち着いた態度が得られる。
- (2) 姿勢が正しくなり、冷静な判断力が得られる。
- (3) 間合を知り、機敏な動作が修得できる。
- (4) 技について自分の悪い癖がとれる。
- (5) 気合が練られ、充実した気合が得られる。
- (6) 剣道の気位が高まり、風格が備わる。

### ⑤ 「手の内」について説明しなさい。

剣道でいう、手の内とは、竹刀の柄を持った両手の持ち方を言い、竹刀の握り方、打突したり応じたりするときの両手の力の入れ方、緩め方、釣り合いなどを総合した掌中の作用である。（竹刀の持ち方は、左手は柄頭から小指が出な

いように一ばいに持ち、右手は鏝にふれない程度に持つ、左右両手とも親指と小指と薬指とで握ります。肘は伸びすぎず、両腕の肘関節を柔らかくして軽く柄を握り、ぬれ手拭をしぼる気持ちで両手首をしめ入れるようにし、左右の親指と人差し指の割れ目が竹刀と弦と一直線になるようにします。）竹刀を強く握りしめないで、正しく保持し、手首をリラックスさせることにより、肩、肘、手首、掌へと運動が伝道し、効率のよい鋭い打突が可能となる。（打突に際しては緊張と解緊をたくみに行き、手の内のさえを生み出すよう努力しなければなりません。）

## ※ 四段の部

### ① 有効打突について説明しなさい。

有効打突は、剣道試合・審判規則第十二条に、充実した氣勢、適正な姿勢をもって、竹刀の打突部で打突部位を刃筋正しく打突し、残心あるものと規定されている。このような諸条件を満たした一本が有効打突となる。言いかえれば、気剣体一致の打突である。有効な打突は理合と残心からなっており、理合を要素と要件に分けると、要素には、間合・機合・体さばき・手の内の作用・強さと冴えが含まれる。要件には、姿勢・氣勢（発声）・打突部位・竹刀の打突部・刃筋が含まれる。残心は、打突後の身構え・気構えである。

## ② 剣道の四戒について説明しなさい。

四戒とは、驚、懼、疑、惑の四つをいい、剣道修業中に、この中の一つでも、心中に起こしてはならないという戒めである。驚は「おどろく」であり、懼は「気づかい」「恐れる」、疑は「あやぶむ」「あやしむ」、惑は「心が乱れる」「思いあやまる」です。

驚⇨予期しない事態に驚いて、心身の活動が乱れ、正常な判断と適切な処置がとれず、為す術のない状態になる。

懼(恐)⇨恐怖のことで、相手を恐れて、精神の活動が停滞し、四肢が震えて自由な動きを失う。

疑⇨相手の気持ちや行動をあれこれと疑い、平静な判断を下せず、決断がつかない状態である。

惑⇨心の迷いである。心が迷うときは精神昏迷、敏速な判断や軽快な動作をなすことができない。

## ③ 残心の重要性について述べなさい。

打突した後でも相手に心を留めて、もし相手が再び反撃しようとしたら、直ちにこれを制し得る油断のない身構えと気構えになっていなければならぬ。もし、打突した後油断していたならば、逆に相手に反撃されてしまう。また、打突した後心を残そうとすれば、かえって残

そうとするとところに心が止まってしまおうとされている。心を残さず、思い切って捨て身で打突することによってこそ、自然と相手に対する油断のない心が生まれ、これが相手の反撃に備える身構えと気構えになる。

## ④ 剣道形を行うときの「木刀の正しい操作」について説明しなさい。

木刀の操作と身体の移動を合理的に行うとともに、充実した氣勢で気剣体を一致させて行うことが要諦である。特に打突をより有効にするためには、次のように刀を正しく操作することが大切である。

(1) 握り方が正しく「切り手」になっている。  
(2) 握りを変えないで、正中線に沿って振り上げて振り下ろす。特に「萎やす」「すり上げる」「支える」「押さえる」ときは、左こぶしを正中線から外さないように注意する。

(3) 振りかぶりと振り下ろしは、一連の動作(一拍子)で行い、刃筋正しく行う。

(4) 打突する瞬間は、小指、薬指、拇指球で軽く握り締め、物打ちで打突部位を正確に打突する。

(5) 振りかぶりや抜き技は、左小指の握りを緩めず、剣先が両こぶしよりさがらないように注意する。

(6) すり上げは、鎧の効用を使って、半円を描く心持ちで行う。

## ⑤ 熱中症の症状と処置について述べなさい。

高温環境下で発生する障害の総称で、熱疲労、熱痙攣、熱射病の3型に分類される。

熱痙攣は大量の発汗により、汗とともに塩分が失われ塩分不足のために、筋肉の痙攣を起こす。

処置としては、涼しい場所に寝かせ、水分の補給(食塩水、スポーツドリンク等)を行う。

熱疲労は大量に汗をかきすぎることからくる、脱水症状で、全身の脱力感、めまい、血圧低下、ひどい場合は失神する。処置としては、涼しい場所に運び、頭を低くして寝かせる。水や薄い食塩水を飲ませる。

熱射病は熱中症の中でも最も重症で、体温が異常に上昇して、意識障害をおこす。ひどい場合は死亡することもある。処置としては体温をすみやかに低下させることである。冷却法として、涼しい場所に移動、水で身体を濡らし、うちわなどで送風する。また、水で体表を冷却する、などを行い、意識がはっきりしない場合は救急隊へ連絡する。



## ※ 五段の部

## ① 審判員の心得について述べなさい。

剣道試合の審判とは、公正に両者の勝敗を裁決することである。剣道の試合は、剣道発展のための方法であり手段である。従ってその審判は、剣道の正しい発展に沿ったものであり、その発展に役立つように実施されなければならない。

一般的要件

- (1) 公正無私であること。
- (2) 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
- (3) 剣道に精通していること。
- (4) 審判技術に熟達していること。
- (5) 健康体で、かつ活動的であること。

留意事項

- (1) 服装を端正にすること。
- (2) 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
- (3) 言語が明晰であること。
- (4) 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
- (5) よい審判を見て学ぶこと。

## ② 「気位」について述べなさい。

気位とは、自信から生ずる気品、威厳である。技術が円熟し、精神が鍛錬された結果、自然に

備わるものである。竹刀を構え合わせた時、驚懼疑惑の念を生じて恐れちごこまり、戦わないうちに負けた気持ちになるのは、相手の気位に押されて、位負けした結果である。このような気位を故意に真似しようとしても技術、精神が円熟していない限り、かえって隙を生じて、打ち込まれることになり、見苦しい結果になる。技術の進歩、精神の鍛錬の度合いは、自然と気位に現れるので、一朝一夕に備わるものではない。なお自信と慢心とは大いに違うもので、慢心は剣道で最も戒むべきものである。

## ③ 互格稽古について説明し、指導上の留意点を述べなさい。

技能や気力が同等の者、あるいは同等に近い者が、互いに気をはかり、相手の変化に対して互格の態度や対等の気持ちで有効打突を競い合うなかで、総合的な能力を養う稽古法である。指導上の留意点

- (1) 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した氣勢で真剣に行わせる。
- (2) 相手を恐れず侮らず、相手と対等の気持ちで行わせる。
- (3) 立会いの「初太刀」を大切にし、一本一本に精魂を込めて打突させる。
- (4) 間合のとり方や攻め方、打突の機会の見つけ方やつくりかた、技の出し方などを工夫させる。
- (5) 相手をより好みしないで、多くの人と稽古をさせる。

## ④ 剣道形を実施するときの留意点について述べなさい。

剣道形は、一定の形式と順序に従って行う一連の約束動作であるが、形を形骸化させない生きたものにするために、お互いが寸分の緩みのない気の働きをもって行わなければならない。

- (1) 立会前後の作法、立会の所作、刀の取り扱いを適切に行う。
- (2) 五つの構えと小太刀の半身の構えを正しく行う。
- (3) 目付けや呼吸法を心得て、終始、充実した氣勢、気迫をもって合気で行う。
- (4) 打太刀（師の位）、仕太刀（弟子の位）の関係を理解し、原則として打太刀が先に動作を起こす。
- (5) 「機を見て」「入身になろうとする」といった打突の機会を理解して行う。
- (6) 打太刀は一足一刀の間合から打突し、仕太刀は物打ちで打突部位を正確に打突する。
- (7) 振りかぶりは、剣先が両こぶしよりさがないようにし、一拍子で打つ。
- (8) 足さばきはすり足で行い、打突するときには後ろ足を前足に引き付ける。
- (9) 残心は十分な気位をもって行う。

## ⑤ 剣道における熱中症の予防と対処について述べなさい。

熱中症とは、高温環境に高湿度が加わると、うつ熱（体熱の放散が妨げられた状態）によっ

て、体温上昇が助長されて体温調節機能が障害された状態を総称したもので、熱失神・熱疲労・熱痙攣・熱射病などに大別される。剣道では夏場に発生しやすい。最も致命率の高い熱射病では、体温上昇、意識障害、痙攣、血圧低下、発汗停止などの症状をきたす。

予防するには体感温度に注目して剣道場の換気に配慮し、休息を数多くとり、水分、塩分の補給を考慮する。頭痛、めまいなどを訴える者が続発するときは、練習のペースダウンや中止など早めの対応が必要である。

対処方法は、全身の冷却、水分補給、電解質の補給を行うことであるが、応急処置としては、

- (1) 全身の冷却

涼しい場所に移動し、衣服を脱がせる。水で身体をぬらし、送風する。

水で体表を冷却したり、頸部、わきの下、脚のつけね、膝のうしろを冷却することも有効である。

- (2) 水分の補給

水分や薄い食塩水、またはスポーツドリンクを補給する。

意識障害のあるときは危険なので、体温を下げる応急処置を行いながら救急車を呼んで病院にて治療を行う。

## 【居合道】

### ※ 初段の部

- ① 居合道を習おうとした動機を記せ。

(例は示さない、自分の考えで述べよ。)

- ② 居合道と礼儀について記せ。

礼儀は人間として、また平和な社会生活をすすめる上で大切であり、ことに武道では昔から「礼に始まり礼に終わる」といわれ、きわめて大切なものとされてきた。技が上達しても、品位や人格が欠けているようでは、ほんとうの居合を習ったとはいえない。居合は日本刀を使っている運動である関係上、万が一にもその使用方法をあやまるようなことがあってはならず、道場だけでなく、日常生活の中でも常に礼儀正しく立派な人格と精神を養う心が必要である。

- ③ 刀を安全に取り扱うための「目釘」について記せ。

目釘は、刀身と柄を固定する重要な働きをするものである。目釘の素材は、竹・角・生鉄などがあるが、通常は堅い三年を経過した古竹(真竹)材が使用される。目釘は、目釘穴と同

じ太さに削り、頭部分をやや大きくする。目釘の竹の表面側(表)を柄頭方向とし、ガタつきがないよう強く挿入する。練習前には、必ず目釘が抜け落ちたりゆるみがないかを点検して安全を確認しなければならない。

- ④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』作法における、「(一) 携刀姿勢」・「(二) 出場」・「(三) 神座への礼」より穴埋め式(五カ所)による問題を一問出題する。

### ※ 二段の部

- ① 居合道修行の目的について記せ。

居合は初め一種の刀法として始まったが、その目的は精神の鍛錬が第一で、第二に身体の内磨、第三に術技の訓練という順になる。心身の錬磨は剣道と同じだが、その技術は剣道の根本となるものである。つまり刀の運用や礼儀など、すべてが剣居一体のものであり、この修行をするには、自分自身の心身の錬磨、人格の向上につながるものである。

- ② 柄の握り方について記せ。

柄の握りは、右手は人差し指が柄巻きの一文字にかかるようにし、左手は柄頭を余し親指に

人差し指を付けて握る。両手の握りの間は指二本位（約三〜四セ）で、握る力は小指、薬指、中指の順で強く握り、人指し指と親指には力を入れず切る瞬間、前にぐっと握りしめる。いわゆる茶巾絞りの要領である。

③ 居合道の目付について記せ。

座ったときの着眼は四から五釐先の床とし、立ったときの着眼は、自分の目の高さの前方、一点を見つめるのでなく、遠くの山全体を眺める気持ちで八方に心眼を開き、目は半眼、動作中の着眼は仮想敵の面、又は顔の中心部とする。切り下ろしたときは切先のとを追うようにして倒れた仮想敵を見越した所とする。目はいつも平静でまばたきしたり、目を凝らしたりしてはいけない。

④ 『全日本剣道連盟居合（解説）』術技における一本目から三本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式（五カ所）による問題を一問出題する。

※ 三段の部

① 居合道の流派を自己の流派を含め五派以上記せ。

無双直伝英信流、夢想神伝流、伯耆流、無外流、水鷗流、関口流、貫心流、心形刀流、新蔭流、長谷川英信流、大森流、田宮流

② 残心について記せ。

常に油断しない心のことで、敵を斬突したあとも敵に心を残して、次の攻撃に備えて直ちに対応・制圧できるような姿勢・態度・構えをくずさないことをいう。納刀にさいしても、「納刀すなわち抜刀の心」という言葉があるように一動作ごとに気も心も充実させ隙を見せないことが大事である。

③ 自信と慢心について記せ。

修練を重ねた結果、正しく立派な居合が出来るようになる、おのずから自信が湧いてくる。自信をもつことにより平常心を保つことが出来、如何なる場合に於いても心の落ちつきと確かな技前を發揮することが出来、そこには気位も備わってくるものである。しかし心の修業が不十分な者が軽々しく自信をもつことは、これが自負心となり、いわゆる慢心となる。慢心は修業の過程でもっとも戒めるべきものである。

④ 『全日本剣道連盟居合（解説）』術技における一本目から五本目までの「要義」と「動作」について穴埋め式（五カ所）による問題を一問出題する。

※ 四段の部

① 居合道の呼吸について記せ。

静かに腹式呼吸する。通常は、一つの技を終えて次の技に移るときは、ゆっくりと二回呼吸して息を整え、三回目の息を吸いおわる頃に刀を抜き始める。そして吸い込んだ息を一気に吐き出し抜刀する。納刀してから軽く吐く。長い技のときは、息継ぎの必要がでてくるが、息を継いだかわからないようにする。呼吸法には個人差があることからそれぞれに工夫が必要である。

② 序破急について記せ。

一般的には「序」はものごとの始まりで、静かなことを現し、「破」とはやぶれること、「急」は激しくなることである。これを居合の術技では刀の運速を表現する用語として用いたもので、刀の運行を三段階に分析し、わかり易く表現したことはよい。抜刀について説明すると、鯉口を切って静かに刀を抜き始めることが序で、しだいに抜刀速度を速めることは破、抜き付けの瞬間を急という。序破急は抜刀ばかり

でなく。すべての術技に序破急の動きを生かさなければならぬ。

### ③ 気剣体の一致について記せ。

「気」とは、意志とか心の精神作用をいうのであって、心の判断によって動作を起こそうとする決心を指す。「剣」とは、刀の働く作用を指す。「体」とは、体勢で、身体の力、手足の動きを指す。気剣体の三つが一致して腰が不動のものとなり、初めて有効適切に正確な技を出すことができるのである。居合は腰で抜き、腰で切るとまで言われるように腰の安定がもっとも重要であり、常に気剣体を一致させ腰の安定を心がけ修業することが肝心である。心気力の一致、心形刀の一致、心眼足の一致と言われる言葉は皆、同意語で大切な教えの一つである。

### ④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』術技における一本目から七本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(五カ所)による問題を二問出題する。

## ※ 五段の部

### ① 真剣の取り扱いについて留意する点を記せ。

居合道において、所有もしくは使用する真剣は、まず登録証が交付されている「登録刀」でなくてはならず、練習時や各種大会の参加時には、必ず登録証(コピーは不可)を携行し、登録刀を譲り受け、もしくは相続、購入した場合は登録証発行の都道府県教育委員会に「二十日」以内に所有者変更届けを提出しなければならぬ。また、体格に合わせて、刀身を短くしたり、樋の無い刀に樋を彫る場合は、都道府県の教育委員会に許可申請等の手続きを終了したのち改造を行い、新たな登録証の交付を受けなければならない。真剣を扱う居合人は少なくとも過失による事故を起こさぬよう、人前での刀の運行は勿論のこと平素から目釘や鯉口の点検、使用後の手入れや保管場所に注意して、常に安全を確保しなければならない。

### ② 守破離について記せ。

居合道における修業の段階を示したもので、「守」とは修業がある程度に上達するまでは、師の教えを忠実に守り、稽古に励み、理合や技術を修行し、決して他に迷わないこと。「破」とは、修業を積み、学んだ流派の教えを自分のものにし、更に進んで他の流派を学び、長所を採り入れ守の段階では得られなかった新しい分野を開拓すること。「離」とは苦心研究し破の段階を越えて、遂に独自の境地を見出し、自己

の流派をみ出し剣の奥義を極めることであり、守破離の教えは人生の生き方にも同じことがいえる。

### ③ 居合道と剣道の関係について述べよ。

居合道は日本刀を用いてその刀法、手の内を修練するものであり、仮想する前後、左右ないし斜方の敵に対して鞘放れの一瞬に抜き打ち、又受け流した後、切り下ろして勝ちを納めるもので、いわゆる、そこに居て敵に合わすものである。しかるに居合道と剣道は古来より一流派の中に双方があって表裏一体、車の両輪の如くその理合、目的とするところは一つであって、両道を併せ修行する事によって相乗的にその効果が高められるのである。

### ④ 『全日本剣道連盟居合(解説)』における一本目から十二本目までの「要義」と「動作一」について穴埋め式(各五カ所)による問題を二問出題する。

## 平成26年度 徳島県剣道連盟行事予定

県内行事						
月	日	曜日	行事	場所	主催	
4	6	日	国体一次予選会	10:00~	ソイヨイ武道館	県剣連
	11	金	西部交流稽古会	19:00~	阿波中学校体育館	〃
	12	土	第1回四国高齢者剣道交流大会	9:30~	中央武道館	高齢剣友会
	13	日	少年剣道教室指導者講習会	9:30~	ソイヨイ武道館	県剣連
	17	木	中央交流稽古会	19:00~	中央武道館	〃
	20	日	第39回会長杯争奪高等学校剣道大会	9:30~	ソイヨイ武道館	〃
	26	土	南部交流稽古会	16:00~	鷲敷B&G体育館	〃
	29	火祝	第1回審査会(剣道 初段以下)	10:00~	ソイヨイ武道館他	〃
5	11	日	剣道中央講習伝達講習会	9:30~	ソイヨイ武道館	〃
	18	日	居合道春季講習会、審査会	9:00~	松茂町第二体育館	〃
	25	日	第1回剣道 審査会(二段以上)	10:00~	ソイヨイ武道館	〃
	未	未	国体第二次予選会(女子)	9:30~	警察学校体育館	〃
	31~6/1	土~日	第54回徳島県高等学校総合体育大会	9:00~	那賀川スポーツセンター	高体連
6	7	土	第43回中学校剣道選手権大会	9:30~	ソイヨイ武道館	中体連
	15	日	第38回中四国医科学生剣道大会	9:00~	徳島大学体育館	中四医学連
	29	日	第2回審査会(剣道 初段以下)	10:00~	ソイヨイ武道館他	県剣連
	未	未	国体第二次予選会(男子)、国体第三次予選会(女子)	9:30~	警察学校体育館	〃
7	12~13	土~日	第68回徳島県中学校総合体育大会	9:30~	ソイヨイ武道館	中体連
	21	月祝	第62回全日本剣道選手権大会県予選会 第53回全日本女子剣道選手権大会県予選会	10:00~	ソイヨイ武道館	県剣連
	25~27	金~日	剣道土用稽古	19:00~	中央武道館他	〃
	31	木	第27回徳島県防犯少年柔道・剣道大会	9:30~	ソイヨイ武道館	警察本部
8	2~3	土~日	日本剣道形講習会	9:30~	ソイヨイ武道館	県剣連
	10	日	眉山ライオンズ武道(剣道)大会	9:00~	徳島市立体育館	眉山ライオンズ
	31	日	第3回審査会(剣道 初段以下) 剣道 四、五段受審者講習会	10:00~ 9:30~	ソイヨイ武道館他 中央武道館	県剣連 〃
	未	未	国体第三次予選会(男子)	9:30~	警察学校体育館	〃
9	7	日	第35回女子剣道大会	10:00~	中央武道館	〃
	14	日	第2回剣道審査会(二段以上・称号)	10:00~	ソイヨイ武道館	〃
	20	土	第20回徳島県健康福祉祭剣道交流大会	9:00~	松茂町第二体育館	高齢剣友会
	21	日	居合道伝達講習会、審査会	9:00~	松茂町第二体育館	県剣連
10	4	土	第11回徳島県中学校剣道1年生大会	9:30~	ソイヨイ武道館	中体連
	19	日	第4回審査会(剣道 初段以下)	10:00~	ソイヨイ武道館他	県剣連
	26	日	秋季講習会(全剣連後援)	9:30~	ソイヨイ武道館	〃
	31	金	西部交流稽古会	19:00~	脇町小学校体育館	〃
11	7	金	南部交流稽古会	19:00~	那賀川スポーツセンター	〃
	8	土	第38回中学校剣道新人大会	9:30~	ソイヨイ武道館	中体連
	9	日	第48回高等学校剣道選手権大会 居合道秋季講習会、審査会	9:30~ 9:00~	ソイヨイ武道館 松茂町第二体育館	高体連 県剣連
	13	木	中央交流稽古会	19:00~	中央武道館	〃
	16	日	第45回県下少年剣道錬成大会	10:00~	ソイヨイ武道館	〃
	22	土	眉山杯大学剣道大会	9:00~	徳島文理大学	大学連
	23	日	第3回剣道審査会(二段以上)	10:00~	ソイヨイ武道館	県剣連
12	7	日	第37回全国スポーツ少年団剣道交流大会県予選会	10:00~	ソイヨイ武道館	県体協
	20	土	常任理事会	14:00~	未	県剣連
	21	日	第63回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会 第7回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会県予選会	10:00~	ソイヨイ武道館	〃
1	4	日	新年役員会、互礼会	13:00~	未	〃
	10	土	第59回県高等学校新人大会兼全国選抜大会県予選会	9:30~	ソイヨイ武道館	高体連
	11	日	平成27年 稽古始め	9:30~	松茂町総合体育館	県剣連
	18	日	第25回県下中学校剣道強化錬成大会	9:30~	ソイヨイ武道館	〃
	25	日	第5回審査会(剣道 初段以下)	10:00~	ソイヨイ武道館	〃
	29~31	木~土	剣道寒稽古	19:00~	中央武道館	〃
2	1	日	剣道四、五段受審者講習会	9:30~	中央武道館	〃
	11	水祝	第37回県下高等学校剣道大会	9:00~	田園パーク	(財)落穂園
	15	日	第4回剣道審査会(二段以上・称号)	10:00~	松茂町第二体育館	県剣連
	21	土	平成26年度理事会	14:00~	未	〃
	22	日	居合道県下大会、審査会	9:00~	松茂町第二体育館	〃
28~3/1	土~日	第10回四国中学校剣道新人大会	9:00~	阿波中学校	四国学剣連	
3	8	日	平成26年度 総会	13:00~	未	県剣連
	22	日	高段位受審者研修会	9:30~	中央武道館	〃
	27	金	南部交流稽古会	19:00~	阿南武道館	〃
	29	日	審査員講習会	9:30~	ソイヨイ武道館	〃

☆徳島県剣道連盟 稽古会《警察学校体育館》

☆女子部 稽古会 《中央武道館》

水曜日 18:30 ~ 20:00 (18:30~19:00まで形稽古)

第1日曜日 18:30~19:30

土曜日 9:30 ~ 11:00 基本稽古 11:00~12:00 地稽古

\*稽古会休みのお問合せは、事務局ホームページでご確認下さい。

徳島県剣道連盟 (執務時間 平日午前10時~午後4時)  
〒770-0861 徳島市住吉3丁目9-6 栗本マンション106号 TEL 088-652-2337・FAX 088-652-2360

月	日	曜日	《全剣連 居合道審査会》	場所	主催
4	12	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	全剣連
5	3	土	八段審査会	京都市	〃
			称号(範士・教士・錬士)		
6	6	金	六・七段審査会	千葉県	〃
7	11	金	六・七段審査会	岡山県	〃
11	8	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	〃
			六・七段審査会		
26	水	称号(教士・錬士)	〃	〃	

月	日	曜日	《全剣連 剣道審査会》	場所	主催
4	12	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	全剣連
	29	火祝	六段審査会	京都市	〃
	30	水	七段審査会	〃	〃
5	1~2	木~金	八段審査会	〃	〃
	6	火祝	称号(範士・教士・錬士)	〃	〃
	10	土	七段審査会	愛知県	〃
	11	日	六段審査会	〃	〃
8	16	土	七段審査会	花巻市	〃
	17	日	六段審査会	〃	〃
	30	土	七段審査会	福岡市	〃
	31	日	六段審査会	〃	〃
11	8	土	教士称号筆記試験	兵庫県他	〃
	15	土	七段審査会	愛知県	〃
	16	日	六段審査会	〃	〃
	25	火	六段審査会	東京都	〃
	26	水	七段審査会	〃	〃
	27~28	木~金	八段審査会	〃	〃
			〃	〃	〃

月	日	曜日	《県外行事》	場所	主催
4	5~6	土~日	第49回西日本中央講習会	兵庫県	全剣連
	12	土	中、四国地区剣道合同稽古会	広島市	後援 全剣連
	20	日	第12回全日本選抜剣道八段優勝大会	名古屋	全剣連
	29	火祝	第62回全日本都道府県対抗剣道優勝大会	大阪市	全剣連
5	2~5	金~月	第110回全日本剣道演武大会	京都市	全剣連
	18	日	第65回四国四県剣道大会	愛媛県	四国連盟
	17~18	土~日	第19回女子審判講習会	東京都	全剣連
	21~25	水~日	第52回中堅剣士講習会	奈良市	全剣連
6	6~8	金~日	第96回剣道社会体育指導員養成講習会(初級)	愛媛県	全剣連
	8	日	第53回西日本勤労者剣道大会	高知市	後援 全剣連
	9	月	第36回全日本高齢者武道大会	東京都	後援 全剣連
	14~15	土~日	平成25年度 四国高校剣道選手権大会	琴平	四国高体連
21	土	中、四国地区剣道合同稽古会	松山市	後援 全剣連	
7	5~6	土~日	第62回全日本学生剣道選手権大会 第48回全日本女子学生剣道選手権大会	東京都	学剣連 後援 全剣連
	12	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
	12~13	土~日	居合道地区講習会	岡山県	全剣連
	19	土	第6回全日本都道府県女子剣道優勝大会	東京都	全剣連
	24~29	木~火	平成26年度 玉竜旗高校剣道大会	福岡市	後援 全剣連
	26~27	土~日	平成26年度 全日本少年少女武道錬成大会	東京都	共催 全剣連
29~30	火~水	第49回全日本少年剣道錬成大会(道場)	東京都	後援 全剣連	
8	1~4	金~月	第61回全国高等学校総合体育大会	小田原市	共催 全剣連
	3	日	第52回四国中学校総合体育大会	高知県	中体連
	10	日	第56回全国教職員剣道大会	高松市	共催 全剣連
	17~19	日~火	第44回全国中学校剣道大会	高知市	共催 全剣連
9	6	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高松市	後援 全剣連
	6~7	土~日	第41回居合道中央講習会	京都府	全剣連
	7	日	第53回全日本女子剣道選手権大会	姫路市	全剣連
	15	月祝	第9回全日本都道府県対抗少年剣道優勝大会 第57回全日本実業団剣道大会	大阪市 東京都	後援 全剣連 後援 全剣連
	21	日	第60回全日本東西対抗剣道大会	出雲市	全剣連
10	4~6	土~月	第27回全国健康福祉祭剣道交流大会	小山市	後援 全剣連
	18	土	中、四国地区剣道合同稽古会	松山市	後援 全剣連
	19~21	日~火	第69回国民体育大会剣道大会	五島市	主管 全剣連
	25	土	第49回全日本居合道大会 中、四国地区剣道合同稽古会	福島県 広島市	全剣連 後援 全剣連
11	3	月祝	第62回全日本剣道選手権大会	東京都	全剣連
	8~9	土~日	第63回全国青年剣道大会	東京都	主管 全剣連
	9	日	第33回全日本女子学生剣道優勝大会	愛知県	後援 全剣連
	16	日	第63回全日本学生剣道優勝大会(団体戦)	大阪府	後援 全剣連
2	8	日	第15回四国高等学校剣道新人大会	高知県	四国学剣連
	14	土	中、四国地区剣道合同稽古会	岡山市	後援 全剣連
3	14	土	中、四国地区剣道合同稽古会	高松市	後援 全剣連
	27~28	金~土	第24回全国高等学校剣道選抜大会	春日井市	全高体連
	27~29	金~日	第37回全国スポーツ少年団剣道交流大会	埼玉県	共催 全剣連

# 平成26年度級位・段位審査会実施計画表

## 《 剣 道 》 初段以下一覧表

審査日	申込み 締切日	中 部	西 部	南 部
4/29 (火祝)	4/15迄 (日)	ノイゾイ 武道館	穴吹スポーツ センター	阿南武道館
6/29 (日)	6/15迄 (日)	ノイゾイ 武道館	穴吹スポーツ センター	美波町日和佐 総合体育館
8/31 (日)	8/17迄 (日)	ノイゾイ 武道館	穴吹スポーツ センター	小松島 市立武道館
10/19 (日)	10/5迄 (日)	ノイゾイ 武道館	穴吹スポーツ センター	相生体育館
1/25 (日)	1/11迄 (日)	ノイゾイ武道館 *注意 審査申込書は中部の連盟事務局宛		
		中 部 〒770-0861	西 部 〒777-0002	南 部 〒775-0203
申 込 先		徳栗徳島市住吉 剣道連盟 〒770-0861	徳島県 徳島市住吉 剣道連盟 〒777-0002	徳島県 阿波郡 海陽町大字 丸尾 〒775-0203
日程予定		9:00～10:00 受付 9:00～9:45 剣道連盟稽古会 9:45～10:10 受審者稽古 10:20 開会式 *初段学科、木刀基本技(8～1歳)同時開始 上記終了後、5歳より実技開始		

## 《 剣 道 》 二段以上・称号一覧表

## 《 居 合 道 》 級・段位・称号一覧表

### 審査受験申込書記入上の注意

- 審査受験申込書に全ての項目、特に現在有する級位、段位を受領した年月日は確認して、氏名のフリガナ、下番号等を正確に記入し、審査料を添えて申込む事。  
(この申込書は、合格後全剣連への登録の基となりますので全て明記すること。)
- 現在の級位、段位の合格後に姓名が変わった者は、氏名の下に旧姓名を書くと。
- 現段位を県外で登録受領した者は、その県名を記入すること。
- 審査受験申込書の締切日は、一覧表の申込締切日とする。
- 書留等で郵送する場合は、早めに郵送し締切日までに届くようにすること。  
※ 土、日、祝は、事務所は休務です。

### ( 期 日 厳 守 )

- 審査受験申込書の取扱責任者については、一般の受審者は、支部に所属し県剣道連盟会員である事とし、取扱責任者は所属支部長が署名、捺印する事。また大学生については、県内大学剣道部に所属する者は、剣道部責任者、県外の大学に所属する者は、出身地区の支部長の署名、捺印とする。
- 中・高の受審者は、各所属の教室(道場)または、学校の責任者が署名、捺印する事。
- 剣道四、五段の受審者は、一覧表の指定講習会を必ず受講すること。

以上の項目が守れない場合は受審できませんのでご注意ください。

### 剣 道

### 居 合 道

審査日	申込み 締切日	審査 段位	審 査 場 場 所	四、五段 講習会 日時・会場	審査日	申込み 締切日	審 査 場 場 所
5/25 (日)	5/11迄 (日)	二段～ 五段	ノイゾイ 武道館		5/18 (日)	5/4迄 (日)	松茂町 第二体育館
9/14 (日)	8/31迄 (日)	二段～ 五段 (称号)	ノイゾイ 武道館	中央武道館	9/21 (日)	9/7 (日)	松茂町 第二体育館
11/23 (日)	11/9迄 (日)	二段～ 五段	ノイゾイ 武道館		11/9 (日)	10/26 (日)	松茂町 第二体育館
2/15 (日)	2/1迄 (日)	二段～ 五段 (称号)	ノイゾイ 武道館	中央武道館	2/22 (日)	2/8迄 (日)	松茂町 第二体育館

1. 称号審査については、行事予定表の伝達講習会(6月)または、秋季講習会(10月)を受講の上上記審査会において受審する事。
2. 四、五段受審予定者は、上記の講習会又は、伝達講習会、秋季講習会を受講すること。

1. 2. 共、有効期間として受講から1年以内に受審することとする。

申 込 先	《 剣道審査申込先 》	《 居合道 審査申込先 》
TEL 088-652-2337 FAX 088-652-2360	徳島市住吉3丁目9-6 栗本マツノヨリ106号 徳島県剣道連盟 事務局内 藤本 雅史 宛	〒776-0004 吉野川市鴨島町中島381-3 居合道部事務局 徳山 豊 宛
9:00～10:00 受付 9:00～9:45 剣道連盟稽古会 9:45～10:10 受審者稽古 10:20 開会式 * 学科試験、実技、形の順で実施		13:00～ 開会式
日程予定		

# 徳島県剣道連盟 審査資格

平成26年4月1日現在

級・段位	資 格
6～8級	小学1年～3年生は、認定により技倆相当の級位を与える。
5 級	小学4年生以上は、5級より受審できる。
4 級	中学生以上は、4級より受審できる。
3 級	高校生（相当年齢）以上は、3級より受審できる。
2 級	大学生、一般（大学生相当年齢以上）は、2級より受審できる。
1 級	小学6年生以上を受審資格とする。
初 段	13歳以上を受審資格とする。（年齢基準 審査日） 居合道受審者一般（高校生相当年齢以下を除く）については、2級及び1級を認定とし初段から受審できる。
二 段	初段を1年以上経過した者。
三 段	二段を2年以上経過した者。
四 段	三段を3年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
五 段	四段を4年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
六 段	五段を5年以上経過した者。
七 段	六段を6年以上経過した者。
八 段	満46歳以上で七段を10年以上経過した者。
錬 士	六段取得日より1年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。
教 士	七段取得日より2年以上経過した者。指定講習会を受講済みであること。

\*級位は、経過日数を必要とせず毎回受審可能。

## 審査料・登録料（消費税含）一覧表

〈単位＝円〉

	入会金 (徳島県で初めて受審する者)	審査料	再審査料	登録料 (消費税8%含)
3級以下	1,000	1,000	——	2,000
2 級	"	1,500	——	3,000
1 級	"	2,000	——	3,000
初 段	"	3,000	3,000	5,400
二 段	"	4,000	4,000	7,560
三 段	"	5,000	5,000	10,800
四 段	"	6,000	6,000	16,200
五 段	"	8,000	8,000	21,600
六 段	"	10,500	——	43,200
七 段	"	14,700	——	54,000
八 段	"	18,900	——	75,600
錬 士	"	17,850	——	43,200
教 士	"	26,250	——	75,600
範 士	"	——	——	162,000

## 居合道 道場案内

日本古来の伝統武道である居合道。時代を超えて受け継がれてきた居合道をより多くの人に体験していただきたいと願っております。是非お問い合わせ下さい。

道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時
徹心道場	代表 範士八段・平尾 勝美 連絡先 教士七段・吉岡 修一 0883-24-5341	鴨島第一中学校武道場	月曜日 19:30～21:30 (少年) 水曜日 19:30～21:30 金曜日 19:30～21:30
大和錬心館	範士八段・原田 勝 自宅 0884-68-2239 携帯 090-7141-8996	前、那賀高校 木頭分校体育館	月曜日～金曜日 17:30～19:30 (祭日を除く)
阿波洗心館	代表 教士七段・高橋 憲司 連絡先 三段・村井 恒治 090-3789-7846	松茂町第二体育館	火曜日 20:00～22:00 (月曜祝日の週は休み)
		セント歯科体育館	土曜日 19:00～21:00
居合道錬成会	教士七段・前田 健志 自宅 088-622-8559	徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
阿波居合道伝習会	教士七段・坂本 憲一 自宅 0883-36-3008 携帯 090-1576-4773	阿波市立八幡小学校体育館	火曜日 19:00～22:00
		徳島市農業環境改善センター	水曜日 19:00～21:00
		徳島県立中央武道館	月曜日 19:00～21:00 金曜日 19:00～21:00
大湊道場 (全日本剣道連盟)	錬士七段・福井 勝 携帯 090-5143-3596	阿南市武道館	日曜日 10:00～12:00 (行事日を除く)
鳴門洗心館	錬士六段・青山 善雄 自宅 088-687-2802	鳴門ソイジョイ武道館 サブ道場	水曜日 18:00～20:00
徳島春風館道場	錬士六段・青木 茂生 自宅 0883-53-7118 携帯 090-8693-4935	徳島春風館道場 (穴吹町三島)	水曜日 19:30～21:00
居合北島道場	五段・伊賀 雅人 自宅 088-698-4528	居合北島道場 (北島町北村)	水曜日 19:00～20:30 土曜日 19:00～20:30
剣道・板野道場	五段・岡田 良人 自宅・FAX 088-672-2436 携帯 090-4787-1998	南公民館	水曜日 19:30～21:30
		板野町体育センター	日曜日 11:00～12:00



## 徳島県剣道稽古場所一覧（平成26年度版）

支部名	教室および道場名	代表者・連絡先	稽古場所	日時 (少年・一般の区別明記のこと)
徳島支部	徳島少年剣道教室	生田浩章 088-664-1971	徳島県立中央武道館	少年（水・木・土）17:00-19:00
	蔵本少年剣道クラブ	福永 徳 088-631-0207	加茂名中学校武道場	少年（火・金）19:00-21:00 少年（日）18:00-21:00
	加茂名少年剣道教室	藤本俊夫 088-632-8748	加茂名小（木） 加茂名中（土） 加茂名南小（日）	少年（木・土）18:00-19:45 少年（日）17:20-19:30
	東内道場	東内 勉 088-631-3971	研修道場 東内会館	少年（木・土）18:00-20:00
	上八万剣道倶楽部	吉本昌弘 088-668-0356	上八万小学校体育館	少年（水・土）17:00-19:00 一般（水・土）19:00-21:00
	宅宮（えのみや） 剣道倶楽部	河野通宣 088-668-0167	えのみや睦会武道場	少年（土）19:00-21:00
	入田錬成会	佐藤佳宏 088-644-3124	入田中学校体育館	少年（火・土）19:30-21:30 一般（火・土）21:30-22:30
	北井上剣道教室	美馬勝行 088-642-3898	北井上中学校体育館	少年（火・金）19:00-21:00
	徳島清風館道場	久保隆司 088-633-0727	国府小学校体育館	少年（土・日）17:00-19:00
	養武館	米倉 滋 088-668-6650	八万中剣道場（火） 養武館道場（木・土）	少年（火）19:00-21:00 少年（木・土）19:30-21:00
	徳島親道館剣道場	矢武秀生 088-644-5171	親道館道場	少年（火・金）19:00-20:30
	佐古剣道クラブ	谷本浩志 088-637-2204	佐古小学校体育館	少年（火・木）17:00-19:00 少年（日）9:00-12:00
	渭東少年剣道教室	吉田昌彦 088-664-2153	城東中学校黎明館	少年（火・木・金）19:00-21:00
	徳島錬心館	大澤孝彰 088-654-6325	錬心館道場	一般（火・木・土）19:00-20:00
鳴門支部	鳴門市光武館	寺西明弘 088-685-0703	光武館剣道場	少年（火・木）18:30-20:30 少年（土）17:30-19:30
	鳴門市少年剣道教室	元木 武 088-685-3705	鳴門ソイジョイ武道館	少年（月・水）18:00-20:00 少年（土）9:00-11:00 一般（月）20:00-21:00
	大麻錬成館	近藤敏晴 088-689-0857	大麻中学校剣道場	少年（火・土）18:30-20:00
板野東支部	北島少年剣道教室	伊賀雅人 088-698-4528	北島小学校体育館	少年（月・木）19:00-20:30 一般（月）20:45-22:00
	誠武館道場	井川理之 090-4976-4477	北島町立武道館	少年（木・土）19:00-20:30 一般（木・土）20:30-21:00
	松茂少年剣道教室	米田利彦 088-699-6176	松茂町第二体育館 （武道館）	少年・一般（火・金） 19:00-22:00

徳島の剣道

板野西支部	板野西稽古場	久次米繁興 088-692-7198	藍住町武道館	一般(火・木・土) 21:00-22:00
	藍住剣道スポーツ少年団	原 多三夫 088-692-5780	藍住町武道館	少年(火・木・土) 19:00-20:30
	剣道板野道場	米崎信弥 090-4972-4177	板野町体育センター	少年(火・水) 19:30-21:00 少年(日) 9:00-11:00
	上板少年剣道教室	藤本辰夫 088-694-5031	神宅小学校体育館	少年・一般(月・木) 19:00-21:00
阿波居合道伝習会	阿波少年剣道教室	桑原啓治 090-2789-1801	林小学校体育館(火) 阿波中学校体育館(木)	少年(火・木) 19:00-21:00
	土成町 剣道スポーツ少年団	出口正春 088-695-3606	土成農業者 トレーニングセンター	少年(火・金) 19:30-21:00
	市場剣道教室	井内勝則 0883-36-2686	市場武道館	少年(火・木・土) 19:30-21:00
	阿波支部稽古会	塩田善治 0883-35-2894	市場武道館	少年・一般(月) 20:00-21:00
居合北島道場	脇町少年剣道教室	柴田宗忠 0883-53-2629	脇町小学校体育館	少年(火・金) 19:00-21:00 一般は8:30-22:00
	徳島春風館道場	青木茂生 0883-53-7118	徳島春風館道場	少年・一般(月・木・土) 19:30-21:00
	半田剣道教室	大川功 0883-64-2181	半田スポーツセンター	少年・一般(月・木) 19:00-21:00
	美馬市体協剣道部	中川 正 0883-53-0116	脇町中学校武道館	一般(月・水・土) 19:00-22:00
三好支部	東みよし淳志館	増田和広 0883-79-3704	三好中学校体育館	少年・一般(月・木) 19:30-22:00
	佐馬地少年剣道クラブ	笠井憲次郎 0883-74-0036	馬路小学校体育館	少年(水・金) 19:30-20:30
	川崎少年剣道クラブ	山下敏雄 0883-74-1325	川崎小学校体育館	少年(水・土) 19:00-21:00
	三野少年剣道クラブ	久保和雄 0883-77-3899	三野中学校体育館	少年(土) 18:00-20:00
	山城町剣道修錬クラブ	島尾真且 0883-86-1398	山城中学校武道館	少年(火・金) 19:30-21:30
	奥祖谷剣道クラブ	中石 昭 0883-88-5802	旧 栃之瀬小学校 体育館	少年(火・金) 19:30-21:00
	井川武道会	中川勝弘 0883-78-2115	三好市柔剣道場	少年(水) 20:00-21:00
麻植支部	麻植支部稽古会	出葉成一 0883-24-7433	川島中学校体育館	少年・一般(20:00-21:30)
	上浦剣道教室	出葉成一 0883-24-7433	上浦小学校体育館	少年(水・土) 18:30-20:00
	鴨島少年剣道教室	三木 毅 0883-24-1934	鴨島第一中学校武道館	少年(火・木・土) 19:15-21:00
	川島剣道スポーツ少年団	猪野和男 0883-25-6004	農村環境改善センター 市立川島中学校体育館	少年(火・木・土) 19:00-21:00
	山川スポーツ少年団 修錬館	柳谷照男 0883-42-6936	山川中学校武道館	少年(水・土) 19:00-21:00
	吉野川少年剣道教室	片山尊史 0883-25-6014	牛島小学校体育館 西麻植小学校体育館	少年(火・水・金・土) 20:00-22:00

阿南支部	阿南少年剣道教室	須藤恭宏 0884-22-6402	阿南市武道館（火・金） 阿南第一中武道館（木）	少年（火・木・金）19:00-21:00 一般（火・金）21:00-22:00
	新野少年剣道教室	馬見和秀 0884-36-2428	新野小学校体育館	少年（火・木・土）18:30-20:30
	大野小学校剣道部	西岡直彦 0884-22-6535	大野小学校体育館	少年（月・水・木）18:30-20:30 一般（水）21:00-22:00
	徳島至誠館	中山繁輝 090-1002-8976	徳島至誠館道場	少年（火・木・土）19:00-21:00
	那賀川少年剣道クラブ	二反田和則 0884-21-2207	今津小学校体育館（火） 那賀川B&G体育館（水・金）	少年（火・水・金）19:00-21:00
	那賀川剣道教室 わかあゆ会	山田耕司 0884-42-3381	平島小学校体育館	少年（月・水・金）19:00-21:00
	羽ノ浦少年剣道教室	森 眞一 0884-44-5415	羽ノ浦中学校武道館	少年（火・金）19:00-21:00 一般（水）19:30-21:00
丹生谷支部	振 武 館	奥田博志 0884-62-1134	那賀町B&G 海洋センター武道場	少年（水・金）19:00-21:00 一般（水・金）21:00-22:00
	相生龍虎館	野村幸大 0884-62-0800	相生小体育館	少年（火・木・土）16:00-18:00
	木頭錬心館	小川大造 0884-68-2242	木頭中柔剣道場	少年・一般（月・水・金） 18:00-20:30
	北川小学校剣道クラブ	谷 次郎 0884-69-2430	那賀町北川体育館	少年（月・水）18:00-19:30 （金）18:00-20:00
小松島支部	小松島支部稽古会	梅山寧史 0885-33-1251	小松島中学校武道場	一般（木）19:30-21:00
	小松島小剣クラブ	青木博志 0885-33-1251（梅山）	北小松島小学校体育館（月金） 小松島小学校体育館（水）	少年（月・水・金）19:00-21:30
	和田島少年剣道クラブ	篠原誠一 0885-37-2030	和田島小学校体育館	少年（月・水）19:00-21:00
	坂野少年剣道クラブ	櫻木鉄也 0885-38-2302	坂野小学校体育館	少年（月・木）19:00-21:00
	立江剣道教室	原 知永 0885-38-2121	立江小学校体育館	少年（火・土・日）18:30-20:00
	芝田剣道クラブ直心館	岩田善則 0885-32-3319	芝田小学校体育館	少年（月・金）19:00-21:00
海部支部	海部川剣道教室	丸岡偉人 0884-73-3175	海部小学校体育館	少年・一般（月・木） 19:00-20:45
	牟岐剣道クラブ	谷口順二 0884-72-0490	牟岐町民センター	少年・一般（月・水）19:00-21:00 少年・一般（土）18:30-20:00
	一心館道場	影山美雄 0884-79-3125	一心館剣道場	少年（月・木）16:30-18:00 一般（水・第2金・第4金） 18:00-20:00
県剣道連盟	徳島県剣道連盟稽古会		警察学校体育館	一般 水 18:30-20:00 一般 土 9:30-12:00
	女子部稽古会		中央武道館	一般 第1日曜 18:00-19:00

## 編集後記

今年は例年になく、原稿の収集が遅れ、それに加えて、編集者の体調不良が重なり、大幅な発行の延滞を招く事態となりました。誠に申し訳ありません。次回は早く発刊できるように知恵を出し、勇気と決断を持って対処する所存であります。

さて、全剣連より第十六回世界剣道選手権大会への寄附金として、平成二十六年七月一日から平成二十七年五月三十一日までの昇段審査および京都大会参加者には次の金額が求められています。来年五月の世界大会が立派に実施できるようにご協力の程、よろしくお願いたします。※ただし中学生は対象外

- ①初段・二段・三段……審査料に加え一人  
三三四円（消費税込み）
- ②四段・五段……審査料に加え一人  
五四〇円（消費税込み）
- ③六段以上……審査料に加え一人  
一〇八〇円（消費税込み）
- ④全日本剣道演武大会……参加者一人  
一〇八〇円（消費税込み）

## 『徳島の剣道』第三十号

### 編集委員会

別宮憲治	笠井	月岡陽市	上田宏司	松永貴史	柴田宗忠	伊賀雅人	影山美雄	美馬和義	中村稔裕	手塚十三子	藤本雅史	三木資毅	木原裕
------	----	------	------	------	------	------	------	------	------	-------	------	------	-----

## 『徳島の剣道』第30号

平成26年 9月20日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 坂下彦之

☎770-0861 徳島市住吉三丁目9-6  
栗本マンション106号室

TEL 088-652-2337

FAX 088-652-2360

表紙題字  
さし絵  
村嶋恒徳  
堀江幸夫